

厚木市民意識調査報告書

令和4年1月

厚木市

I. 調査の概要	
1 調査の目的	3
2 調査項目	3
3 調査設計	3
4 回収結果	3
5 報告書の見方	3
6 標本誤差	4
II. 回答者の属性	
1 回答者の属性	
(1) 性別	7
(2) 年齢	7
(3) 家族構成	7
(4) 居住地区	8
(5) 住居形態	8
(6) 居住年数	9
(7) 職業	9
(8) 通勤（通学）先	10
(9) 最寄駅	10
III. 意識調査結果	
1 暮らしの状況	
(1) 定住意向	13
(2) 住み続けたい理由	17
(3) 市外に移りたい理由	20
2 市の現状と将来	
(1) 市の現在のイメージ	22
(2) 市の将来のイメージ	25
3 感染症	
(1) 感染症の影響下において心配・不安に思うこと	28
(2) 感染症の影響下において新たに取り組んだこと	30

目次

4	子育て・福祉・健康	
(1)	子どもを産み育てられる環境を整える取組	32
(2)	地域包括ケア社会の実現への取組	35
(3)	がん検診の受診状況	38
(4)	自殺予防の対策	40
(5)	かかりつけ医	42
5	安全・防災	
(1)	本厚木駅周辺の治安	44
(2)	防犯対策に効果的な取組	47
(3)	セーフコミュニティの考え方	50
(4)	地域の防犯活動への参加	53
(5)	身に付ける必要がある応急手当・実行可能な応急手当	55
6	人権	
(1)	人権侵害を受けた経験	59
(2)	人権や差別に対する関心	61
7	国際交流	
(1)	国際交流の取組	64
8	教育・生涯学習・文化・スポーツ	
(1)	現在の教育への取組	67
(2)	文化芸術活動を充実させる取組	69
(3)	生涯学習活動に参加する上で支障になること	72
(4)	スポーツをする目的・頻度	75
(5)	開催してほしいスポーツイベント	83
9	環境	
(1)	地球温暖化防止への取組	86
(2)	資源とごみの分別	89
(3)	ごみの減量化・資源化の推進	91
(4)	河川整備への取組	94
10	観光	
(1)	観光の活性化への取組	98

11	まちづくり	
(1)	まちづくり全般の変化	101
(2)	日常利用する施設の場所	122
(3)	自宅周辺に必要な施設	125
(4)	本厚木駅周辺のイメージ	129
(5)	仕事・学校帰りや休みの日に本厚木駅周辺でしたいこと	132
(6)	将来的なまちづくりで優先的に必要な取組	135
12	交通・道路	
(1)	本厚木駅周辺を訪れるときの交通手段	138
(2)	本厚木駅周辺で主に利用する駐車場	141
(3)	市内のバス交通への取組	142
(4)	市内の道路の現状	146
(5)	道路整備への取組	150
13	広報	
(1)	家庭で利用する情報機器	154
(2)	市の情報の入手方法	157
14	行政	
(1)	市の施設の利用料	160
(2)	行政サービスの情報化推進への取組	162
(3)	より良い市民サービスを維持していく取組	165
(4)	市に必要な施設	167
(5)	市の施設の利用状況	170
IV.	調査票と集計結果	
1	調査票 (A)	175
2	調査票 (B)	187

I. 調査の概要

1 調査の目的

市民のまちづくりに対する考えや市民生活に密着した事項について、市民の意識や市民ニーズを把握するとともに、今後の市政運営等の基礎資料とすることを目的に実施したものである。

2 調査項目

- | | | |
|---------------|---------------------|------------|
| (1) 暮らしの状況 | (6) 人権 | (11) まちづくり |
| (2) 市の現状と将来 | (7) 国際交流 | (12) 交通・道路 |
| (3) 感染症 | (8) 教育・生涯学習・文化・スポーツ | (13) 広報 |
| (4) 子育て・福祉・健康 | (9) 環境 | (14) 行政 |
| (5) 安全・防災 | (10) 観光 | |

3 調査設計

- | | |
|------------|---|
| (1) 調査地域 | 厚木市全域 |
| (2) 調査対象 | 厚木市在住の18歳以上の男女（外国籍市民含む） |
| (3) 調査対象者数 | 調査票A：3,000人
調査票B：3,000人 総対象6,000人 |
| (4) 抽出方法 | 無作為抽出法 |
| (5) 調査方法 | 郵送配布・郵送回収またはインターネット回答 |
| (6) 調査期間 | 令和3年7月1日～7月20日 |

4 回収結果

- | | |
|-----------|--|
| (1) 有効回収数 | 調査票A：1,603人（郵送回収1,226人、インターネット回答377人）
調査票B：1,672人（郵送回収1,274人、インターネット回答398人）
総回収：3,275人（郵送回収2,500人、インターネット回答775人） |
| (2) 回収率 | 調査票A：53.4%
調査票B：55.7%
平均：54.6% |

5 報告書の見方

- (1) 図表中の「n」（Number of Casesの略）は、各設問の回答者数のことである。
- (2) 集計は、小数点第2位を四捨五入してある。したがって、数値の合計が100.0%ちょうどにならない場合がある。
- (3) 回答の比率（%）は、その質問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100.0%を超えることがある。
- (4) 本文や図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある。

- (5) 設問によっては、過去に実施した「厚木市民意識調査」の結果と比較している。
- (6) 回答者数が20に満たないものについては、図表に示すに留め、この報告書の中では特に取りあげていない。
- (7) 集計結果の比率を考察する上では、割合表現を以下のとおりとした。ただし複数の選択肢または年代などの項目をまとめて考察する場合は必ずしもこの限りではない。

回答の比率（例）	割合表現	回答の比率（例）	割合表現
20.0%	2割	24.0%～25.9%	2割半ば
20.1%～20.9%	約2割	26.0%～27.4%	2割半ばを超え
21.0%～22.4%	2割を超え	27.5%～28.9%	3割近く
22.5%～23.9%	2割半ば近く	29.0%～29.9%	約3割

6 標本誤差

今回の調査は、調査対象となる母集団（厚木市全域に住む満18歳以上の男女）から一部を抽出した標本（サンプル）の比率等から母集団の比率等を推測する、いわゆる「標本調査」を行っている。したがって、母集団に対する標本誤差が生じることがある。

標本誤差は次式で統計学的に得られ、①比率算出の基数（n）、②回答の比率（P）によって誤差幅が異なる。

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(100-p)}{n}}$$

N = 母集団数
 （厚木市の満18歳以上人口）
 n = 比率算出の基数（回答者数）
 p = 回答の比率（%）

(注) $\frac{N-n}{N-1} \doteq 1$

今回の調査結果の標本誤差は次表のようになる。（この表の計算式の信頼度は95%）

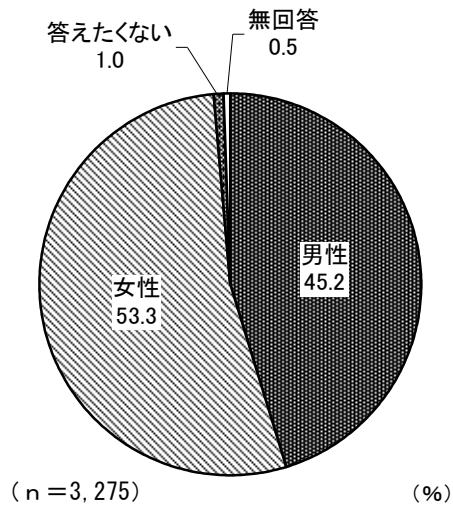
n（基数）	回答比率				
	90%または10%	80%または20%	70%または30%	60%または40%	50%
3,275票	±1.03	±1.37	±1.57	±1.68	±1.71
1,672票	±1.44	±1.92	±2.20	±2.35	±2.40
1,603票	±1.47	±1.96	±2.24	±2.40	±2.45
1,000票	±1.86	±2.48	±2.84	±3.04	±3.10
500票	±2.63	±3.51	±4.02	±4.29	±4.38
300票	±3.39	±4.53	±5.19	±5.54	±5.66
100票	±5.88	±7.84	±8.98	±9.60	±9.80

例えば、問1の「厚木市に住み続けたいですか。」という質問に対して、「できれば市外に移りたい」または「市外に移りたい」と答えた『転出意向』のある人は、3,275人のうち8.0%であった。回答者数が3,275人、回答率が10%前後のときの標本誤差は、上の表では±1.03%であるから、『転出意向』のある人は、厚木市在住の18歳以上の男女全体（母集団）の6.97%から9.03%の間にあると推定できる。（信頼度が95%のため、この推定は95%の確率で正しいといえる。）

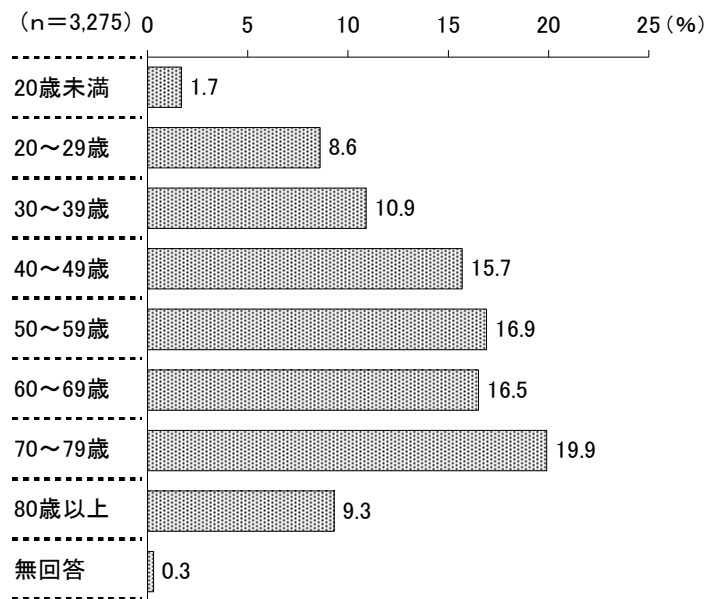
II. 回答者の属性

1 回答者の属性

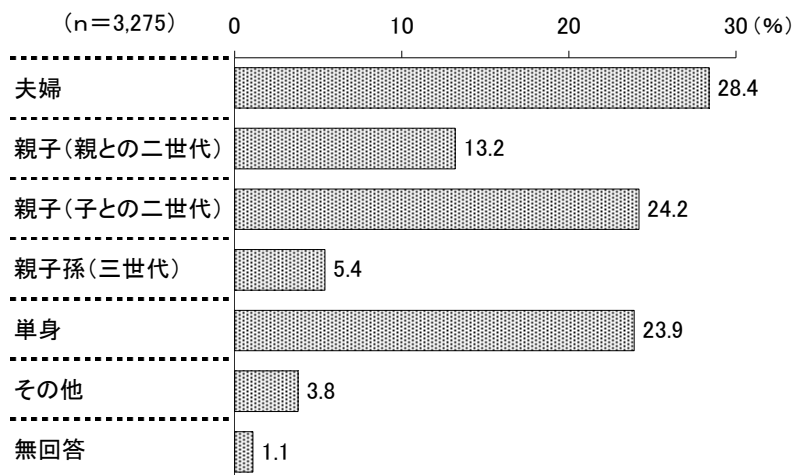
(1) 性別



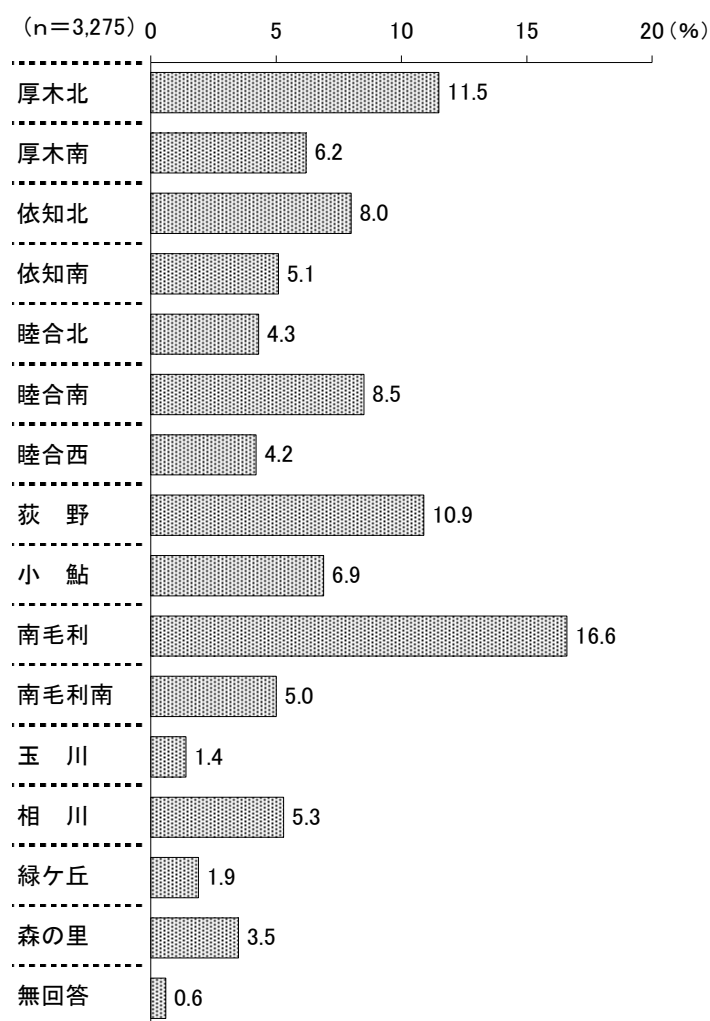
(2) 年齢



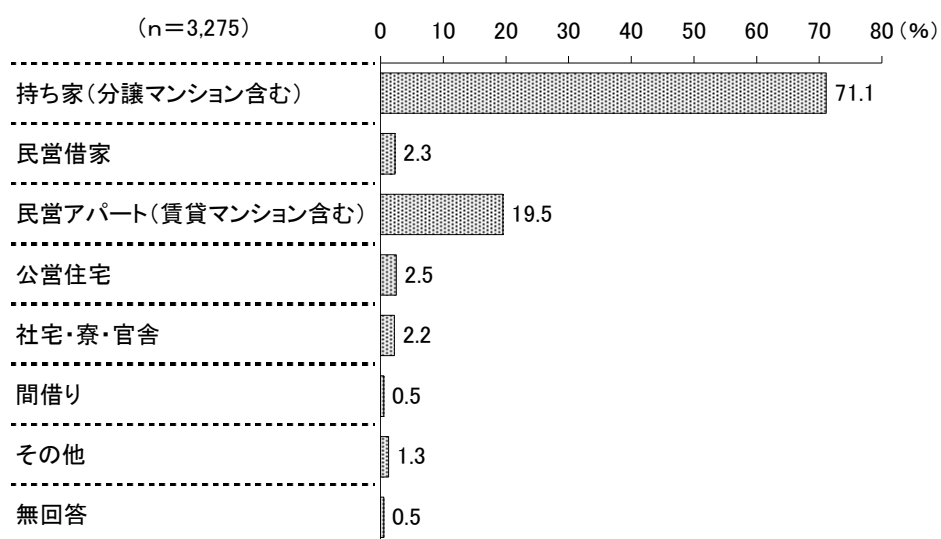
(3) 家族構成



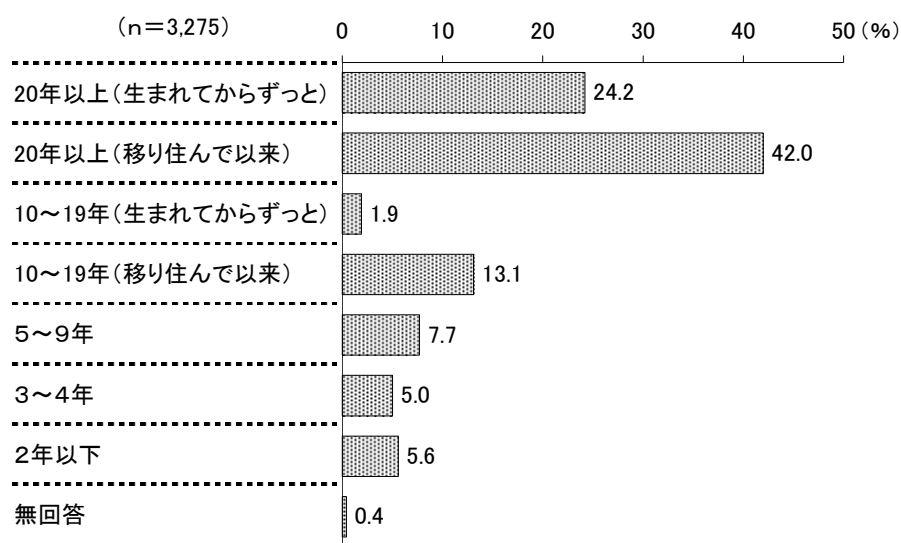
(4) 居住地区



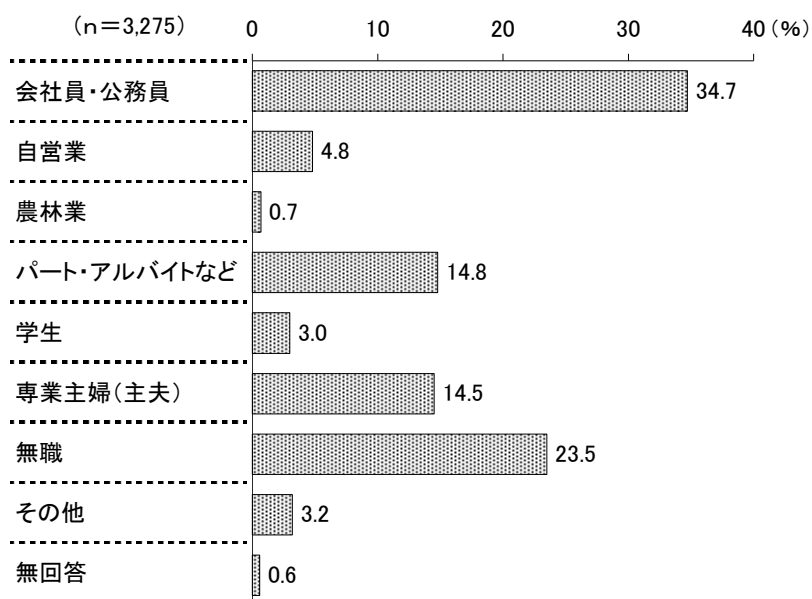
(5) 住居形態



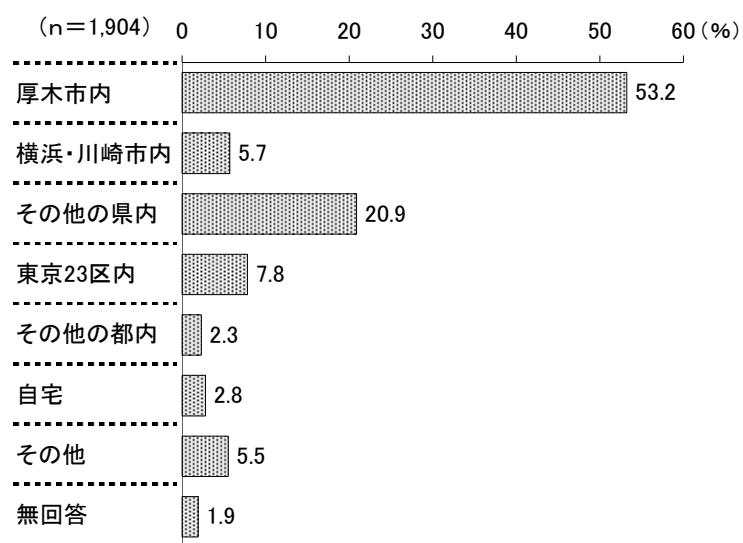
(6) 居住年数



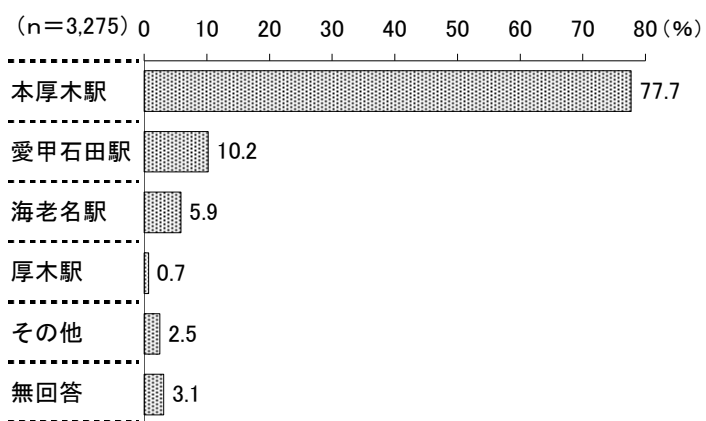
(7) 職業



(8) 通勤（通学）先



(9) 最寄駅



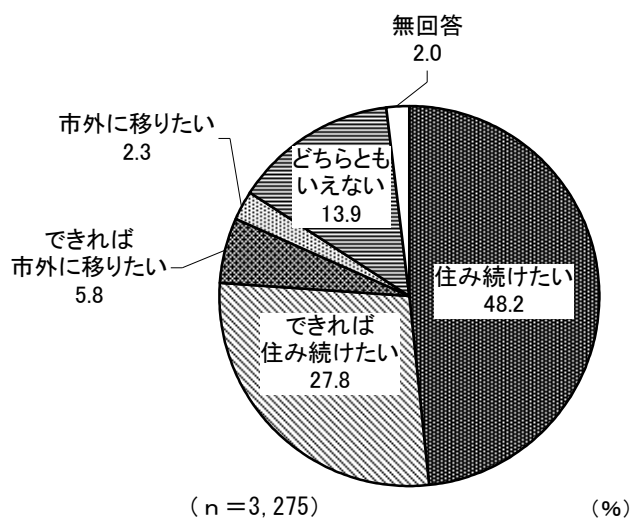
Ⅲ. 意識調査結果

1 暮らしの状況

(1) 定住意向 (A・B：問1)

問. 厚木市に住み続けたいですか。(1つだけ選んでください)

図1-1-1 定住意向



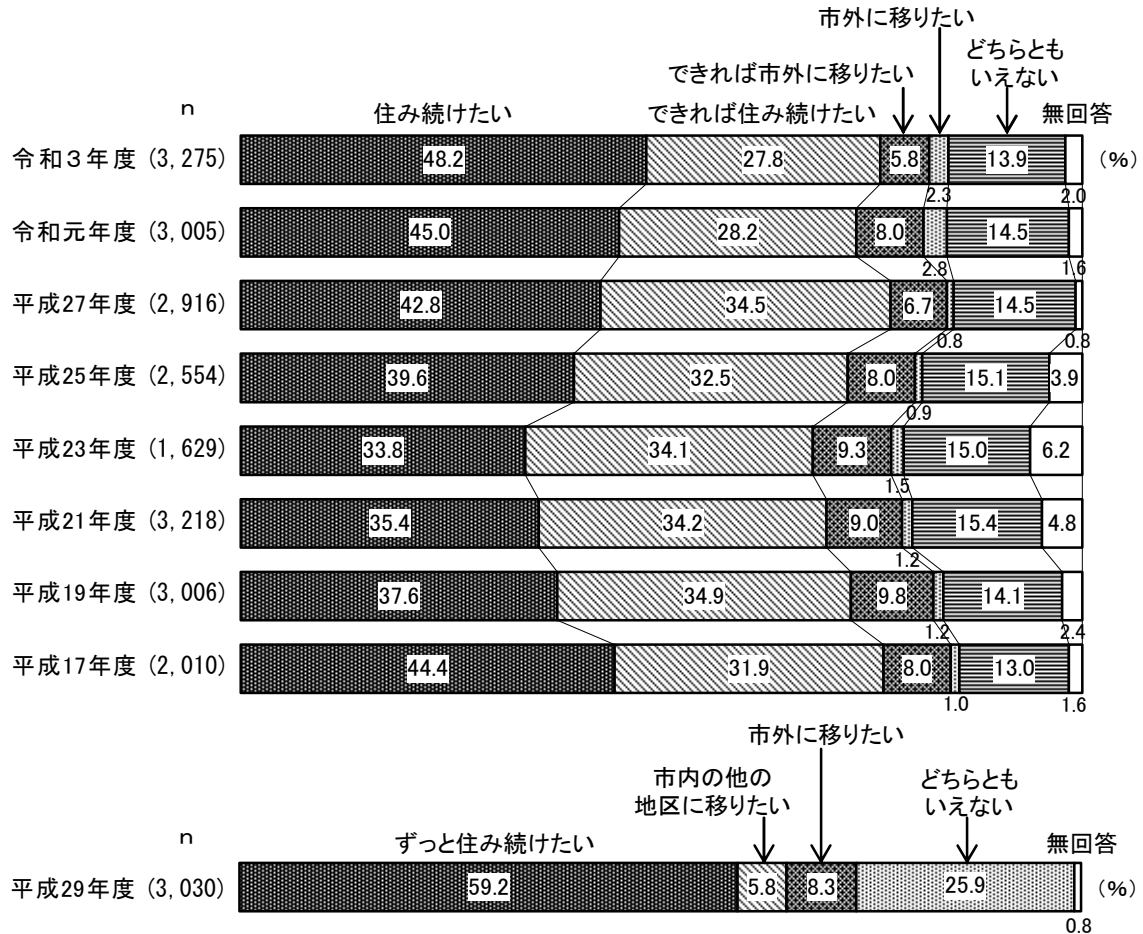
【全体】

厚木市への定住意向について聞いたところ、「住み続けたい」(48.2%)と「できれば住み続けたい」(27.8%)の2つを合わせた『定住意向』(76.0%)が7割半ばを超えて高くなっている。一方、「できれば市外に移りたい」(5.8%)と「市外に移りたい」(2.3%)の2つを合わせた『転出意向』(8.1%)は1割未満となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、『定住意向』（76.0%）は令和元年度調査（73.2%）より2.8ポイント増加している。

図1-1-2 定住意向—経年変化



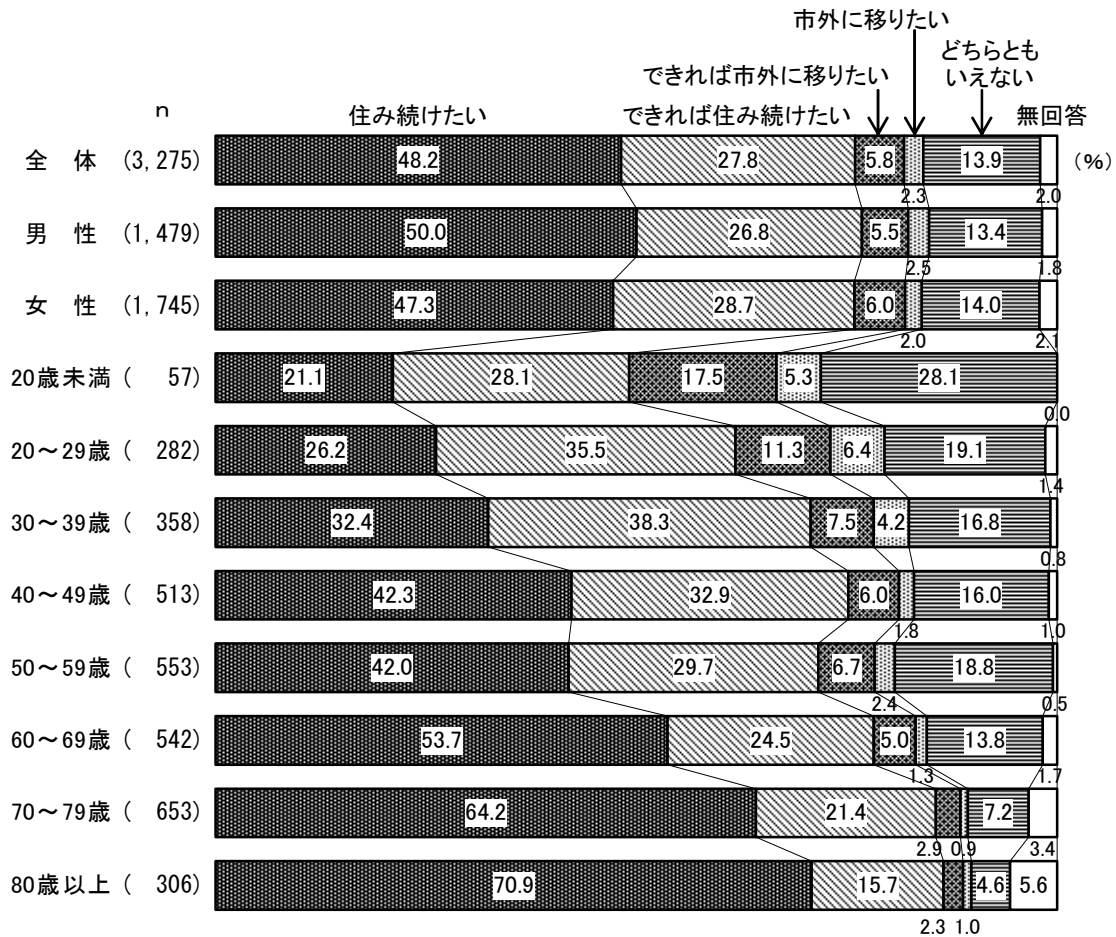
(注)平成29年度調査では、「現在お住まいの地区にずっと住み続けたいですか。(1つだけ選んでください)」と質問しており、選択肢を「ずっと住み続けたい」、「市内の他の地区に移りたい」、「市外に移りたい」、「どちらともいえない」としていたため、平成29年度の調査結果は参考掲載とする。

【属性別】

性別で見ると、大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、『定住意向』は80歳以上（86.6%）で8割半ばを超え、70～79歳（85.6%）で8割半ば、60～69歳（78.2%）で8割近くと高くなっている。一方、『転出意向』は20歳未満（22.8%）で2割半ば近くと高くなっている。

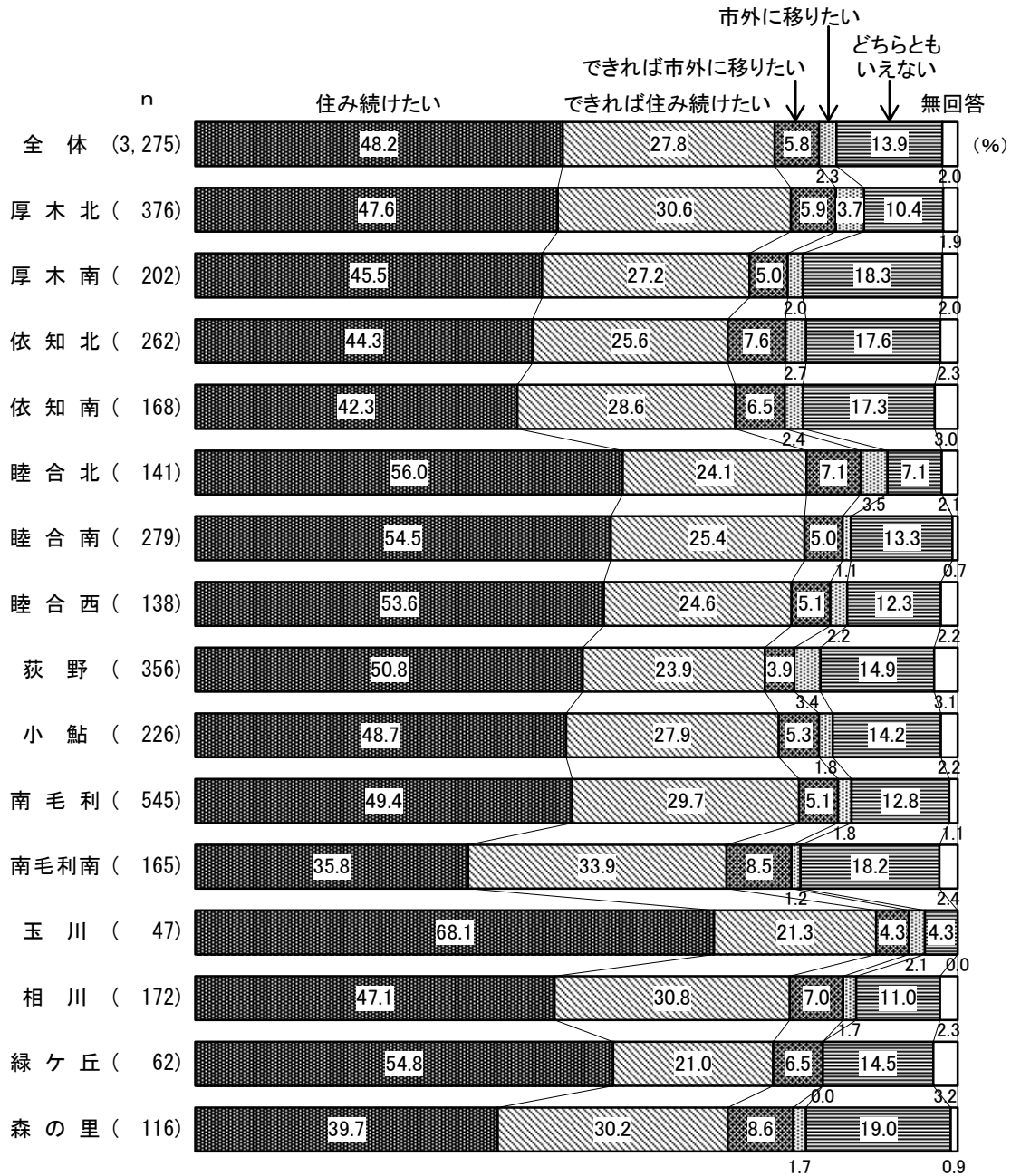
図1-1-3 定住意向—性別、年齢別



【属性別】

居住地区別で見ると、『定住意向』は玉川(89.4%)で約9割と最も高く、次いで睦合北(80.1%)で約8割となっている。一方、南毛利南(69.7%)、依知北と森の里(ともに69.9%)では約7割にとどまっている。

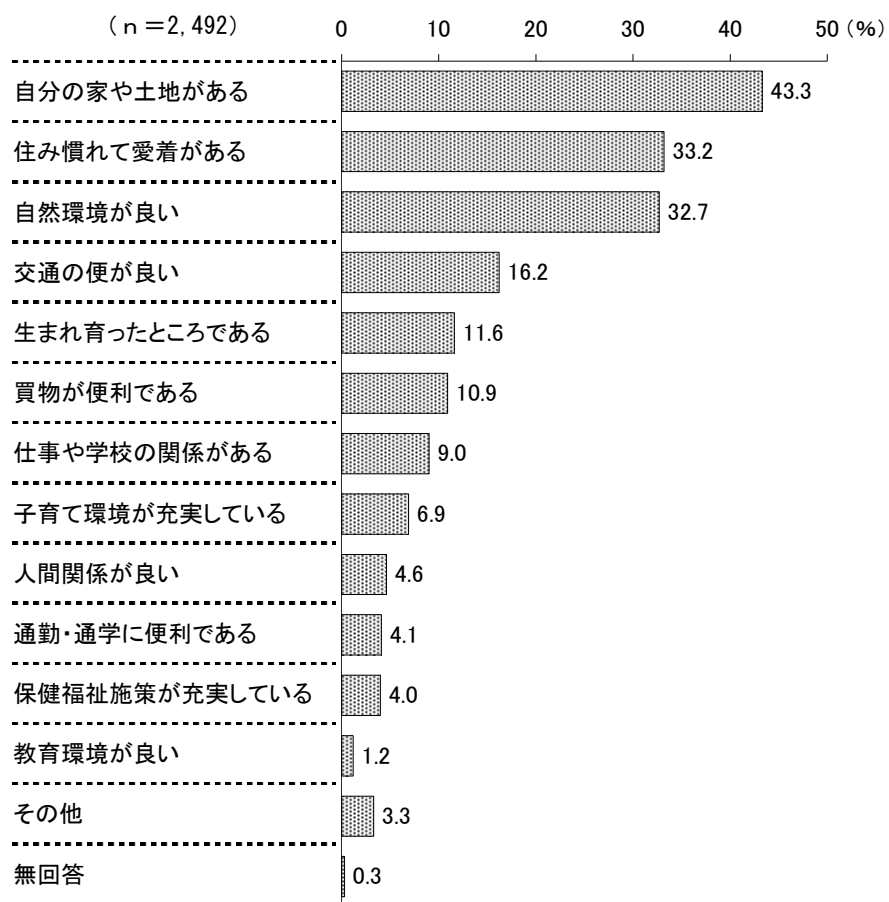
図1-1-4 定住意向—居住地区別



(2) 住みたい理由 (A・B:問2)

問.「住みたい」または「できれば住みたい」とお答えの方は、どのような理由ですか。
(2つまで選んでください)

図1-2-1 住みたい理由



【全体】

厚木市に「住みたい」または「できれば住みたい」と答えた2,492人に、住みたい理由について聞いたところ、「自分の家や土地がある」(43.3%)が4割半ば近くで最も高く、次いで「住み慣れて愛着がある」(33.2%)、「自然環境が良い」(32.7%)、「交通の便が良い」(16.2%)、「生まれ育ったところである」(11.6%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、上位3項目は令和元年度調査と同じ順位となっており、「自然環境が良い」(32.7%)は令和元年度調査(26.4%)より6.3ポイント増加している。

表1-2-1 住み続けたい理由—経年変化

調査年	n	(%)													
		自分の家や土地がある	住み慣れて愛着がある	自然環境が良い	交通の便が良い	生まれ育ったところである	買物が便利である	仕事や学校の関係がある	子育て環境が充実している	人間関係が良い	通勤・通学に便利である	保健福祉施策が充実している	教育環境が良い	その他	無回答
令和3年度	2,492	43.3	33.2	32.7	16.2	11.6	10.9	9.0	6.9	4.6	4.1	4.0	1.2	3.3	0.3
令和元年度	2,201	46.8	35.5	26.4	15.5	12.7	9.8	10.1	6.7	4.7	5.0	3.5	1.3	3.2	0.3
平成29年度	1,793	45.2	32.3	29.7	18.5	11.5	11.7	6.4	4.0	7.3	4.4	3.1	1.1	2.3	0.4
平成27年度	2,253	48.9	33.5	27.9	14.0	14.4	8.6	9.5	8.5	5.6	3.6	2.5	0.6	2.9	1.0
平成25年度	1,842	44.1	32.2	32.0	15.0	13.4	9.9	9.3	5.1	5.3	4.5	3.5	0.5	3.3	0.8
平成23年度	1,106	52.8	33.4	31.0	12.6	13.5	6.6	9.0	4.4	6.1	5.2	2.9	0.4	3.4	2.3
平成21年度	2,237	54.7	35.0	29.8	12.5	14.9	7.3	9.4	-	5.7	3.6	2.8	1.2	2.0	0.7
平成19年度	2,178	53.9	35.2	30.9	10.1	15.2	9.1	8.3	-	7.0	2.9	3.4	0.6	1.7	2.2
平成17年度	1,534	53.4	42.6	27.4	11.3	25.2	8.7	6.4	-	5.3	2.4	2.4	0.7	1.0	0.3

(注1) 平成29年度調査では、現在住んでいる地区に「ずっと住み続けたい」と答えた人に対して質問していたため、平成29年度の調査結果は参考記載とする。

(注2) 平成23年度調査以降では、「子育て環境が充実している」の選択肢を追加している。

【属性別】

性別で見ると、女性では「住み慣れて愛着がある」(35.4%)が男性(31.0%)より4.4ポイント高くなっている。一方、男性では「生まれ育ったところである」(13.8%)が女性(9.6%)より4.2ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「自分の家や土地がある」は60～69歳(55.2%)と70～79歳(53.0%)で5割台と高くなっている。「自然環境が良い」は70～79歳(42.0%)で4割を超えて高くなっている。「交通の便が良い」は20歳未満(46.4%)で4割半ばを超えて高くなっている。

居住年数別で見ると、「自分の家や土地がある」は20年以上(移り住んで以来)(51.2%)で5割を超えて高くなっている。「住み慣れて愛着がある」は20年以上(移り住んで以来)(44.0%)で4割半ばと高くなっている。「自然環境が良い」は5～9年(38.5%)で4割近くと高くなっている。「生まれ育ったところである」は20年以上(生まれてからずっと)(37.7%)で4割近くと高くなっている。

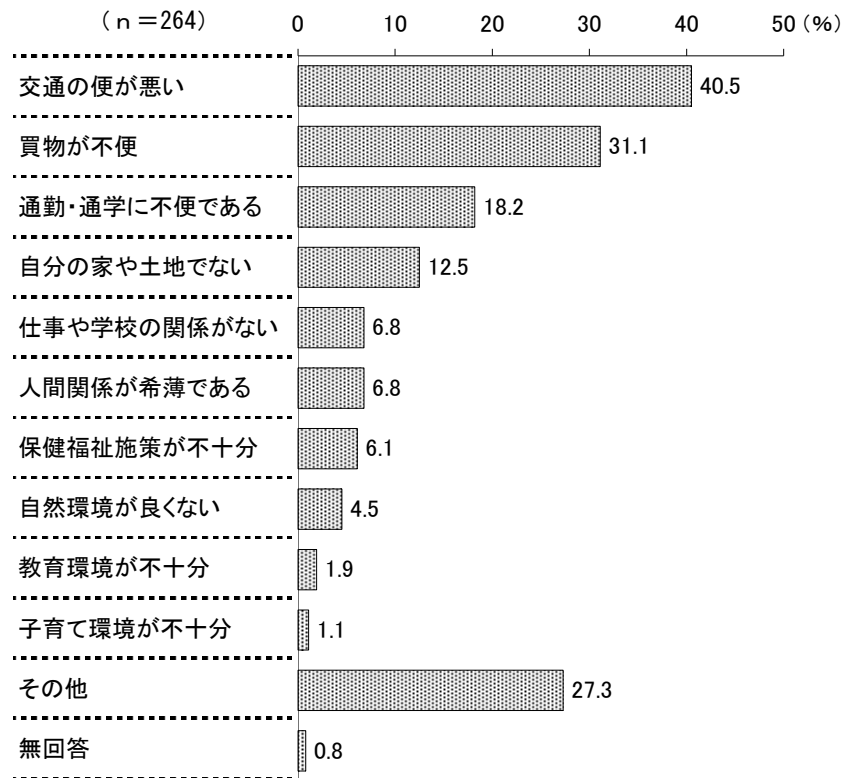
表1-2-2 住み続けたい理由一性別、年齢別、居住年数別

		n	自分の家や土地がある	住み慣れて愛着がある	自然環境が良い	交通の便が良い	生まれ育ったところである	買物が便利である	仕事や学校の関係がある	子育て環境が充実している	人間関係が良い	通勤・通学に便利である	保健福祉施策が充実している	教育環境が良い	その他	無回答
全体		2,492	43.3	33.2	32.7	16.2	11.6	10.9	9.0	6.9	4.6	4.1	4.0	1.2	3.3	0.3
性別	男性	1,135	43.3	31.0	34.2	15.9	13.8	10.8	8.8	4.8	3.1	5.6	4.6	1.7	3.3	0.3
	女性	1,325	43.5	35.4	31.3	16.2	9.6	10.9	9.0	8.6	5.8	2.8	3.5	0.8	3.3	0.3
年齢別	20歳未満	28	10.7	25.0	25.0	46.4	17.9	10.7	0.0	17.9	7.1	17.9	3.6	7.1	0.0	0.0
	20～29歳	174	17.8	27.0	23.0	22.4	19.5	13.8	17.8	19.5	4.0	9.8	1.7	2.3	1.7	0.0
	30～39歳	253	27.3	22.5	23.3	17.8	11.5	14.6	19.4	22.9	3.2	7.9	2.4	2.8	2.4	0.4
	40～49歳	386	38.1	26.9	31.1	14.0	12.4	11.7	16.8	14.2	3.9	8.3	1.8	2.1	1.6	0.0
	50～59歳	396	45.2	33.6	27.3	16.2	12.6	11.9	10.6	2.8	3.8	5.1	3.0	0.3	4.8	1.0
	60～69歳	424	55.2	37.3	34.2	15.1	9.9	10.8	6.6	0.9	5.2	0.9	3.1	0.9	5.0	0.0
	70～79歳	559	53.0	38.6	42.0	16.3	9.3	9.5	1.4	0.4	5.0	0.4	5.2	0.4	2.1	0.0
	80歳以上	265	44.2	39.2	37.0	11.7	10.6	6.0	0.4	1.1	6.4	0.4	10.2	0.8	5.7	0.8
居住年数別	20年以上(生まれてからずっと)	636	48.6	34.6	25.5	10.5	37.7	4.7	4.6	5.7	2.5	2.5	2.2	0.9	1.7	0.0
	20年以上(移り住んで以来)	1,094	51.2	44.0	37.0	14.6	2.2	9.7	5.9	1.7	5.7	1.9	5.3	0.8	2.9	0.2
	10～19年(生まれてからずっと)	35	22.9	25.7	31.4	25.7	22.9	8.6	0.0	17.1	5.7	11.4	2.9	8.6	2.9	0.0
	10～19年(移り住んで以来)	311	37.9	25.7	31.2	16.7	2.3	14.1	16.4	13.5	5.5	5.5	3.9	1.6	4.5	0.0
	5～9年	182	23.1	11.0	38.5	24.7	1.6	15.4	16.5	15.4	6.0	11.0	2.7	2.7	5.5	2.2
	3～4年	110	21.8	10.9	32.7	28.2	1.8	27.3	21.8	18.2	3.6	10.9	1.8	0.0	5.5	0.0
	2年以下	114	13.2	3.5	26.3	31.6	3.5	26.3	22.8	18.4	0.9	9.6	5.3	0.9	7.0	0.0

(3) 市外に移りたい理由 (A・B:問3)

問.「できれば市外に移りたい」または「市外に移りたい」とお答えの方は、どのような理由ですか。(2つまで選んでください)

図1-3-1 市外に移りたい理由



【全体】

「できれば市外に移りたい」または「市外に移りたい」と答えた264人に、市外に移りたい理由について聞いたところ、「交通の便が悪い」(40.5%)が約4割で最も高く、次いで「買物が不便」(31.1%)、「通勤・通学に不便である」(18.2%)、「自分の家や土地でない」(12.5%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「仕事や学校の関係がない」(6.8%)は令和元年度調査(3.7%)より3.1ポイント増加している。一方、「通勤・通学に不便である」(18.2%)は令和元年度調査(27.6%)より9.4ポイント、「交通の便が悪い」(40.5%)は令和元年度調査(47.5%)より7.0ポイント減少している。

表1-3-1 市外に移りたい理由—経年変化

調査年	n	(%)											
		交通の便が悪い	買物が不便	通勤・通学に不便である	自分の家や土地でない	仕事や学校の関係がない	人間関係が希薄である	保健福祉施策が不十分	自然環境が良くない	教育環境が不十分	子育て環境が不十分	その他	無回答
令和3年度	264	40.5	31.1	18.2	12.5	6.8	6.8	6.1	4.5	1.9	1.1	27.3	0.8
令和元年度	322	47.5	32.3	27.6	9.9	3.7	7.1	7.5	6.8	6.5	1.2	21.1	0.3
平成29年度	427	44.7	39.1	16.4	14.1	4.0	6.6	7.5	8.0	1.9	2.1	21.8	1.4
平成27年度	217	39.2	31.3	20.3	11.1	6.0	12.4	6.5	8.3	4.6	6.5	24.4	0.5
平成25年度	227	38.3	31.3	19.4	14.1	4.0	11.9	5.3	3.5	3.1	1.3	30.8	0.0
平成23年度	177	41.2	29.4	22.0	14.1	5.6	8.5	6.2	8.5	6.2	7.9	22.6	2.8
平成21年度	329	45.0	33.1	19.5	10.6	5.2	10.3	8.5	12.2	10.6	-	18.5	0.3
平成19年度	331	42.3	25.4	26.0	10.0	5.4	7.6	9.1	12.4	10.9	-	23.6	0.3
平成17年度	182	45.1	33.5	28.0	3.8	7.1	6.0	9.3	12.6	8.8	-	23.6	0.0

(注1) 平成29年度調査では、現在住んでいる地区から「市内の他の地区に移りたい」または「市外に移りたい」と答えた人に対して質問していたため、平成29年度の調査結果は参考記載とする。

(注2) 平成23年度調査以降では、「子育て環境が不十分」の選択肢を追加している。

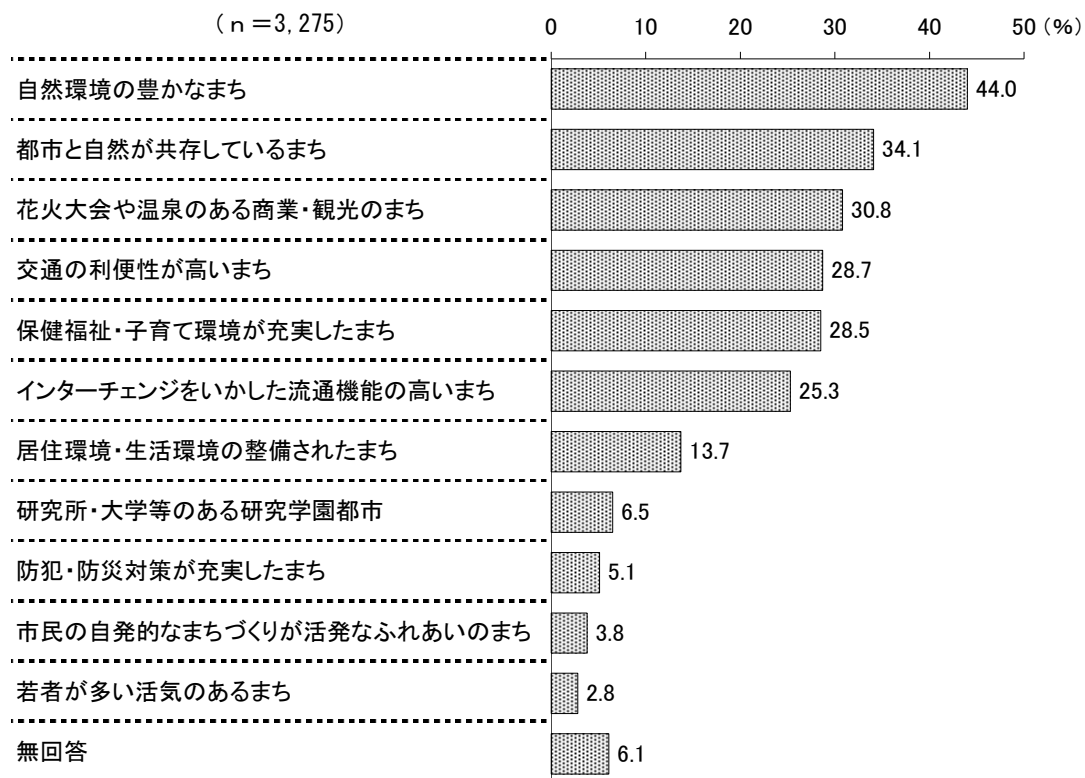
2 市の現状と将来

(1) 市の現在のイメージ (A・B：問4①)

問. 厚木市のまちとして現在のイメージはどれですか。

(該当するものを3つまで選んでください)

図2-1-1 市の現在のイメージ



【全体】

市の現在のイメージについて聞いたところ、「自然環境の豊かなまち」(44.0%)が4割半ばで最も高く、次いで「都市と自然が共存しているまち」(34.1%)、「花火大会や温泉のある商業・観光のまち」(30.8%)、「交通の利便性が高いまち」(28.7%)、「保健福祉・子育て環境が充実したまち」(28.5%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「自然環境の豊かなまち」は令和元年度調査に引き続き第1位となっている。「都市と自然が共存しているまち」(34.1%)は令和元年度調査(28.1%)より6.0ポイント増加している。

表2-1-1 市の現在のイメージ経年変化(上位5項目)

(%)

順位	令和3年度 (n=3,275)	令和元年度 (n=3,005)	平成29年度 (n=3,030)	平成27年度 (n=2,916)	平成25年度 (n=2,554)	平成23年度 (n=1,629)	平成21年度 (n=3,218)	平成19年度 (n=3,006)	平成17年度 (n=2,010)
1	自然環境の豊かなまち 44.0	自然環境の豊かなまち 43.6	自然環境の豊かなまち 44.0	自然環境の豊かなまち 50.9	自然環境の豊かなまち 48.7	自然環境の豊かなまち 42.4	花火大会、鮎、温泉(飯山、七沢)のまち 45.7	花火大会、鮎、温泉(飯山、七沢)のまち 46.5	花火大会、鮎、温泉(飯山、七沢)のまち 49.0
2	都市と自然が共存しているまち 34.1	花火大会や温泉のある商業・観光のまち 38.0	花火大会や温泉のある商業・観光のまち 37.9	花火大会や温泉のある商業・レジャーのまち 28.5	花火大会や温泉のある商業・レジャーのまち 30.1	花火大会や温泉のある商業・レジャーのまち 41.0	恵まれた自然環境をもつまち 41.1	恵まれた自然環境をもつまち 42.9	恵まれた自然環境をもつまち 43.4
3	花火大会や温泉のある商業・観光のまち 30.8	都市と自然が共存しているまち 28.1	都市と自然が共存しているまち 26.8	都市と自然が共存しているまち 28.2	都市と自然が共存しているまち 24.7	都市と自然が共存するまち 24.7	都市と自然が共存するまち 22.6	都市と自然が共存するまち 23.3	都市と自然が共存するまち 25.7
4	交通の利便性が高いまち 28.7	インターチェンジをいかした流通機能の高いまち 26.9	交通の利便性が高いまち 24.0	交通の利便性が高いまち 24.7	交通の利便性が高いまち 23.6	交通の利便性が高いまち 19.3	交通の利便性が高いまち 16.4	交通の利便性が高いまち 17.6	交通の利便性が高いまち 20.6
5	保健福祉・子育て環境が充実したまち 28.5	交通の利便性が高いまち 24.4	インターチェンジをいかした流通機能の高いまち 23.0	保健福祉・子育て環境が充実したまち 20.3	インターチェンジをいかした流通機能の高いまち 18.4	インターチェンジをいかした流通機能の高いまち 17.0	ハイテク・研究開発型企業の集まるまち 6.7	ハイテク・研究開発型企業の集まるまち 6.2	自治活動の活発なふれあいのまち 5.8

(注1)「花火大会や温泉のある商業・観光のまち」は、平成27年度調査～平成23年度調査では「花火大会や温泉のある商業・レジャーのまち」としていた。

(注2)「市民の自発的なまちづくりが活発なふれあいのまち」は、平成27年度調査～平成17年度調査では「自治活動の活発なふれあいのまち」としていた。

【属性別】

性別で見ると、男性では「インターチェンジをいかした流通機能の高いまち」（31.3%）が女性（20.4%）より10.9ポイント、「交通の利便性が高いまち」（32.0%）が女性（26.2%）より5.8ポイント高くなっている。一方、女性では「保健福祉・子育て環境が充実したまち」（33.3%）が男性（22.9%）より10.4ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「自然環境の豊かなまち」は70～79歳（50.7%）で約5割と高くなっている。「都市と自然が共存しているまち」は40～49歳（39.2%）で約4割と高くなっている。「保健福祉・子育て環境が充実したまち」は20歳未満（47.4%）で4割半ばを超えて高くなっている。

表2-1-2 市の現在のイメージ性別、年齢別

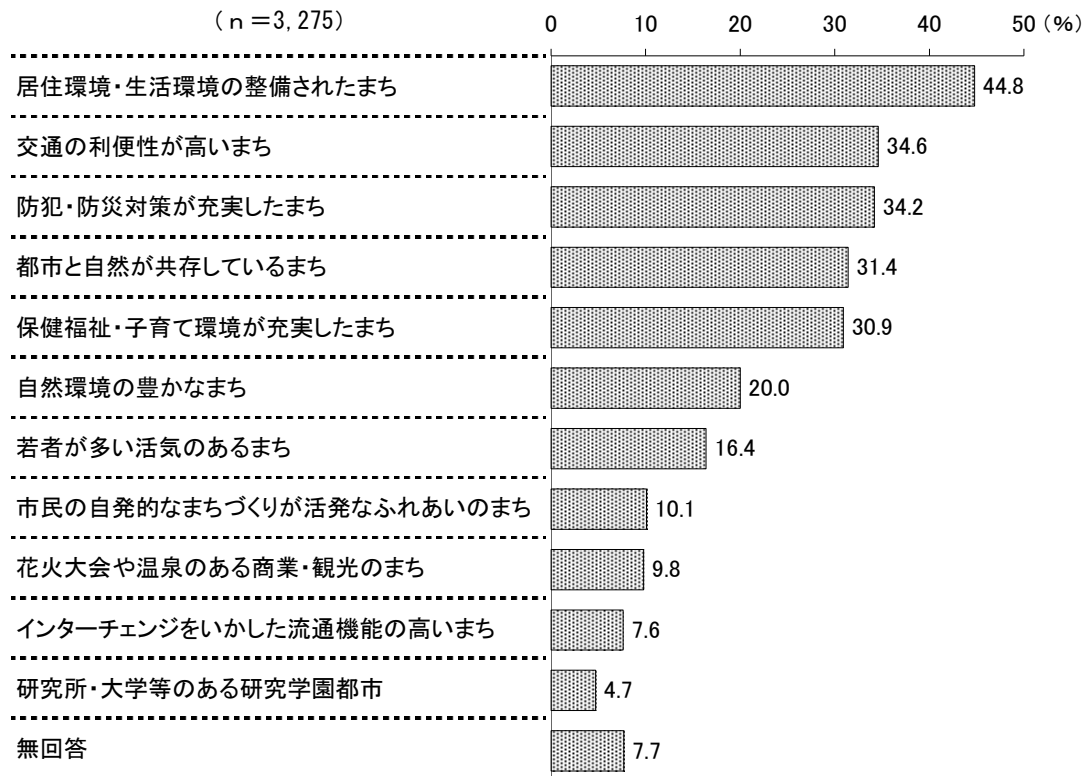
		n	自然環境の豊かなまち	都市と自然が共存しているまち	花火大会や温泉のある商業・観光のまち	交通の利便性が高いまち	保健福祉・子育て環境が充実したまち	インターチェンジをいかした流通機能の高いまち	居住環境・生活環境の整備されたまち	都市研究所・大学等のある研究学園都市	防犯・防災対策が充実したまち	市民の自発的なまちづくりが活発なふれあいのまち	若者が多い活気のあるまち	無回答
全 体		3,275	44.0	34.1	30.8	28.7	28.5	25.3	13.7	6.5	5.1	3.8	2.8	6.1
性別	男 性	1,479	41.9	36.1	28.4	32.0	22.9	31.3	16.5	6.6	6.2	3.7	3.0	5.0
	女 性	1,745	46.0	32.6	32.8	26.2	33.3	20.4	11.6	6.4	4.2	4.0	2.7	6.8
年齢別	20歳未満	57	35.1	35.1	29.8	43.9	47.4	21.1	12.3	1.8	3.5	3.5	5.3	1.8
	20～29歳	282	35.1	33.7	31.2	30.1	32.3	14.9	17.4	5.0	2.1	5.7	8.5	1.4
	30～39歳	358	36.9	32.1	31.0	31.3	41.3	24.9	10.9	3.6	1.4	2.2	3.1	2.5
	40～49歳	513	42.5	39.2	30.2	28.1	35.5	31.2	12.9	5.5	3.3	4.7	1.9	2.5
	50～59歳	553	43.8	35.8	38.7	26.6	24.1	31.8	10.3	6.0	2.5	3.8	2.2	4.9
	60～69歳	542	48.2	34.1	33.9	28.8	23.8	27.7	13.8	7.0	5.0	3.5	2.4	6.3
	70～79歳	653	50.7	31.2	26.8	29.1	21.4	23.6	17.9	8.4	10.1	3.5	2.0	9.8
	80歳以上	306	44.1	31.0	19.6	25.8	26.8	14.1	12.4	9.5	10.1	3.9	1.6	15.0

(2) 市の将来のイメージ (A・B:問4②)

問. 厚木市が将来どのようなまちになってほしいと思いますか。

(該当するものを3つまで選んでください)

図2-2-1 市の将来のイメージ



【全体】

市の将来のイメージについて聞いたところ、「居住環境・生活環境の整備されたまち」(44.8%)が4割半ばで最も高く、次いで「交通の利便性が高いまち」(34.6%)、「防犯・防災対策が充実したまち」(34.2%)、「都市と自然が共存しているまち」(31.4%)、「保健福祉・子育て環境が充実したまち」(30.9%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「居住環境・生活環境の整備されたまち」は令和元年度調査に引き続き第1位となっている。「都市と自然が共存しているまち」（31.4%）は令和元年度調査（28.1%）より3.3ポイント増加している。

表2-2-1 市の将来のイメージ経年変化（上位5項目）

(%)

順位	令和3年度 (n=3,275)	令和元年度 (n=3,005)	平成29年度 (n=3,030)	平成27年度 (n=2,916)	平成25年度 (n=2,554)	平成23年度 (n=1,629)	平成21年度 (n=3,218)	平成19年度 (n=3,006)	平成17年度 (n=2,010)
1	居住環境・生活環境の整備されたまち 44.8	居住環境・生活環境の整備されたまち 43.7	居住環境・生活環境の整備されたまち 42.4	居住環境・生活環境の整備されたまち 39.6	居住環境・生活環境の整備されたまち 39.3	都市と自然が共存しているまち 39.0	自然環境の豊かな都市 56.3	自然環境の豊かな都市 61.3	自然環境の豊かな都市 75.3
2	交通の利便性が高いまち 34.6	防犯・防災対策が充実したまち 37.6	交通の利便性が高いまち 36.7	交通の利便性が高いまち 36.5	交通の利便性が高いまち 33.6	居住環境・生活環境の整備されたまち 35.4	居住環境・生活環境の整備されたまち 49.7	居住環境・生活環境の整備されたまち 52.3	保健福祉都市 35.5
3	防犯・防災対策が充実したまち 34.2	交通の利便性が高いまち 37.5	防犯・防災対策が充実したまち 34.8	保健福祉・子育て環境が充実したまち 36.4	保健福祉・子育て環境が充実したまち 32.5	交通の利便性が高いまち 34.5	防犯・防災対策が充実したまち 47.3	防犯・防災対策が充実したまち 47.3	心のふれあいのある交流都市 30.4
4	都市と自然が共存しているまち 31.4	保健福祉・子育て環境が充実したまち 33.0	保健福祉・子育て環境が充実したまち 32.1	都市と自然が共存しているまち 33.0	都市と自然が共存しているまち 31.9	防犯・防災対策が充実したまち 32.5	保健福祉都市 23.2	保健福祉都市 26.4	居住環境・生活環境の整備されたまち 29.9
5	保健福祉・子育て環境が充実したまち 30.9	都市と自然が共存しているまち 28.1	都市と自然が共存しているまち 28.8	防犯・防災対策が充実したまち 32.1	防犯・防災対策が充実したまち 30.5	保健福祉・子育て環境が充実したまち 31.4	若者が多い活気のあるまち 20.4	若者が多い活気のあるまち 17.7	若者が多い活気のあるまち 20.8

【属性別】

性別で見ると、女性では「保健福祉・子育て環境が充実したまち」（34.7％）が男性（26.5％）より8.2ポイント、「防犯・防災対策が充実したまち」（36.2％）が男性（32.0％）より4.2ポイント高くなっている。一方、男性では「インターチェンジをいかした流通機能の高いまち」（10.3％）が女性（5.4％）より4.9ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「居住環境・生活環境の整備されたまち」は60～69歳（50.9％）で約5割と高くなっている。「交通の利便性が高いまち」は20歳未満（43.9％）で4割半ば近くと高くなっている。「防犯・防災対策が充実したまち」は40～49歳（38.0％）で4割近くと高くなっている。「保健福祉・子育て環境が充実したまち」は30～39歳（38.8％）で4割近くと高くなっている。

表2-2-2 市の将来のイメージ性別、年齢別

		n	居住環境・生活環境の整備されたまち	交通の利便性が高いまち	防犯・防災対策が充実したまち	都市と自然が共存しているまち	保健福祉・子育て環境が充実したまち	自然環境の豊かなまち	若者が多い活気のあるまち	市民の自発的なまちづくりが活発なふれあいのまち	観光のまち 花火大会や温泉のある商業・	インターチェンジをいかした流通機能の高いまち	都市 研究所・大学等のある研究学園	無回答
全 体		3,275	44.8	34.6	34.2	31.4	30.9	20.0	16.4	10.1	9.8	7.6	4.7	7.7
性別	男 性	1,479	45.0	33.1	32.0	33.4	26.5	21.6	18.0	10.0	9.3	10.3	5.3	7.4
	女 性	1,745	44.9	35.6	36.2	29.7	34.7	18.5	15.3	10.3	10.2	5.4	4.1	7.8
年齢別	20歳未満	57	29.8	43.9	19.3	29.8	21.1	21.1	28.1	8.8	24.6	14.0	3.5	1.8
	20～29歳	282	35.1	39.4	34.4	27.0	31.9	14.2	23.0	7.4	15.2	7.4	4.3	5.0
	30～39歳	358	48.0	40.8	34.9	30.2	38.8	15.9	13.7	6.4	12.0	7.5	3.4	3.6
	40～49歳	513	46.8	35.7	38.0	35.7	33.9	19.3	16.2	10.9	12.1	6.0	3.7	3.5
	50～59歳	553	47.4	36.3	36.7	34.5	29.7	21.0	11.8	9.6	11.6	9.8	4.2	4.9
	60～69歳	542	50.9	34.5	36.2	32.7	31.5	22.5	14.4	10.7	7.0	7.7	5.2	6.3
	70～79歳	653	44.3	28.5	32.2	29.9	27.6	22.5	20.1	11.9	6.0	7.0	5.8	12.4
	80歳以上	306	35.6	29.1	26.1	25.5	26.1	19.6	16.3	11.1	5.2	6.2	5.9	19.6

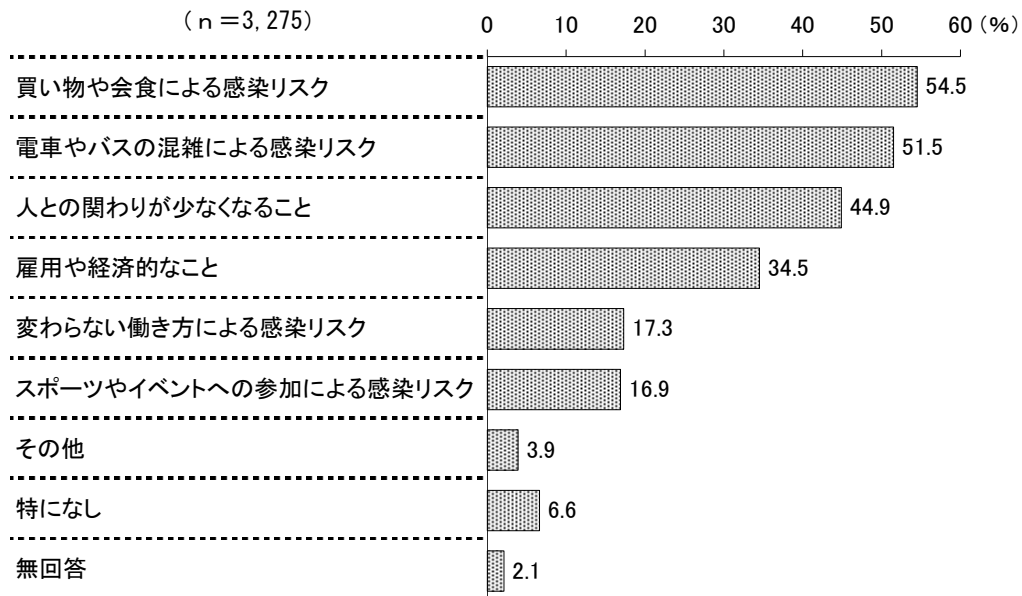
3 感染症

(1) 感染症の影響下において心配・不安に思うこと (A・B：問5①)

問. 新たな感染症の影響下において、心配・不安に思うことはありますか。

(3つまで選んでください)

図3-1-1 感染症の影響下において心配・不安に思うこと



【全体】

感染症の影響下において心配・不安に思うことを聞いたところ、「買い物や会食による感染リスク」(54.5%)が5割半ばで最も高く、次いで「電車やバスの混雑による感染リスク」(51.5%)、「人との関わりが少なくなること」(44.9%)、「雇用や経済的なこと」(34.5%)、「変わらない働き方による感染リスク」(17.3%)となっている。

【経年変化】

新規設問のため、経年変化は掲載していない。

【属性別】

性別で見ると、女性では「電車やバスの混雑による感染リスク」(53.0%)が男性(49.6%)より3.4ポイント、「人との関わりが少なくなること」(46.7%)が男性(43.3%)より3.4ポイント高くなっている。一方、男性では「雇用や経済的なこと」(36.2%)が女性(33.0%)より3.2ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「買い物や会食による感染リスク」は70～79歳(66.2%)で6割半ばを超えて高くなっている。「電車やバスの混雑による感染リスク」は20歳未満(70.2%)で約7割と高くなっている。「人との関わりが少なくなること」は70～79歳(58.2%)で6割近くと高くなっている。「雇用や経済的なこと」は50～59歳(49.5%)で約5割と高くなっている。

表3-1-1 感染症の影響下において心配・不安に思うこと一性別、年齢別

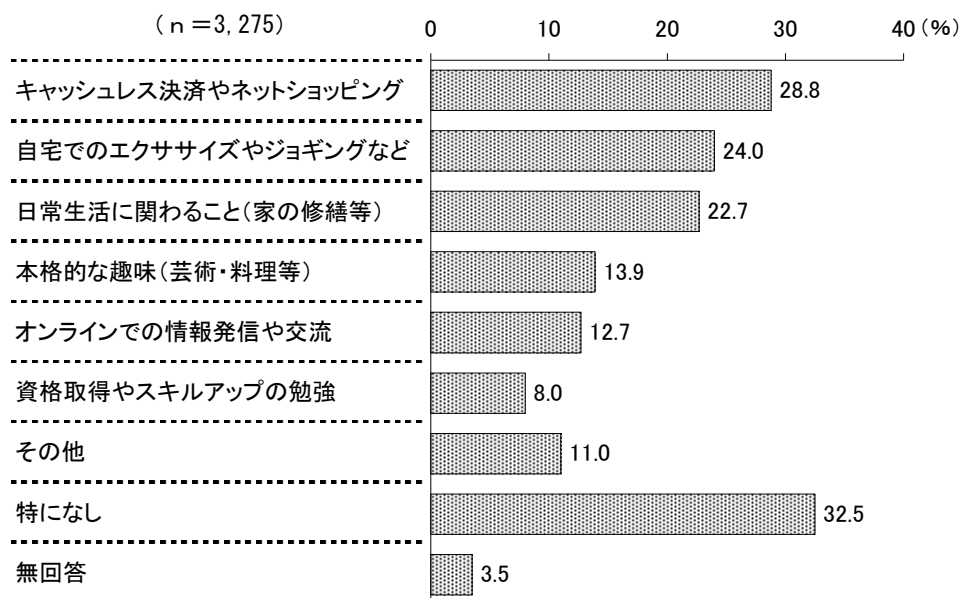
		(%)									
		n	買い物や会食による感染リスク	電車やバスの混雑による感染リスク	人との関わりが少なくなること	雇用や経済的なこと	変わらない働き方による感染リスク	スポーツやイベントへの参加による感染リスク	その他	特になし	無回答
全 体		3,275	54.5	51.5	44.9	34.5	17.3	16.9	3.9	6.6	2.1
性別	男 性	1,479	54.5	49.6	43.3	36.2	16.0	17.4	4.7	8.0	1.9
	女 性	1,745	54.9	53.0	46.7	33.0	18.1	16.8	3.2	5.4	2.3
年齢別	20歳未満	57	28.1	70.2	38.6	31.6	15.8	15.8	1.8	14.0	0.0
	20～29歳	282	37.9	59.6	36.5	34.0	26.2	13.1	3.2	7.1	1.8
	30～39歳	358	50.0	58.1	32.1	39.7	26.5	13.4	3.9	5.6	0.8
	40～49歳	513	50.3	59.3	39.2	44.2	24.0	16.2	5.3	5.1	0.4
	50～59歳	553	53.7	53.3	35.6	49.5	22.8	15.6	5.1	4.7	0.9
	60～69歳	542	59.8	50.2	50.7	33.4	15.5	17.3	4.4	7.0	1.5
	70～79歳	653	66.2	44.4	58.2	22.2	5.8	23.0	2.6	6.9	3.2
	80歳以上	306	54.2	34.0	56.9	15.0	4.2	15.4	2.3	10.8	8.2

(2) 感染症の影響下において新たに取り組んだこと (A・B：問5②)

問. 感染症の影響下において、新たに取り組んだことはありますか。

(3つまで選んでください)

図3-2-1 感染症の影響下において新たに取り組んだこと



【全体】

感染症の影響下において新たに取り組んだことを聞いたところ、「キャッシュレス決済やネットショッピング」(28.8%)が3割近くで最も高く、次いで「自宅でのエクササイズやジョギングなど」(24.0%)、「日常生活に関わること(家の修繕等)」(22.7%)、「本格的な趣味(芸術・料理等)」(13.9%)となっている。一方、「特になし」(32.5%)は3割半ば近くとなっている。

【経年変化】

新規設問のため、経年変化は掲載していない。

【属性別】

性別で見ると、大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、「キャッシュレス決済やネットショッピング」は30～39歳（44.4%）で4割半ばと高くなっている。「自宅でのエクササイズやジョギングなど」は70～79歳（27.7%）で3割近くと高くなっている。「日常生活に関わること（家の修繕等）」は60～69歳（27.9%）で3割近くと高くなっている。

表3-2-1 感染症の影響下において新たに取り組んだことー性別、年齢別

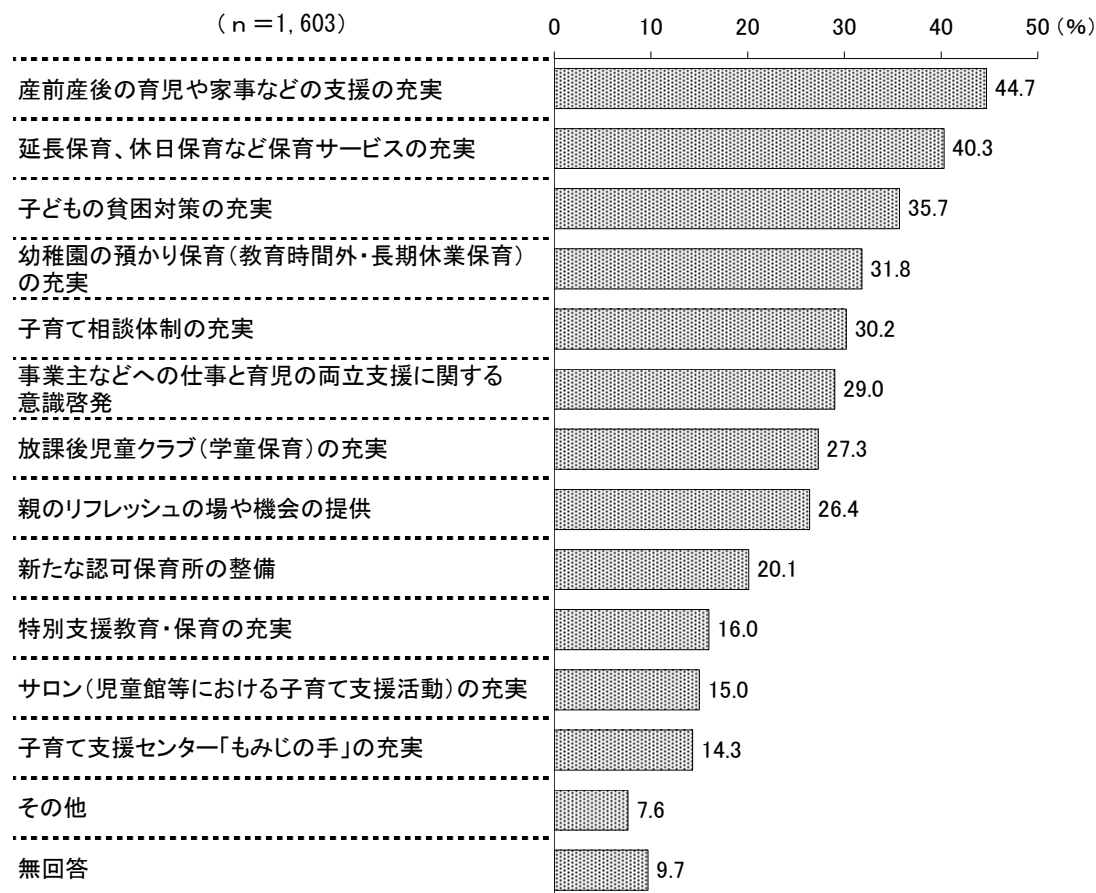
		n	ショッピング キャッシュレス 決済やネット	自宅での エクササイズ やジョギン グなど	日常生活に 関わること (家の修繕 等)	本格的な 趣味(芸術・ 料理等)	オンライン での情報発 信や交流	資格取得 やスキルア ップの勉強	その他	特になし	無回答
全 体		3,275	28.8	24.0	22.7	13.9	12.7	8.0	11.0	32.5	3.5
性別	男 性	1,479	27.5	24.5	23.5	15.4	13.7	8.0	12.1	32.9	3.0
	女 性	1,745	30.2	23.5	22.2	12.9	12.0	7.6	10.0	32.1	3.9
年 齢 別	20歳未満	57	29.8	24.6	14.0	21.1	19.3	24.6	5.3	28.1	0.0
	20～29歳	282	42.2	26.2	12.8	21.6	18.1	17.4	8.2	22.3	1.8
	30～39歳	358	44.4	20.7	21.5	12.8	15.1	12.3	8.7	27.7	1.4
	40～49歳	513	42.3	23.0	22.6	14.4	16.8	12.1	10.3	29.4	0.4
	50～59歳	553	32.7	23.5	24.6	11.0	13.9	7.2	11.8	30.9	1.3
	60～69歳	542	24.4	24.0	27.9	12.7	12.2	4.8	13.7	33.4	2.6
	70～79歳	653	14.5	27.7	26.0	15.2	8.4	2.8	11.8	37.1	6.3
	80歳以上	306	7.5	20.3	16.0	10.5	5.2	2.0	10.5	44.4	13.7

4 子育て・福祉・健康

(1) 子どもを産み育てられる環境を整える取組（A：問6）

問. 安心して子どもを産み育てられる環境を整える施策について、どのような取組が必要であると思いますか。（5つまで選んでください）

図4-1-1 子どもを産み育てられる環境を整える取組



【全体】

子どもを産み育てられる環境を整える取組について聞いたところ、「産前産後の育児や家事などの支援の充実」（44.7%）が4割半ばで最も高く、次いで「延長保育、休日保育など保育サービスの充実」（40.3%）、「子どもの貧困対策の充実」（35.7%）、「幼稚園の預かり保育（教育時間外・長期休業保育）の充実」（31.8%）、「子育て相談体制の充実」（30.2%）となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「延長保育、休日保育など保育サービスの充実」(40.3%)は令和元年度調査(46.4%)より6.1ポイント、「子育て相談体制の充実」(30.2%)は令和元年度調査(35.8%)より5.6ポイント、「幼稚園の預かり保育(教育時間外・長期休業保育)の充実」(31.8%)は令和元年度調査(37.0%)より5.2ポイント減少している。

なお、平成27年度以前の調査は、選択肢が異なっているため、参考記載とする。

表4-1-1 子どもを産み育てられる環境を整える取組—経年変化(上位5項目)

(%)

順位	令和3年度 (n=1,603)	令和元年度 (n=1,467)	平成29年度 (n=1,480)	平成27年度 (n=1,471)	平成25年度 (n=1,270)	平成23年度 (n=815)	平成21年度 (n=1,608)	平成19年度 (n=1,500)
1	産前産後の育児や家事などの支援の充実 44.7	延長保育、休日保育など保育サービスの充実 46.4	延長保育、休日保育、病児保育など保育サービスの充実 50.0	延長保育、休日保育など、保育サービスの充実 54.4	延長保育、休日保育など、保育サービスの充実 56.7	延長保育、休日保育など、保育サービスの充実 67.4	延長保育、休日保育など、保育サービスの充実 64.6	小児医療の充実 38.7
2	延長保育、休日保育など保育サービスの充実 40.3	産前産後の育児や家事などの支援の充実 45.5	産前産後の育児や家事などの支援の充実 42.8	子ども医療費助成制度の充実 49.0	幼稚園の預かり保育(教育時間外・長期休業保育)の充実 49.9	小児医療(子ども医療費の助成等)の充実 49.0	小児医療体制(小児救急医療などの整備)の充実 59.6	子どもが安心して外出できる環境の整備 37.7
3	子どもの貧困対策の充実 35.7	幼稚園の預かり保育(教育時間外・長期休業保育)の充実 37.0	幼稚園の預かり保育(教育時間外・長期休業保育)の充実 34.9	放課後児童クラブ(留守家庭児童クラブ)の充実 36.6	子ども医療費助成制度の充実 49.7	幼稚園の預かり保育(教育時間外・長期休業保育)の充実 42.2	事業主等への仕事と育児の両立支援に関する意識啓発 41.0	保育サービスの充実 35.1
4	幼稚園の預かり保育(教育時間外・長期休業保育)の充実 31.8	子育て相談体制の充実 35.8	子どもの貧困対策の充実 34.5	幼稚園の預かり保育(教育時間外・長期休業保育)の充実 36.4	産前産後における育児や家事などの支援の充実 44.6	事業主等への仕事と育児の両立支援に関する意識啓発 40.0	放課後児童クラブ(留守家庭児童クラブ)の充実 35.6	安心・安全のまちづくりの推進 33.3
5	子育て相談体制の充実 30.2	子どもの貧困対策の充実 35.3	放課後児童クラブ(留守家庭児童クラブ)の充実 32.8	産前産後における育児や家事などの支援の充実 34.7	放課後児童クラブ(留守家庭児童クラブ)の充実 37.8	放課後児童クラブ(留守家庭児童クラブ)の充実 32.9	健康相談などを通じた母親や乳幼児の健康の確保 29.7	職業生活と家庭生活の両立の支援 27.4

(注1)「延長保育、休日保育など保育サービスの充実」は、平成29年度調査では「延長保育、休日保育、病児保育など保育サービスの充実」としていた。

(注2)「放課後児童クラブ(学童保育)の充実」は、平成29年度調査以前では「放課後児童クラブ(留守家庭児童クラブ)の充実」としていた。

(注3)「特別支援教育・保育の充実」は、平成27年度調査では「特別支援教育の充実」としていた。また、平成25年度調査以前では選択肢に加えていない。

(注4)平成27年度調査以前では、「子ども医療費助成の充実」、「経済的な理由により就学が困難な児童・生徒の学用品費等の支援」、「健康診査や健康相談などを通じた母親や乳幼児の健康の保持増進」、「父親の育児参加に関する意識啓発」、「ファミリー・サポート・センター(会員相互による育児の援助活動)の充実」、「子育てサークル、自主グループ、NPO等の育成」の選択肢を追加していた。

(注5)平成19年度調査では、選択可能数を3つまでとしていた。

【属性別】

性別で見ると、女性では「事業主などへの仕事と育児の両立支援に関する意識啓発」（31.9%）が男性（25.4%）より6.5ポイント、「放課後児童クラブ（学童保育）の充実」（29.8%）が男性（23.9%）より5.9ポイント高くなっている。一方、男性では「新たな認可保育所の整備」（23.5%）が女性（17.2%）より6.3ポイント、「子どもの貧困対策の充実」（38.5%）が女性（33.6%）より4.9ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「産前産後の育児や家事などの支援の充実」は20歳未満（72.4%）で7割を超えて高くなっている。「延長保育、休日保育など保育サービスの充実」は20～29歳（53.5%）で5割半ば近くと高くなっている。「子どもの貧困対策の充実」は60～69歳（45.5%）で4割半ばと高くなっている。「幼稚園の預かり保育（教育時間外・長期休業保育）の充実」は30～39歳（42.2%）で4割を超えて高くなっている。

表4-1-2 子どもを産み育てられる環境を整える取組一性別、年齢別

		n	支援前産後の育児や家事などの充実	延長保育、休日保育など保育サービスの充実	子どもの貧困対策の充実	幼稚園の預かり保育（教育時間外・長期休業保育）の充実	子育て相談体制の充実	事業主などへの仕事と育児の両立支援に関する意識啓発	放課後児童クラブ（学童保育）の充実	親のフレッシュアップの場や機会の提供	新たな認可保育所の整備	特別支援教育・保育の充実	サロン（児童館等）における子育て支援活動の充実	子育て支援センター「もみじの手」の充実	その他	無回答
全体		1,603	44.7	40.3	35.7	31.8	30.2	29.0	27.3	26.4	20.1	16.0	15.0	14.3	7.6	9.7
性別	男性	727	46.4	38.9	38.5	34.3	32.0	25.4	23.9	24.1	23.5	17.5	14.2	14.0	7.7	7.7
	女性	858	43.2	41.5	33.6	29.8	28.4	31.9	29.8	28.2	17.2	14.9	15.7	14.3	7.3	11.4
年齢別	20歳未満	29	72.4	31.0	34.5	37.9	27.6	31.0	20.7	34.5	24.1	10.3	17.2	6.9	0.0	0.0
	20～29歳	129	68.2	53.5	30.2	38.8	27.9	25.6	20.2	37.2	28.7	12.4	15.5	7.8	5.4	0.0
	30～39歳	166	60.2	48.2	29.5	42.2	25.9	32.5	31.9	36.7	25.3	12.7	16.9	12.0	4.8	3.0
	40～49歳	236	41.1	43.2	37.3	33.1	32.2	28.0	28.0	30.5	20.8	19.1	14.8	14.4	8.5	2.5
	50～59歳	273	45.8	46.2	32.2	32.2	27.8	32.6	23.8	21.2	22.3	16.8	15.0	15.8	10.3	4.8
	60～69歳	275	41.8	41.1	45.5	30.2	38.5	33.5	30.5	25.5	18.5	20.7	12.7	17.5	7.3	5.8
	70～79歳	333	34.8	29.1	35.4	26.1	28.8	27.3	28.8	24.6	17.4	13.5	15.0	14.7	7.2	20.7
	80歳以上	158	32.9	30.4	35.4	27.2	26.6	18.4	24.7	12.7	10.8	15.2	17.1	13.9	8.9	29.1

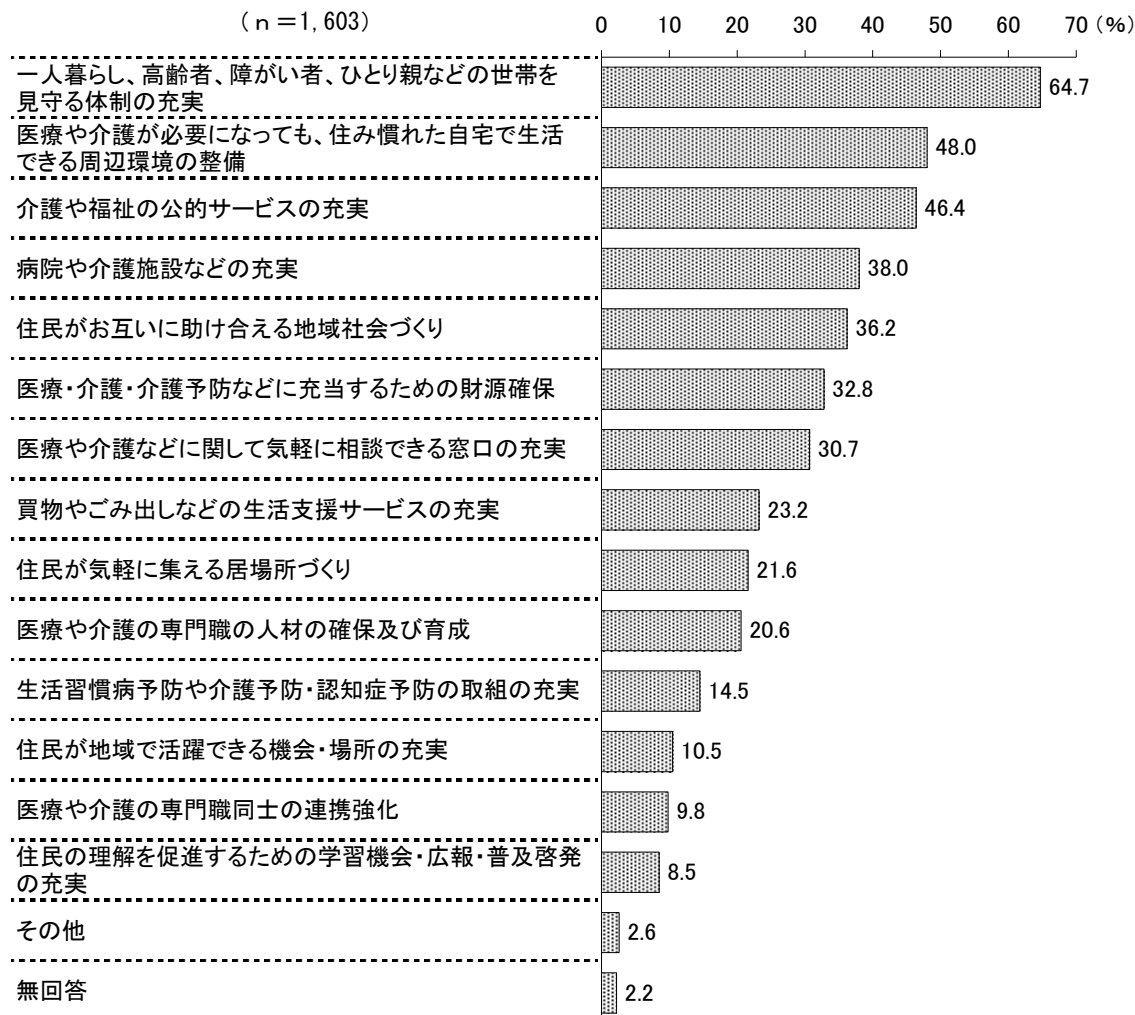
(2) 地域包括ケア社会の実現への取組 (A:問7)

問. 誰もが住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができる社会 (地域包括ケア社会) の実現について、どのような取組が必要であると思いますか。

(5つまで選んでください)

図4-2-1 地域包括ケア社会の実現への取組

(n=1,603)



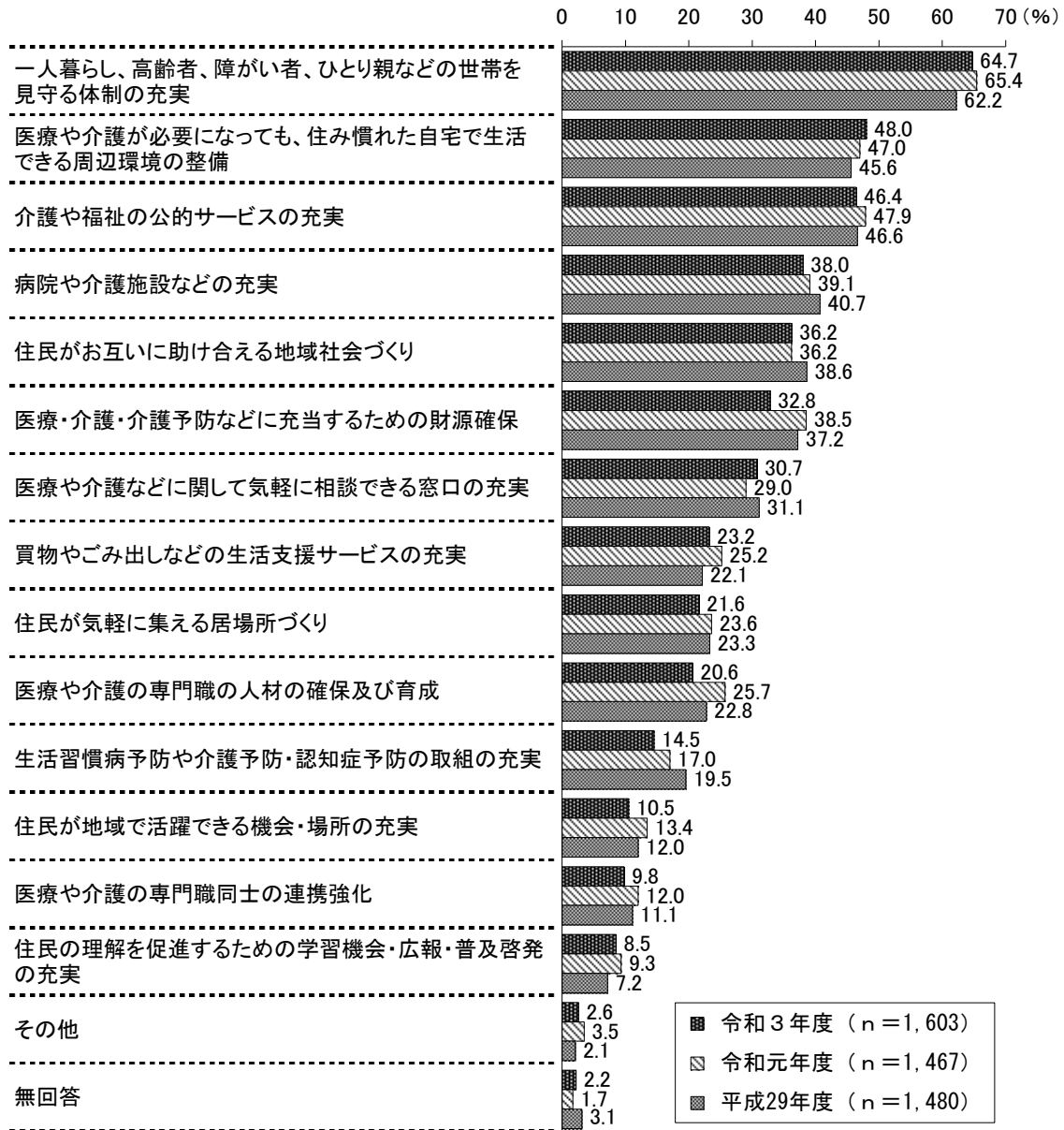
【全体】

地域包括ケア社会の実現への取組について聞いたところ、「一人暮らし、高齢者、障がい者、ひとり親などの世帯を見守る体制の充実」(64.7%)が6割半ばで最も高く、次いで「医療や介護が必要になっても、住み慣れた自宅で生活できる周辺環境の整備」(48.0%)、「介護や福祉の公的サービスの充実」(46.4%)、「病院や介護施設などの充実」(38.0%)、「住民がお互いに助け合える地域社会づくり」(36.2%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「医療・介護・介護予防などに充当するための財源確保」(32.8%)は令和元年度調査(38.5%)より5.7ポイント、「医療や介護の専門職の人材の確保及び育成」(20.6%)は令和元年度調査(25.7%)より5.1ポイント減少している。

図4-2-2 地域包括ケア社会の実現への取組—経年変化



【属性別】

性別で見ると、女性では「医療や介護などに関して気軽に相談できる窓口の充実」(34.7%)が男性(25.7%)より9.0ポイント、「医療や介護が必要になっても、住み慣れた自宅で生活できる周辺環境の整備」(51.5%)が男性(43.9%)より7.6ポイント、「一人暮らし、高齢者、障がい者、ひとり親などの世帯を見守る体制の充実」(67.7%)が男性(61.2%)より6.5ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「一人暮らし、高齢者、障がい者、ひとり親などの世帯を見守る体制の充実」は80歳以上(69.6%)で約7割と高くなっている。「医療や介護が必要になっても、住み慣れた自宅で生活できる周辺環境の整備」は70～79歳(53.2%)で5割半ば近くと高くなっている。「介護や福祉の公的サービスの充実」は50～59歳(54.6%)と60～69歳(54.9%)で5割半ばと高くなっている。

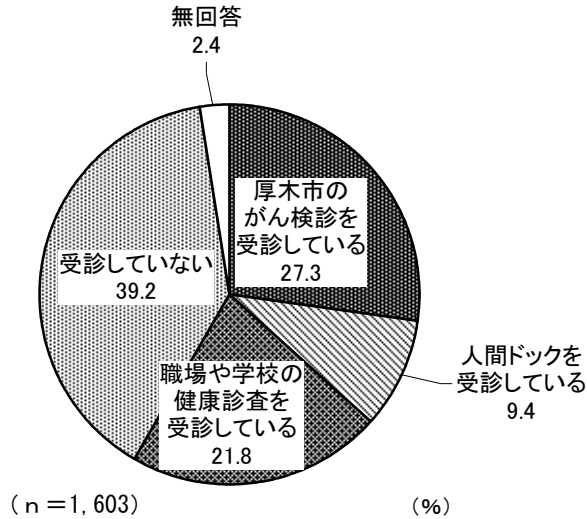
表4-2-1 地域包括ケア社会の実現への取組一性別、年齢別

		(%)																
		n	一人暮らし、高齢者、障がい者、ひとり親などの世帯を見守る体制の充実	医療や介護が必要になっても、住み慣れた自宅で生活できる周辺環境の整備	介護や福祉の公的サービスの充実	病院や介護施設などの充実	住民がお互いに助け合える地域社会づくり	医療・介護・介護予防などに充当するための財源確保	医療や介護などに関して気軽に相談できる窓口の充実	買物やごみ出しなどの生活支援サービスの充実	住民が気軽に集える居場所づくり	医療や介護の専門職の人材の確保及び育成	生活習慣病予防や介護予防・認知症予防の取組の充実	住民が地域で活躍できる機会・場所の充実	医療や介護の専門職同士の連携強化	住民の理解を促進するための学習機会・広報・普及啓発の充実	その他	無回答
全体		1,603	64.7	48.0	46.4	38.0	36.2	32.8	30.7	23.2	21.6	20.6	14.5	10.5	9.8	8.5	2.6	2.2
性別	男性	727	61.2	43.9	47.5	36.7	36.2	33.4	25.7	23.2	23.0	21.6	15.4	11.6	10.0	10.7	2.9	2.2
	女性	858	67.7	51.5	45.7	39.4	36.1	31.9	34.7	23.2	20.7	19.3	13.9	9.6	9.3	6.8	2.3	2.2
年齢別	20歳未満	29	44.8	44.8	20.7	34.5	48.3	31.0	6.9	24.1	17.2	17.2	13.8	17.2	20.7	17.2	3.4	0.0
	20～29歳	129	55.8	41.9	30.2	31.0	35.7	24.0	23.3	20.9	17.8	27.9	9.3	12.4	18.6	10.1	3.1	0.8
	30～39歳	166	59.6	45.2	38.6	31.9	28.9	38.6	20.5	29.5	19.9	24.1	18.1	12.7	9.6	12.0	2.4	0.6
	40～49歳	236	63.6	44.5	46.6	38.1	36.4	38.6	22.0	20.3	19.9	23.7	13.1	14.0	11.0	8.5	4.7	2.1
	50～59歳	273	67.4	44.3	54.6	40.3	33.0	35.2	30.4	26.4	16.1	17.2	12.8	10.3	11.4	8.1	1.5	2.6
	60～69歳	275	66.9	51.3	54.9	41.8	32.4	32.4	40.7	22.5	22.5	23.6	16.0	9.1	7.6	8.0	1.8	1.1
	70～79歳	333	66.7	53.2	45.0	40.2	40.8	31.5	35.4	20.4	29.1	16.2	14.4	8.4	7.8	5.4	3.0	2.7
	80歳以上	158	69.6	50.6	47.5	36.1	43.7	25.3	37.3	24.1	21.5	16.5	18.4	7.0	3.8	10.1	1.9	5.7

(3) がん検診の受診状況 (A:問8)

問. がん検診を受診していますか。(1つだけ選んでください)

図4-3-1 がん検診の受診状況



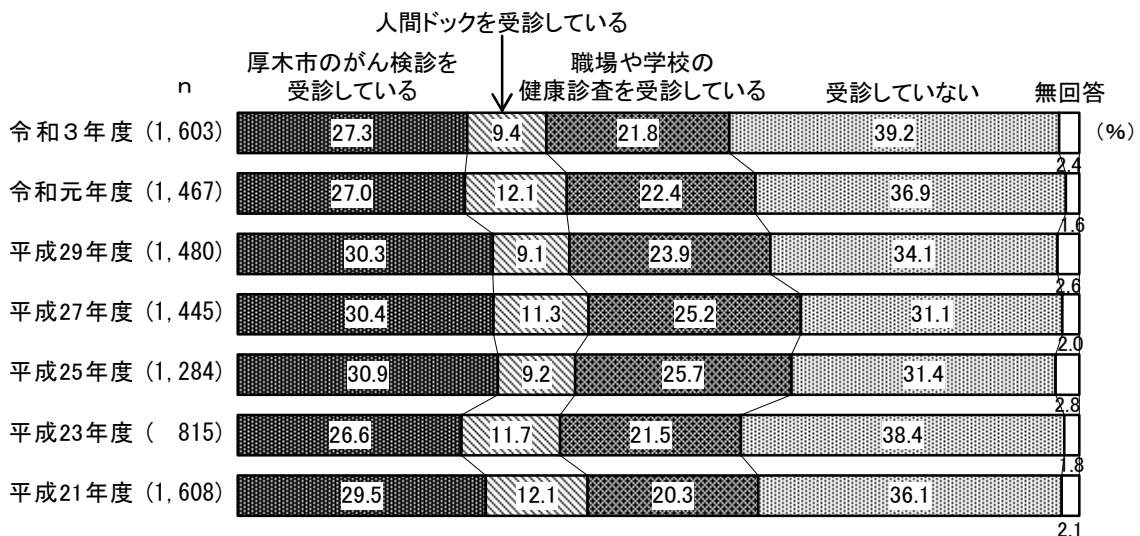
【全体】

がん検診の受診状況について聞いたところ、「厚木市のがん検診を受診している」(27.3%)が2割半ばを超え、「人間ドックを受診している」(9.4%)が約1割、「職場や学校の健康診査を受診している」(21.8%)が2割を超えており、この3つを合わせた『受診している』(58.5%)は6割近くとなっている。一方、「受診していない」(39.2%)は約4割となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「受診していない」(39.2%)は平成27年度調査(31.1%)以降増加傾向にある。

図4-3-2 がん検診の受診状況—経年変化

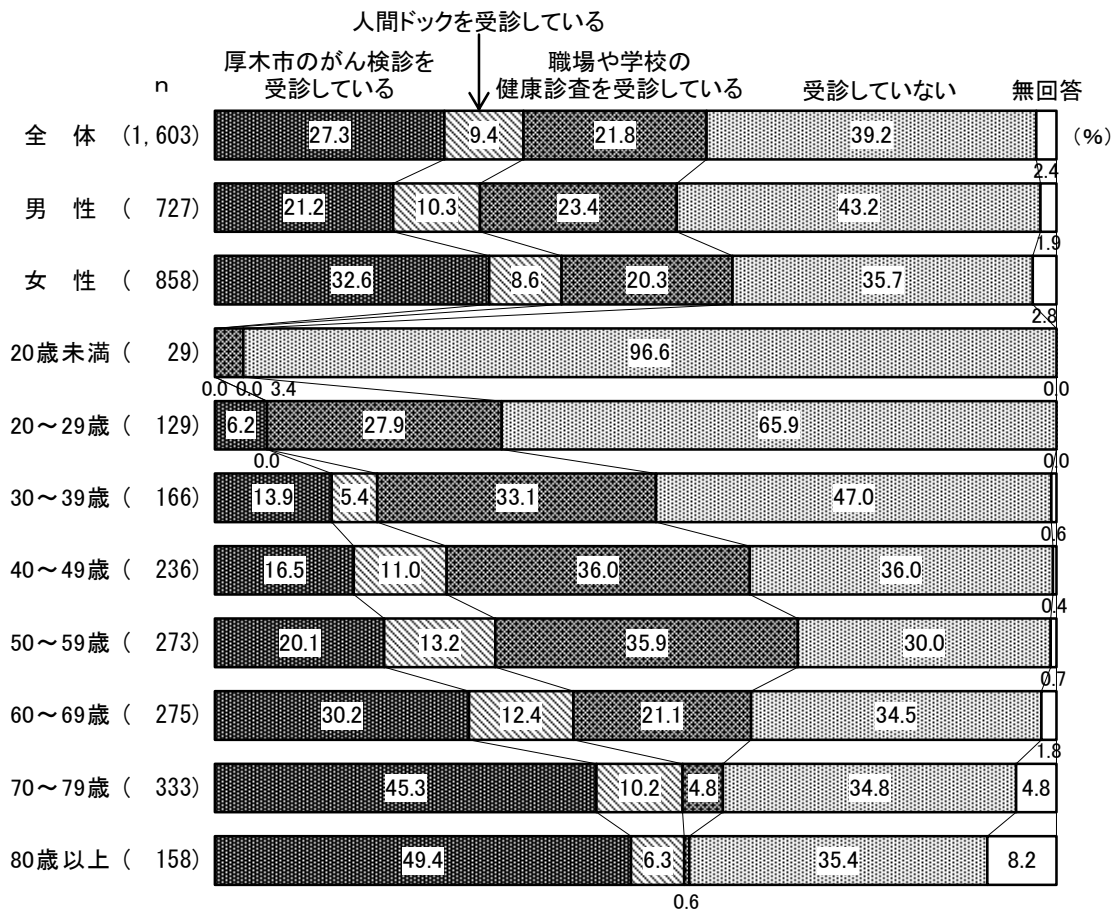


【属性別】

性別で見ると、女性では『受診している』（61.5%）が男性（54.9%）より6.6ポイント高くなっておりその内、「厚木市のがん検診を受診している」（32.6%）が男性（21.2%）より11.4ポイント高くなっている。一方、男性では「受診していない」（43.2%）が女性（35.7%）より7.5ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、『受診している』は50～59歳（69.2%）で約7割、40～49歳（63.5%）と60～69歳（63.7%）で6割半ば近くと高くなっている。「厚木市のがん検診を受診している」は80歳以上（49.4%）で約5割、70～79歳（45.3%）で4割半ばと高くなっている。「受診していない」は20歳未満（96.6%）で9割半ばを超えて高くなっている。

図4-3-3 がん検診の受診状況一性別、年齢別

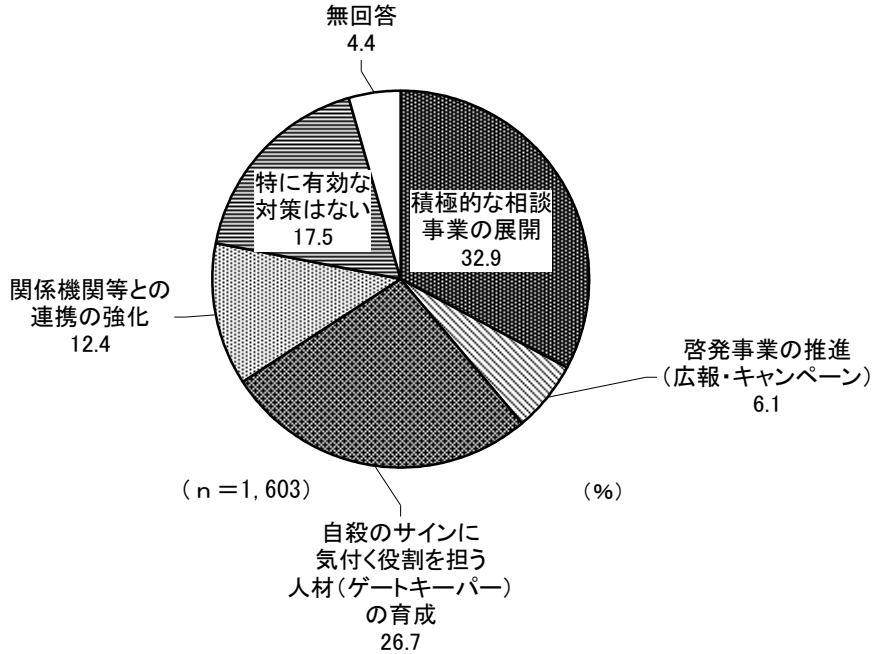


(4) 自殺予防の対策 (A:問9)

問. 自殺を予防するために、どのような対策が必要であると思いますか。

(1つだけ選んでください)

図4-4-1 自殺予防の対策



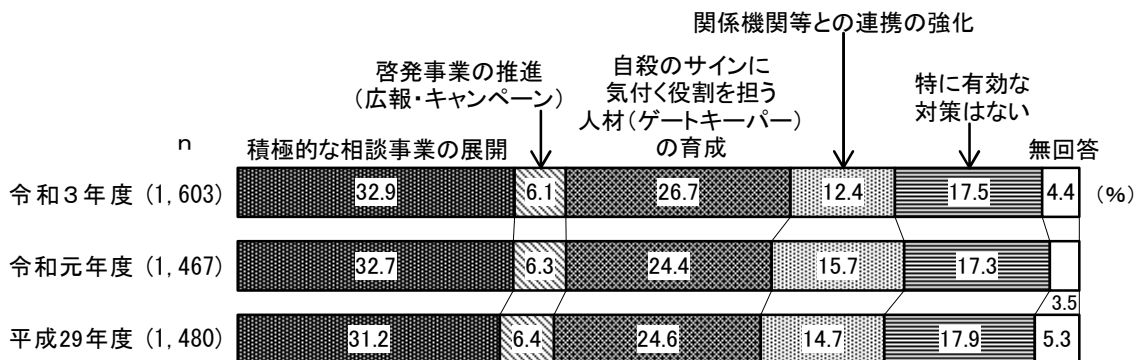
【全体】

自殺予防の対策について聞いたところ、「積極的な相談事業の展開」(32.9%)が3割半ば近くで最も高く、次いで「自殺のサインに気付く役割を担う人材(ゲートキーパー)の育成」(26.7%)、「関係機関等との連携の強化」(12.4%)、「啓発事業の推進(広報・キャンペーン)」(6.1%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「関係機関等との連携の強化」(12.4%)は令和元年度調査(15.7%)より3.3ポイント減少している。

図4-4-2 自殺予防の対策—経年変化



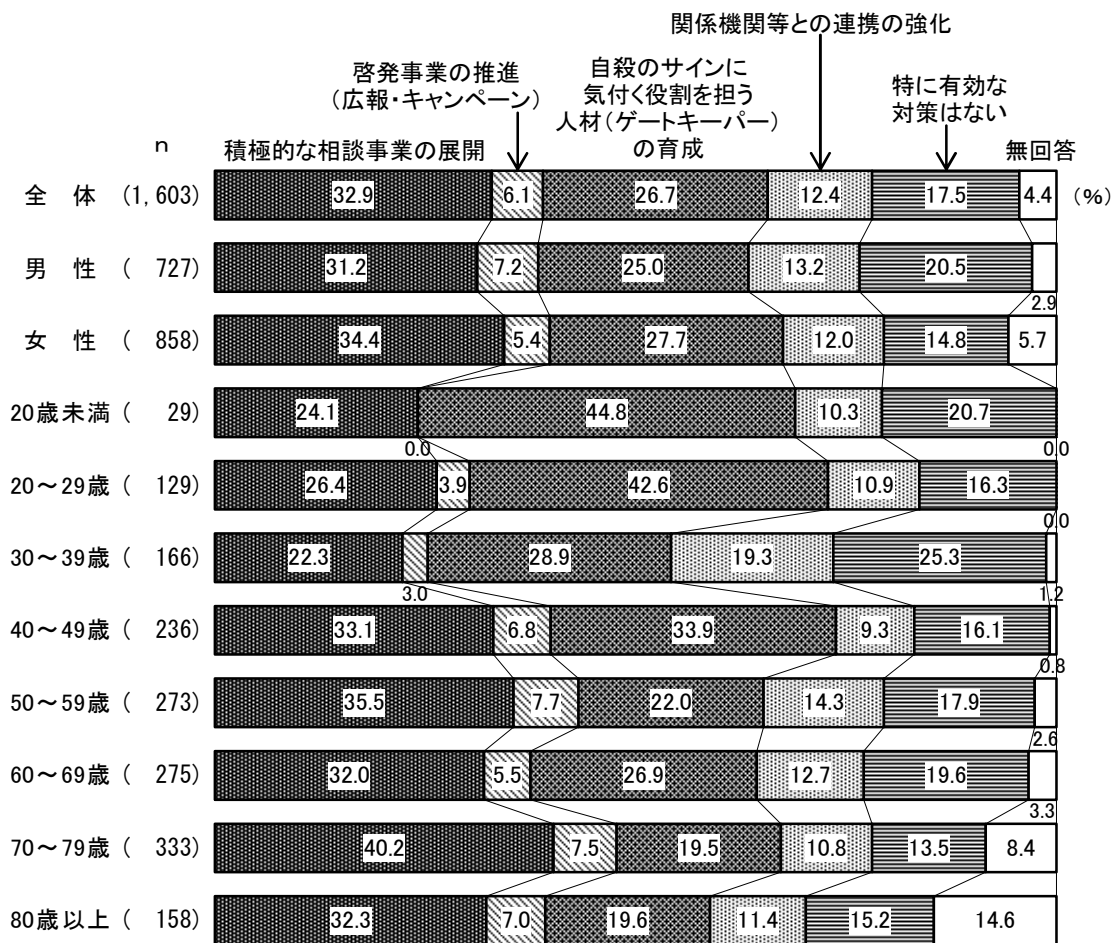
(注) 平成27年度調査～平成23年度調査では、「うつ病や自殺未遂に対する正しい理解と偏見解消に努める」の選択肢を追加していた。

【属性別】

性別で見ると、女性では「積極的な相談事業の展開」（34.4％）が男性（31.2％）より3.2ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「積極的な相談事業の展開」は70～79歳（40.2％）で約4割と高くなっている。「自殺のサインに気付く役割を担う人材（ゲートキーパー）の育成」は20歳未満（44.8％）と20～29歳（42.6％）で4割台と高くなっている。

図4-4-3 自殺予防の対策—性別、年齢別

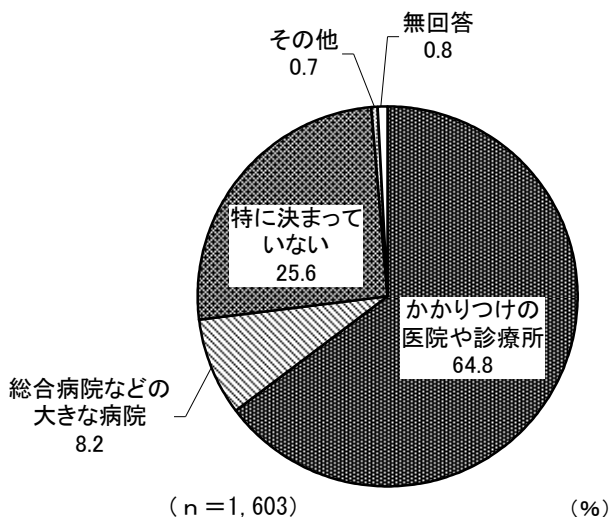


(5) かかりつけ医 (A:問10)

問. 風邪などにかかったとき、通院する医療機関は決まっていますか。

(1つだけ選んでください)

図4-5-1 かかりつけ医



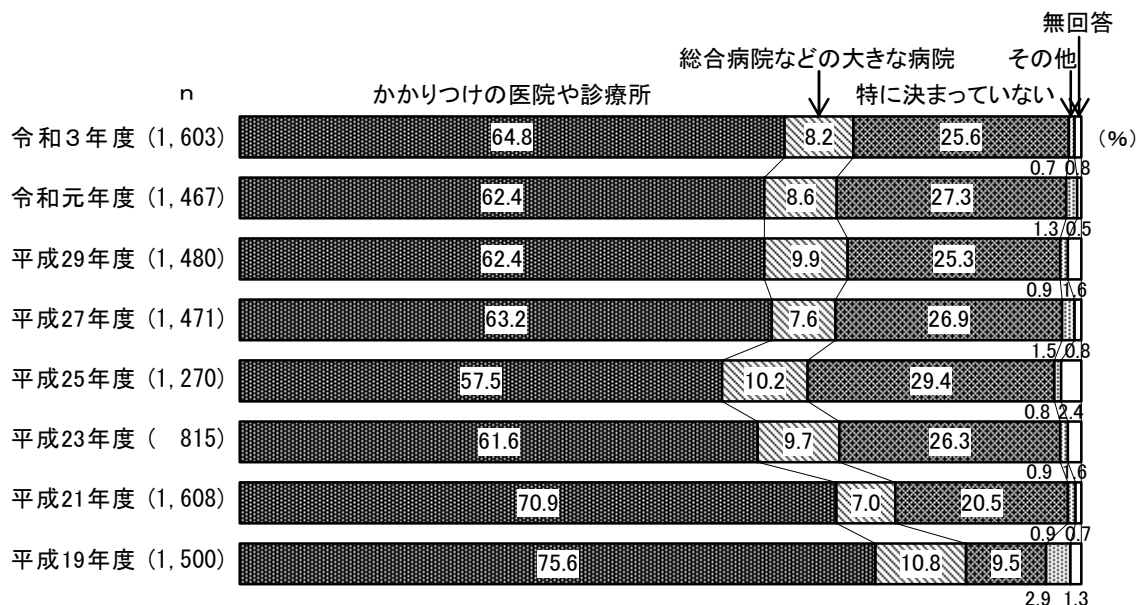
【全体】

風邪などにかかったとき、通院する医療機関について聞いたところ、「かかりつけの医院や診療所」(64.8%)が6割半ばで最も高くなっている。「総合病院などの大きな病院」(8.2%)は1割未満で、「特に決まっていない」(25.6%)は2割半ばとなっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、令和元年度調査と比べて大きな差異は見られない。

図4-5-2 かかりつけ医—経年変化

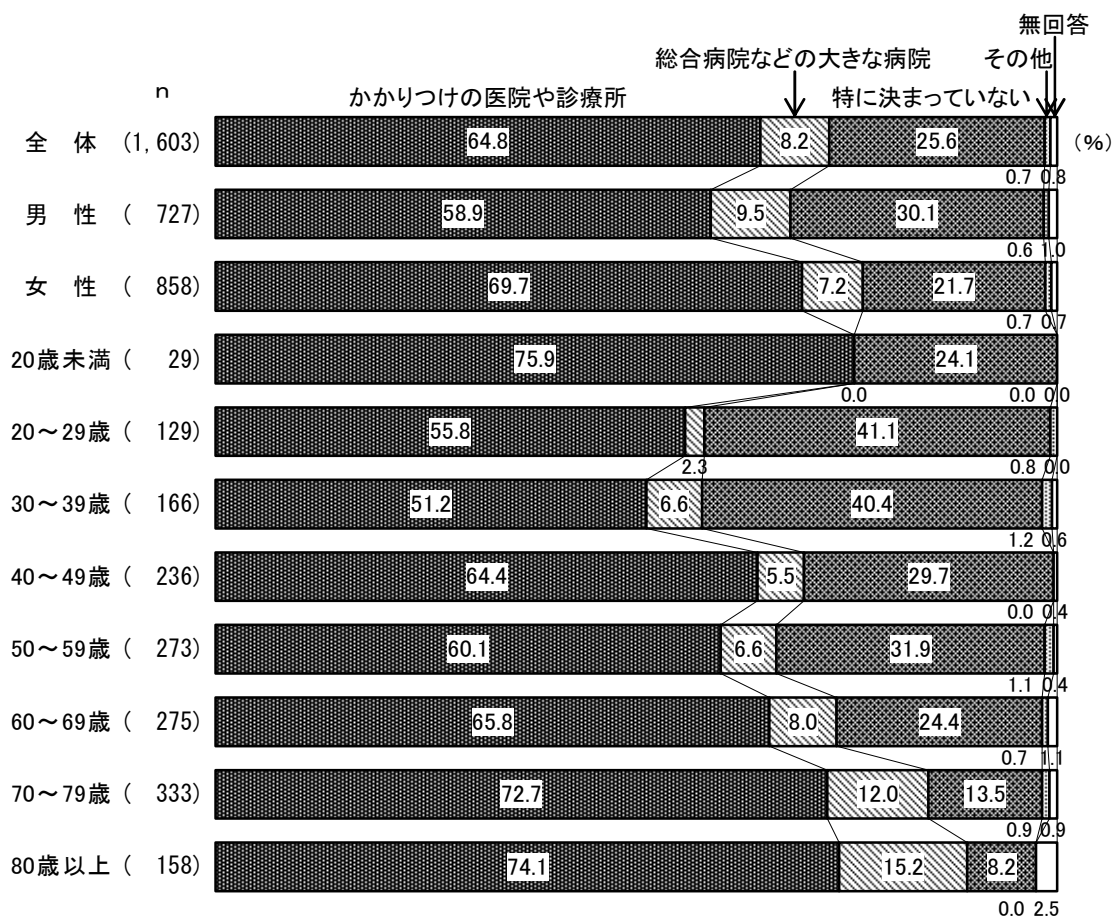


【属性別】

性別で見ると、女性では「かかりつけの医院や診療所」(69.7%)が男性(58.9%)より10.8ポイント高くなっている。一方、男性では「特に決まっていない」(30.1%)が女性(21.7%)より8.4ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「かかりつけの医院や診療所」は70~79歳(72.7%)と80歳以上(74.1%)で7割台と高くなっている。「総合病院などの大きな病院」は80歳以上(15.2%)で1割半ばとなっている。「特に決まっていない」は20~29歳(41.1%)と30~39歳(40.4%)で4割台と高くなっている。

図4-5-3 かかりつけ医—性別、年齢別



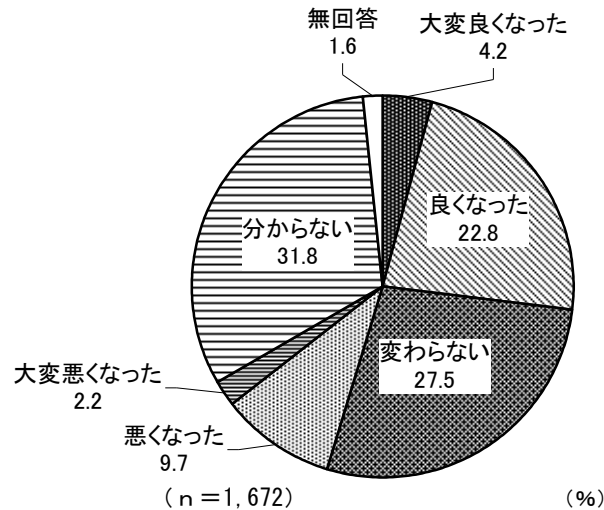
5 安全・防災

(1) 本厚木駅周辺の治安 (B:問6)

問. 本厚木駅周辺の治安について、過去と比べてどのように感じますか。

(1つだけ選んでください)

図5-1-1 本厚木駅周辺の治安



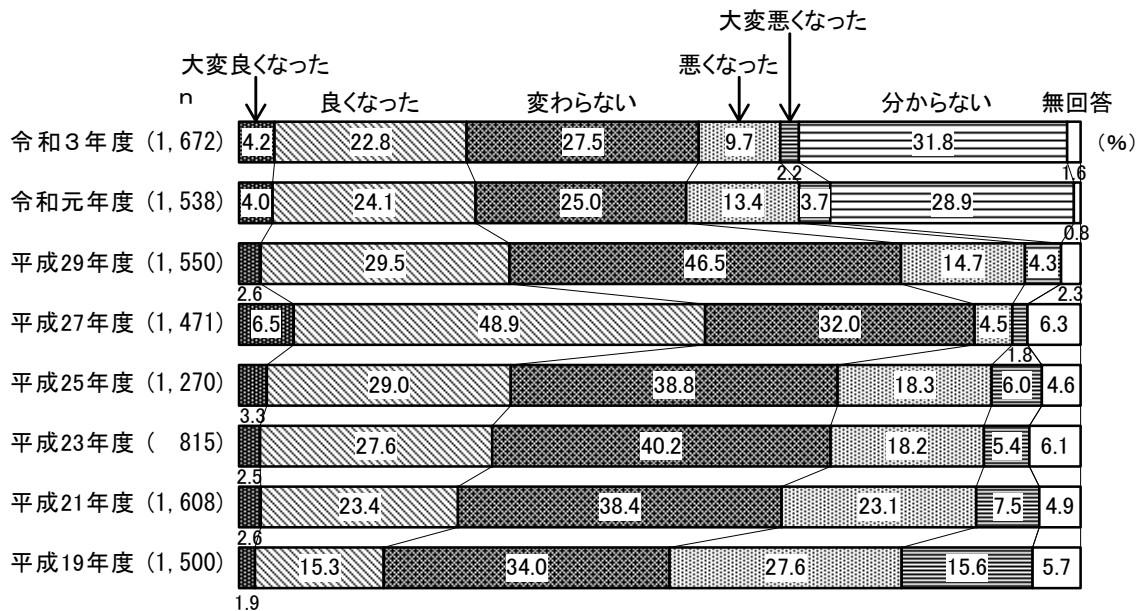
【全体】

本厚木駅周辺の治安について聞いたところ、「大変良くなった」(4.2%)と「良くなった」(22.8%)の2つを合わせた『改善した』(27.0%)が2割半ばを超えている。「変わらない」(27.5%)は3割近くで、「悪くなった」(9.7%)と「大変悪くなった」(2.2%)の2つを合わせた『悪化した』(11.9%)は1割を超えている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、『悪化した』(11.9%)は令和元年度調査(17.1%)より5.2ポイント減少している。

図5-1-2 本厚木駅周辺の治安—経年変化



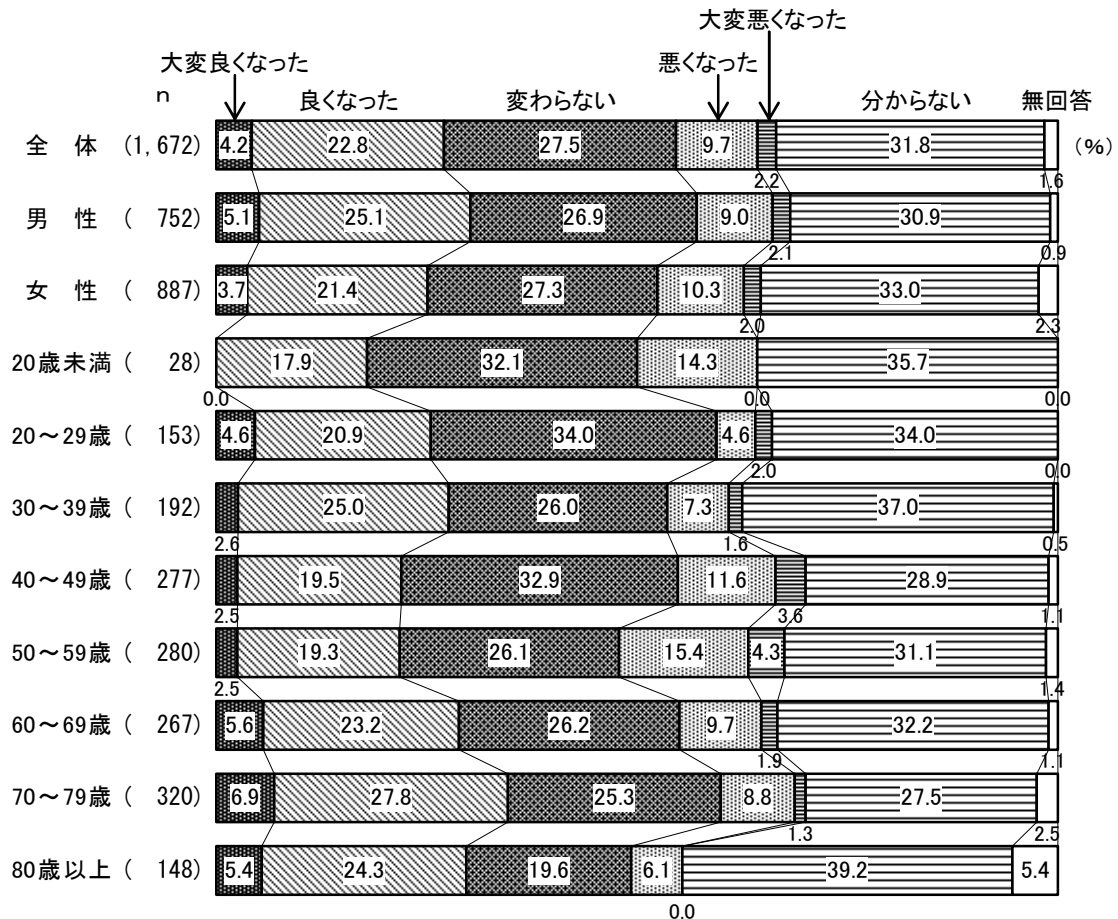
- (注1) 令和元年度調査から「分からない」の選択肢を追加している。
- (注2) 平成29年度調査および平成25年度以前の調査では、「現在の本厚木駅周辺の治安について、どのように感じますか。(1つだけ選んでください)」と質問していた。
- (注3) 平成27年度調査では、「本厚木駅周辺の体感治安の向上を図るため客引き行為等防止条例を制定し、客引き行為等指導員による指導や防犯パトロールに努めております。現在の本厚木駅周辺の治安について、どう思いますか。(1つだけ選んでください)」と質問していた。

【属性別】

性別で見ると、男性では『改善した』（30.2%）が女性（25.1%）より5.1ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、『改善した』は70～79歳（34.7%）で3割半ばと高くなっている。一方、『悪化した』は50～59歳（19.7%）で約2割となっている。

図5-1-3 本厚木駅周辺の治安—性別、年齢別

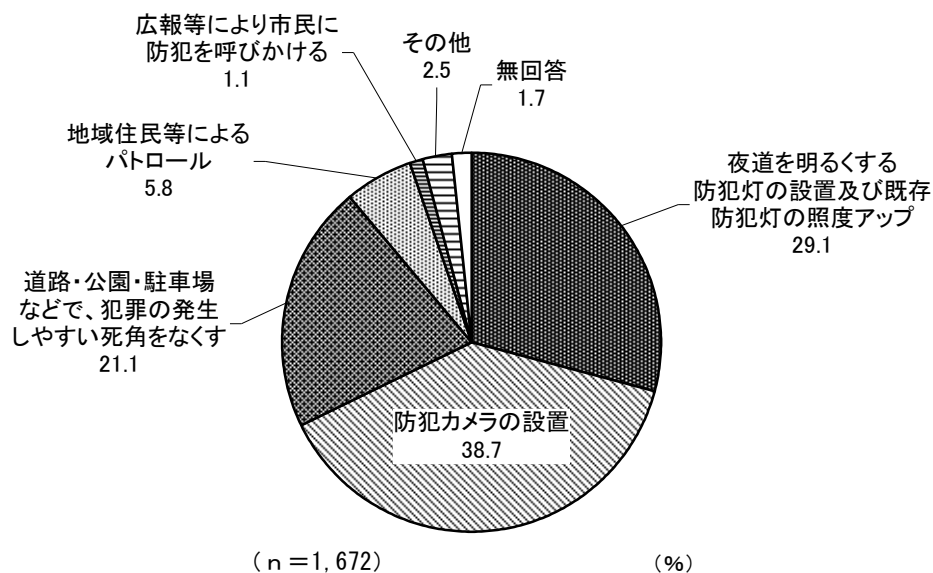


(2) 防犯対策に効果的な取組 (B: 問7)

問. 防犯対策について、どのような取組が効果的だと思いますか。

(1つだけ選んでください)

図5-2-1 防犯対策に効果的な取組



【全体】

防犯対策に効果的な取組について聞いたところ、「防犯カメラの設置」(38.7%)が4割近くで最も高く、次いで「夜道を明るくする防犯灯の設置及び既存防犯灯の照度アップ」(29.1%)、「道路・公園・駐車場などで、犯罪の発生しやすい死角をなくす」(21.1%)、「地域住民等によるパトロール」(5.8%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、令和元年度調査と比べて大きな差異は見られない。

表5-2-1 防犯対策に効果的な取組—経年変化

(%)

調査年	n	夜の道を明るくする防犯灯の設置及び既存の防犯灯の設置	防犯カメラの設置	道路・公園・駐車場の死角をなくす	地域住民等によるパトロール	広報等により市民に防犯を呼びかける	その他	無回答
令和3年度	1,672	29.1	38.7	21.1	5.8	1.1	2.5	1.7
令和元年度	1,538	31.4	38.0	20.8	5.4	1.7	1.9	0.8
平成29年度	1,550	31.6	33.4	22.4	7.2	1.5	3.1	0.8
平成27年度	1,471	41.7	-	36.8	14.3	2.0	3.5	1.6
平成25年度	1,270	41.9	-	39.1	10.9	2.0	3.8	2.3
平成23年度	815	70.7	-	60.0	38.7	15.7	6.1	2.2
平成21年度	1,608	72.7	-	76.2	39.6	21.0	5.8	2.2
平成19年度	1,500	67.1	-	77.3	40.3	22.3	9.1	2.5

(注1) 平成29年度調査以降では、「防犯カメラの設置」の選択肢を追加している。

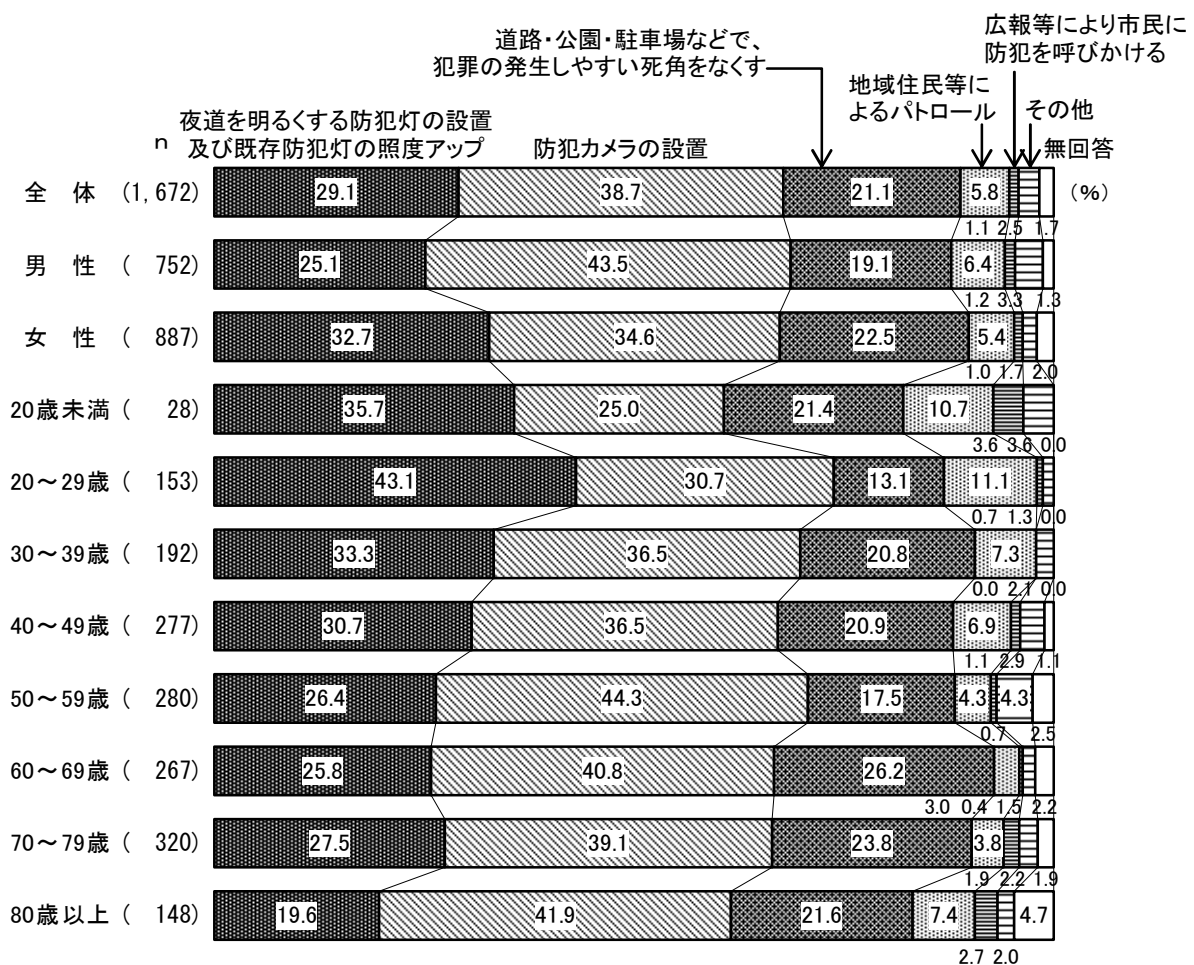
(注2) 平成23年度調査以前では、複数回答で質問していた。

【属性別】

性別で見ると、男性では「防犯カメラの設置」(43.5%)が女性(34.6%)より8.9ポイント高くなっている。一方、女性では「夜道を明るくする防犯灯の設置及び既存防犯灯の照度アップ」(32.7%)が男性(25.1%)より7.6ポイント、「道路・公園・駐車場などで、犯罪の発生しやすい死角をなくす」(22.5%)が男性(19.1%)より3.4ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「夜道を明るくする防犯灯の設置及び既存防犯灯の照度アップ」は20～29歳(43.1%)で4割半ば近くと高くなっている。「防犯カメラの設置」は50～59歳(44.3%)で4割半ばと高くなっている。「道路・公園・駐車場などで、犯罪の発生しやすい死角をなくす」は60～69歳(26.2%)で2割半ばを超えて高くなっている。

図5-2-2 防犯対策に効果的な取組—性別、年齢別

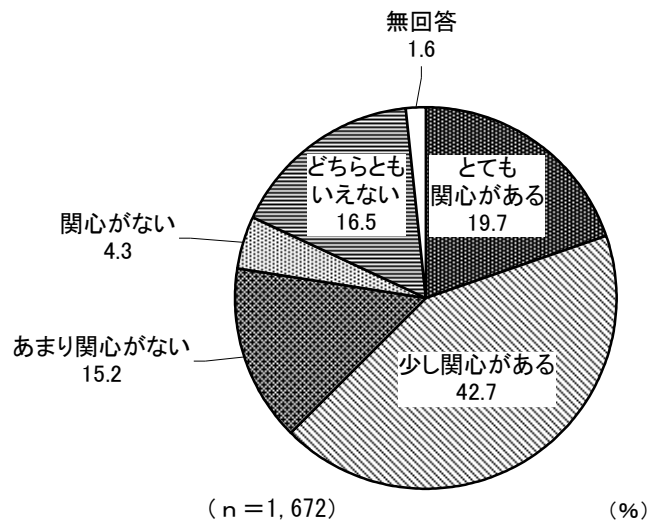


(3) セーフコミュニティの考え方 (B:問8)

問. 市民協働による交通安全や防犯、けがの予防など、セーフコミュニティの手法を用いて安心・安全なまちづくりを推進するという考え方に、関心がありますか。

(1つだけ選んでください)

図5-3-1 セーフコミュニティの考え方



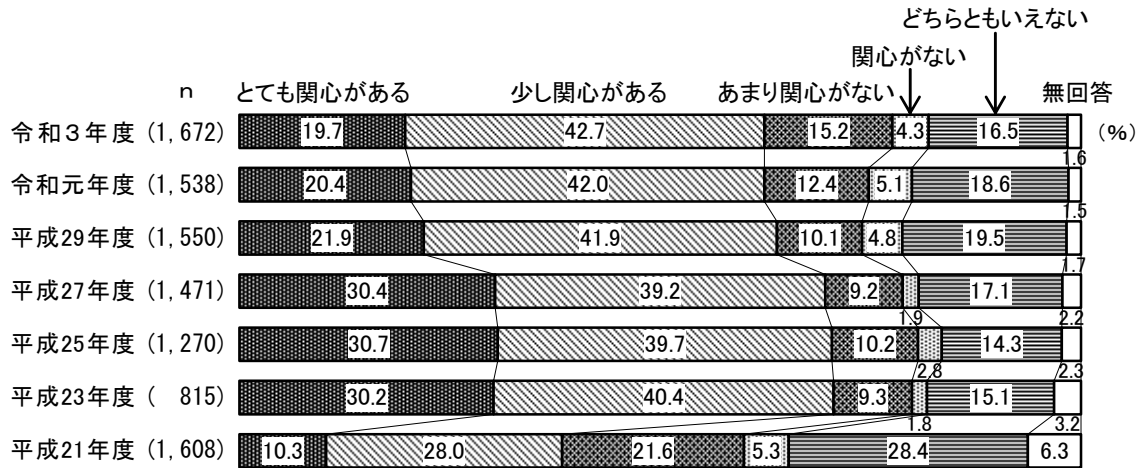
【全体】

セーフコミュニティの考え方に関心があるかについて聞いたところ、「とても関心がある」(19.7%)と「少し関心がある」(42.7%)の2つを合わせた『関心あり』(62.4%)が6割を超えて高くなっている。「どちらともいえない」(16.5%)は1割半ばを超え、「あまり関心がない」(15.2%)と「関心がない」(4.3%)の2つを合わせた『関心なし』(19.5%)は約2割となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「あまり関心がない」（15.2％）は平成27年度調査（9.2％）以降増加傾向にある。

図5-3-2 セーフコミュニティの考え方—経年変化



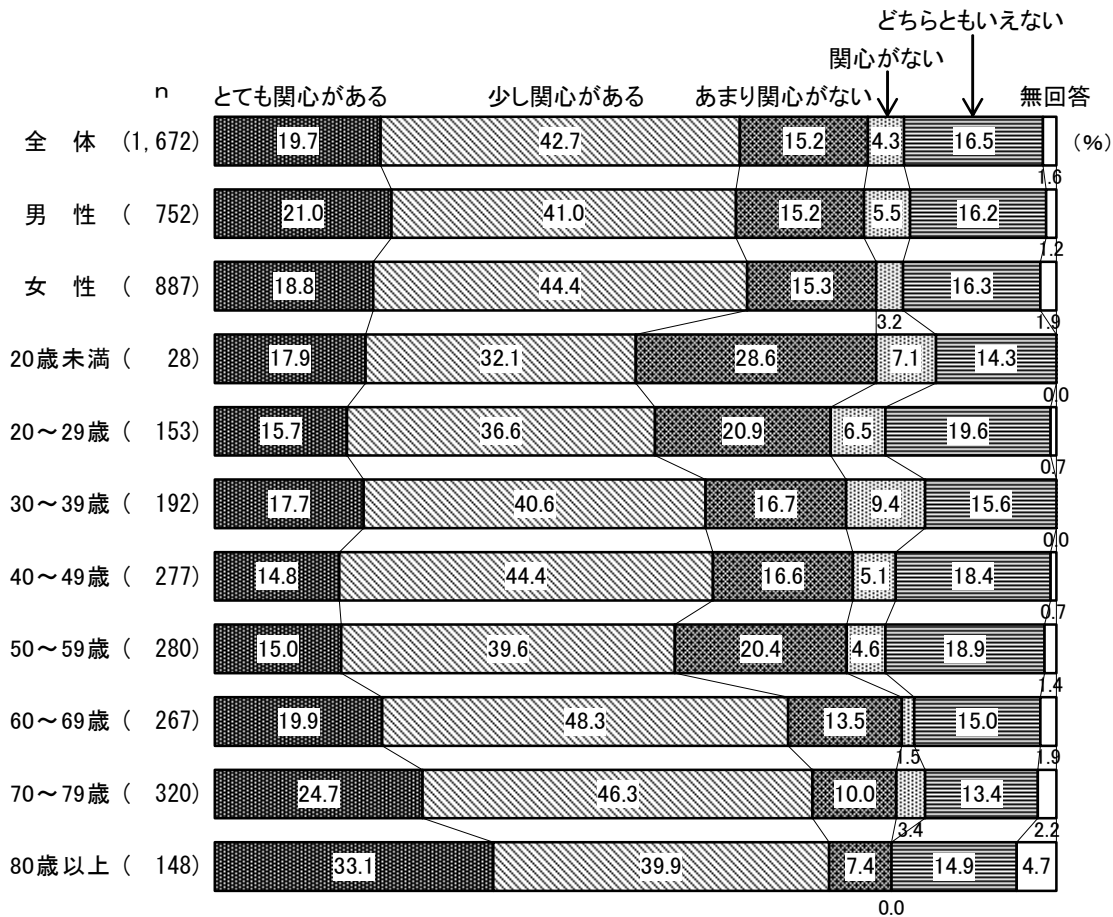
(注) 平成27年度調査～平成23年度調査では、「厚木市は、平成22年11月19日にWHOが推進しているセーフコミュニティの認証を取得しました。今後も、市民と行政が協働して交通安全や防犯、けがの予防など、安心・安全なまちづくりを推進するという考え方に関心がありますか。」と質問していた。

【属性別】

性別で見ると、大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、『関心あり』は70～79歳（71.0%）と80歳以上（73.0%）で7割台と高くなっている。一方、『関心なし』は20歳未満（35.7%）で3割半ばと高くなっている。

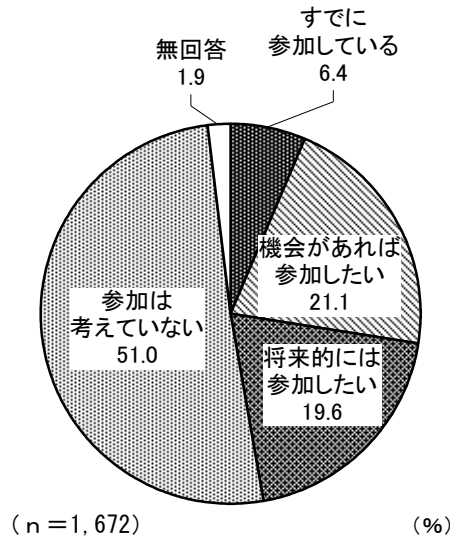
図5-3-3 セーフコミュニティの考え方—性別、年齢別



(4) 地域の防犯活動への参加 (B:問9)

問. 安心・安全なまちづくりの一環として、地域で実施している「防犯パトロール」や「児童・生徒の登下校時の見守り活動(愛の目運動)」などの活動に参加したいと思いますか。
(1つだけ選んでください)

図5-4-1 地域の防犯活動への参加



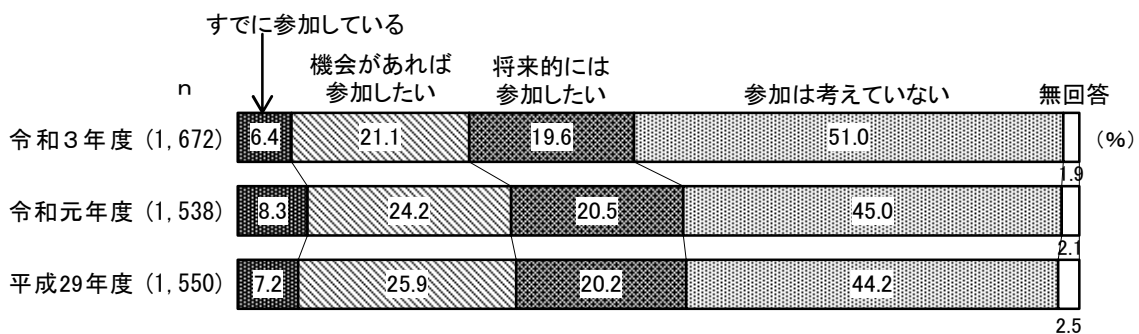
【全体】

地域の防犯活動への参加について聞いたところ、「すでに参加している」(6.4%)は1割未満となっている。「機会があれば参加したい」(21.1%)は2割を超え、「将来的には参加したい」(19.6%)は約2割、「参加は考えていない」(51.0%)は5割を超えている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「参加は考えていない」(51.0%)は令和元年度調査(45.0%)より6.0ポイント増加している。一方、「機会があれば参加したい」(21.1%)は令和元年度調査(24.2%)より3.1ポイント減少している。

図5-4-2 地域の防犯活動への参加—経年変化

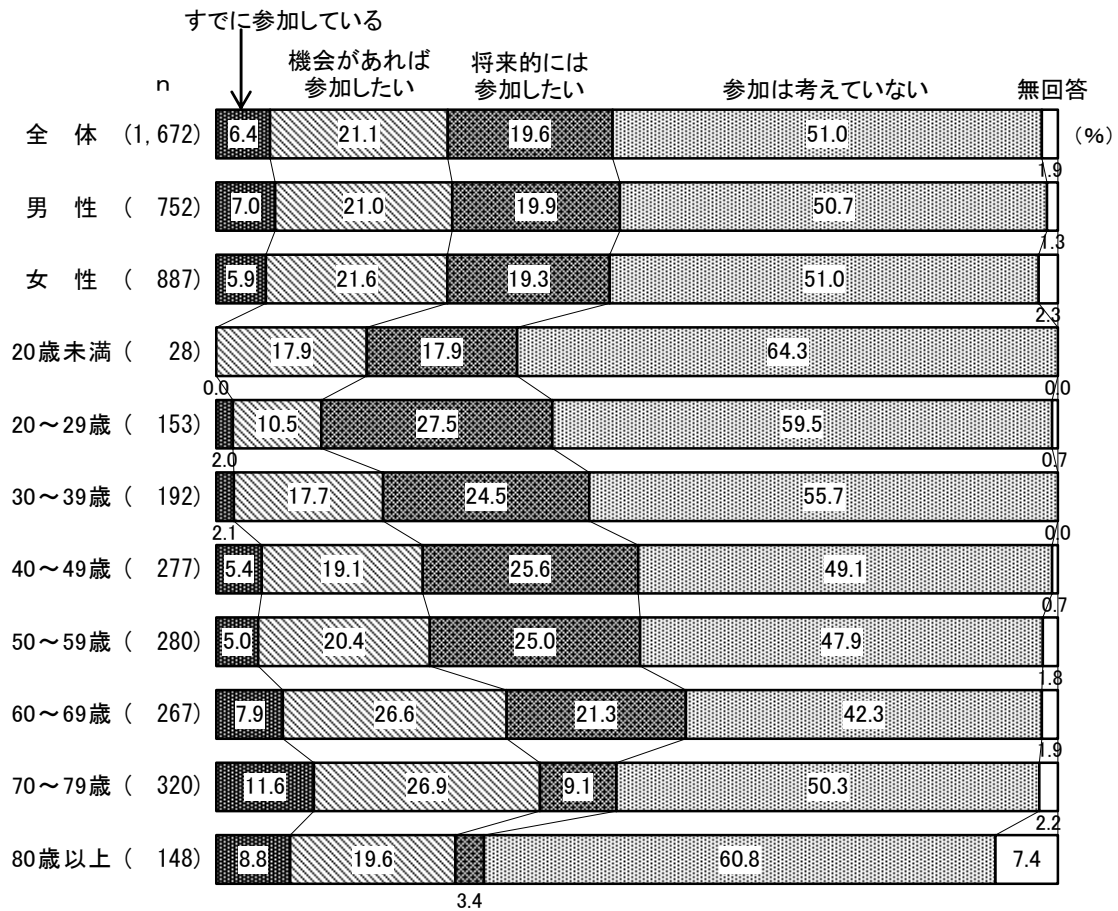


【属性別】

性別で見ると、大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、「機会があれば参加したい」は60～69歳（26.6%）と70～79歳（26.9%）で2割半ばを超えて高くなっている。「将来的には参加したい」は20～29歳（27.5%）で3割近くと高くなっている。「参加は考えていない」は20歳未満（64.3%）で6割半ばと高くなっている。

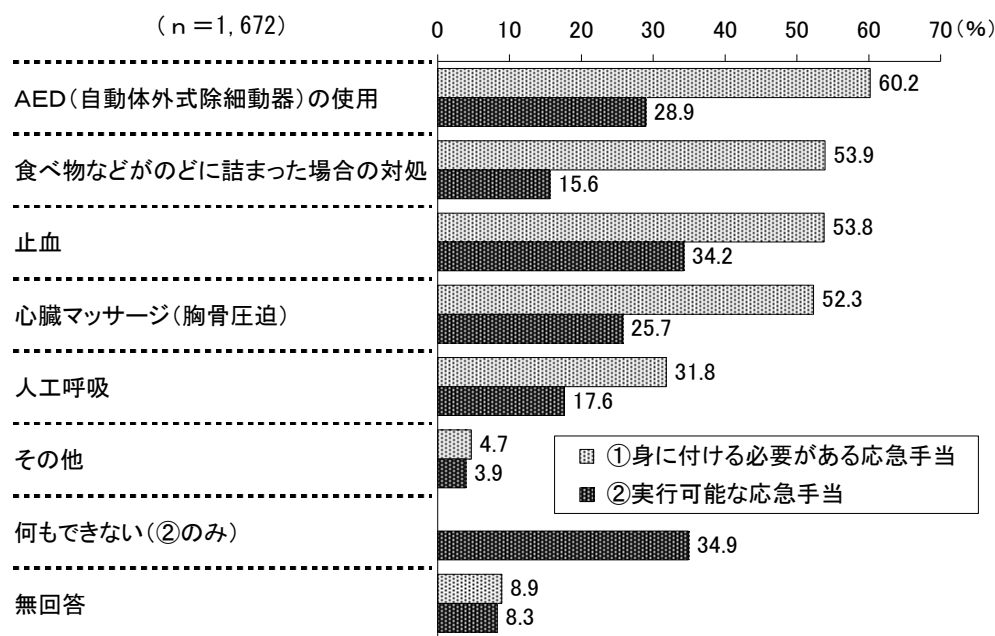
図5-4-3 地域の防犯活動への参加—性別、年齢別



(5) 身に付ける必要がある応急手当・実行可能な応急手当 (B: 問10)

問. いざという時のために、どのような応急手当を身に付ける必要があると思いますか。また、どのような応急手当ができますか。(①~②について、いくつでも選んでください)

図5-5-1 ①身に付ける必要がある応急手当 ②実行可能な応急手当



【全体】

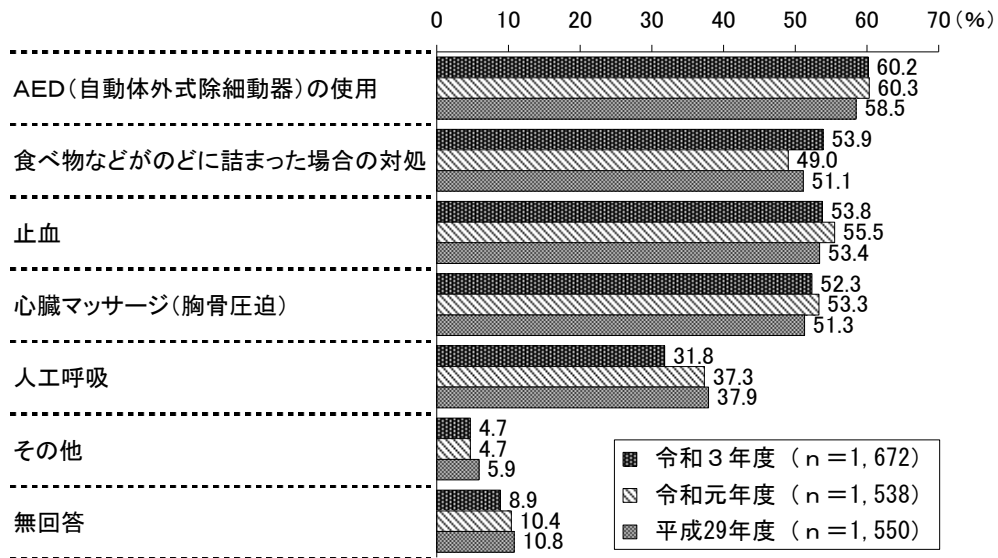
①身に付ける必要がある応急手当について聞いたところ、「AED(自動体外式除細動器)の使用」(60.2%)が約6割で最も高く、次いで「食べ物などがのどに詰まった場合の対処」(53.9%)、「止血」(53.8%)、「心臓マッサージ(胸骨圧迫)」(52.3%)、「人工呼吸」(31.8%)となっている。

②実行可能な応急手当について聞いたところ、「止血」(34.2%)が3割半ばで最も高く、次いで「AED(自動体外式除細動器)の使用」(28.9%)、「心臓マッサージ(胸骨圧迫)」(25.7%)、「人工呼吸」(17.6%)、「食べ物などがのどに詰まった場合の対処」(15.6%)となっている。また、「何もできない」(34.9%)は3割半ばとなっている。

【経年変化】

①身に付ける必要がある応急手当について経年による変化を見ると、「食べ物などがのどに詰まった場合の対処」(53.9%)は令和元年度調査(49.0%)より4.9ポイント増加している。一方、「人工呼吸」(31.8%)は令和元年度調査(37.3%)より5.5ポイント減少している。

図5-5-2 ①身に付ける必要がある応急手当一経年変化

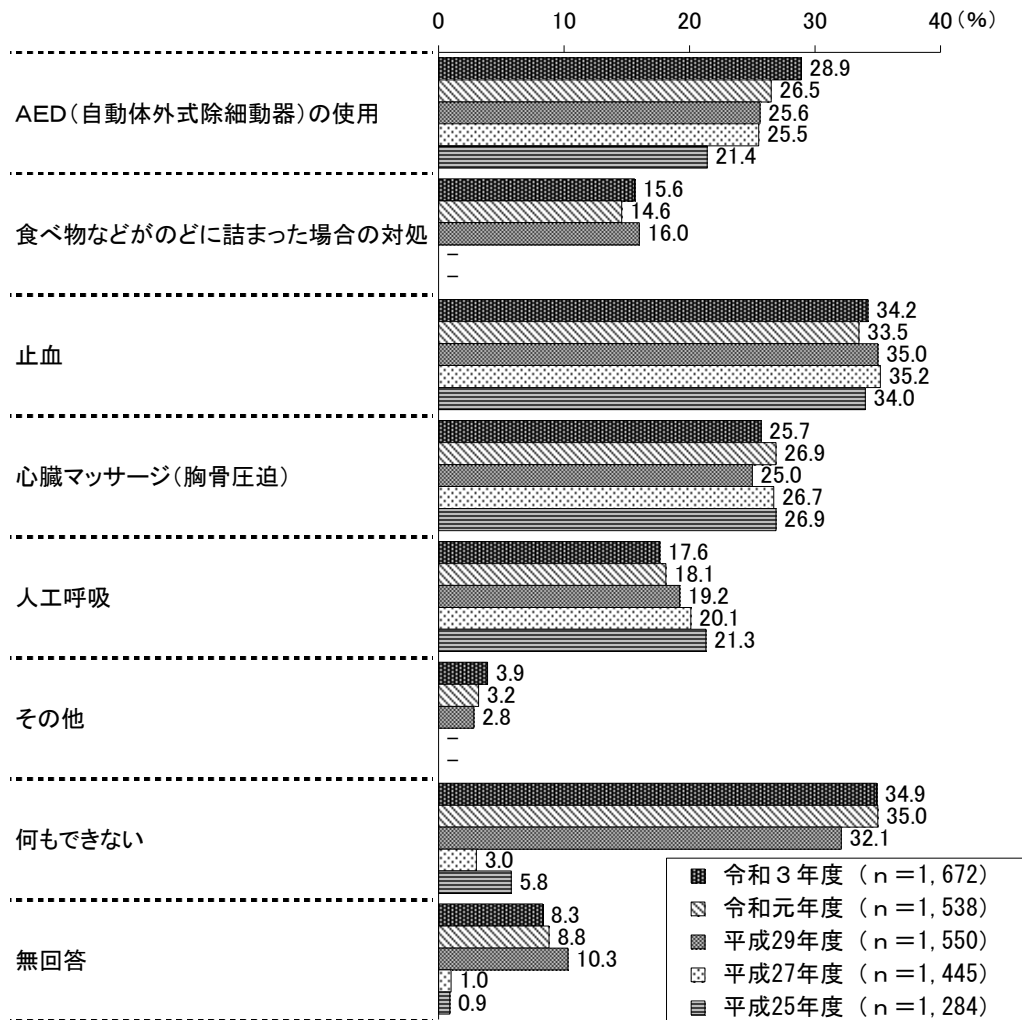


(注) 平成27年度調査以前では、「119番に通報する」、「周囲の人に助けを求める」、「車などで近くの病院に運ぶ」の選択肢を追加していた。

【経年変化】

②実行可能な応急手当について経年による変化を見ると、「人工呼吸」（17.6％）は平成25年度調査（21.3％）以降減少傾向にある。

図5-5-3 ②実行可能な応急手当一経年変化



(注1) 平成29年度調査以降では、「食べ物などがのどに詰まった場合の対処」と「その他」の選択肢を追加している。

(注2) 平成27年度調査以前では、「119番に通報する」、「周囲の人に助けを求める」、「車で近くの病院に運ぶ」の選択肢を追加していた（グラフには非表示）。

【属性別】

①身に付ける必要がある応急手当について性別で見ると、女性では「食べ物などがのどに詰まった場合の対処」(59.4%)が男性(47.2%)より12.2ポイント、「止血」(56.4%)が男性(50.7%)より5.7ポイント高くなっている。一方、男性では「人工呼吸」(34.6%)が女性(29.8%)より4.8ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「AED(自動体外式除細動器)の使用」は30~39歳(73.4%)と40~49歳(73.6%)で7割半ば近くと高くなっている。「食べ物などがのどに詰まった場合の対処」は20~29歳(60.1%)で約6割と高くなっている。「止血」は20歳未満(67.9%)で7割近くと高くなっている。

②実行可能な応急手当について性別で見ると、男性では「心臓マッサージ(胸骨圧迫)」(30.9%)が女性(21.4%)より9.5ポイント、「人工呼吸」(22.6%)が女性(13.5%)より9.1ポイント、「AED(自動体外式除細動器)の使用」(32.8%)が女性(25.6%)より7.2ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「止血」は20歳未満(46.4%)で4割半ばを超えて高くなっている。「AED(自動体外式除細動器)の使用」は20~29歳(49.0%)で約5割と高くなっている。「心臓マッサージ(胸骨圧迫)」は20歳未満(42.9%)と30~39歳(41.7%)で4割台と高くなっている。

表5-5-1 ①身に付ける必要がある応急手当 ②実行可能な応急手当一性別、年齢別

(%)

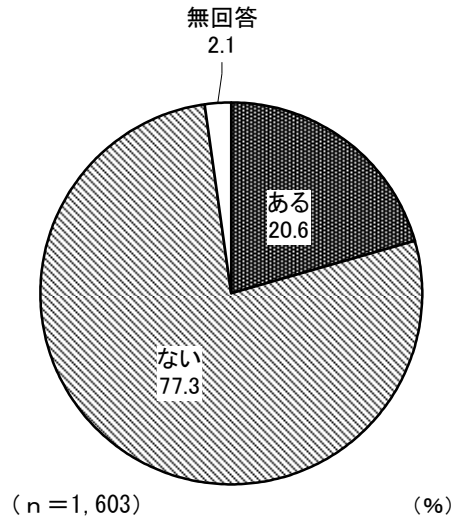
	n	①身に付ける必要がある応急手当							②実行可能な応急手当								
		AED(自動体外式除細動器)の使用	食べ物などがのどに詰まった場合の対処	止血	心臓マッサージ(胸骨圧迫)	人工呼吸	その他	無回答	止血	AED(自動体外式除細動器)の使用	心臓マッサージ(胸骨圧迫)	人工呼吸	食べ物などがのどに詰まった場合の対処	その他	何もできない	無回答	
全体	1,672	60.2	53.9	53.8	52.3	31.8	4.7	8.9	34.2	28.9	25.7	17.6	15.6	3.9	34.9	8.3	
性別	男性	752	62.6	47.2	50.7	52.9	34.6	5.7	8.0	33.1	32.8	30.9	22.6	13.2	4.1	31.4	7.7
	女性	887	58.6	59.4	56.4	51.6	29.8	3.5	9.5	34.9	25.6	21.4	13.5	17.5	3.6	37.8	8.8
年齢別	20歳未満	28	60.7	46.4	67.9	67.9	35.7	7.1	3.6	46.4	42.9	42.9	28.6	17.9	0.0	21.4	3.6
	20~29歳	153	69.9	60.1	60.1	65.4	34.6	7.2	3.9	31.4	49.0	39.2	27.5	14.4	3.3	29.4	2.0
	30~39歳	192	73.4	58.3	64.6	59.9	38.5	6.3	3.1	41.7	43.2	41.7	27.1	19.3	4.2	29.2	1.0
	40~49歳	277	73.6	52.0	56.3	64.6	32.1	5.1	5.8	36.8	36.5	30.0	18.8	18.8	2.5	33.6	4.3
	50~59歳	280	68.6	53.2	52.9	56.1	35.4	5.7	8.2	33.6	26.4	24.3	19.3	17.5	5.7	38.6	7.1
	60~69歳	267	57.3	54.3	52.8	50.2	33.3	3.4	7.1	33.3	26.6	22.1	13.9	15.0	4.5	37.5	8.6
	70~79歳	320	45.3	56.9	49.1	39.4	28.4	2.5	12.5	30.3	16.6	16.6	13.1	11.6	4.1	36.3	16.3
80歳以上	148	29.7	41.9	39.9	28.4	17.6	2.7	24.3	31.1	8.8	8.1	4.1	10.8	2.7	37.8	16.9	

6 人権

(1) 人権侵害を受けた経験 (A: 問11)

問. 自分の人権が侵害されたと感じたことはありますか。(1つだけ選んでください)

図6-1-1 人権侵害を受けた経験



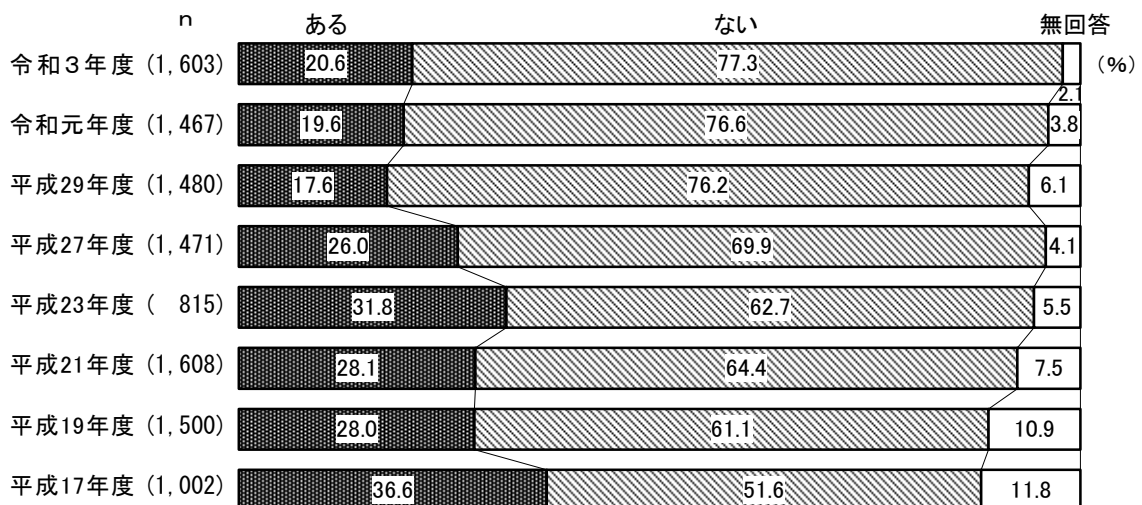
【全体】

人権侵害を受けた経験について聞いたところ、「ある」(20.6%)は約2割で、「ない」(77.3%)は7割半ばを超えている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、令和元年度調査と比べて大きな差異は見られない。

図6-1-2 人権侵害を受けた経験—経年変化



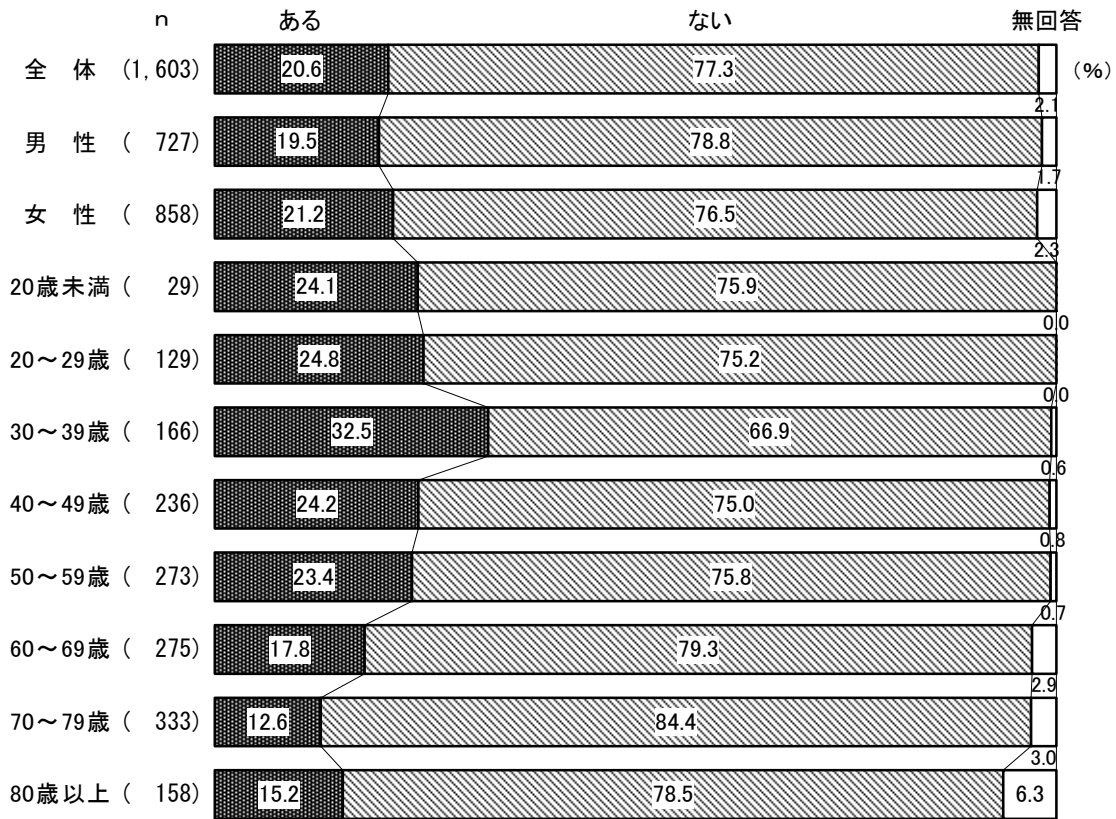
(注) 平成23年度調査以前では、「自分の人権が侵害されたと感じたことがありますか。ある場合、それはどのような人権侵害ですか。(ある場合はいくつでも)」と質問していた。

【属性別】

性別で見ると、大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、「ある」は30～39歳（32.5%）で3割半ば近くと高くなっている。一方、「ない」は70～79歳（84.4%）で8割半ばと高くなっている。

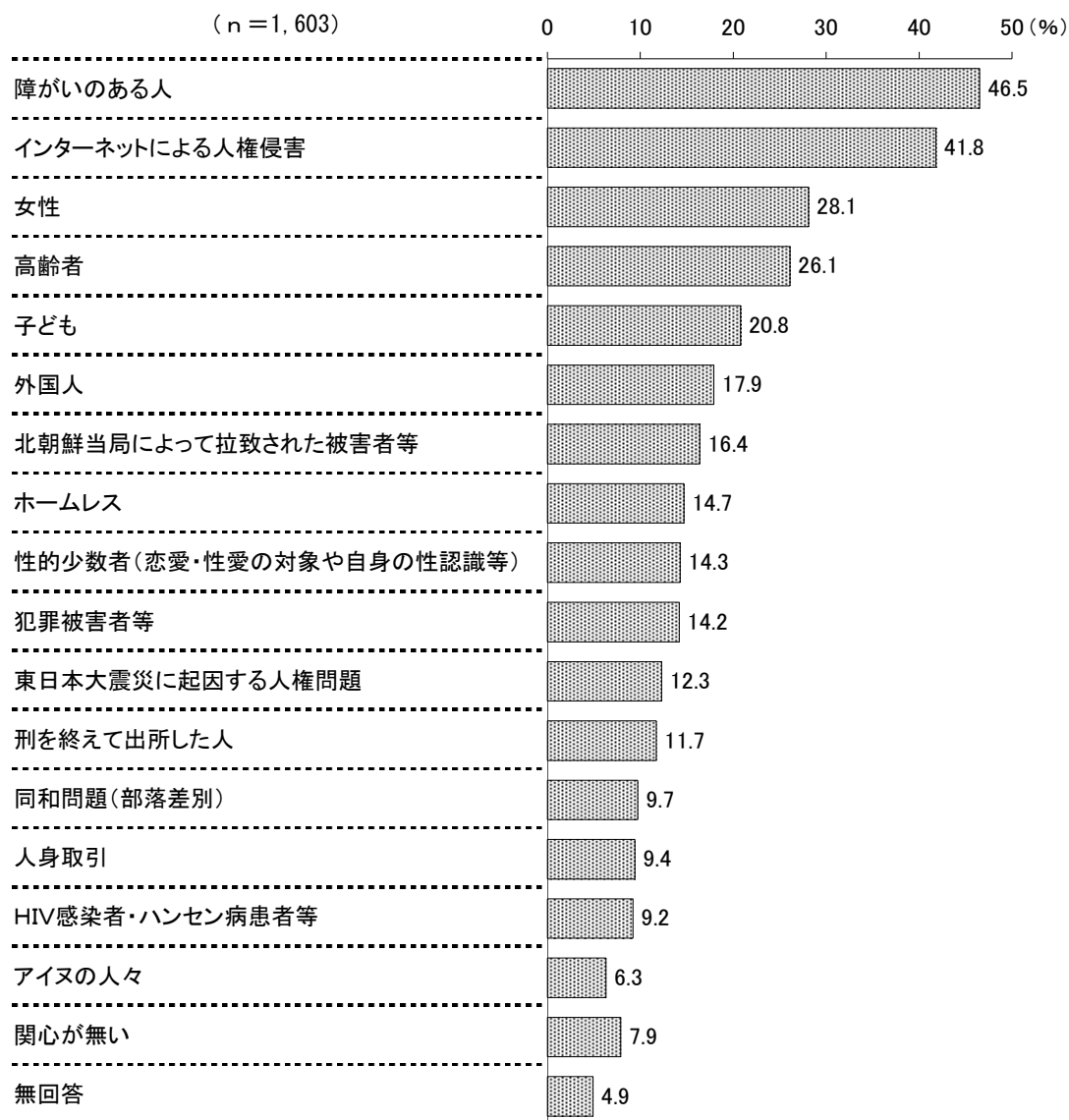
図6-1-3 人権侵害を受けた経験—性別、年齢別



(2) 人権や差別に対する関心 (A: 問12)

問. どのような人権問題や差別に対して、関心がありますか。(いくつでも選んでください)

図6-2-1 人権や差別に対する関心



【全体】

人権や差別に対する関心について聞いたところ、「障がいのある人」(46.5%)が4割半ばを超えて最も高く、次いで「インターネットによる人権侵害」(41.8%)、「女性」(28.1%)、「高齢者」(26.1%)、「子ども」(20.8%)、「外国人」(17.9%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、上位2項目は令和元年度調査と同じ順位となっており、「インターネットによる人権侵害」（41.8％）は令和元年度調査（35.7％）より6.1ポイント増加している。

表6-2-1 人権や差別に対する関心—経年変化（上位5項目）

(%)

順位	令和3年度 (n=1,603)	令和元年度 (n=1,467)	平成29年度 (n=1,480)	平成27年度 (n=1,417)	平成23年度 (n=815)	平成21年度 (n=1,608)	平成19年度 (n=1,500)
1	障がいのある人 46.5	障がいのある人 46.4	障がい者に対する問題 42.3	障がい者に対する問題 37.3	子どもに対する問題 31.7	高齢者に対する問題 30.0	高齢者に対する問題 29.4
2	インターネットによる人権侵害 41.8	インターネットによる人権侵害 35.7	インターネットを悪用した問題 36.1	子どもに対する問題 33.0	障がい者に対する問題 31.4	障がい者に対する問題 29.4	障がい者に対する問題 27.8
3	女性 28.1	高齢者 29.4	高齢者に対する問題 36.0	高齢者に対する問題 /インターネットを悪用した問題	インターネットを悪用した問題 25.3	子どもに対する問題 27.3	子どもに対する問題 26.4
4	高齢者 26.1	女性 27.5	東日本大震災の被害者に対する問題 28.9	女性に対する問題 31.3	高齢者に対する問題 23.8	北朝鮮当局による人権侵害問題 25.4	インターネットを悪用した問題 23.1
5	子ども 20.8	子ども 23.4	子どもに対する問題 27.6	女性に対する問題 26.0	女性に対する問題 16.9	インターネットを悪用した問題 24.9	北朝鮮当局による人権侵害問題 19.2

- (注1) 令和元年度調査から法務省の分類に準じて整理し、「刑を終えて出所した人」「犯罪被害者等」「人身取引」「アイヌの人々」の選択肢を追加した。
- (注2) 「インターネットによる人権侵害」は、平成29年度調査以前では「インターネットを悪用した問題」としていた。
- (注3) 「東日本大震災に起因する人権問題」は、平成29年度調査では「東日本大震災の被害者に対する問題」としていた。また、平成27年度調査以前では選択肢に加えていない。
- (注4) 「北朝鮮当局によって拉致された被害者等」は、平成29年度調査以前では「北朝鮮当局による人権侵害問題」としていた。
- (注5) 「性的少数者（恋愛・性愛の対象や自身の性認識等）」は、平成29年度調査では「LGBT（性的指向・性同一性障がい等）に関する問題」としていた。また、平成27年度調査以前では選択肢に加えていない。
- (注6) 「HIV感染者・ハンセン病患者等」は、平成29年度調査以前では「HIV（エイズウイルス）感染者やハンセン病患者などに対する問題」としていた。
- (注7) 「同和問題（部落差別）」は、平成29年度調査以前では「同和関係者に対する問題」としていた。
- (注8) 平成29年度調査では「ヘイトスピーチに関する問題」の選択肢を加えていた。

【属性別】

性別で見ると、女性では「女性」(34.5%)が男性(20.4%)より14.1ポイント高くなっている。一方、男性では「ホームレス」(16.9%)が女性(12.9%)より4.0ポイント、「犯罪被害者等」(16.4%)が女性(12.4%)より4.0ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「障がいのある人」は60～69歳(55.3%)で5割半ばと高くなっている。「インターネットによる人権侵害」は50～59歳(51.3%)で5割を超えて高くなっている。「女性」は20～29歳(47.3%)で4割半ばを超えて高くなっている。「高齢者」は80歳以上(41.1%)で4割を超えて高くなっている。

表6-2-2 人権や差別に対する関心—性別、年齢別

(%)

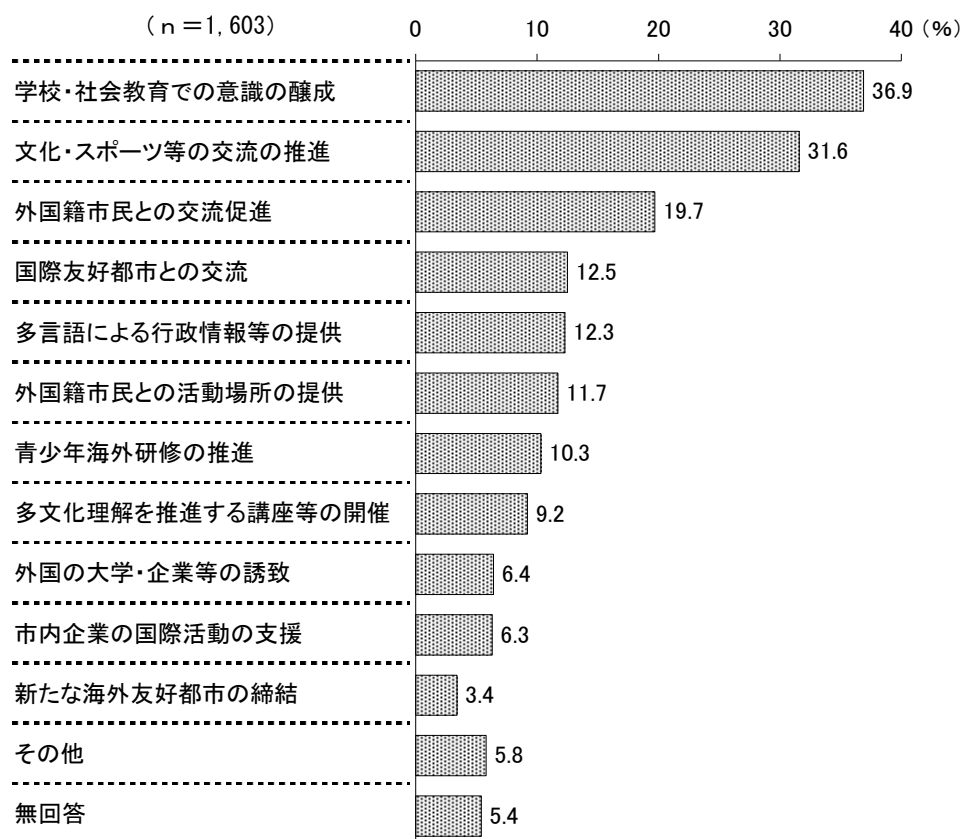
		n	障がいのある人	インターネットによる人権侵害	女性	高齢者	子ども	外国人	北朝鮮当局によって拉致された被害者等	ホームレス	性的少数者 (恋愛・性愛の対象や自身の性認識等)	犯罪被害者等	東日本大震災に起因する人権問題	刑を終えて出所した人	同和問題 (部落差別)	人身取引	HIV感染者・ハンセン病患者等	アイヌの人々	関心が無い	無回答
全 体		1,603	46.5	41.8	28.1	26.1	20.8	17.9	16.4	14.7	14.3	14.2	12.3	11.7	9.7	9.4	9.2	6.3	7.9	4.9
性別	男 性	727	46.8	43.2	20.4	26.4	20.2	18.8	17.2	16.9	12.8	16.4	14.0	12.0	11.1	10.9	10.9	7.8	9.4	3.0
	女 性	858	46.3	40.9	34.5	25.5	21.3	17.2	15.9	12.9	15.6	12.4	10.8	11.7	8.4	8.0	7.9	5.0	6.4	6.3
年 齢 別	20歳未満	29	51.7	34.5	31.0	17.2	24.1	37.9	13.8	27.6	34.5	17.2	17.2	13.8	17.2	17.2	20.7	20.7	6.9	0.0
	20～29歳	129	52.7	41.1	47.3	15.5	29.5	31.8	5.4	14.0	31.0	16.3	7.8	9.3	10.9	9.3	9.3	7.8	12.4	1.6
	30～39歳	166	46.4	45.2	40.4	13.9	30.1	25.3	7.8	10.8	21.7	14.5	9.6	12.7	9.6	10.2	10.2	7.2	11.4	2.4
	40～49歳	236	48.7	44.1	38.1	19.9	26.3	19.1	14.0	13.6	16.5	14.4	14.0	15.3	10.6	11.0	8.1	8.5	6.8	2.1
	50～59歳	273	44.3	51.3	28.9	22.7	19.0	15.8	12.8	14.7	14.7	15.8	9.2	8.1	7.0	7.0	9.2	4.4	9.2	2.9
	60～69歳	275	55.3	47.6	24.4	29.5	20.4	15.3	18.5	13.5	11.3	13.1	14.5	10.9	7.6	8.7	9.1	5.8	5.1	2.9
	70～79歳	333	40.2	36.0	15.0	34.2	15.3	15.0	23.1	16.2	6.9	13.5	13.5	13.2	12.0	8.7	8.4	5.4	6.9	9.3
	80歳以上	158	38.6	22.8	15.8	41.1	10.8	8.2	26.6	18.4	5.7	12.7	14.6	12.0	9.5	10.8	10.1	4.4	7.0	12.0

7 国際交流

(1) 国際交流の取組 (A: 問13)

問. 多文化への理解を深め、国際化に対応するためには、どのような取組が必要であると思いますか。(2つまで選んでください)

図7-1-1 国際交流の取組



【全体】

国際交流の取組について聞いたところ、「学校・社会教育での意識の醸成」(36.9%)が3割半ばを超えて最も高く、次いで「文化・スポーツ等の交流の推進」(31.6%)、「外国籍市民との交流促進」(19.7%)、「国際友好都市との交流」(12.5%)、「多言語による行政情報等の提供」(12.3%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「文化・スポーツ等の交流の推進」(31.6%)は令和元年度調査(38.1%)より6.5ポイント、「多言語による行政情報等の提供」(12.3%)は令和元年度調査(15.8%)より3.5ポイント減少している。

表7-1-1 国際交流の取組—経年変化

調査年	n	(%)												
		学校・社会教育での意識の醸成	文化・スポーツ等の交流の推進	外国籍市民との交流促進	国際友好都市との交流	多言語による行政情報等の提供	外国籍市民との活動場所の提供	青少年海外研修の推進	多文化理解を推進する講座等の開催	外国の大学・企業等の誘致	市内企業の国際活動の支援	新たな海外友好都市の締結	その他	無回答
令和3年度	1,603	36.9	31.6	19.7	12.5	12.3	11.7	10.3	9.2	6.4	6.3	3.4	5.8	5.4
令和元年度	1,467	38.7	38.1	20.0	11.7	15.8	11.0	10.1	9.8	7.3	6.1	2.6	4.5	4.4
平成29年度	1,480	37.6	38.2	18.6	10.9	11.7	12.6	12.6	6.7	6.8	5.6	3.6	4.1	6.7
平成27年度	1,445	-	36.6	28.2	10.9	14.1	-	15.4	10.4	10.8	6.4	4.8	4.4	8.2
平成25年度	1,270	-	30.2	24.7	10.1	15.6	-	17.7	9.6	13.4	9.2	3.9	4.0	9.8
平成23年度	815	-	38.5	25.8	12.6	11.4	-	16.3	9.1	11.4	7.4	4.7	4.3	5.2
平成21年度	1,608	-	44.1	22.6	15.0	12.3	-	15.3	11.4	9.1	7.2	-	5.6	5.3
平成19年度	1,500	-	40.1	21.6	11.0	13.7	-	14.7	9.7	7.5	4.5	-	2.9	12.3
平成17年度	1,002	-	44.3	25.4	13.5	14.9	-	17.4	16.1	11.9	6.3	-	3.1	7.8

(注1)「外国籍市民との交流促進」は、平成29年度調査以前では「市内外国籍市民との交流促進」として
いた。

(注2)「新たな海外友好都市の締結」は、平成29年度調査以前では「新たな友好都市の締結」として
いた。また、平成21年度調査以前では選択肢に加えていない。

(注3)「多文化理解を推進する講座等の開催」は、平成29年度調査以前では「国際理解を推進する講座等
の開催」としていた。

(注4)平成29年度調査以降では、「学校・社会教育での意識の醸成」、「外国籍市民との活動場所の提供」
の選択肢を追加している。

(注5)「多言語による行政情報等の提供」は、平成27年度調査以前では「市のパンフレット、道路標識等
の外国語表示の整備」としていた。

【属性別】

性別で見ると、女性では「学校・社会教育での意識の醸成」(43.2%)が男性(29.3%)より13.9ポイント高くなっている。一方、男性では「外国籍市民との交流促進」(21.9%)が女性(17.7%)より4.2ポイント、「文化・スポーツ等の交流の推進」(34.0%)が女性(30.0%)より4.0ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「学校・社会教育での意識の醸成」は40～49歳(43.6%)で4割半ば近くと高くなっている。「文化・スポーツ等の交流の推進」は20歳未満(41.4%)で4割を超えて高くなっている。「外国籍市民との交流促進」は60～69歳(25.5%)で2割半ばと高くなっている。

表7-1-2 国際交流の取組—性別、年齢別

		n	学校・社会教育での意識の醸成	文化・スポーツ等の交流の推進	外国籍市民との交流促進	国際友好都市との交流	多言語による行政情報等の提供	外国籍市民との活動場所の提供	青少年海外研修の推進	多文化理解を推進する講座等の開催	外国の大学・企業等の誘致	市内企業の国際活動の支援	新たな海外友好都市の締結	その他	無回答
全 体		1,603	36.9	31.6	19.7	12.5	12.3	11.7	10.3	9.2	6.4	6.3	3.4	5.8	5.4
性別	男 性	727	29.3	34.0	21.9	14.2	11.4	13.1	11.3	8.3	7.6	7.4	4.3	6.9	3.9
	女 性	858	43.2	30.0	17.7	11.4	12.8	10.7	9.3	10.0	5.2	5.4	2.4	4.9	6.5
年 齢 別	20歳未満	29	24.1	41.4	17.2	20.7	17.2	13.8	17.2	6.9	10.3	3.4	6.9	3.4	0.0
	20～29歳	129	32.6	31.8	20.2	14.0	17.8	14.0	7.8	10.1	7.0	7.0	3.1	7.0	1.6
	30～39歳	166	39.2	31.9	16.9	10.2	18.1	12.0	4.2	7.2	11.4	8.4	4.2	4.2	2.4
	40～49歳	236	43.6	29.7	21.2	12.3	16.9	13.1	7.6	5.9	8.5	8.1	2.5	4.2	1.7
	50～59歳	273	36.3	30.0	20.5	14.3	11.4	13.9	8.1	8.4	5.5	6.6	4.4	8.4	2.2
	60～69歳	275	39.6	30.9	25.5	8.7	9.5	13.5	9.5	13.8	5.1	7.3	1.8	5.1	2.9
	70～79歳	333	35.7	32.4	17.4	13.5	7.8	7.2	15.6	9.9	5.1	5.1	4.2	6.0	10.5
	80歳以上	158	29.1	35.4	12.7	14.6	8.9	9.5	15.8	8.2	2.5	1.9	1.9	5.7	17.1

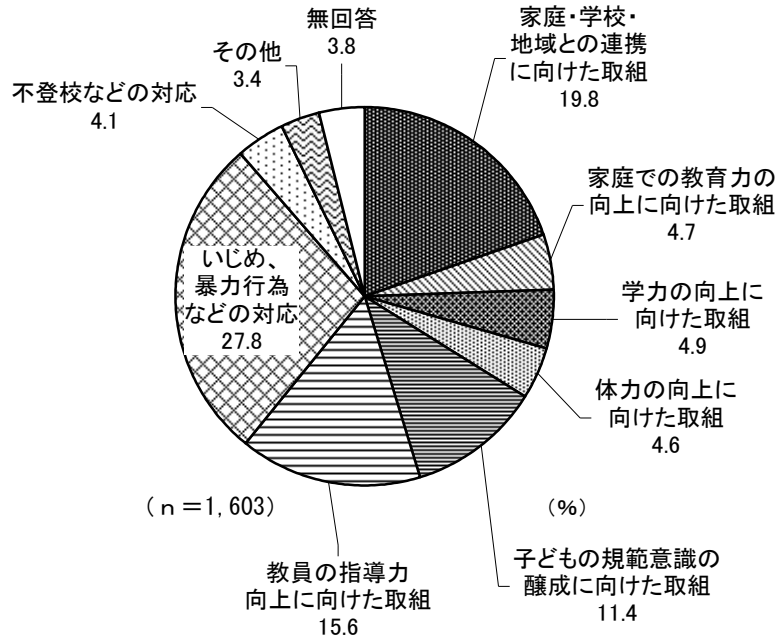
8 教育・生涯学習・文化・スポーツ

(1) 現在の教育への取組 (A: 問14)

問. 現在の教育において、どのような取組が重要であると思いますか。

(1つだけ選んでください)

図8-1-1 現在の教育への取組



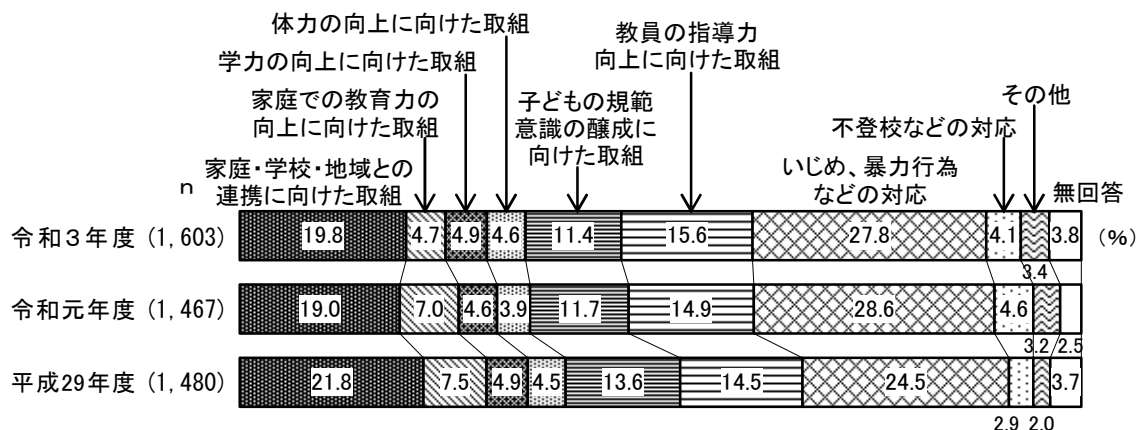
【全体】

現在の教育において、どのような取組が重要であるかについて聞いたところ、「いじめ、暴力行為などの対応」(27.8%)が3割近くで最も高く、次いで「家庭・学校・地域との連携に向けた取組」(19.8%)、「教員の指導力向上に向けた取組」(15.6%)、「子どもの規範意識の醸成に向けた取組」(11.4%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「家庭での教育力の向上に向けた取組」(4.7%)は平成29年度調査(7.5%)以降減少傾向にある。

図8-1-2 現在の教育への取組—経年変化

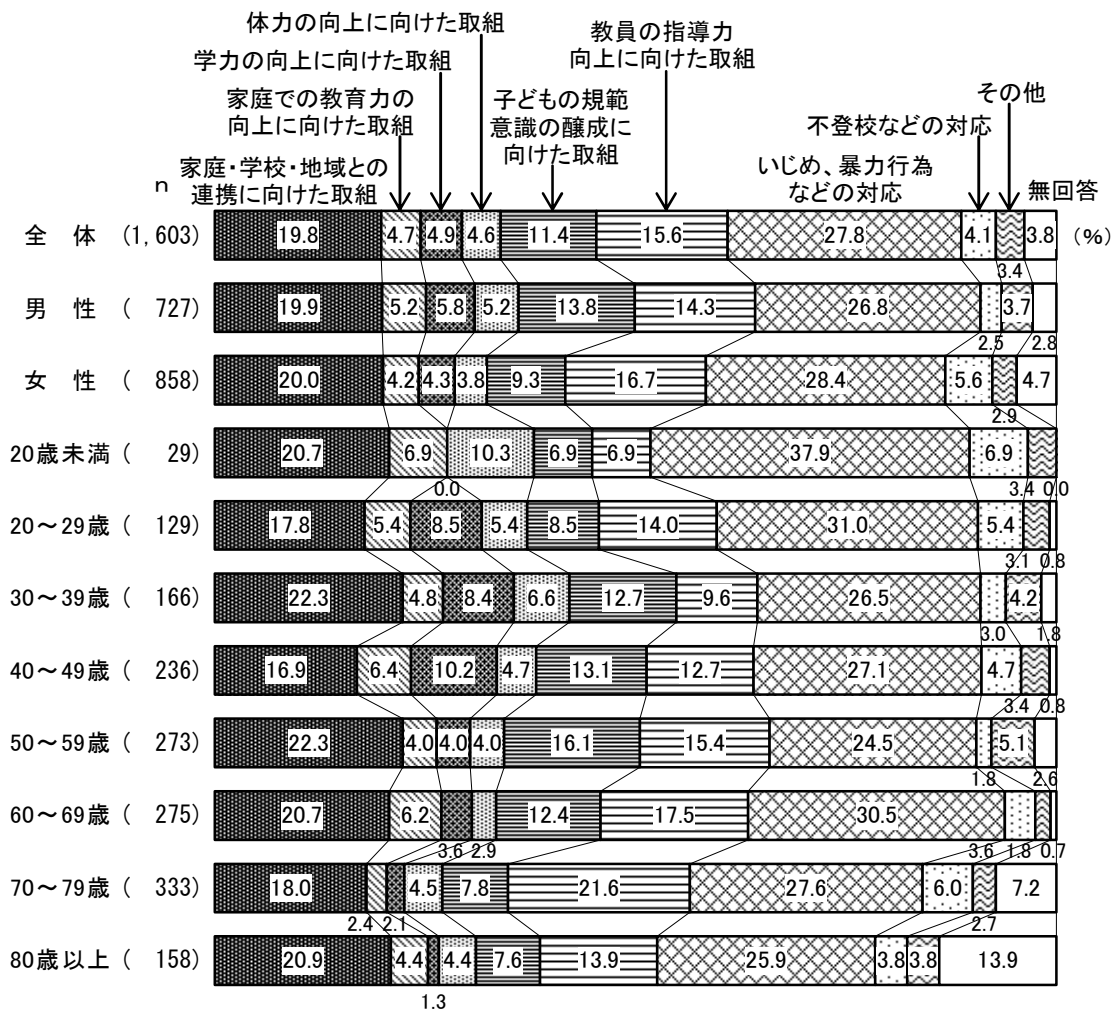


【属性別】

性別で見ると、男性では「子どもの規範意識の醸成に向けた取組」（13.8%）が女性（9.3%）より4.5ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「いじめ、暴力行為などの対応」は20歳未満（37.9%）で4割近くと高くなっている。

図8-1-3 現在の教育への取組—性別、年齢別

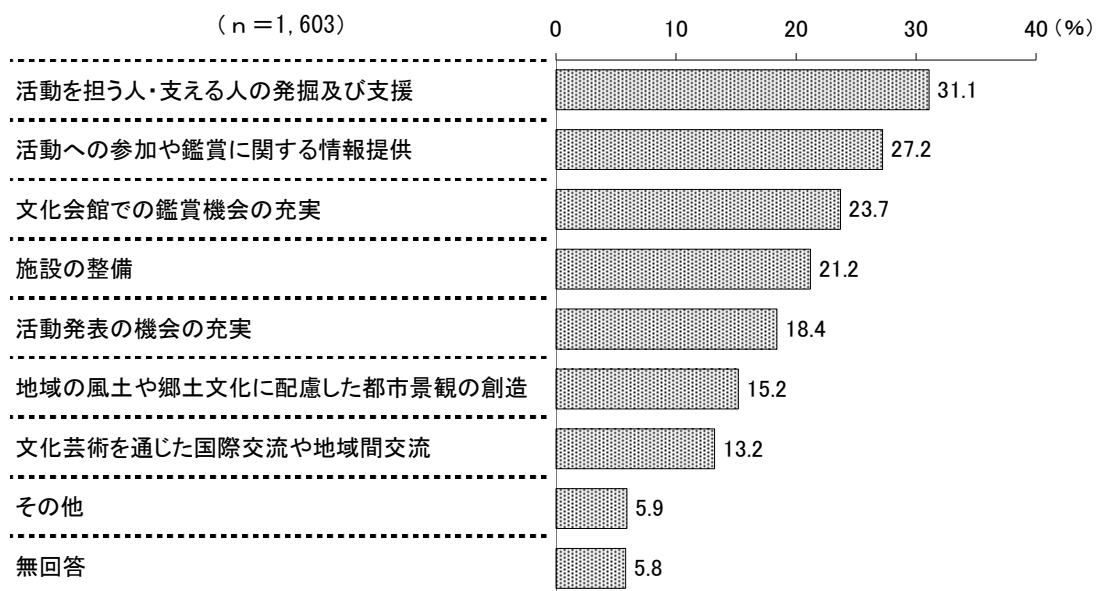


(2) 文化芸術活動を充実させる取組 (A: 問15)

問. 文化芸術活動をより充実させるために、どのような取組が必要であると思いますか。

(2つまで選んでください)

図8-2-1 文化芸術活動を充実させる取組



【全体】

文化芸術活動を充実させる取組について聞いたところ、「活動を担う人・支える人の発掘及び支援」(31.1%)が3割を超えて最も高く、次いで「活動への参加や鑑賞に関する情報提供」(27.2%)、「文化会館での鑑賞機会の充実」(23.7%)、「施設の整備」(21.2%)、「活動発表の機会の充実」(18.4%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「活動への参加や鑑賞に関する情報提供」(27.2%)は令和元年度調査(32.9%)より5.7ポイント減少している。

なお、平成27年度以前の調査は、選択肢が異なっているため、参考記載とする。

表8-2-1 文化芸術活動を充実させる取組—経年変化(上位5項目)

(%)

順位	令和3年度 (n=1,603)	令和元年度 (n=1,467)	平成29年度 (n=1,480)	平成27年度 (n=1,445)	平成25年度 (n=1,284)	平成23年度 (n=815)	平成21年度 (n=1,608)	平成19年度 (n=1,500)
1	活動を担う人・ 支える人の発 掘及び支援 31.1	活動への参加 や鑑賞に関す る情報提供 32.9	活動への参加 や鑑賞に関す る情報提供 32.6	文化芸術活動 や鑑賞活動な どの情報提供 37.0	文化芸術活動 や鑑賞活動な どの情報提供 34.3	芸術文化活動 や鑑賞活動な どの情報提供 34.5	芸術文化活動 や鑑賞活動な どの情報提供 33.2	芸術文化活動 や鑑賞活動な どの情報提供 34.6
2	活動への参加 や鑑賞に関す る情報提供 27.2	活動を担う人・ 支える人の発 掘及び支援 31.1	活動を担う人・ 支える人の発 掘及び支援 32.4	魅力ある都市 景観の創造 33.1	魅力ある都市 景観の創造 32.9	文化会館での 鑑賞機会の 充実 30.7	魅力ある都市 景観の創造 30.8	文化会館での 鑑賞機会の 充実 32.4
3	文化会館での 鑑賞機会の 充実 23.7	文化会館での 鑑賞機会の 充実 26.1	文化会館での 鑑賞機会の 充実 24.6	文化会館での 鑑賞機会の 充実 31.5	文化会館での 鑑賞機会の 充実 30.1	魅力ある都市 景観の創造 29.4	文化会館での 鑑賞機会の 充実 30.5	魅力ある都市 景観の創造 28.2
4	施設の整備 21.2	施設の整備 23.0	施設の整備 20.7	学校や福祉施 設など、文化会 館以外での鑑 賞機会の充実 27.7	学校や福祉施 設など、文化会 館以外での鑑 賞機会の充実 26.5	学校や福祉施 設など、文化会 館以外での鑑 賞機会の充実 25.3	学校や福祉施 設など、文化会 館以外での鑑 賞機会の充実 26.7	学校や福祉施 設など、文化会 館以外での鑑 賞機会の充実 27.8
5	活動発表の 機会の充実 18.4	活動発表の 機会の充実 16.1	地域の風土や 郷土文化に配 慮した都市景 観の創造 15.3	市街地での文 化芸術イベン トの充実 26.4	市街地での文 化芸術イベン トの充実 22.8	市街地での文 化芸術イベン トの充実 22.9	文化財や伝統 芸能などの保 存・継承 20.1	文化財や伝統 芸能などの保 存・継承 24.1

(注) 平成29年度調査以降では、「活動を担う人・支える人の発掘及び支援」と「活動発表の機会の充実」の選択肢を追加している。

【属性別】

性別で見ると、男性では「施設の整備」(25.6%)が女性(17.6%)より8.0ポイント、「地域の風土や郷土文化に配慮した都市景観の創造」(18.2%)が女性(12.6%)より5.6ポイント高くなっている。一方、女性では「文化会館での鑑賞機会の充実」(26.1%)が男性(20.6%)より5.5ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「活動を担う人・支える人の発掘及び支援」は20～29歳(38.0%)で4割近くと高くなっている。「活動への参加や鑑賞に関する情報提供」は40～49歳(29.2%)と50～59歳(29.3%)で約3割と高くなっている。「施設の整備」は20歳未満(34.5%)で3割半ばと高くなっている。

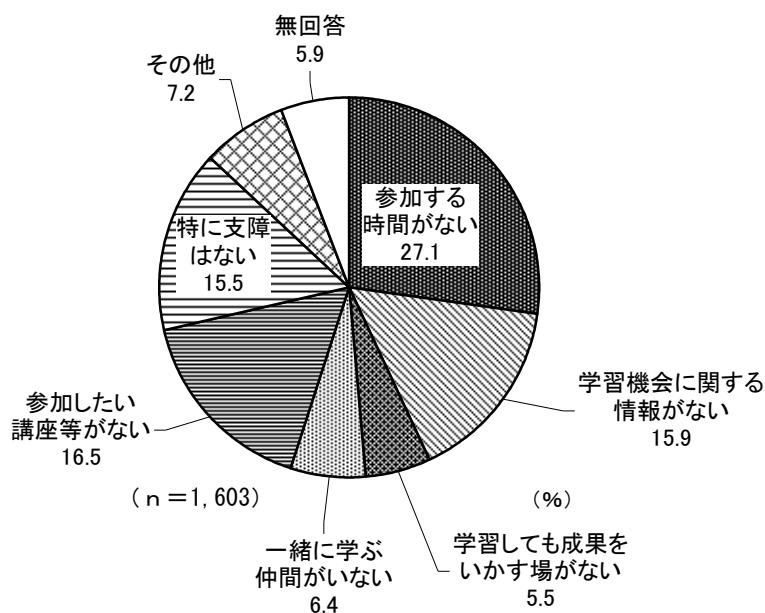
表8-2-2 文化芸術活動を充実させる取組—性別、年齢別

		(%)									
		n	活動 を担う 人・支 える人 の発 掘及び 支援	活動 への参 加や鑑 賞に関 する 情報提 供	文化 会館で の鑑賞 機会の 充実	施設 の整備	活動 発表の 機会の 充実	地 域の風 土や郷 土文化 に配慮 した都 市景観 の創造	地 域文化 を通じ た国際 交流や 地域間 交流	その他	無回 答
全 体		1,603	31.1	27.2	23.7	21.2	18.4	15.2	13.2	5.9	5.8
性 別	男 性	727	33.0	25.4	20.6	25.6	17.7	18.2	13.9	5.9	4.0
	女 性	858	29.6	28.6	26.1	17.6	19.2	12.6	12.4	6.1	7.3
年 齢 別	20歳未満	29	34.5	17.2	13.8	34.5	13.8	13.8	24.1	3.4	0.0
	20～29歳	129	38.0	22.5	27.1	30.2	22.5	10.1	14.0	2.3	1.6
	30～39歳	166	33.1	28.9	22.3	20.5	19.9	10.2	15.1	6.0	3.0
	40～49歳	236	28.4	29.2	17.8	22.9	25.4	16.5	16.5	5.5	1.3
	50～59歳	273	30.0	29.3	23.4	23.4	19.8	13.9	13.9	6.6	2.9
	60～69歳	275	31.6	28.0	25.1	23.6	17.8	16.7	12.0	6.5	3.6
	70～79歳	333	30.6	26.4	26.7	14.4	13.8	17.1	11.4	6.6	9.9
	80歳以上	158	28.5	24.7	24.7	15.2	12.7	17.7	8.2	6.3	20.3

(3) 生涯学習活動に参加する上で支障になること (A：問16)

問. 講座・教育などの学習活動へ参加を検討する場合、どのような理由が妨げとなりますか。
(1つだけ選んでください)

図8-3-1 生涯学習活動に参加する上で支障になること



【全体】

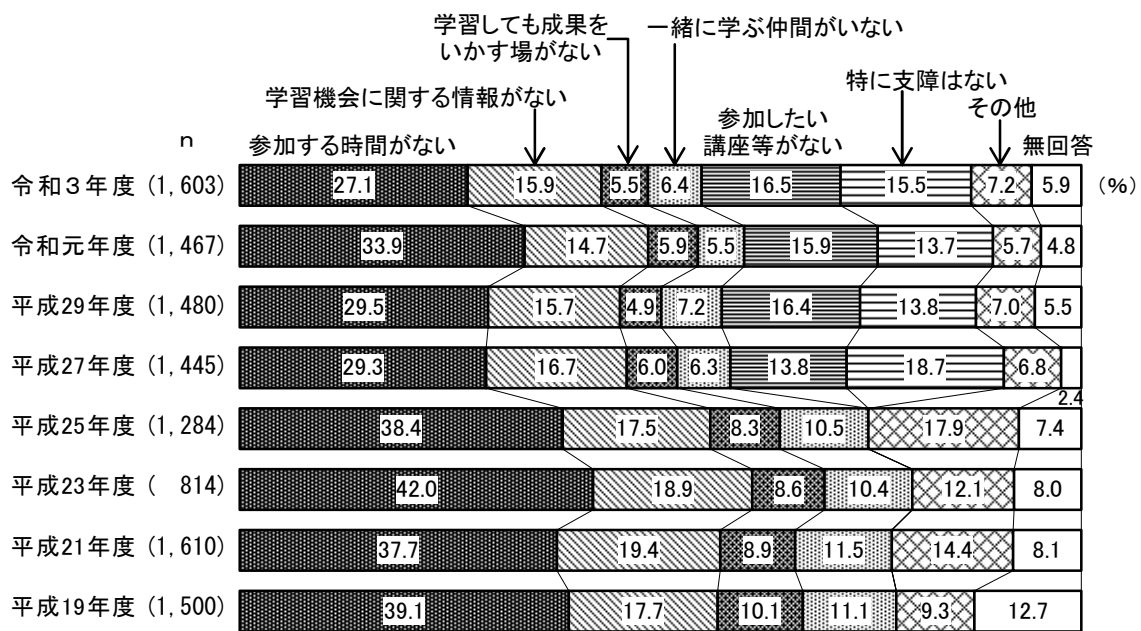
生涯学習活動に参加する上で支障になることについて聞いたところ、「参加する時間がない」(27.1%)が2割半ばを超えて最も高く、次いで「参加したい講座等がない」(16.5%)、「学習機会に関する情報がない」(15.9%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「参加する時間がない」(27.1%)は令和元年度調査(33.9%)より6.8ポイント減少している。

なお、平成25年度以前の調査は、選択肢が異なっているため、参考掲載とする。

図8-3-2 生涯学習活動に参加する上で支障になること—経年変化



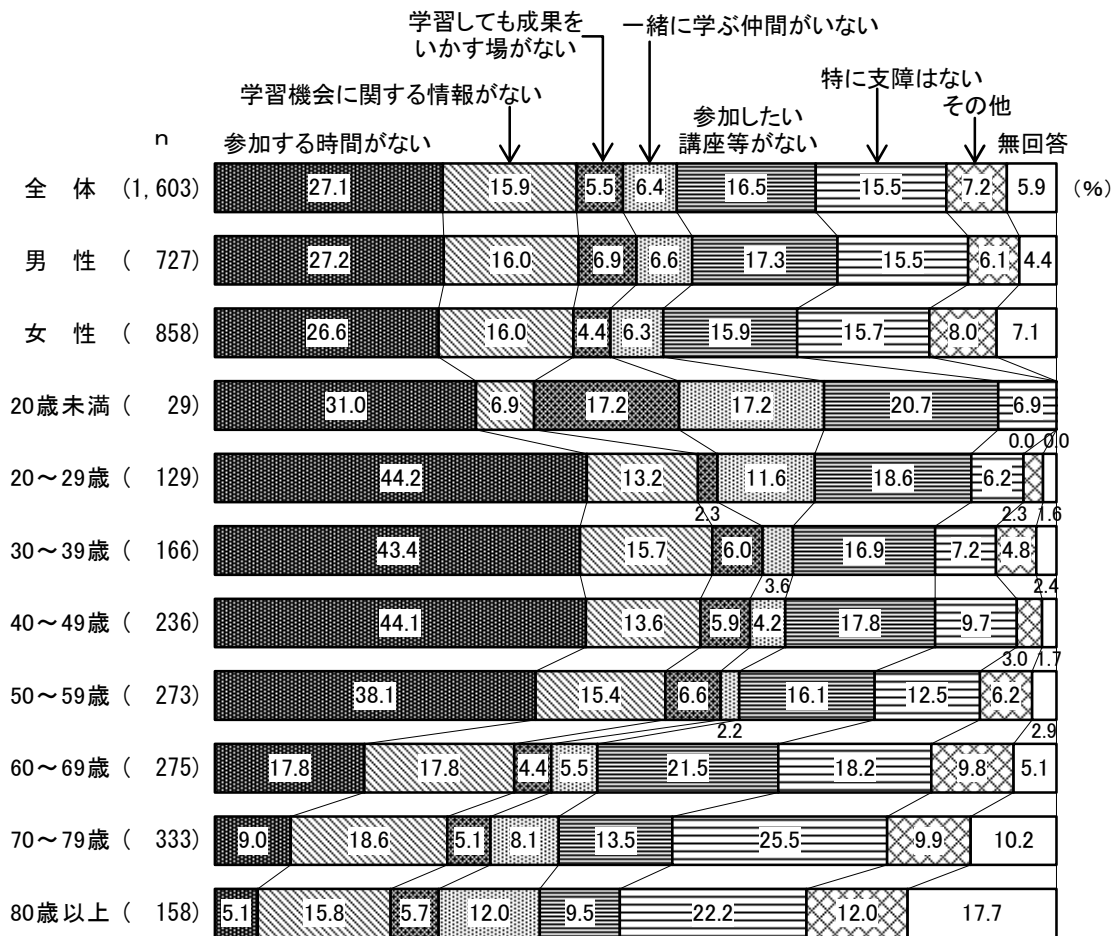
(注) 平成27年度調査以降では、「参加したい講座等がない」と「特に支障はない」の選択肢を追加している。

【属性別】

性別で見ると、大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、「参加する時間がない」は20～29歳（44.2%）、30～39歳（43.4%）、40～49歳（44.1%）で4割台と高くなっている。「参加したい講座等がない」は20歳未満（20.7%）と60～69歳（21.5%）で2割台と高くなっている。「特に支障はない」は70～79歳（25.5%）と80歳以上（22.2%）で2割台と高くなっている。

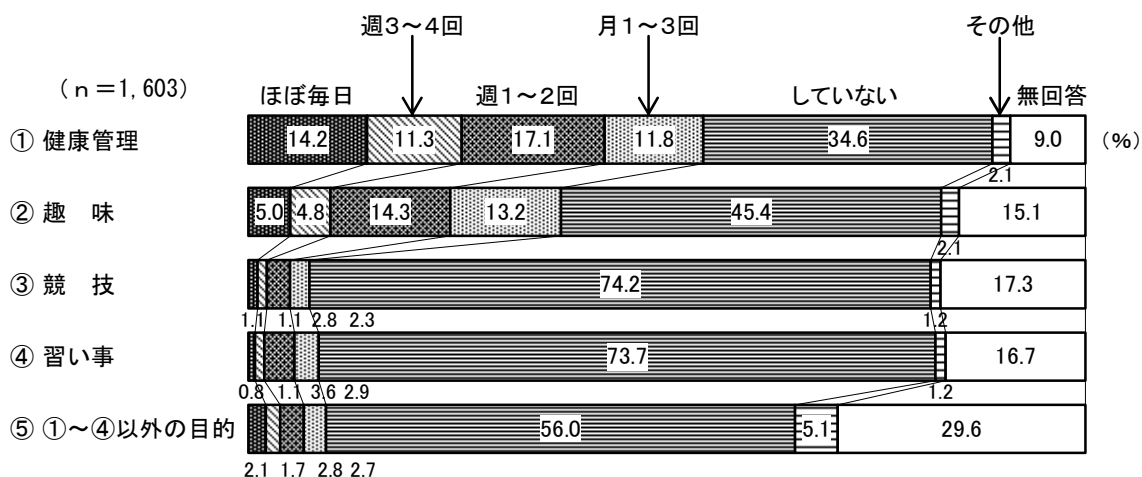
図8-3-3 生涯学習活動に参加する上で支障になること一性別、年齢別



(4) スポーツをする目的・頻度 (A:問17)

問. 運動(スポーツ)をどのような目的で、また、どのくらいの頻度で行っていますか。
 (①~⑤について、それぞれ1つだけ選んでください)

図8-4-1 スポーツをする目的・頻度



【全体】

スポーツをする目的・頻度について、5つの目的別に頻度を聞いたところ、①健康管理では、「週1~2回」(17.1%)が1割半ばを超えており、次いで「ほぼ毎日」(14.2%)、「月1~3回」(11.8%)、「週3~4回」(11.3%)となっている。

②趣味では、「週1~2回」(14.3%)が1割半ばとなっており、次いで「月1~3回」(13.2%)、「ほぼ毎日」(5.0%)、「週3~4回」(4.8%)となっている。

③競技では、「ほぼ毎日」(1.1%)と「週3~4回」(1.1%)、「週1~2回」(2.8%)、「月1~3回」(2.3%)の4つを合わせた『している』(7.3%)は1割未満となっている。

④習い事では、『している』(8.4%)は1割未満となっている。

⑤①~④以外の目的では、『している』(9.3%)は約1割となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、①健康管理では『している』(54.4%)が令和元年度調査(50.9%)より3.5ポイント増加している。

②趣味、③競技、④習い事、⑤ ①～④以外の目的では、『している』の割合は令和元年度調査と比べて大きな差異は見られない。

図8-4-2 スポーツをする目的・頻度 ①健康管理—経年変化

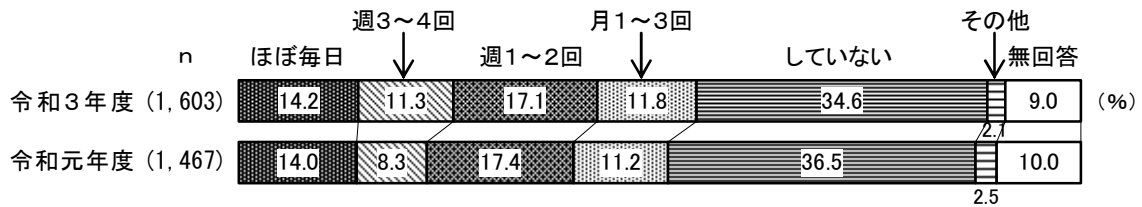


図8-4-3 スポーツをする目的・頻度 ②趣味—経年変化

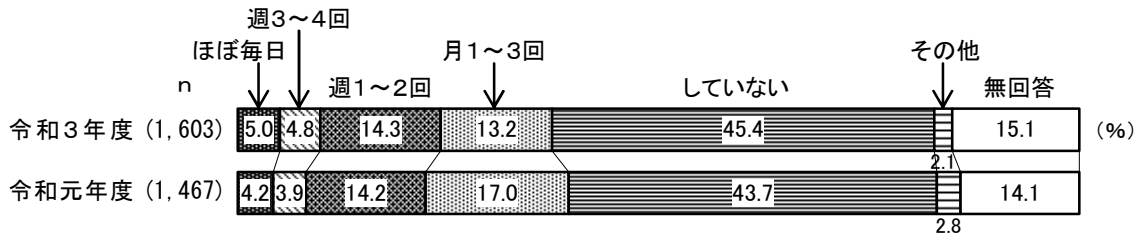


図8-4-4 スポーツをする目的・頻度 ③競技—経年変化

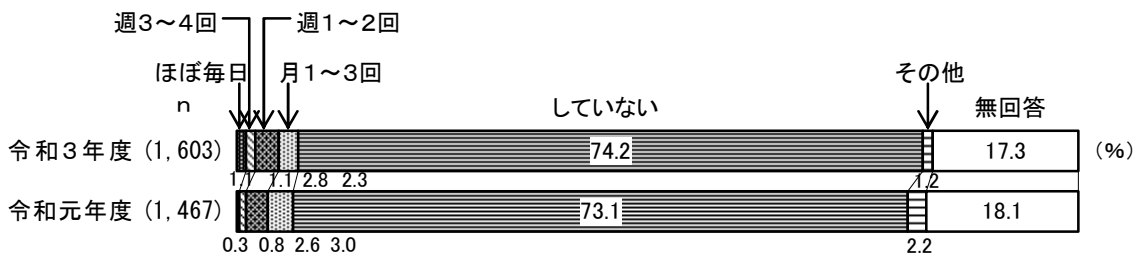


図8-4-5 スポーツをする目的・頻度 ④習い事—経年変化

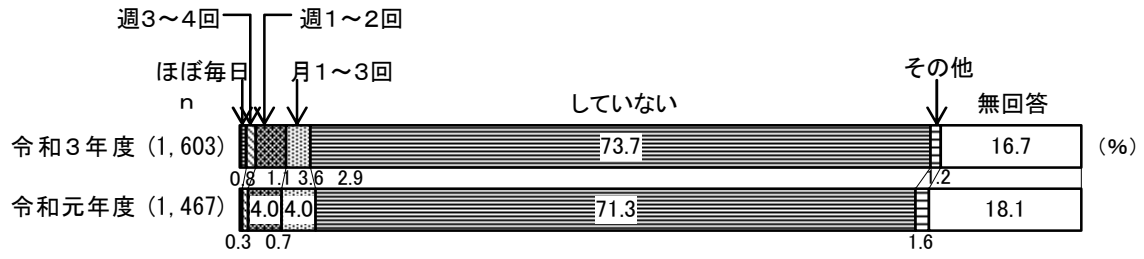
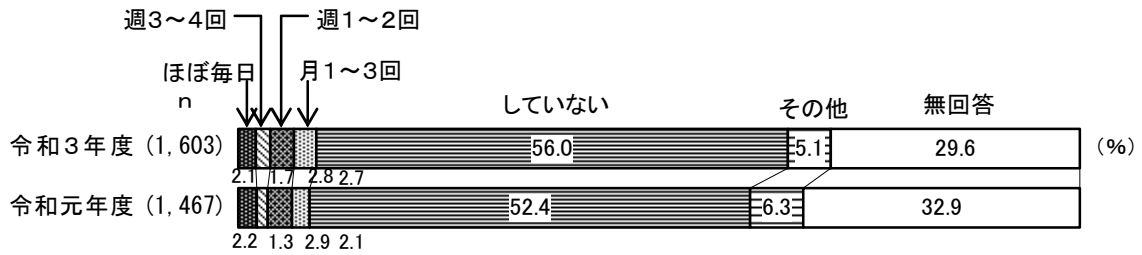


図8-4-6 スポーツをする目的・頻度 ⑤ ①~④以外の目的—経年変化

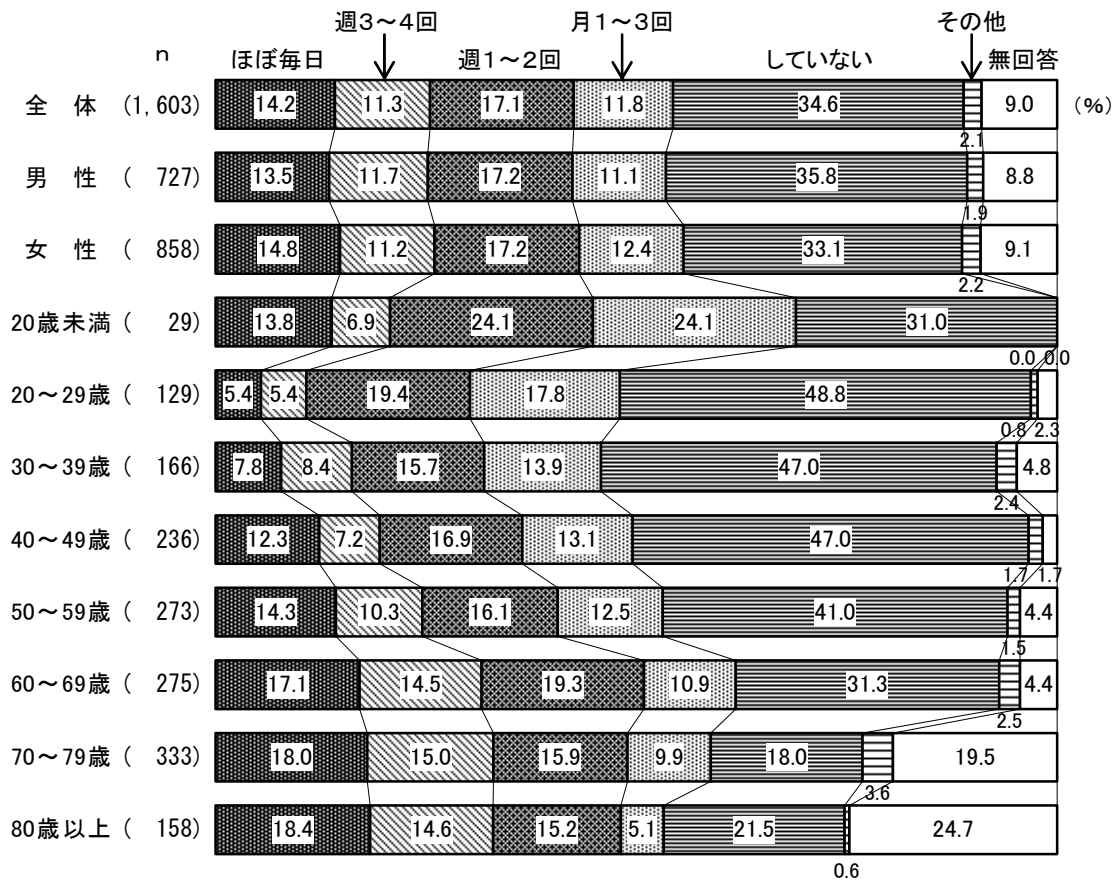


【属性別】①健康管理

①健康管理について性別で見ると、大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、『している』は20歳未満（68.9%）で7割近くと高くなっている。一方、「していない」は20～29歳（48.8%）で5割近くと高くなっている。

図8-4-7 スポーツをする目的・頻度 ①健康管理—性別、年齢別

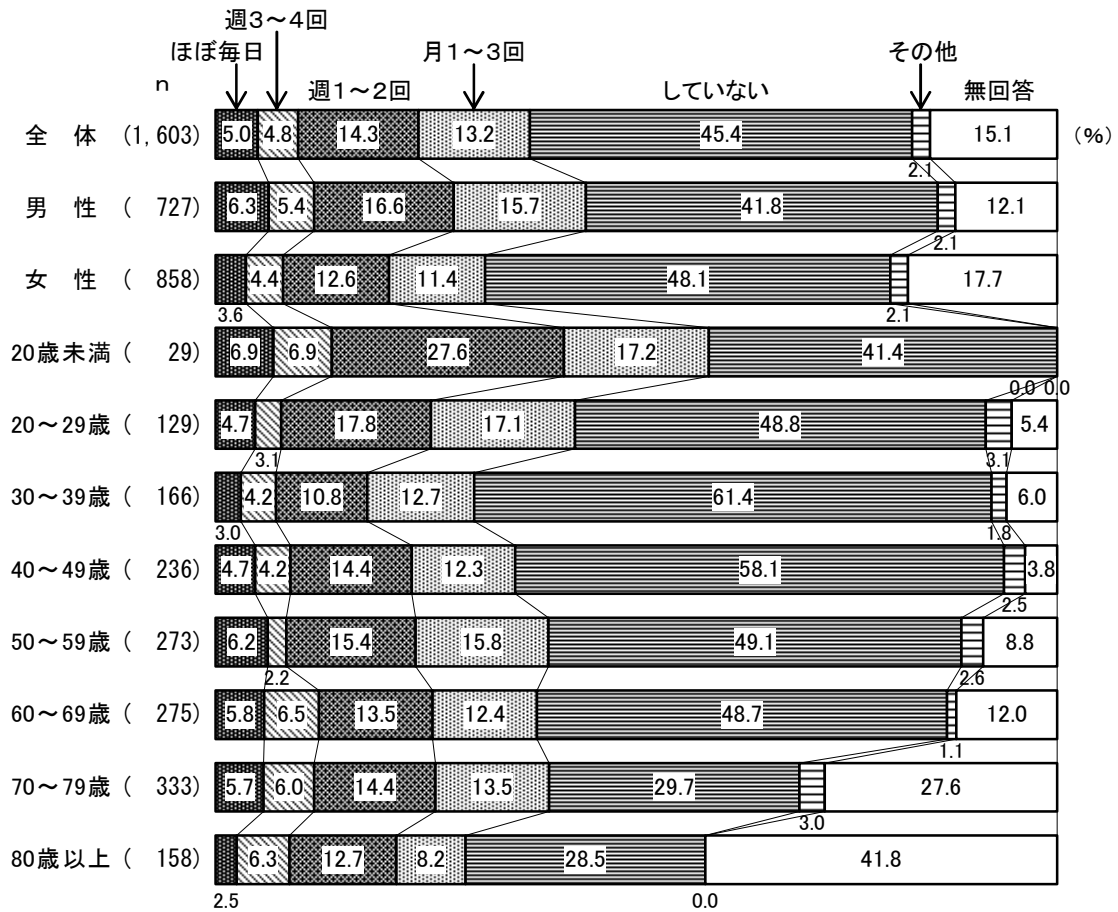


【属性別】②趣味

②趣味について性別で見ると、男性では『している』(44.0%)が女性(32.0%)より12.0ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、『している』は20歳未満(58.6%)で6割近くと高くなっている。一方、「していない」は30～39歳(61.4%)で6割を超えて高くなっている。

図8-4-8 スポーツをする目的・頻度 ②趣味—性別、年齢別

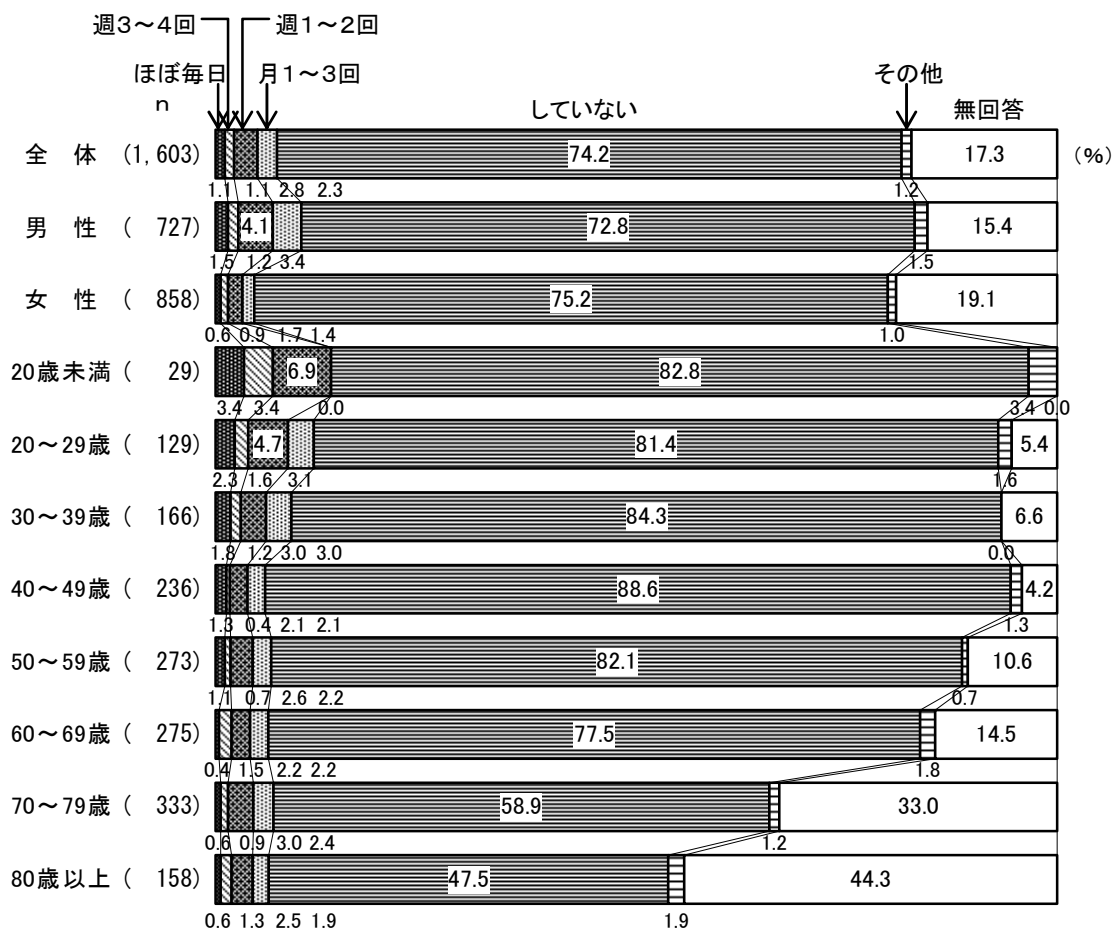


【属性別】③競技

③競技について性別で見ると、男性では『している』（10.2%）が女性（4.6%）より5.6ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、『している』は20歳未満（13.7%）で1割半ば近くとなっている。一方、「していない」は40～49歳（88.6%）で9割近くと高くなっている。

図8-4-9 スポーツをする目的・頻度 ③競技一性別、年齢別

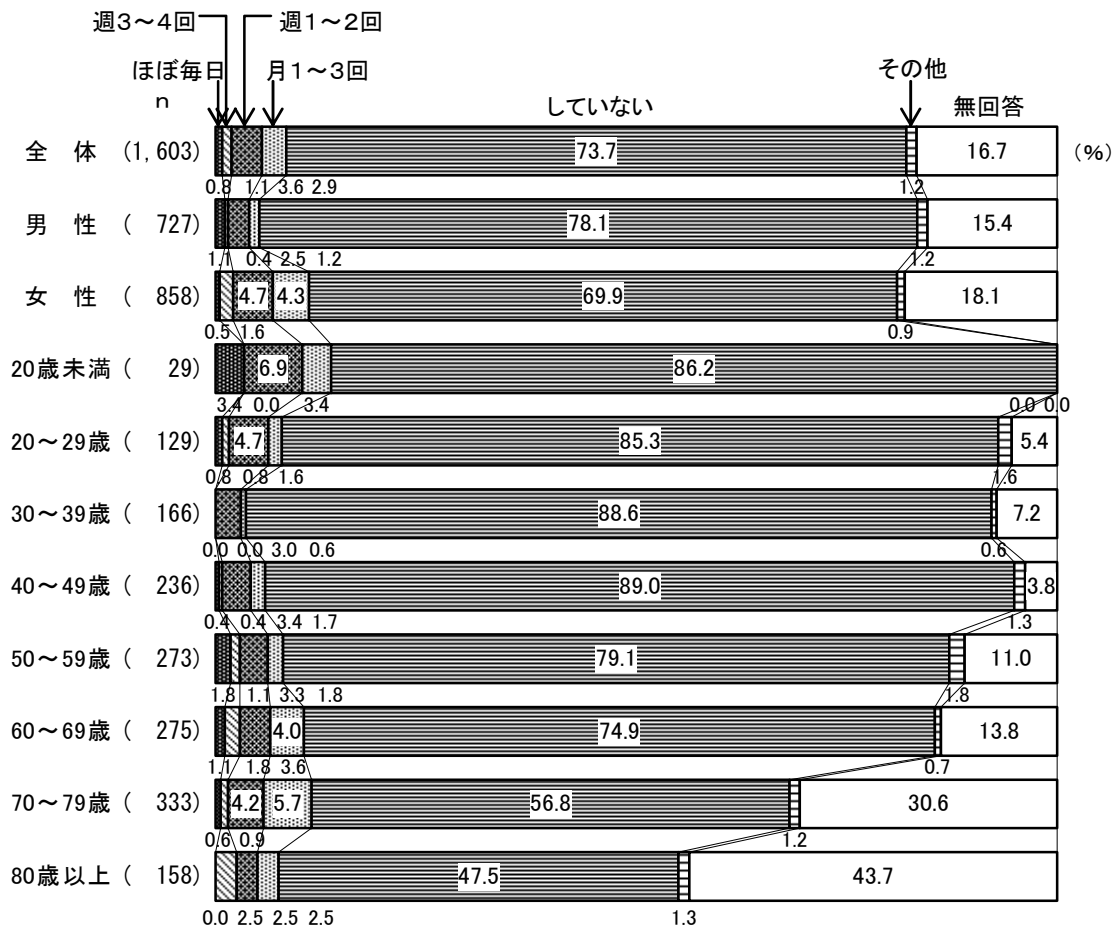


【属性別】④習い事

④習い事について性別で見ると、女性では『している』(11.1%)が男性(5.2%)より5.9ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、『している』は20歳未満(13.7%)で1割半ば近くとなっている。一方、『していない』は40~49歳(89.0%)で約9割と高くなっている。

図8-4-10 スポーツをする目的・頻度 ④習い事—性別、年齢別

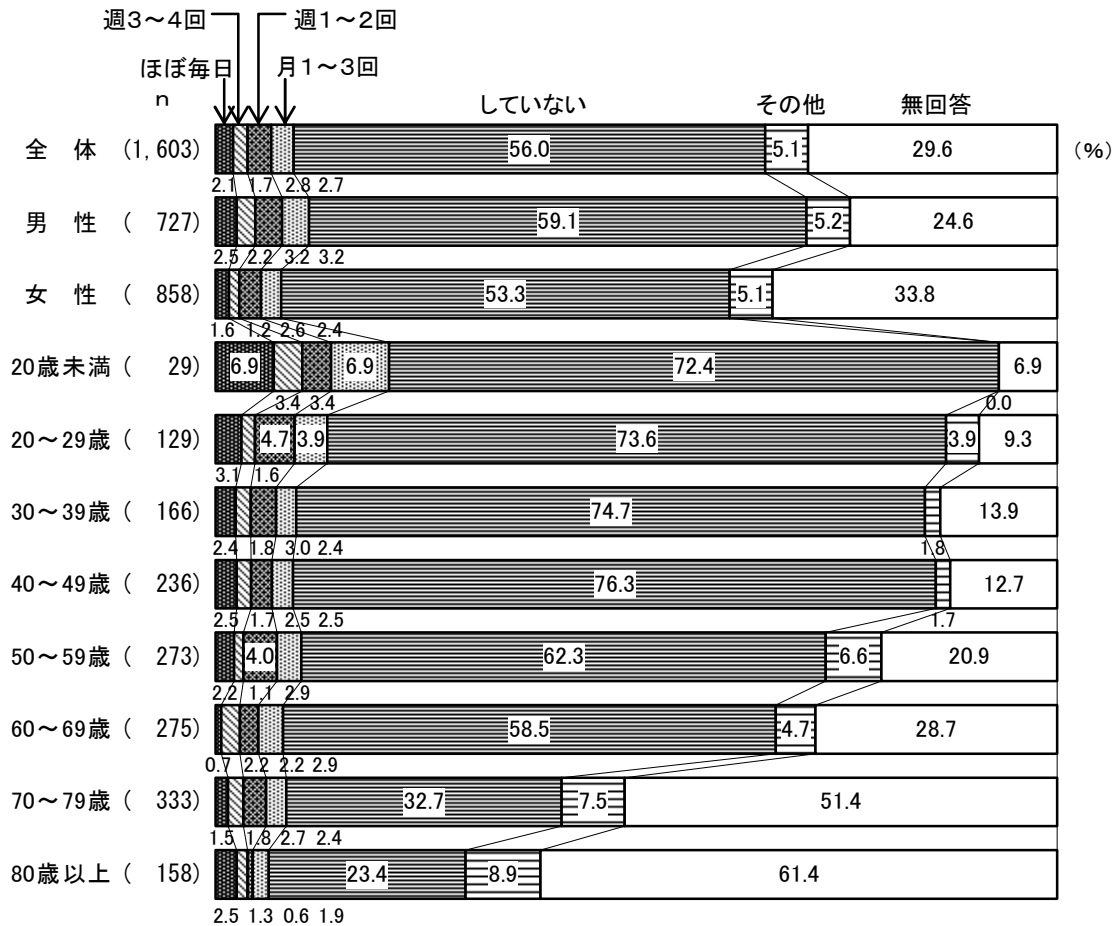


【属性別】⑤ ①～④以外の目的

⑤ ①～④以外の目的について性別で見ると、男性では『している』（11.1%）が女性（7.8%）より3.3ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、『している』は20歳未満（20.6%）で約2割と高くなっている。一方、「していない」は40～49歳（76.3%）で7割半ばを超えて高くなっている。

図8-4-11 スポーツをする目的・頻度 ⑤ ①～④以外の目的一性別、年齢別

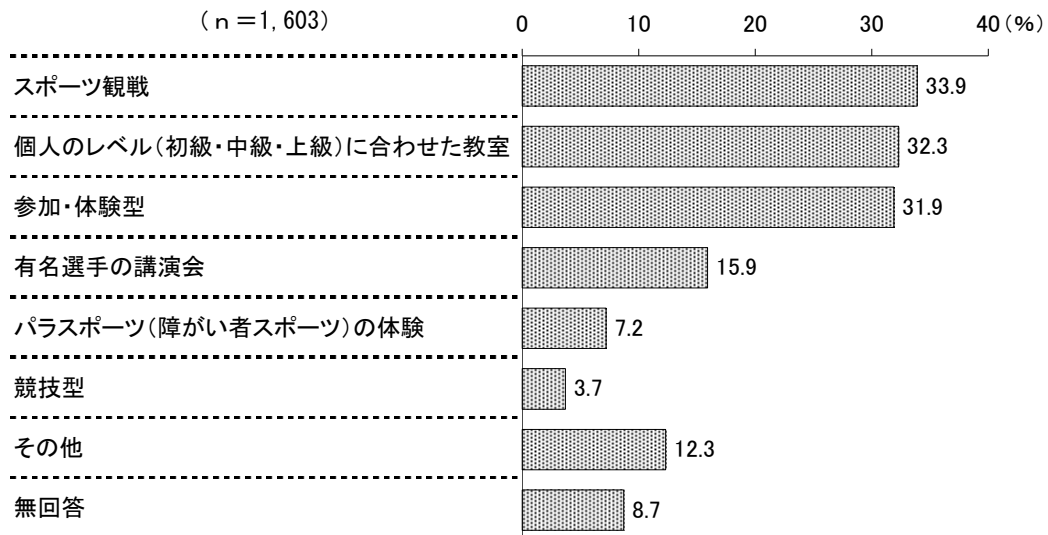


(5) 開催してほしいスポーツイベント (A : 問18)

問. 今後、どのようなスポーツイベントを開催してほしいですか。

(いくつでも選んでください)

図8-5-1 開催してほしいスポーツイベント



【全体】

開催してほしいスポーツイベントについて聞いたところ、「スポーツ観戦」(33.9%)が3割半ば近くで最も高く、次いで「個人のレベル(初級・中級・上級)に合わせた教室」(32.3%)、「参加・体験型」(31.9%)、「有名選手の講演会」(15.9%)、「パラスポーツ(障がい者スポーツ)の体験」(7.2%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「スポーツ観戦」(33.9%)は令和元年度調査に引き続き第1位となっているものの、令和元年度調査(40.8%)より6.9ポイント減少している。

なお、平成27年度以前の調査は、質問文及び選択肢が異なっているため、参考記載とする。

表8-5-1 開催してほしいスポーツイベントー経年変化(上位5項目)

(%)

順位	令和3年度 (n=1,603)	令和元年度 (n=1,467)	平成29年度 (n=1,480)	平成27年度 (n=1,445)	平成25年度 (n=1,284)	平成23年度 (n=814)	平成21年度 (n=1,610)	平成19年度 (n=1,506)
1	スポーツ観戦 33.9	スポーツ観戦 40.8	スポーツ観戦 35.5	初心者向きの スポーツ教室 やイベント 28.9	初心者向きの スポーツ教室 やイベント 24.1	参加型の大会 やイベント 24.4	初心者向きの スポーツ教室 やイベント 22.5	初心者を対象 としたスポーツ 大会やイベント 20.2
2	個人のレベル (初級・中級・ 上級)に合わせ た教室 32.3	参加・体験型 34.2	参加・体験型 33.8	参加型の大会 やイベント 25.9	参加型の大会 やイベント 18.1	初心者向きの スポーツ教室 やイベント 22.5	参加型の大会 やイベント 18.8	有名スポーツ選 手を招いて行う スポーツに関する 講演やスポーツ 教室、イベント 16.1
3	参加・体験型 31.9	個人のレベル (初級・中級・ 上級)に合わせ た教室 29.4	個人のレベル (初級・中級・ 上級)に合わせ た教室 31.7	公民館で実施 する各種 スポーツイベン トやスポーツ 教室 20.3	公民館で実施 する各種 スポーツイベン トやスポーツ 教室 16.6	有名スポーツ 選手を招いて の講演会や スポーツ教室、 イベント 18.8	有名スポーツ 選手を招いて の講演会や スポーツ教室、 イベント 18.3	公民館で実施 する各種 スポーツイベン トやスポーツ 教室 12.4
4	有名選手の 講演会 15.9	有名選手の 講演会 18.1	有名選手の 講演会 16.5	有名スポーツ 選手を招いて の講演会や スポーツ教室、 イベント 19.9	有名スポーツ 選手を招いて の講演会や スポーツ教室、 イベント 13.3	公民館で実施 する各種 スポーツイベン トやスポーツ 教室 15.0	公民館で実施 する各種 スポーツイベン トやスポーツ 教室 14.2	勝敗を競うこと を主な目的とし ない大会やイ ベント 10.5
5	パラスポーツ (障がい者 スポーツ)の 体験 7.2	パラスポーツ (障がい者 スポーツ)の 体験 10.0	パラスポーツ (障がい者 スポーツ)の 参加・体験 7.8	順位を競う 大会やイベント 6.6	順位を競う 大会やイベント 4.0	順位を競う 大会やイベント 4.3	順位を競う 大会やイベント 4.5	勝敗を競うこと を主な目的とし た大会やイ ベント 6.8

(注1)「パラスポーツ(障がい者スポーツ)の体験」は、平成29年度調査では「パラスポーツ(障がい者スポーツ)の参加・体験」としていた。

(注2)平成27年度調査以前では、「今後、参加してみたいと思うスポーツイベントは何ですか。」(複数回答)と質問していた。

【属性別】

性別で見ると、男性では「スポーツ観戦」(40.7%)が女性(28.4%)より12.3ポイント高くなっている。一方、女性では「個人のレベル(初級・中級・上級)に合わせた教室」(36.0%)が男性(28.2%)より7.8ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「スポーツ観戦」は20歳未満(48.3%)で5割近くと高くなっている。「個人のレベル(初級・中級・上級)に合わせた教室」は60～69歳(42.5%)で4割半ば近くと高くなっている。「参加・体験型」は30～39歳(47.6%)で5割近くと高くなっている。

表8-5-2 開催してほしいスポーツイベントー性別、年齢別

		(%)								
		n	スポーツ観戦	個人のレベル(初級・中級・上級)に合わせた教室	参加・体験型	有名選手の講演会	パラスポーツ(障がい者スポーツ)の体験	競技型	その他	無回答
全体		1,603	33.9	32.3	31.9	15.9	7.2	3.7	12.3	8.7
性別	男性	727	40.7	28.2	30.1	18.3	6.7	5.9	11.7	6.1
	女性	858	28.4	36.0	33.3	14.1	7.5	1.9	12.6	10.7
年齢別	20歳未満	29	48.3	17.2	27.6	13.8	6.9	10.3	6.9	0.0
	20～29歳	129	31.8	34.1	41.9	17.1	11.6	6.2	7.8	2.3
	30～39歳	166	35.5	34.3	47.6	18.7	10.2	4.8	12.0	2.4
	40～49歳	236	37.7	33.9	41.5	16.1	8.5	3.4	13.1	1.3
	50～59歳	273	40.7	29.3	35.2	18.3	7.3	2.9	10.6	2.9
	60～69歳	275	34.5	42.5	27.6	15.6	5.8	2.9	14.2	5.5
	70～79歳	333	30.0	28.8	22.5	12.9	5.7	3.6	12.6	17.4
	80歳以上	158	21.5	24.7	15.8	14.6	4.4	2.5	15.2	28.5

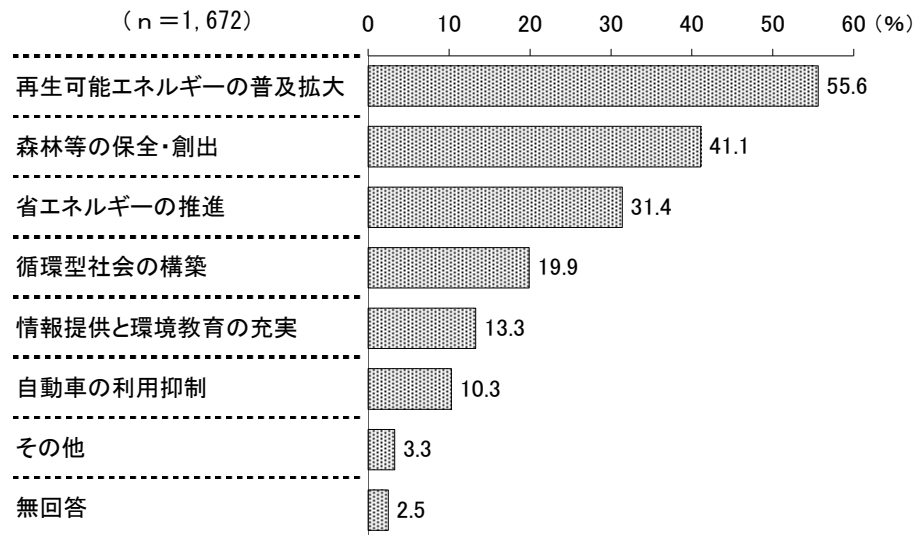
9 環境

(1) 地球温暖化防止への取組 (B:問11)

問. 地球温暖化防止には、どのような取組が必要であると思いますか。

(2つまで選んでください)

図9-1-1 地球温暖化防止への取組



【全体】

地球温暖化防止への取組について聞いたところ、「再生可能エネルギーの普及拡大」(55.6%)が5割半ばで最も高く、次いで「森林等の保全・創出」(41.1%)、「省エネルギーの推進」(31.4%)、「循環型社会の構築」(19.9%)、「情報提供と環境教育の充実」(13.3%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、上位5項目は令和元年度調査と同じ順位となっており、「再生可能エネルギーの普及拡大」(55.6%)は令和元年度調査(52.5%)より3.1ポイント増加している。
 なお、平成27年度以前の調査は、選択肢が異なっているため、参考記載とする。

表9-1-1 地球温暖化防止への取組—経年変化(上位5項目)

(%)

順位	令和3年度 (n=1,672)	令和元年度 (n=1,538)	平成29年度 (n=1,550)	平成27年度 (n=1,445)	平成25年度 (n=1,284)	平成23年度 (n=815)	平成21年度 (n=1,608)	平成19年度 (n=1,500)	平成17年度 (n=1,002)
1	再生可能エネルギーの普及拡大 55.6	再生可能エネルギーの普及拡大 52.5	再生可能エネルギーの普及拡大 52.0	各家庭や企業における省エネルギーの推進 67.3	各家庭や企業における省エネルギーの推進 70.1	各家庭や企業における省エネルギーの推進 78.4	各家庭や企業における省エネルギーの推進 81.6	各家庭や企業における省エネルギーの推進 80.8	各家庭や企業における省エネルギーの推進 79.5
2	森林等の保全・創出 41.1	森林等の保全・創出 39.6	省エネルギーの推進 40.3	家電製品等省エネルギー技術の開発・製品化 36.5	家電製品等省エネルギー技術の開発・製品化 47.7	家電製品等省エネルギー技術の開発・製品化 46.9	家電製品等省エネルギー技術の開発・製品化 50.3	家電製品等省エネルギー技術の開発・製品化 48.3	家電製品等省エネルギー技術の開発・製品化 49.8
3	省エネルギーの推進 31.4	省エネルギーの推進 34.8	森林等の保全・創出 37.7	地球温暖化防止に関する市民学習の機会の充実 23.8	行政による地球温暖化防止のPR活動 22.4	行政による地球温暖化防止のPR活動 16.7	地球温暖化防止に関する市民学習の機会の充実 19.4	行政による地球温暖化防止のPR活動 21.6	地球温暖化防止に関する市民学習の機会の充実 23.5
4	循環型社会の構築 19.9	循環型社会の構築 20.9	循環型社会の構築 16.8	行政による地球温暖化防止のPR活動 23.7	地球温暖化防止に関する市民学習の機会の充実 18.5	地球温暖化防止に関する市民学習の機会の充実 13.7	行政による地球温暖化防止のPR活動 15.7	地球温暖化防止に関する市民学習の機会の充実 19.5	行政による地球温暖化防止のPR活動 21.7
5	情報提供と環境教育の充実 13.3	情報提供と環境教育の充実 14.5	情報提供と環境教育の充実 14.6						

(注) 平成27年度調査以前では、表9-1-1に示した4つの選択肢と「その他」の合計5つの選択肢で質問していた。

【属性別】

性別で見ると、女性では「省エネルギーの推進」(34.5%)が男性(28.1%)より6.4ポイント高くなっている。一方、男性では「再生可能エネルギーの普及拡大」(58.1%)が女性(53.6%)より4.5ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「再生可能エネルギーの普及拡大」は20～29歳(60.1%)と60～69歳(62.2%)で6割台と高くなっている。「省エネルギーの推進」は30～39歳(42.2%)で4割を超えて高くなっている。

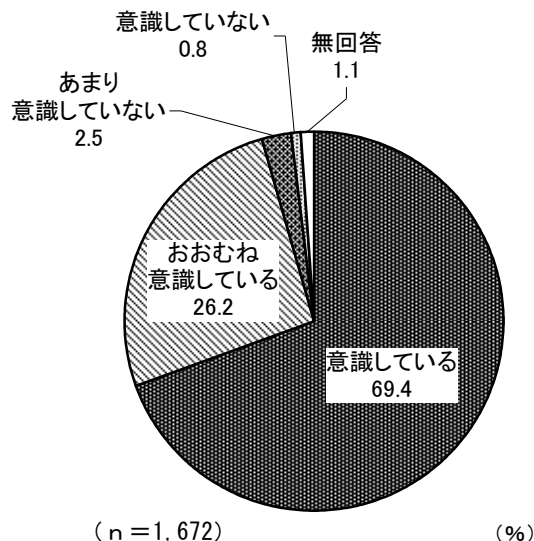
表9-1-2 地球温暖化防止への取組—性別、年齢別

		(%)								
		n	再生可能エネルギーの普及拡大	森林等の保全・創出	省エネルギーの推進	循環型社会の構築	情報提供と環境教育の充実	自動車の利用抑制	その他	無回答
全 体		1,672	55.6	41.1	31.4	19.9	13.3	10.3	3.3	2.5
性別	男 性	752	58.1	41.0	28.1	19.8	12.9	11.6	4.8	1.6
	女 性	887	53.6	41.4	34.5	20.1	13.4	9.0	2.1	3.3
年 齢 別	20歳未満	28	57.1	42.9	35.7	10.7	14.3	7.1	0.0	3.6
	20～29歳	153	60.1	42.5	26.8	13.1	9.8	9.8	5.9	0.7
	30～39歳	192	48.4	39.1	42.2	19.3	13.5	6.8	5.2	0.5
	40～49歳	277	54.9	40.4	26.7	24.5	16.2	9.0	3.2	1.4
	50～59歳	280	58.6	42.5	28.2	20.7	13.9	8.9	3.9	1.4
	60～69歳	267	62.2	41.6	28.8	22.5	12.7	10.5	3.0	1.5
	70～79歳	320	53.4	40.9	37.2	20.3	12.2	11.9	2.2	5.0
80歳以上	148	48.0	39.9	29.1	13.5	13.5	17.6	1.4	6.8	

(2) 資源とごみの分別 (B: 問12)

問. 資源とごみの分別を意識していますか。(1つだけ選んでください)

図9-2-1 資源とごみの分別



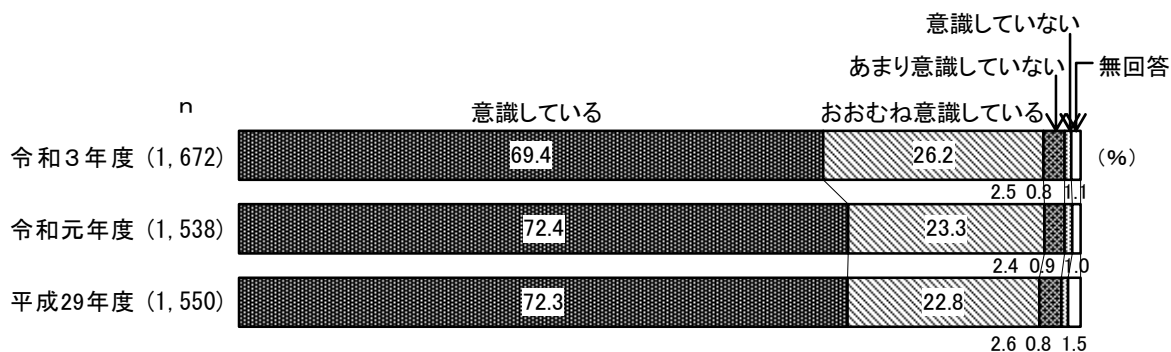
【全体】

資源とごみの分別の意識について聞いたところ、「意識している」(69.4%)と「おおむね意識している」(26.2%)の2つを合わせた『意識あり』(95.6%)が9割半ばと高くなっている。「あまり意識していない」(2.5%)と「意識していない」(0.8%)の2つを合わせた『意識なし』(3.3%)は1割未満となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「意識している」(69.4%)は令和元年度調査(72.4%)より3.0ポイント減少している。

図9-2-2 資源とごみの分別—経年変化

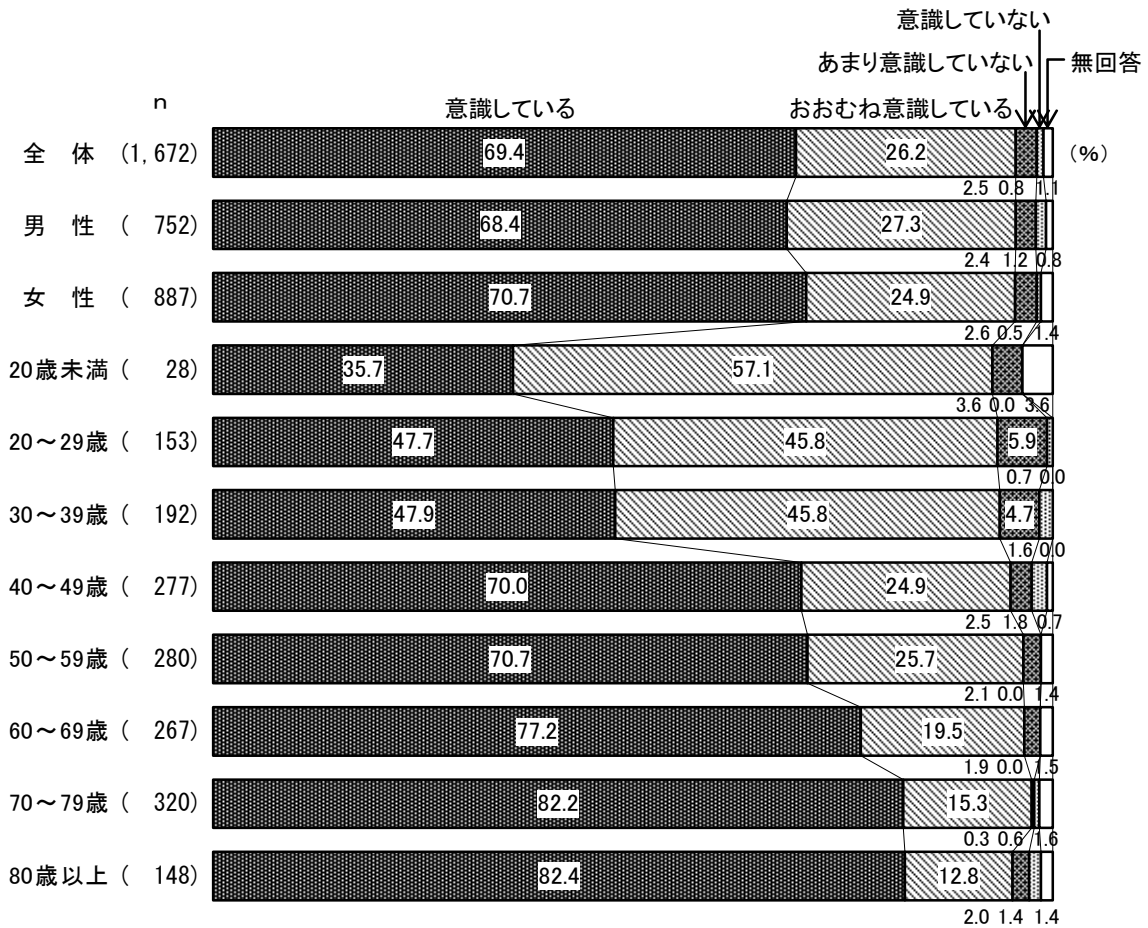


【属性別】

性別で見ると、大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、「意識している」は70～79歳（82.2%）と80歳以上（82.4%）で8割を超えて高くなっている。『意識あり』はすべての年代で9割台と高くなっている。

図9-2-3 資源とごみの分別—性別、年齢別

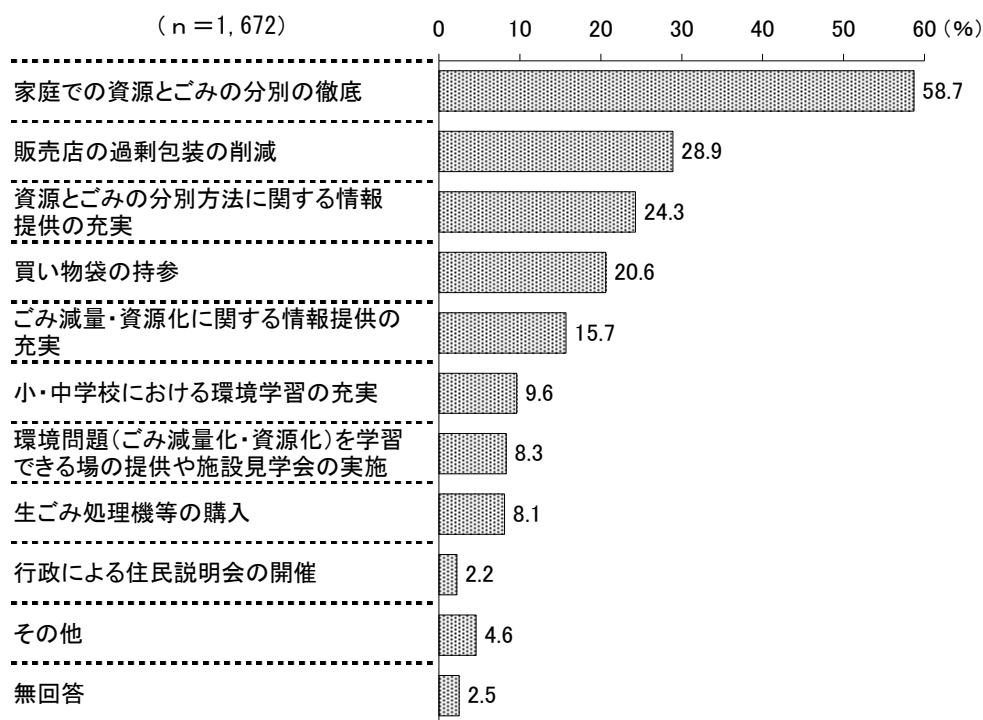


(3) ごみの減量化・資源化の推進 (B:問13)

問. ごみの減量化・資源化を推進する上で、どのような取組が重要だと思いますか。

(2つまで選んでください)

図9-3-1 ごみの減量化・資源化の推進



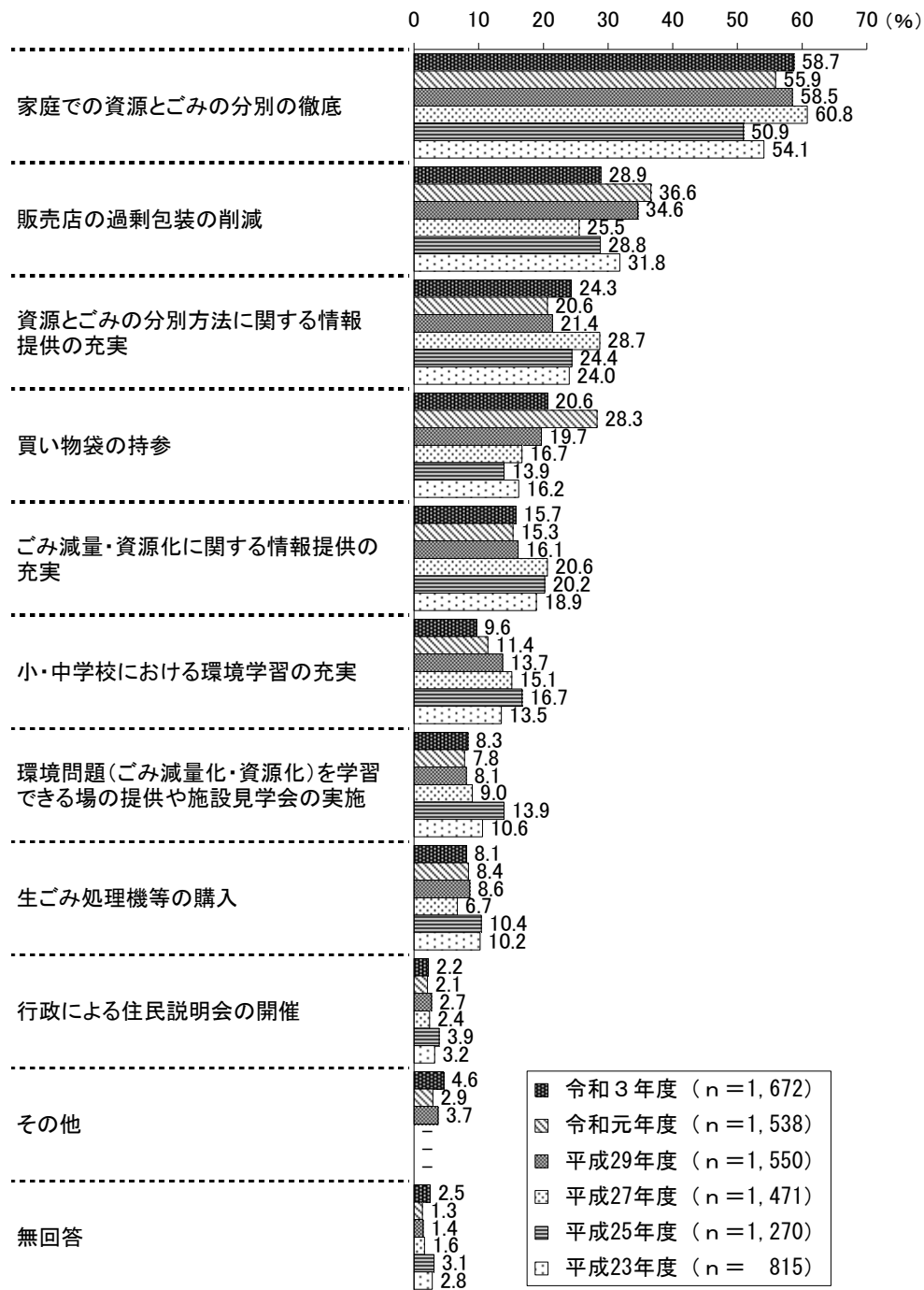
【全体】

ごみの減量化・資源化の推進について聞いたところ、「家庭での資源とごみの分別の徹底」(58.7%)が6割近くで最も高く、次いで「販売店の過剰包装の削減」(28.9%)、「資源とごみの分別方法に関する情報提供の充実」(24.3%)、「買い物袋の持参」(20.6%)、「ごみ減量・資源化に関する情報提供の充実」(15.7%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「資源とごみの分別方法に関する情報提供の充実」(24.3%)は令和元年度調査(20.6%)より3.7ポイント増加している。一方、「販売店の過剰包装の削減」(28.9%)は令和元年度調査(36.6%)より7.7ポイント、
「買い物袋の持参」(20.6%)は令和元年度調査(28.3%)より7.7ポイント減少している。

図9-3-2 ごみの減量化・資源化の推進—経年変化



(注) 平成29年度調査以降では、「その他」の選択肢を追加している。

【属性別】

性別で見ると、女性では「販売店の過剰包装の削減」(31.6%)が男性(25.7%)より5.9ポイント高くなっている。一方、男性では「家庭での資源とごみの分別の徹底」(60.9%)が女性(57.2%)より3.7ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「家庭での資源とごみの分別の徹底」は70～79歳(70.0%)と80歳以上(72.3%)で7割台と高くなっている。「販売店の過剰包装の削減」は20歳未満(39.3%)で約4割と高くなっている。「買い物袋の持参」は20歳未満(32.1%)と80歳以上(31.1%)で3割を超えて高くなっている。

表9-3-1 ごみの減量化・資源化の推進—性別、年齢別

(%)

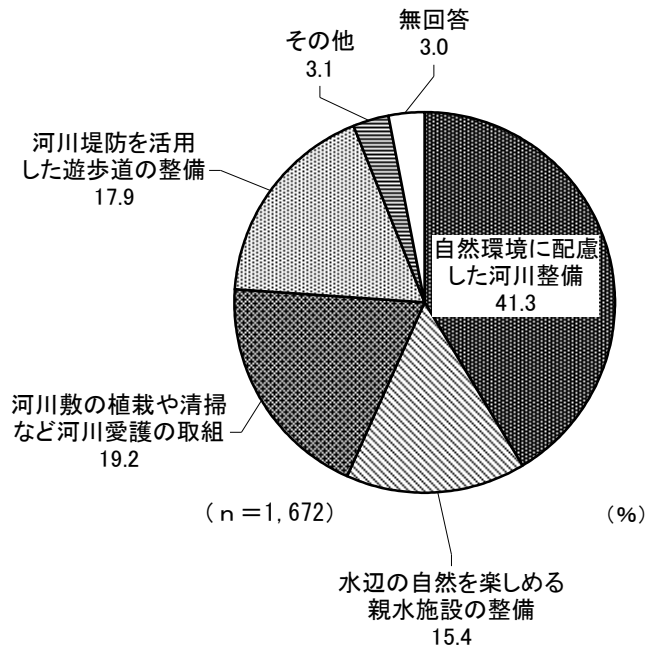
		n	家庭での資源とごみの分別の徹底	販売店の過剰包装の削減	資源とごみの分別方法に関する情報提供の充実	買い物袋の持参	ごみ減量・資源化に関する情報提供の充実	小・中学校における環境学習の充実	環境問題(ごみ減量化・資源化)を学習できる場の提供や施設見学会の実施	生ごみ処理機等の購入	行政による住民説明会の開催	その他	無回答
全体		1,672	58.7	28.9	24.3	20.6	15.7	9.6	8.3	8.1	2.2	4.6	2.5
性別	男性	752	60.9	25.7	23.9	19.3	16.4	9.3	9.0	6.9	2.5	6.1	3.1
	女性	887	57.2	31.6	25.0	21.6	15.0	9.8	7.4	9.1	1.9	3.2	2.0
年齢別	20歳未満	28	53.6	39.3	7.1	32.1	3.6	7.1	3.6	7.1	0.0	7.1	0.0
	20～29歳	153	48.4	32.0	30.7	24.8	13.1	7.2	6.5	8.5	0.7	3.3	2.0
	30～39歳	192	42.2	35.9	29.7	21.4	13.0	9.9	6.3	10.9	1.6	7.3	2.1
	40～49歳	277	52.0	36.1	27.8	13.0	15.9	10.5	9.4	10.5	1.4	4.7	1.8
	50～59歳	280	57.9	27.1	25.7	15.0	15.7	12.5	8.9	8.2	2.5	8.6	0.7
	60～69歳	267	64.4	25.1	22.5	21.0	22.1	10.1	9.0	6.4	3.0	3.7	1.5
	70～79歳	320	70.0	22.2	20.3	23.4	16.3	8.8	9.1	7.8	2.5	1.6	5.0
	80歳以上	148	72.3	24.3	18.2	31.1	10.8	5.4	6.8	4.1	4.1	2.7	4.7

(4) 河川整備への取組 (B: 問14)

問. 厚木市内の河川整備について、どのような取組が必要であると思いますか。

(1つだけ選んでください)

図9-4-1 河川整備への取組



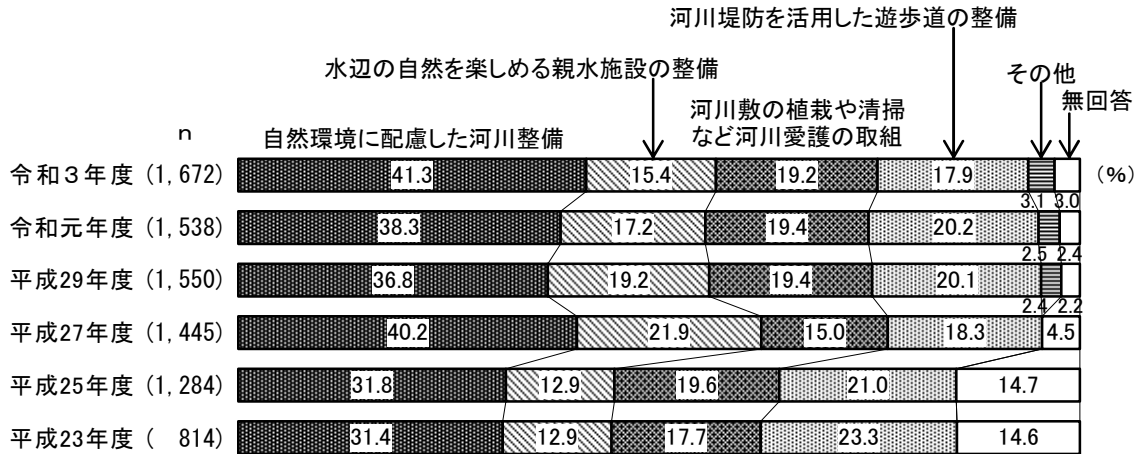
【全体】

河川整備への取組について聞いたところ、「自然環境に配慮した河川整備」(41.3%)が4割を超えて最も高く、次いで「河川敷の植栽や清掃など河川愛護の取組」(19.2%)、「河川堤防を活用した遊歩道の整備」(17.9%)、「水辺の自然を楽しめる親水施設の整備」(15.4%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「自然環境に配慮した河川整備」(41.3%)は令和元年度調査(38.3%)より3.0ポイント増加している。

図9-4-2 河川整備への取組—経年変化



(注1) 「河川敷の植栽や清掃など河川愛護の取組」は、平成27年度調査以前では「河川敷に植栽をしたり清掃をしたりするなど河川愛護の取組」としていた。

(注2) 平成29年度調査以降では、「その他」の選択肢を追加している。

(注3) 平成25年度調査以前では、「河川環境の整備がされていると感じることは何ですか。」と質問していた。

【属性別】

性別で見ると、大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、「自然環境に配慮した河川整備」は70～79歳（44.1%）で4割半ばと高くなっている。「水辺の自然を楽しむ親水施設の整備」は20～29歳（27.5%）で3割近くと高くなっている。「河川敷の植栽や清掃など河川愛護の取組」は20歳未満（32.1%）で3割を超えて高くなっている。

図9-4-3 河川整備への取組一性別、年齢別

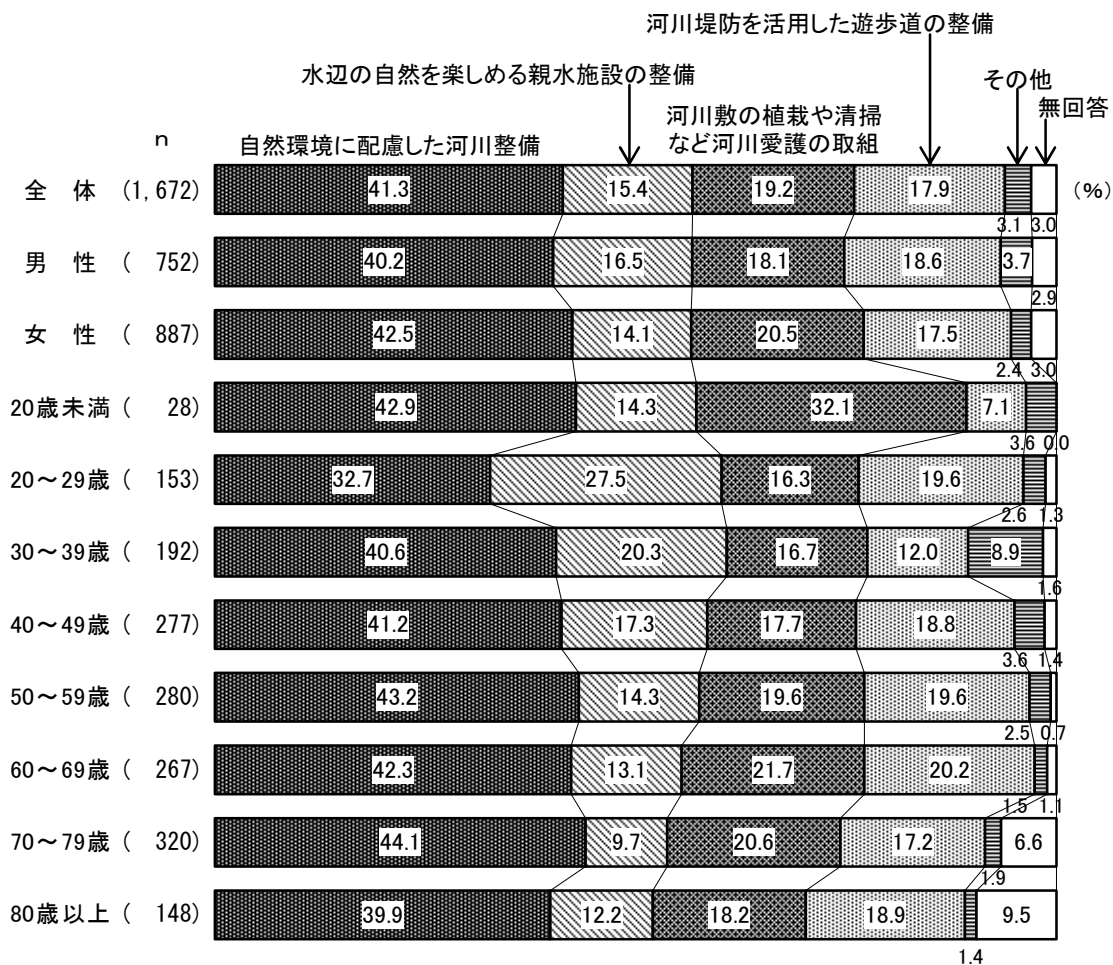
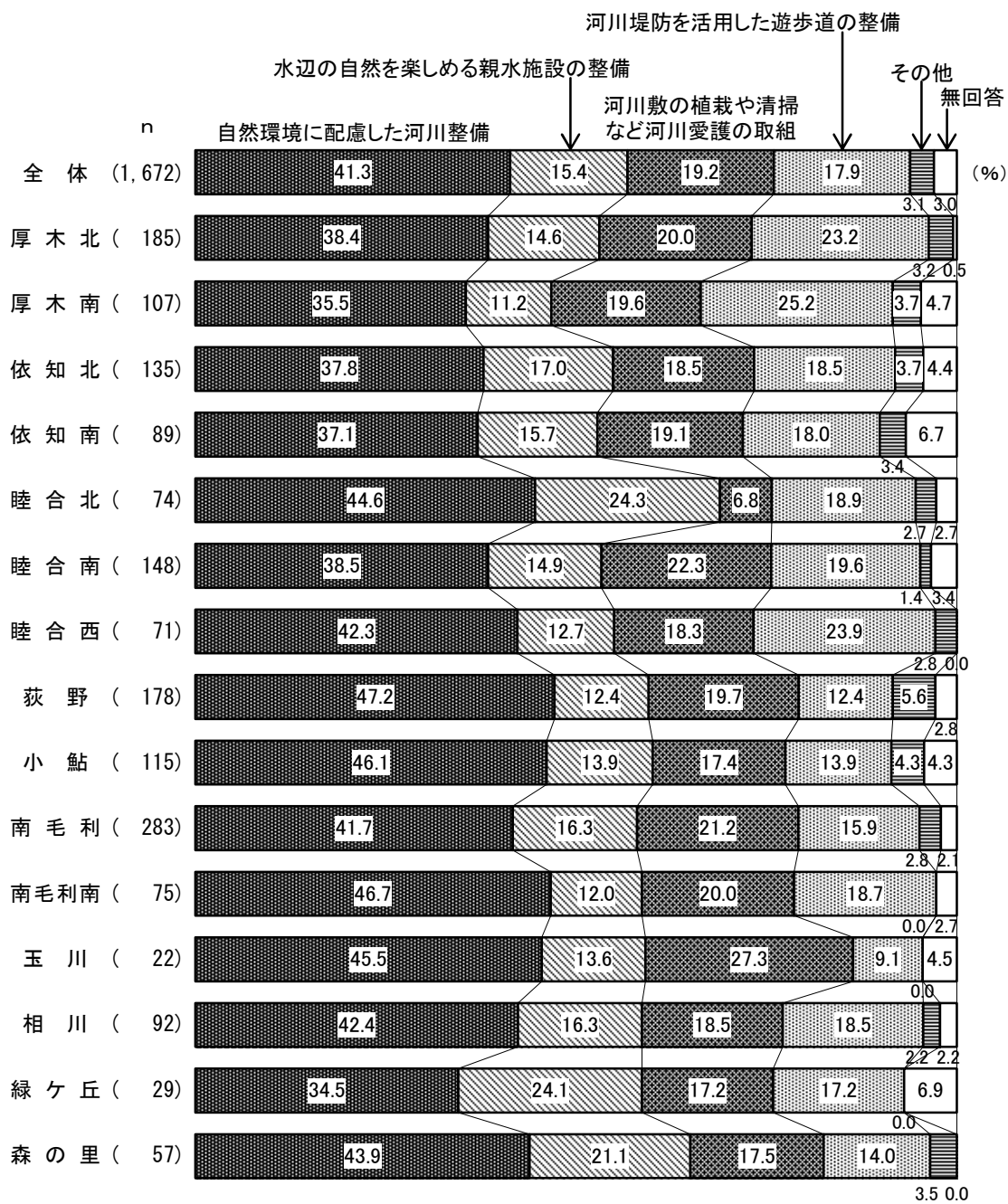


図9-4-4 河川整備への取組—居住地区別



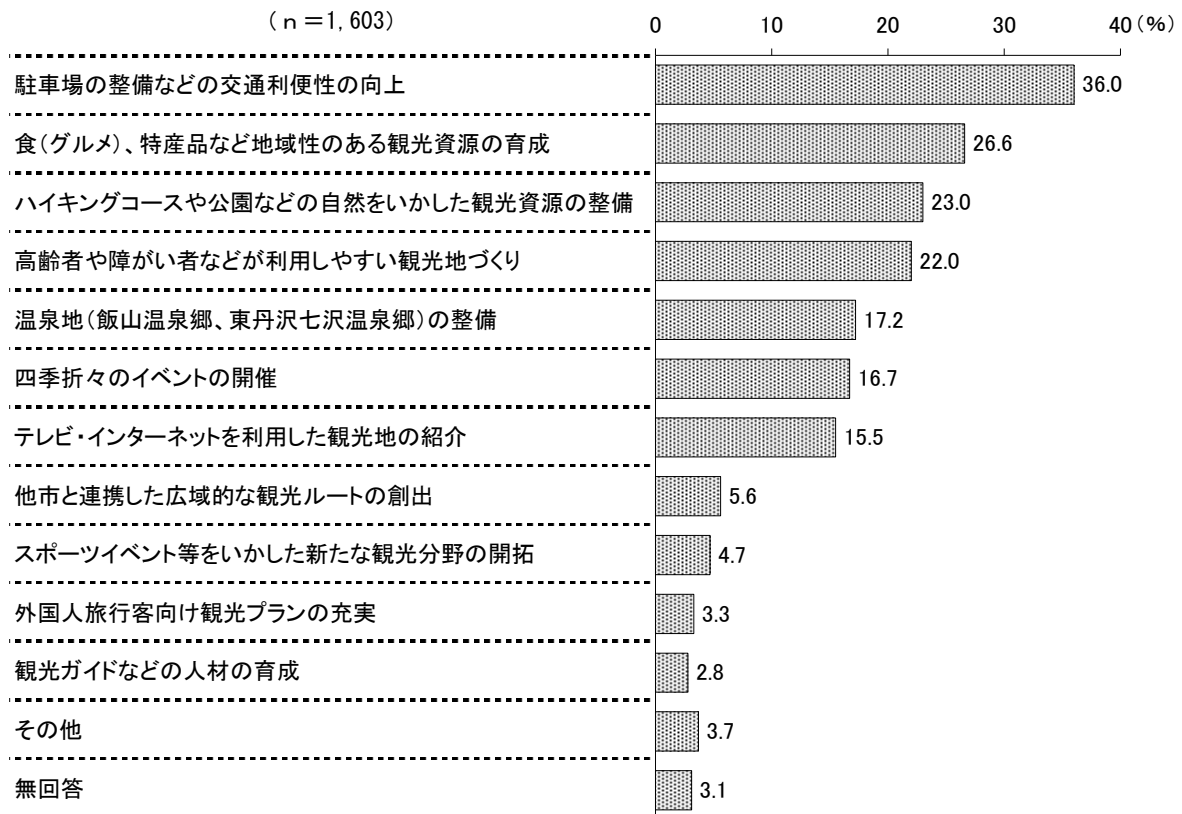
10 観光

(1) 観光の活性化への取組 (A: 問19)

問. 厚木市の観光の活性化には、どのような取組が重要であると思いますか。

(2つまで選んでください)

図10-1-1 観光の活性化への取組



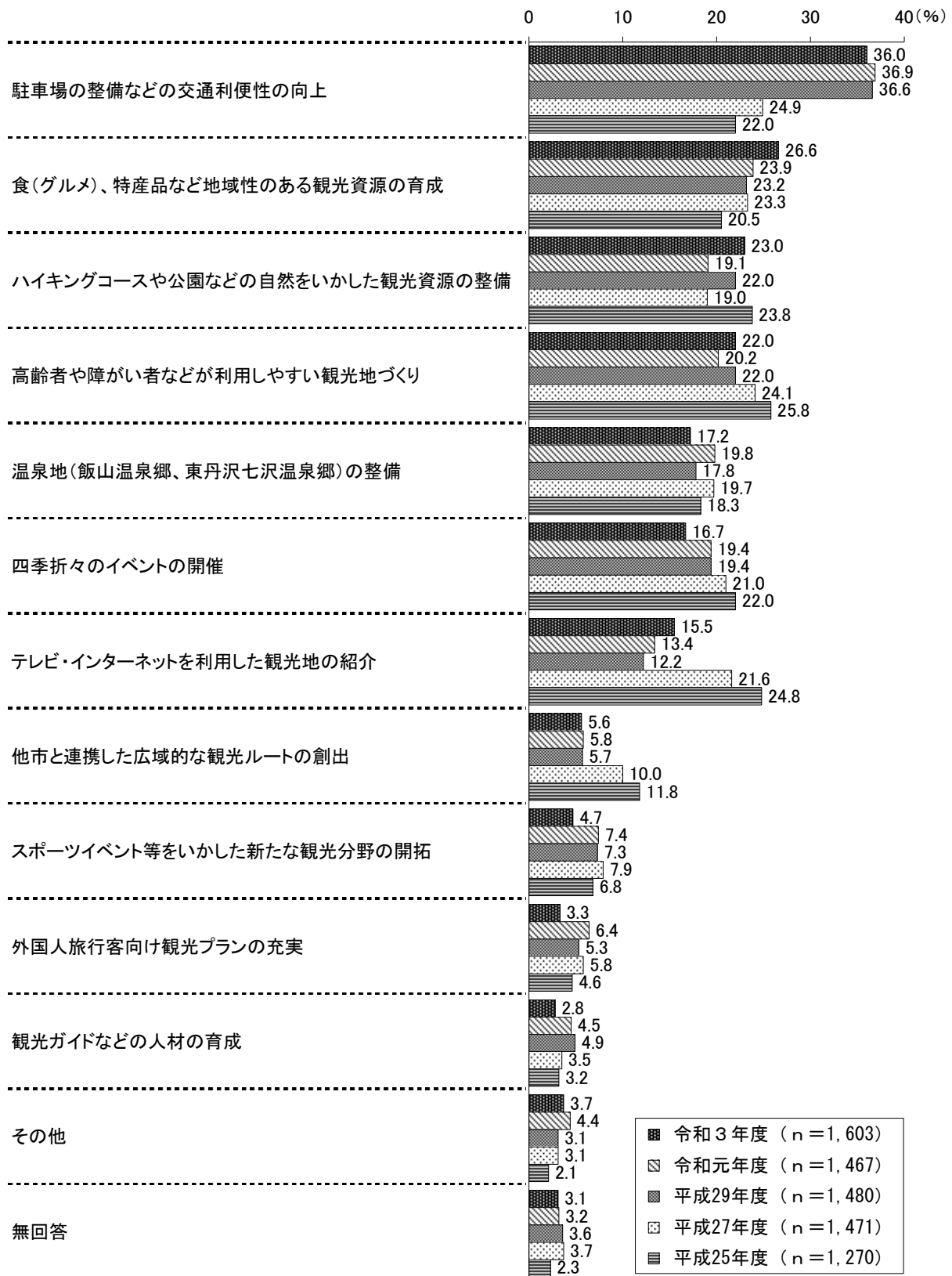
【全体】

観光の活性化への取組について聞いたところ、「駐車場の整備などの交通利便性の向上」(36.0%)が3割半ばを超えて最も高く、次いで「食(グルメ)、特産品など地域性のある観光資源の育成」(26.6%)、「ハイキングコースや公園などの自然をいかした観光資源の整備」(23.0%)、「高齢者や障がい者などが利用しやすい観光地づくり」(22.0%)、「温泉地(飯山温泉郷、東丹沢七沢温泉郷)の整備」(17.2%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「ハイキングコースや公園などの自然をいかした観光資源の整備」(23.0%)は令和元年度調査(19.1%)より3.9ポイント増加している。一方、「外国人旅行者向け観光プランの充実」(3.3%)は令和元年度調査(6.4%)より3.1ポイント減少している。

図10-1-2 観光の活性化への取組—経年変化



【属性別】

性別で見ると、男性では「温泉地（飯山温泉郷、東丹沢七沢温泉郷）の整備」（20.8%）が女性（14.0%）より6.8ポイント高くなっている。一方、女性では「高齢者や障がい者などが利用しやすい観光地づくり」（24.2%）が男性（19.7%）より4.5ポイント、「四季折々のイベントの開催」（18.4%）が男性（14.9%）より3.5ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「駐車場の整備などの交通利便性の向上」は20～29歳（45.0%）で4割半ばと高くなっている。「食（グルメ）、特産品など地域性のある観光資源の育成」は30～39歳（34.9%）で3割半ばと高くなっている。「高齢者や障がい者などが利用しやすい観光地づくり」は80歳以上（47.5%）で5割近くと高くなっている。

表10-1-1 観光の活性化への取組—性別、年齢別

		n	上駐車場の整備などの交通利便性の向上	食（グルメ）、特産品など地域性のある観光資源の育成	ハイキングコースや公園などの自然をいかした観光資源の整備	高齢者や障がい者などが利用しやすい観光地づくり	温泉地（飯山温泉郷、東丹沢七沢温泉郷）の整備	四季折々のイベントの開催	テレビ・インターネットを利用した観光地の紹介	他市と連携した広域的な観光ルートの創出	外国人旅行者向け観光プランの充実	観光ガイドなどの人材の育成	その他	無回答	
全体		1,603	36.0	26.6	23.0	22.0	17.2	16.7	15.5	5.6	4.7	3.3	2.8	3.7	3.1
性別	男性	727	35.9	28.2	23.8	19.7	20.8	14.9	16.5	6.1	5.8	3.7	2.9	3.9	2.1
	女性	858	35.7	25.5	22.4	24.2	14.0	18.4	14.8	5.2	3.7	2.9	2.8	3.7	4.0
年齢別	20歳未満	29	37.9	24.1	20.7	6.9	24.1	24.1	13.8	6.9	3.4	10.3	0.0	10.3	0.0
	20～29歳	129	45.0	32.6	18.6	10.9	16.3	14.7	18.6	3.9	4.7	5.4	2.3	3.1	1.6
	30～39歳	166	38.0	34.9	20.5	10.2	21.1	19.9	17.5	6.0	3.6	4.8	1.2	3.6	1.2
	40～49歳	236	40.7	32.2	25.0	14.8	19.1	11.0	17.8	5.1	6.8	3.8	4.7	2.5	0.4
	50～59歳	273	37.7	33.0	20.1	17.2	21.2	17.2	13.9	3.7	5.1	2.9	2.9	6.2	0.7
	60～69歳	275	31.3	24.4	30.9	22.9	16.4	22.5	15.3	6.5	3.6	2.5	3.3	2.5	1.8
	70～79歳	333	33.0	22.8	24.3	30.0	13.8	16.5	14.4	6.0	4.5	2.4	2.4	3.0	5.4
	80歳以上	158	30.4	7.0	15.2	47.5	12.0	11.4	13.3	7.6	5.1	1.9	2.5	4.4	11.4

11 まちづくり

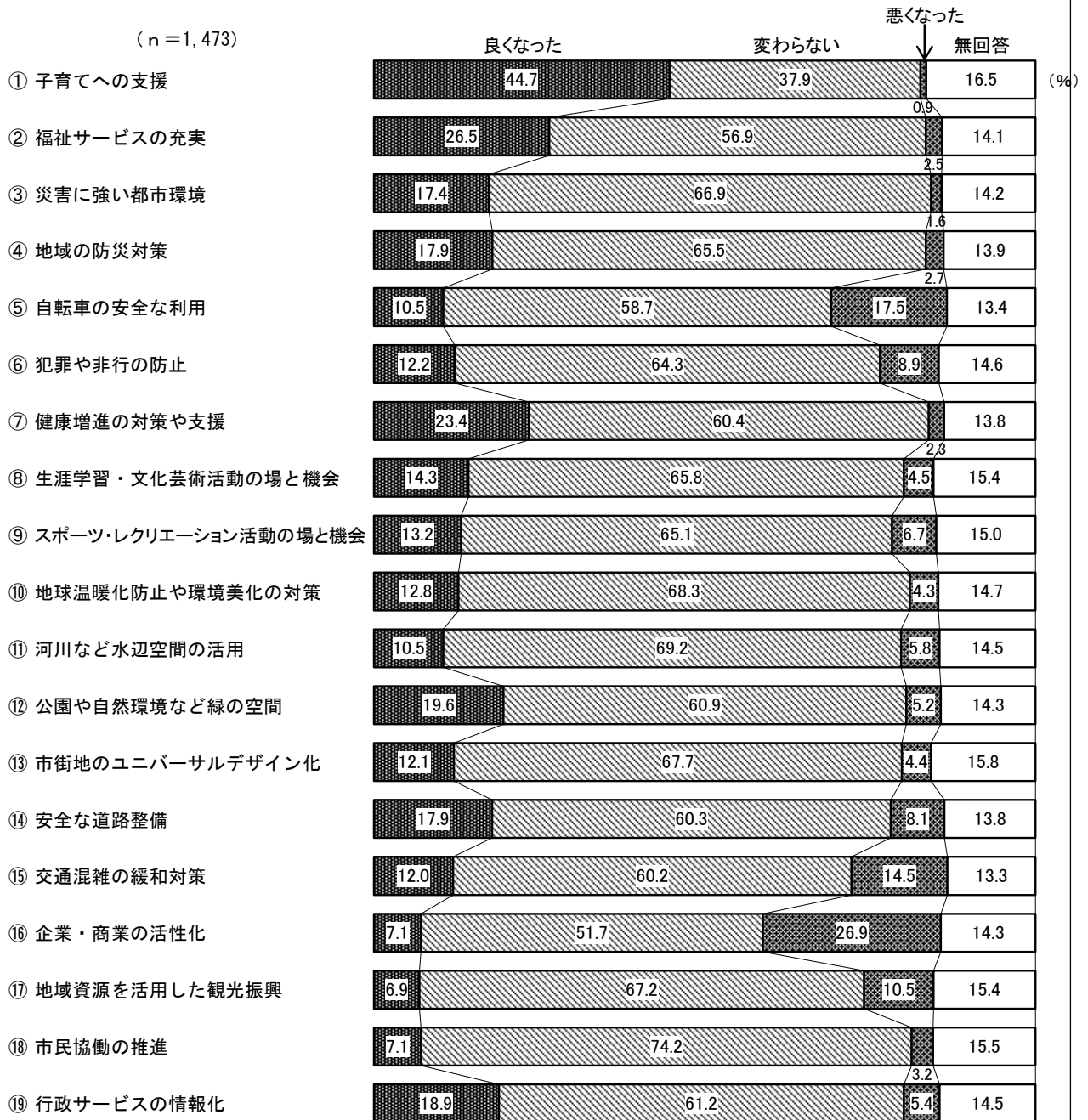
(1) まちづくり全般の変化 (B:問15)

問. まちづくり全般の変化について、おおむね5年前と比べてどう感じますか。

(①～⑱について、それぞれ1つだけ選んでください。)

転入されて5年未満の方は、次の設問へお進みください。

図11-1-1 まちづくり全般の変化



【全体】

厚木市内に5年以上住んでいると答えた1,473人に、5年前と比べたまちづくり全般の変化について19項目に分けて聞いたところ、「良くなった」が最も高いのは「①子育てへの支援」(44.7%)で4割半ばとなっており、次いで「②福祉サービスの充実」(26.5%)、「⑦健康増進の対策や支援」(23.4%)、「⑫公園や自然環境など緑の空間」(19.6%)、「⑲行政サービスの情報化」(18.9%)となっている。

一方、「悪くなった」が最も高いのは「⑯企業・商業の活性化」(26.9%)で2割半ばを超えており、次いで「⑤自転車の安全な利用」(17.5%)、「⑮交通混雑の緩和対策」(14.5%)、「⑰地域資源を活用した観光振興」(10.5%)、「⑥犯罪や非行の防止」(8.9%)となっている。

また、「変わらない」が最も高いのは「⑱市民協働の推進」(74.2%)が7割半ばで、次いで「⑪河川など水辺空間の活用」(69.2%)、「⑩地球温暖化防止や環境美化の対策」(68.3%)、「⑬市街地のユニバーサルデザイン化」(67.7%)、「⑰地域資源を活用した観光振興」(67.2%)となっている。

表11-1-1 まちづくり全般の変化－良くなったもの、変わらないもの、悪くなったもの
(上位5項目)

(n=1,473)

(%)

順位	良くなった		変わらない		悪くなった	
	項目	割合	項目	割合	項目	割合
1	①子育てへの支援	44.7	⑱市民協働の推進	74.2	⑯企業・商業の活性化	26.9
2	②福祉サービスの充実	26.5	⑪河川など水辺空間の活用	69.2	⑤自転車の安全な利用	17.5
3	⑦健康増進の対策や支援	23.4	⑩地球温暖化防止や環境美化の対策	68.3	⑮交通混雑の緩和対策	14.5
4	⑫公園や自然環境など緑の空間	19.6	⑬市街地のユニバーサルデザイン化	67.7	⑰地域資源を活用した観光振興	10.5
5	⑲行政サービスの情報化	18.9	⑰地域資源を活用した観光振興	67.2	⑥犯罪や非行の防止	8.9

【経年変化】

経年による変化を見ると、「良くなった」は、①子育てへの支援（44.7%）で令和元年度調査（39.6%）より5.1ポイント、⑩地球温暖化防止や環境美化の対策（12.8%）で令和元年度調査（8.7%）より4.1ポイント、③災害に強い都市環境（17.4%）で令和元年度調査（13.5%）より3.9ポイント、⑫公園や自然環境など緑の空間（19.6%）で令和元年度調査（16.2%）より3.4ポイント増加している。

図11-1-2 まちづくり全般の変化 ①子育てへの支援—経年変化

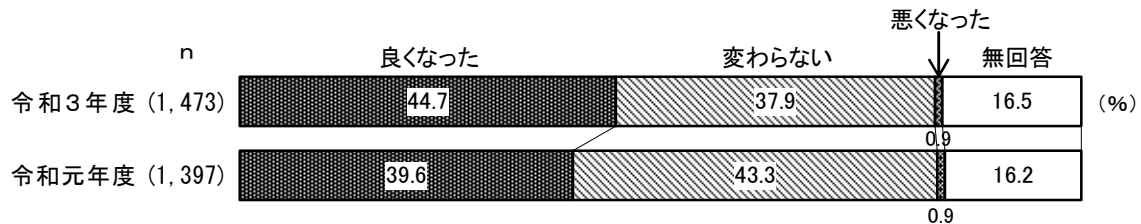


図11-1-3 まちづくり全般の変化 ②福祉サービスの充実—経年変化

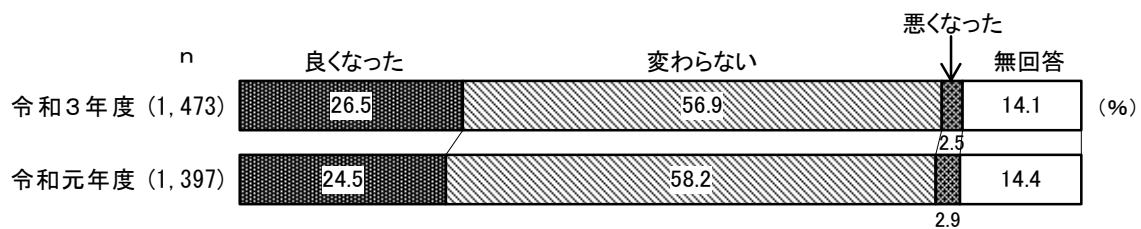


図11-1-4 まちづくり全般の変化 ③災害に強い都市環境—経年変化

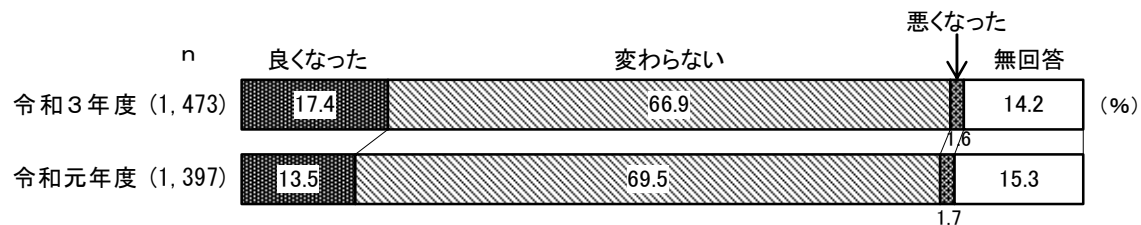


図11-1-5 まちづくり全般の変化 ④地域の防災対策—経年変化

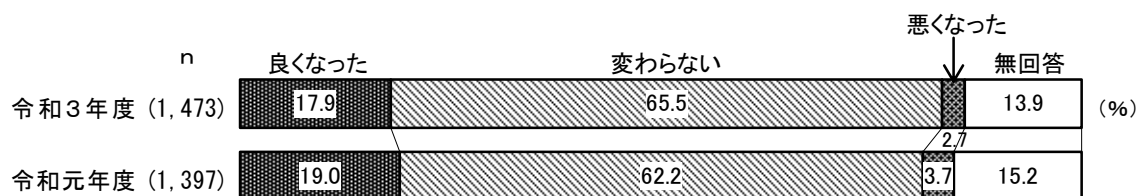
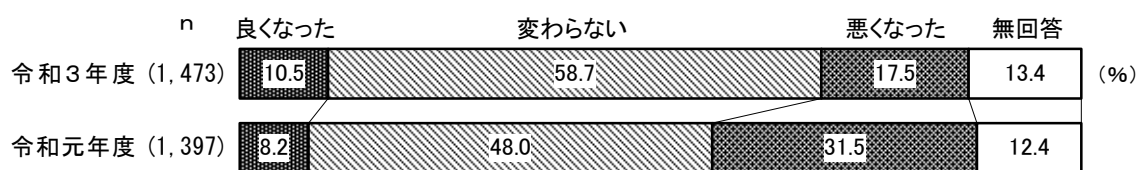


図11-1-6 まちづくり全般の変化 ⑤自転車の安全な利用一経年変化



(注) 令和元年度調査では、「自転車のマナー」として質問していた。

図11-1-7 まちづくり全般の変化 ⑥犯罪や非行の防止一経年変化

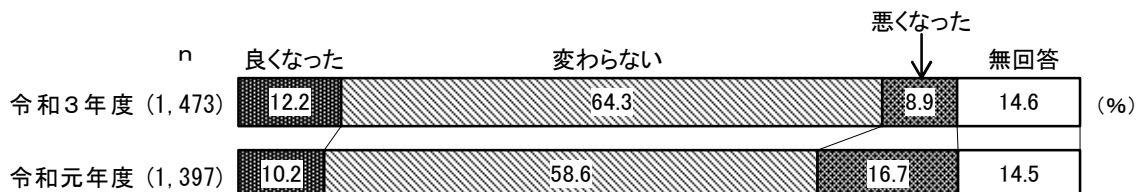


図11-1-8 まちづくり全般の変化 ⑦健康増進の対策や支援一経年変化

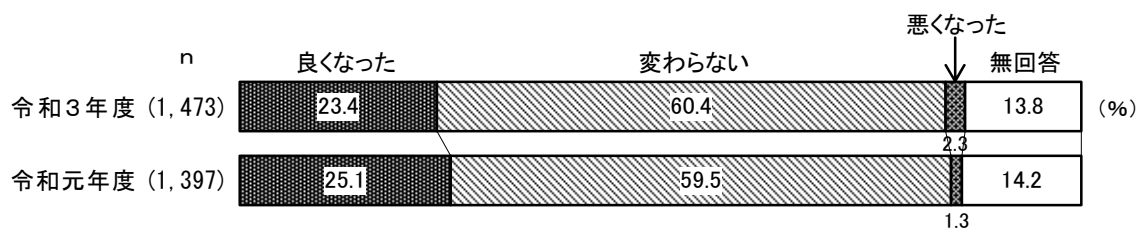


図11-1-9 まちづくり全般の変化 ⑧生涯学習・文化芸術活動の場と機会一経年変化

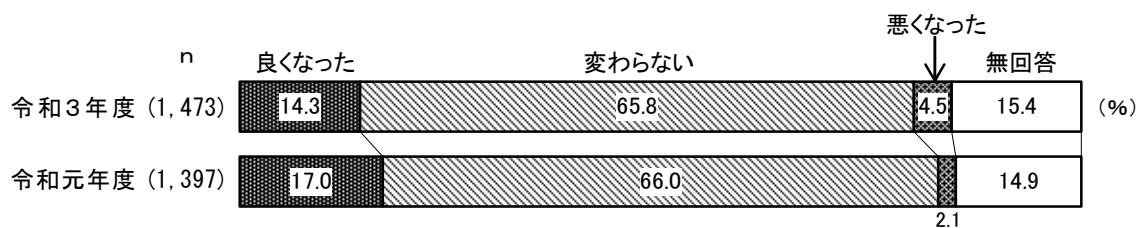


図11-1-10 まちづくり全般の変化 ⑨スポーツ・レクリエーション活動の場と機会一経年変化

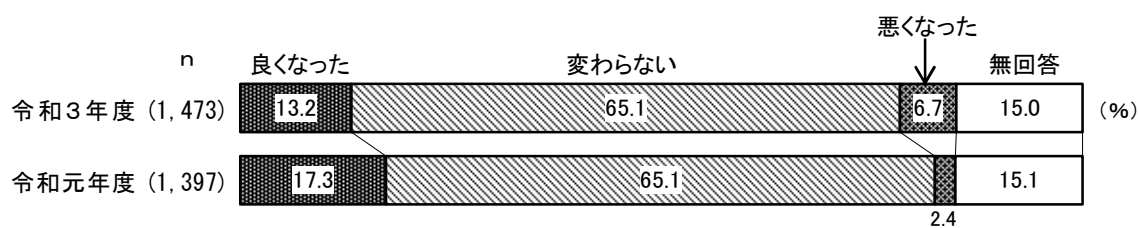


図11-1-11 まちづくり全般の変化 ⑩地球温暖化防止や環境美化の対策一経年変化

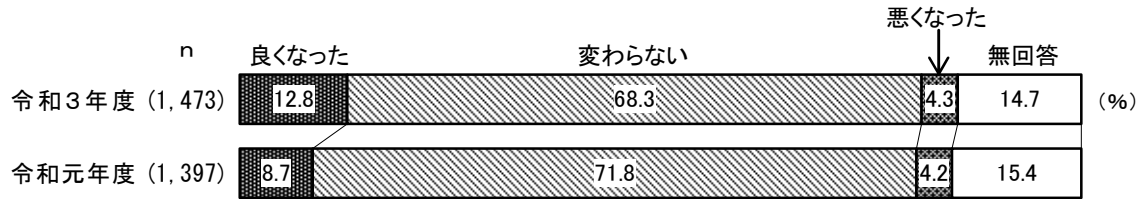


図11-1-12 まちづくり全般の変化 ⑪河川など水辺空間の活用一経年変化

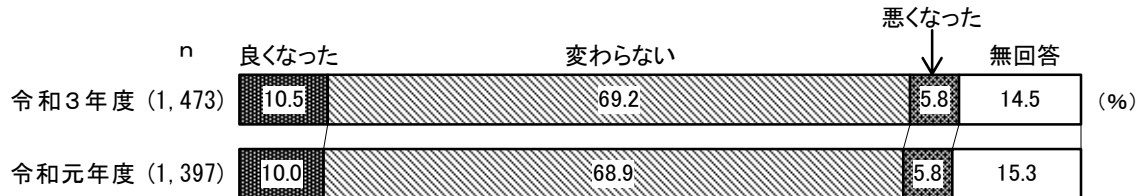


図11-1-13 まちづくり全般の変化 ⑫公園や自然環境など緑の空間一経年変化

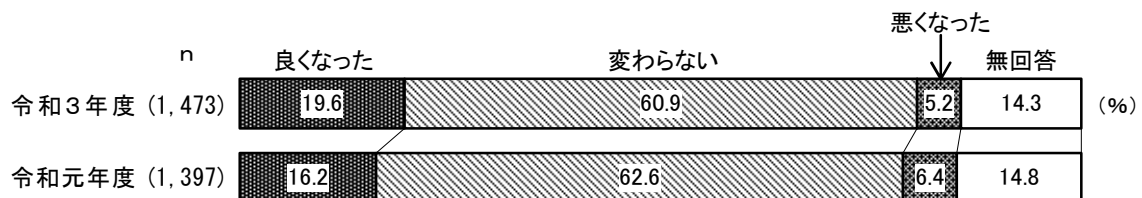


図11-1-14 まちづくり全般の変化 ⑬市街地のユニバーサルデザイン化一経年変化

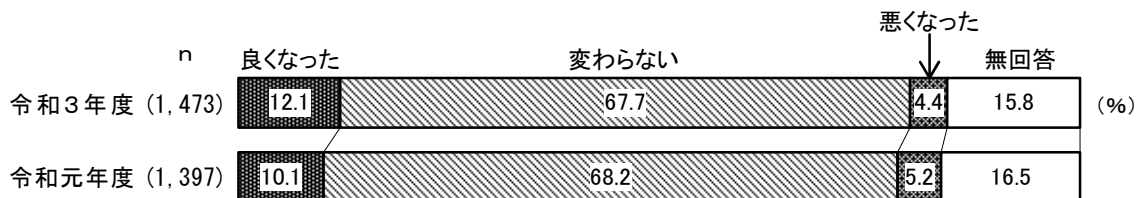


図11-1-15 まちづくり全般の変化 ⑭安全な道路整備一経年変化

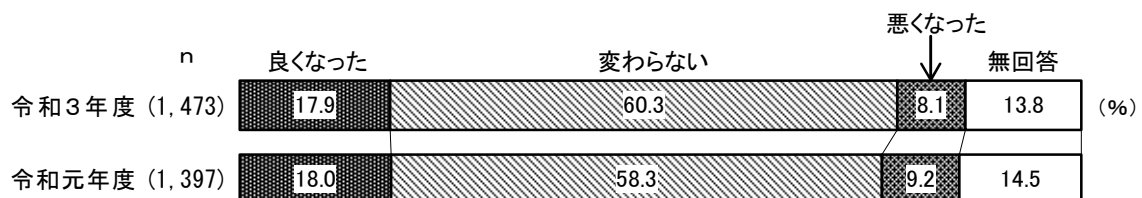
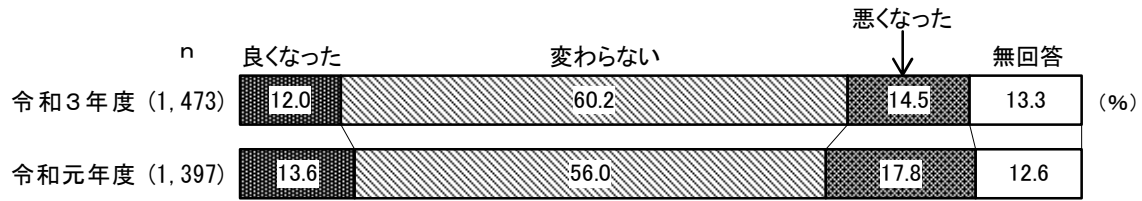


図11-1-16 まちづくり全般の変化 ⑮交通混雑の緩和対策一経年変化



(注) 令和元年度調査では、「交通渋滞の緩和対策」として質問していた。

図11-1-17 まちづくり全般の変化 ⑯企業・商業の活性化一経年変化

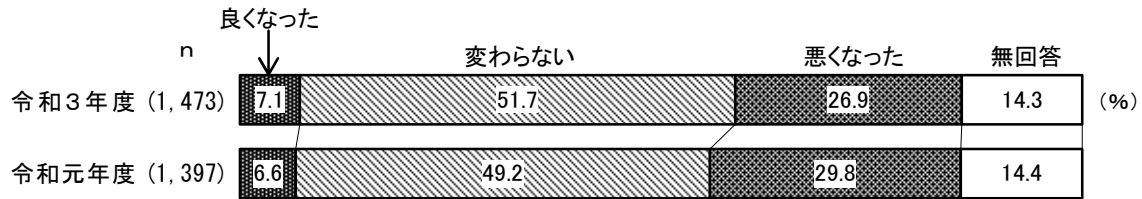


図11-1-18 まちづくり全般の変化 ⑰地域資源を活用した観光振興一経年変化

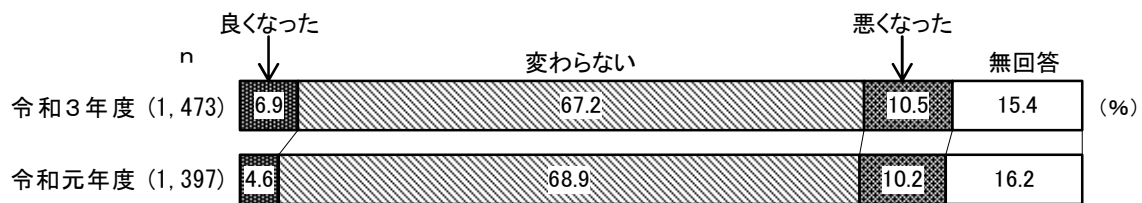


図11-1-19 まちづくり全般の変化 ⑱市民協働の推進一経年変化

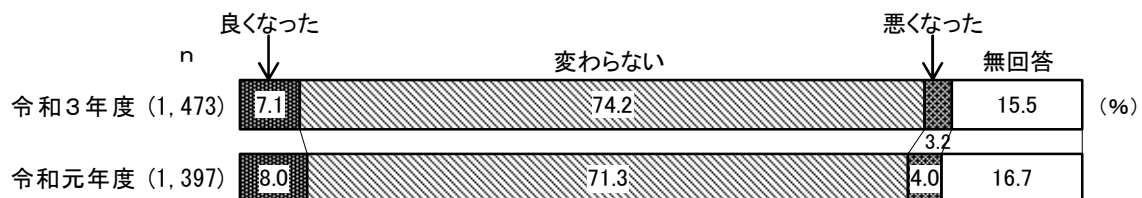
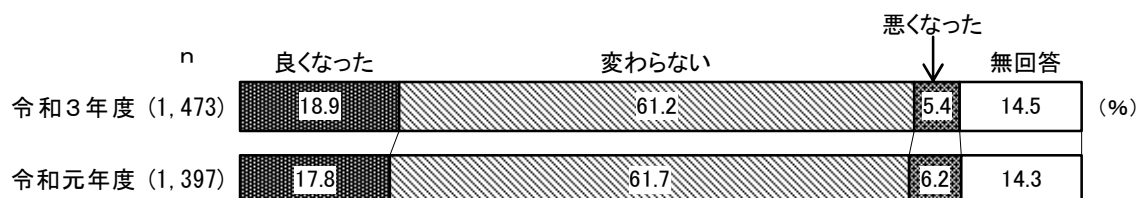


図11-1-20 まちづくり全般の変化 ⑲行政サービスの情報化一経年変化

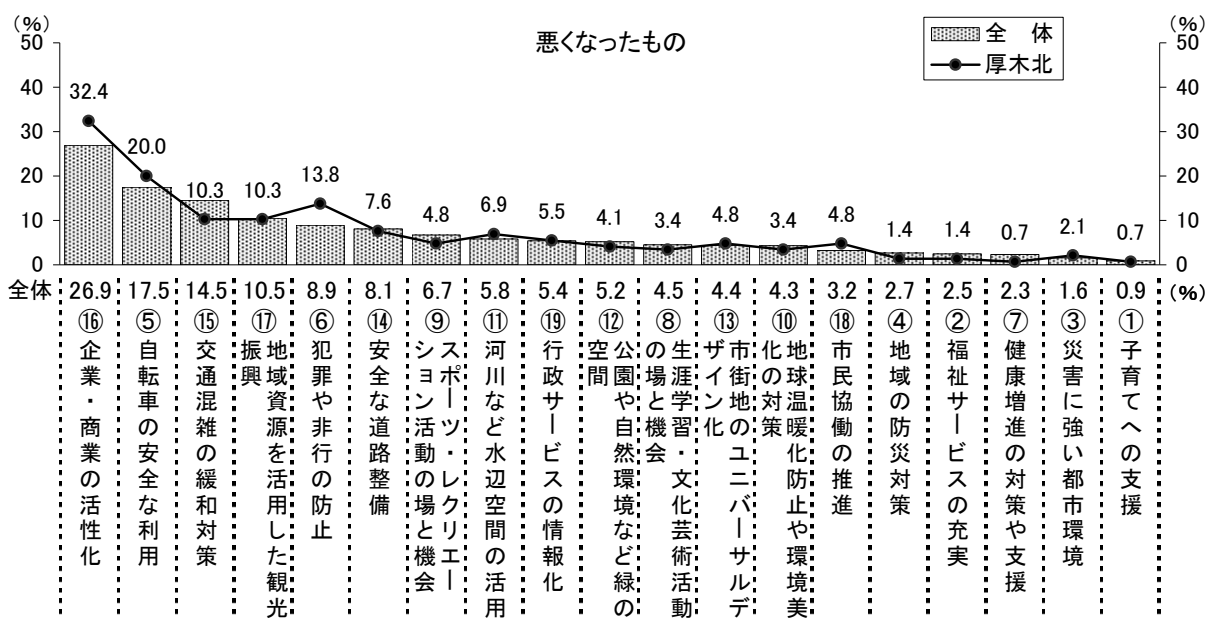
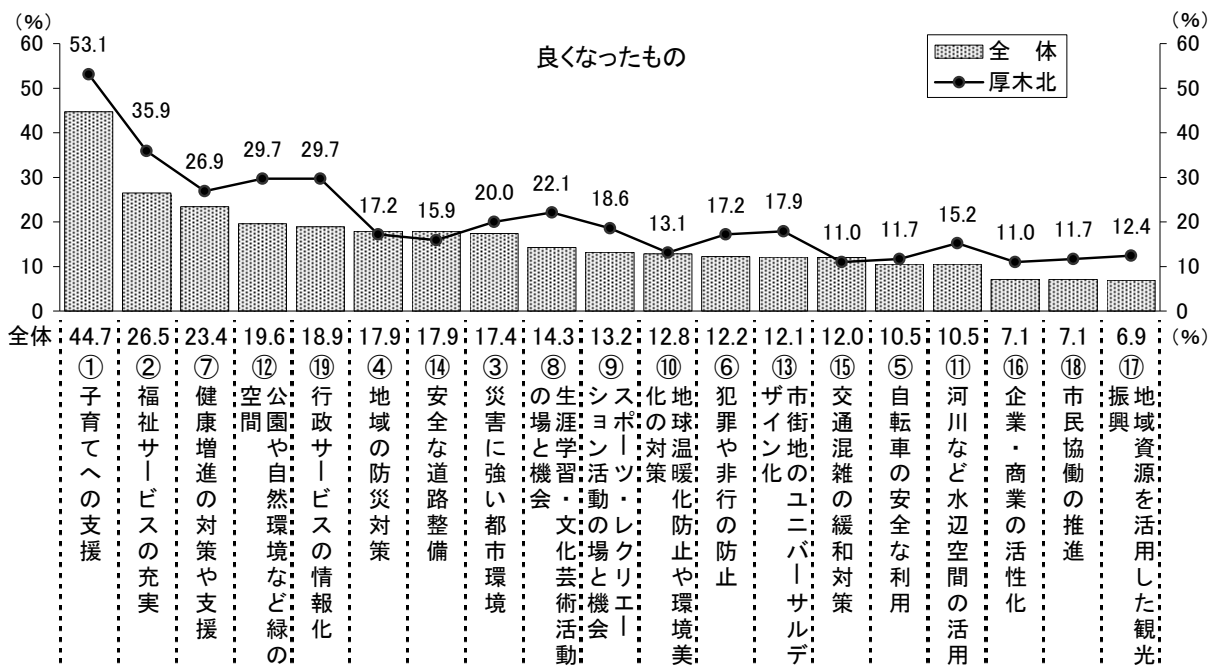


【地区ごとの傾向】〔厚木北地区〕

「良くなったもの」では、「⑱行政サービスの情報化」(29.7%)が全体(18.9%)と比べて10.8ポイント、「⑫公園や自然環境など緑の空間」(29.7%)が全体(19.6%)と比べて10.1ポイント、「②福祉サービスの充実」(35.9%)が全体(26.5%)と比べて9.4ポイント高くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑯企業・商業の活性化」(32.4%)が全体(26.9%)と比べて5.5ポイント、「⑥犯罪や非行の防止」(13.8%)が全体(8.9%)と比べて4.9ポイント高くなっている。

図11-1-21 まちづくり全般の変化－厚木北地区

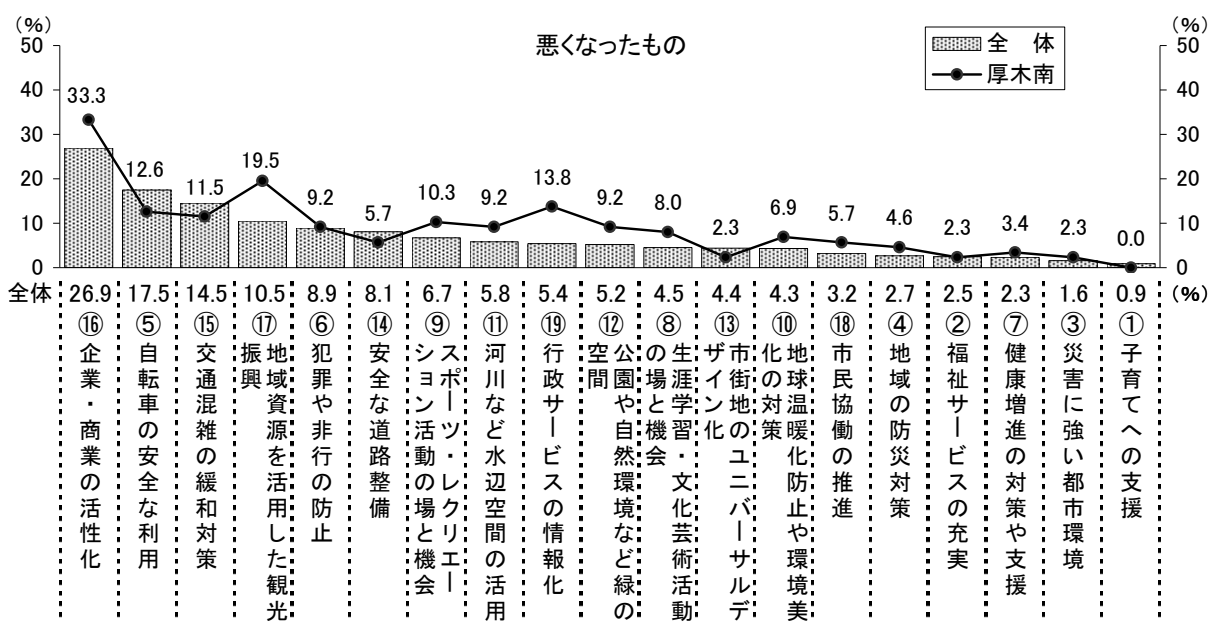
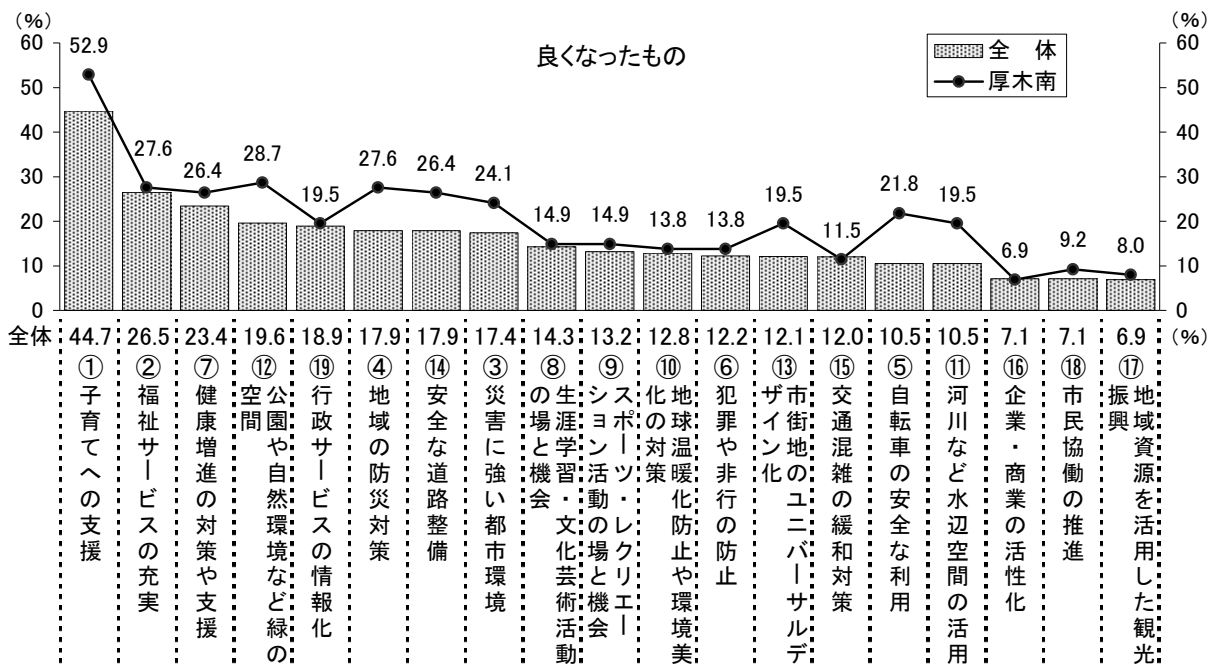


【地区ごとの傾向】〔厚木南地区〕

「良くなったもの」では、「⑤自転車の安全な利用」(21.8%)が全体(10.5%)と比べて11.3ポイント、「④地域の防災対策」(27.6%)が全体(17.9%)と比べて9.7ポイント、「⑫公園や自然環境など緑の空間」(28.7%)が全体(19.6%)と比べて9.1ポイント高くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑰地域資源を活用した観光振興」(19.5%)が全体(10.5%)と比べて9.0ポイント、「⑱行政サービスの情報化」(13.8%)が全体(5.4%)と比べて8.4ポイント、「⑯企業・商業の活性化」(33.3%)が全体(26.9%)と比べて6.4ポイント高くなっている。

図11-1-22 まちづくり全般の変化－厚木南地区

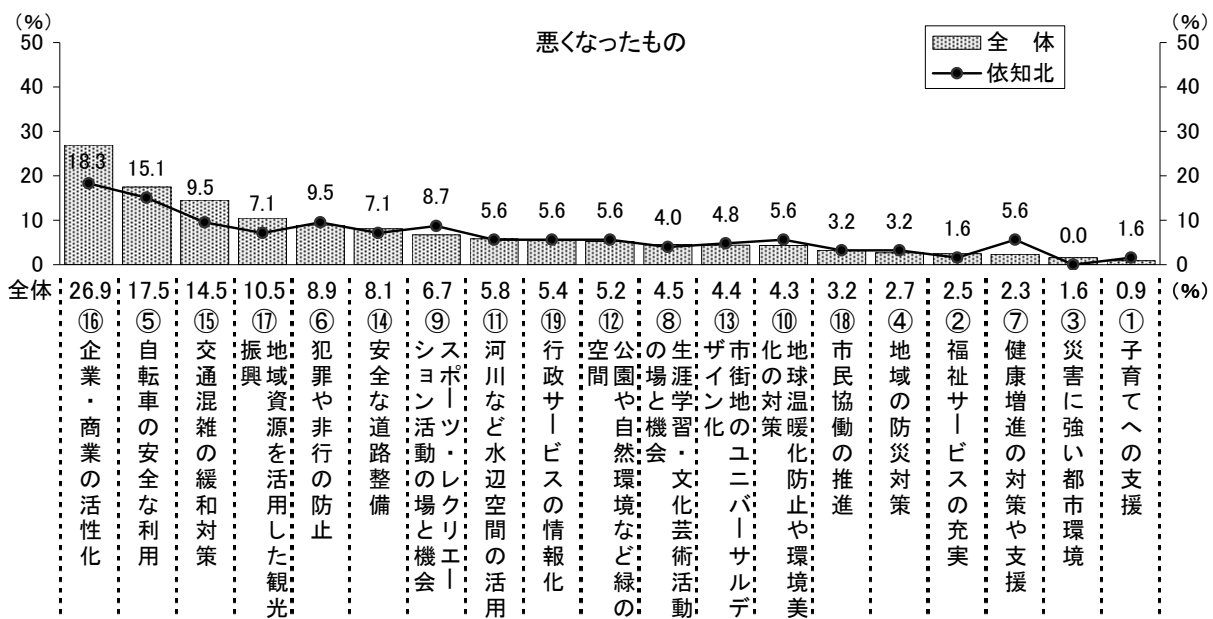
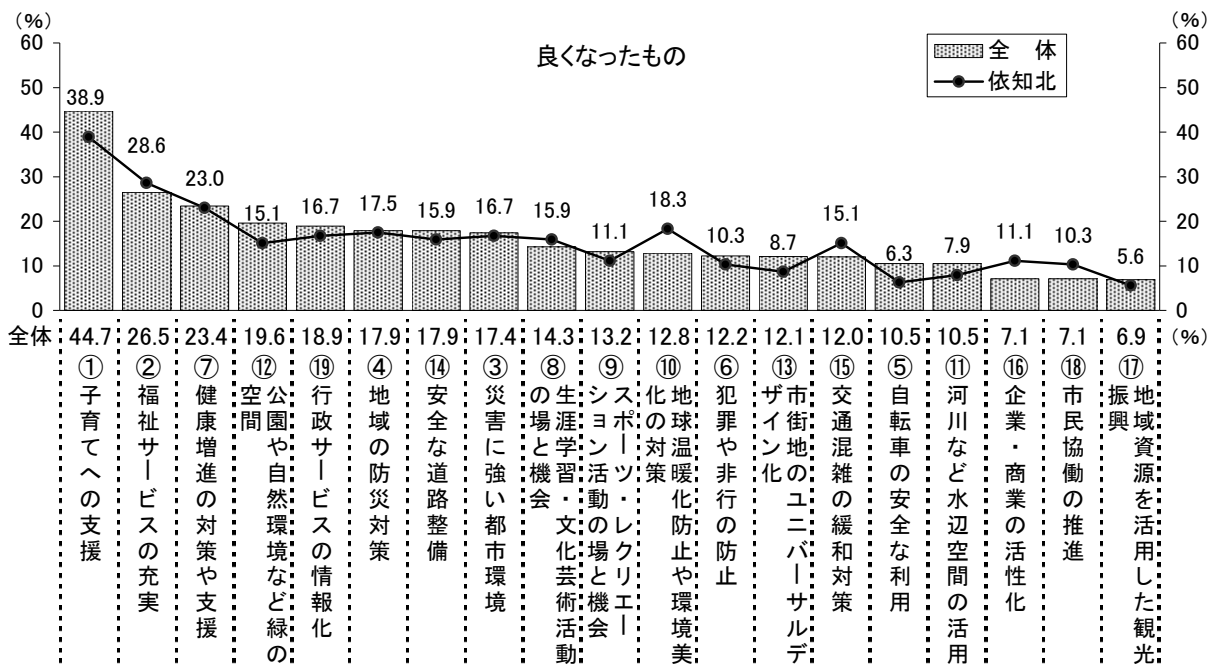


【地区ごとの傾向】〔依知北地区〕

「良くなったもの」では、「⑩地球温暖化防止や環境美化の対策」(18.3%)が全体(12.8%)と比べて5.5ポイント、「⑯企業・商業の活性化」(11.1%)が全体(7.1%)と比べて4.0ポイント高くなっている。一方、「①子育てへの支援」(38.9%)が全体(44.7%)と比べて5.8ポイント、「⑫公園や自然環境など緑の空間」(15.1%)が全体(19.6%)と比べて4.5ポイント低くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑦健康増進の対策や支援」(5.6%)が全体(2.3%)と比べて3.3ポイント高くなっている。

図11-1-23 まちづくり全般の変化―依知北地区

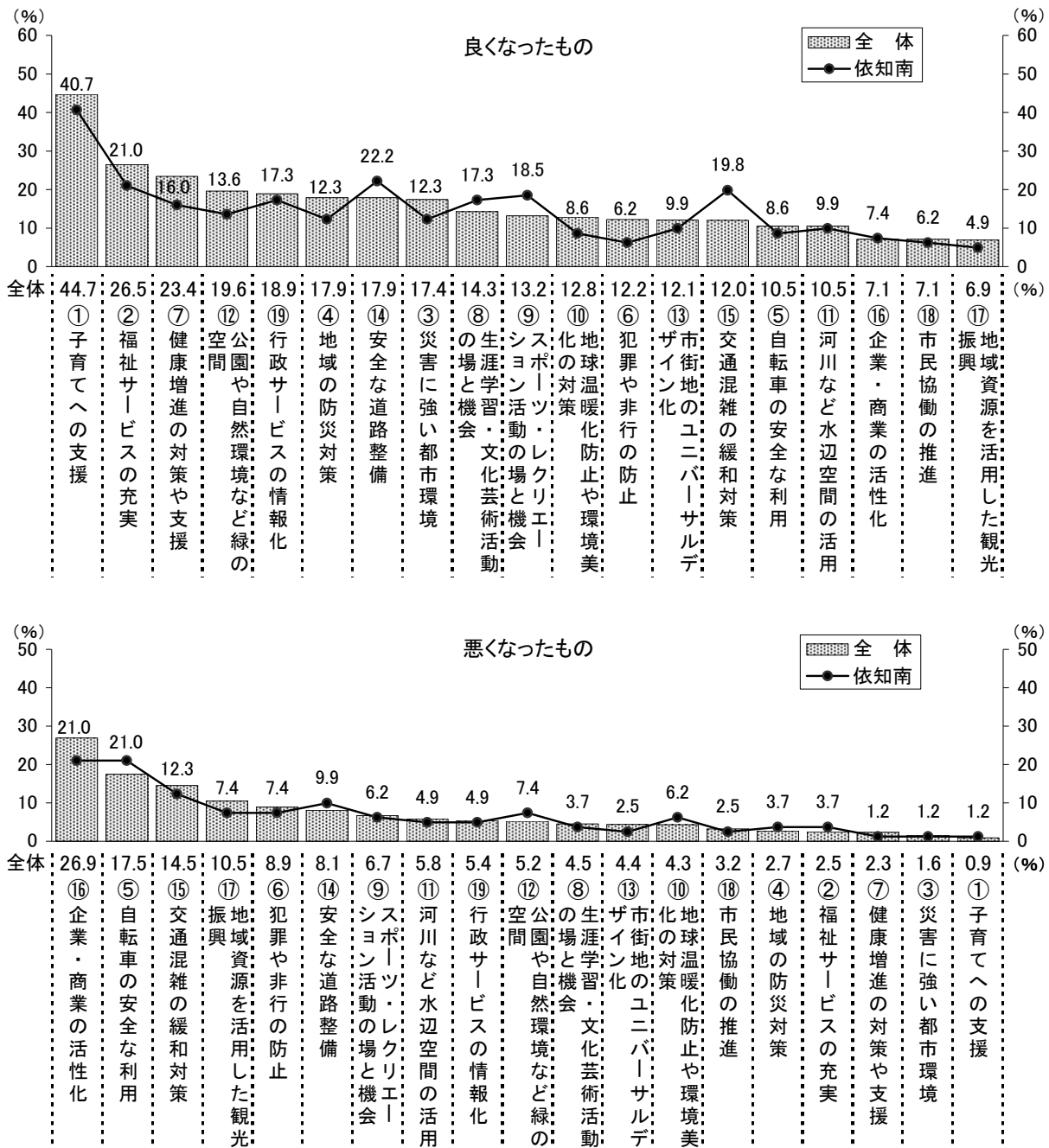


【地区ごとの傾向】〔依知南地区〕

「良くなったもの」では、「⑮交通混雑の緩和対策」(19.8%)が全体(12.0%)と比べて7.8ポイント、「⑨スポーツ・レクリエーション活動の場と機会」(18.5%)が全体(13.2%)と比べて5.3ポイント、「⑭安全な道路整備」(22.2%)が全体(17.9%)と比べて4.3ポイント高くなっている。一方、「⑦健康増進の対策や支援」(16.0%)が全体(23.4%)と比べて7.4ポイント、「⑥犯罪や非行の防止」(6.2%)が全体(12.2%)と比べて6.0ポイント、「⑫公園や自然環境など緑の空間」(13.6%)が全体(19.6%)と比べて6.0ポイント低くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑤自転車の安全な利用」(21.0%)が全体(17.5%)と比べて3.5ポイント高くなっている。

図11-1-24 まちづくり全般の変化－依知南地区

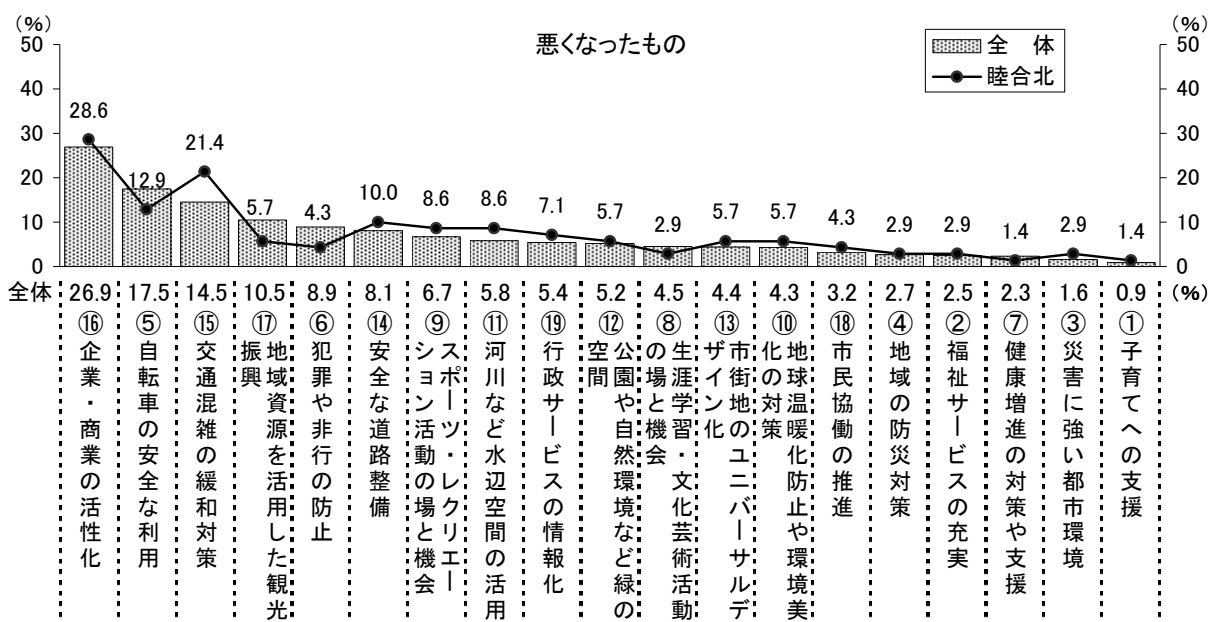
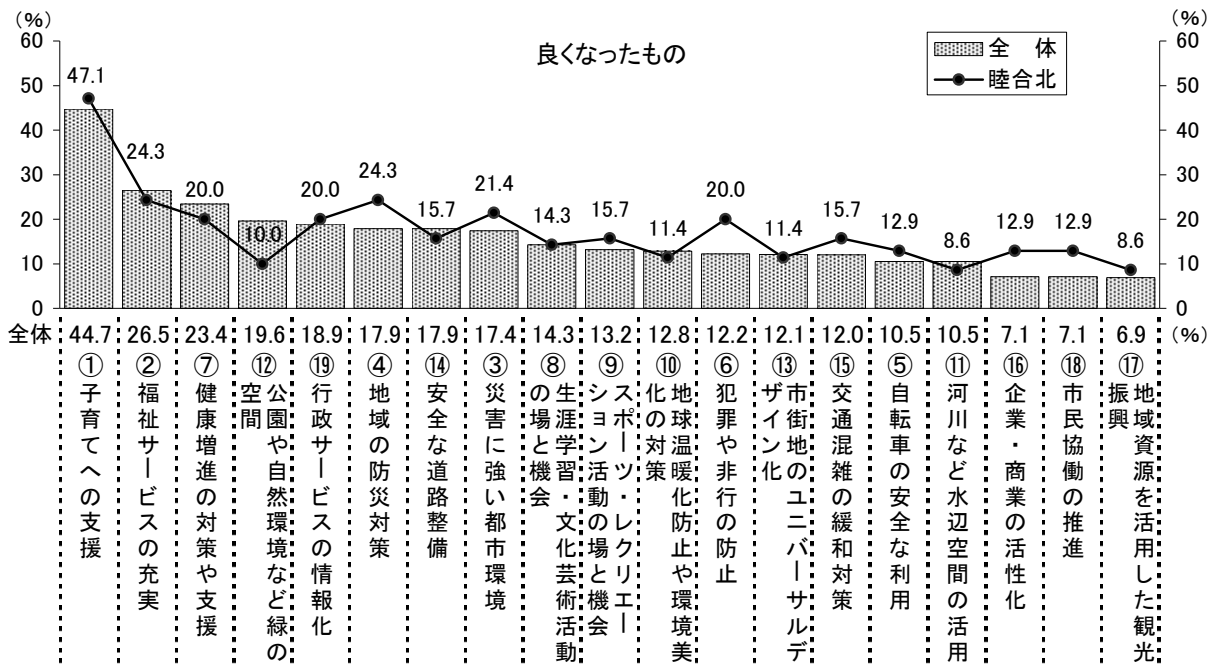


【地区ごとの傾向】〔睦合北地区〕

「良くなったもの」では、「⑥犯罪や非行の防止」(20.0%)が全体(12.2%)と比べて7.8ポイント、「④地域の防災対策」(24.3%)が全体(17.9%)と比べて6.4ポイント、「⑩企業・商業の活性化」(12.9%)が全体(7.1%)と比べて5.8ポイント、「⑩市民協働の推進」(12.9%)が全体(7.1%)と比べて5.8ポイント高くなっている。一方、「⑫公園や自然環境など緑の空間」(10.0%)が全体(19.6%)と比べて9.6ポイント低くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑮交通混雑の緩和対策」(21.4%)が全体(14.5%)と比べて6.9ポイント高くなっている。

図11-1-25 まちづくり全般の変化―睦合北地区

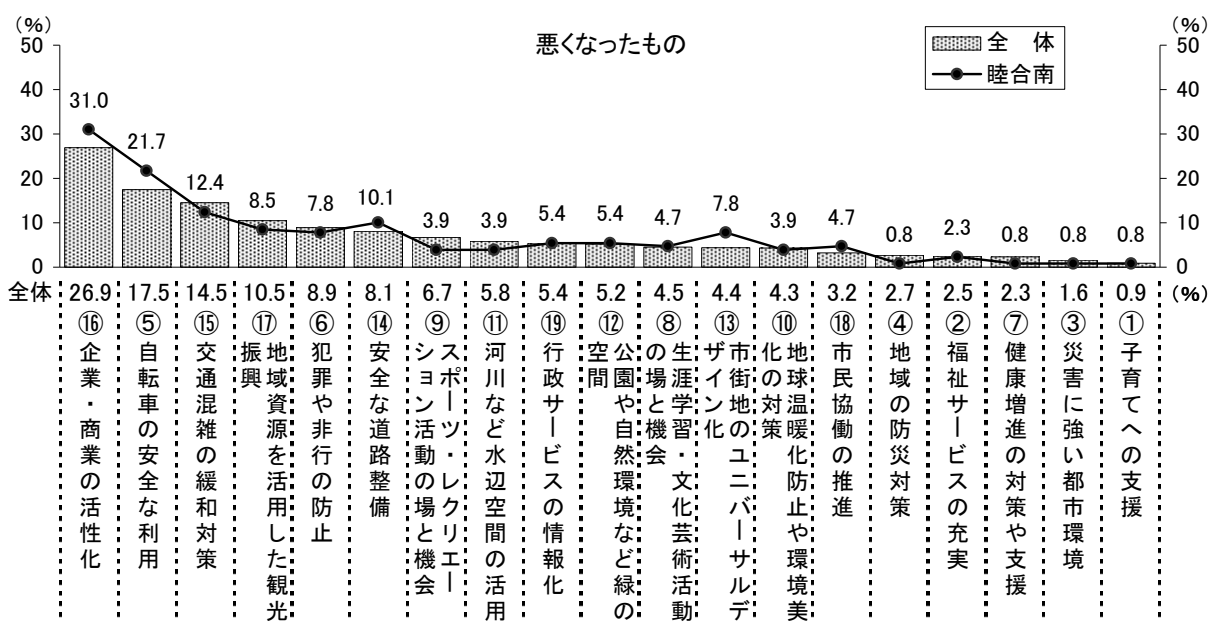
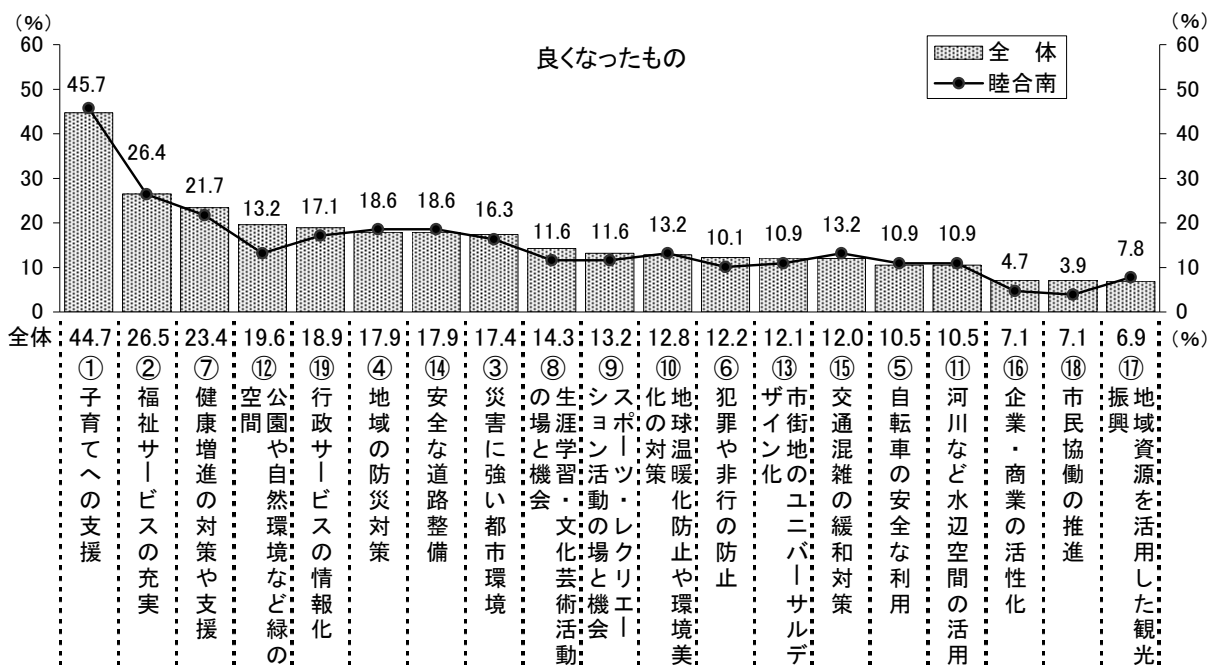


【地区ごとの傾向】〔睦合南地区〕

「良くなったもの」では、「⑫公園や自然環境など緑の空間」(13.2%)が全体(19.6%)と比べて6.4ポイント、「⑱市民協働の推進」(3.9%)が全体(7.1%)と比べて3.2ポイント低くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑤自転車の安全な利用」(21.7%)が全体(17.5%)と比べて4.2ポイント、「⑯企業・商業の活性化」(31.0%)が全体(26.9%)と比べて4.1ポイント、「⑬市街地のユニバーサルデザイン化」(7.8%)が全体(4.4%)と比べて3.4ポイント高くなっている。

図11-1-26 まちづくり全般の変化―睦合南地区

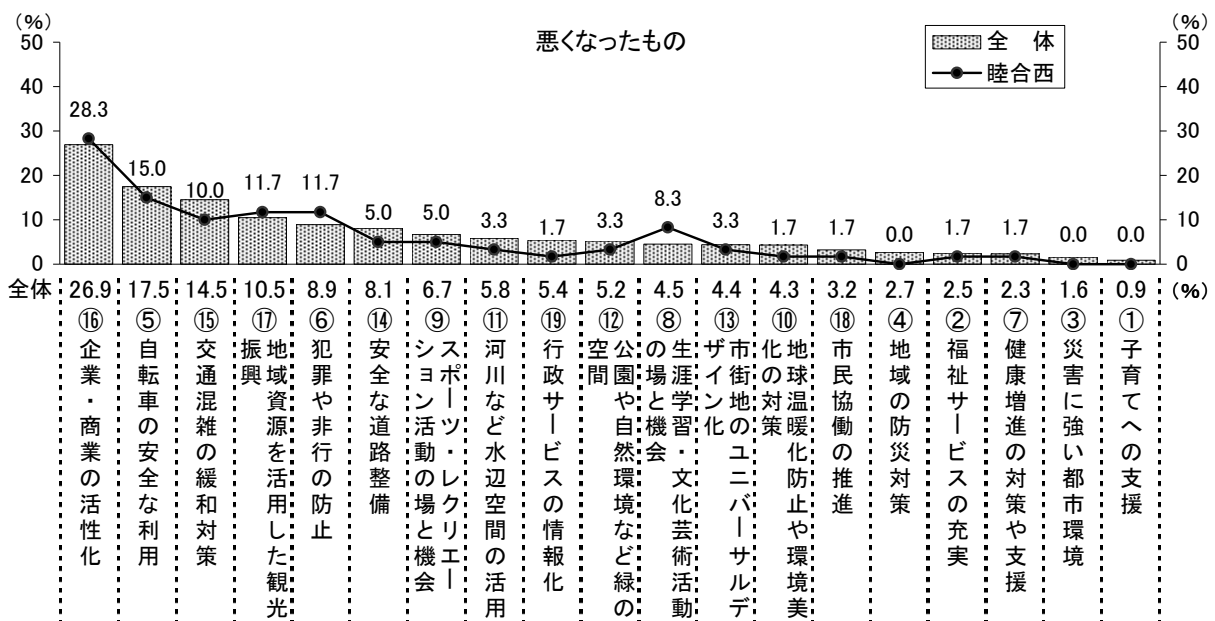
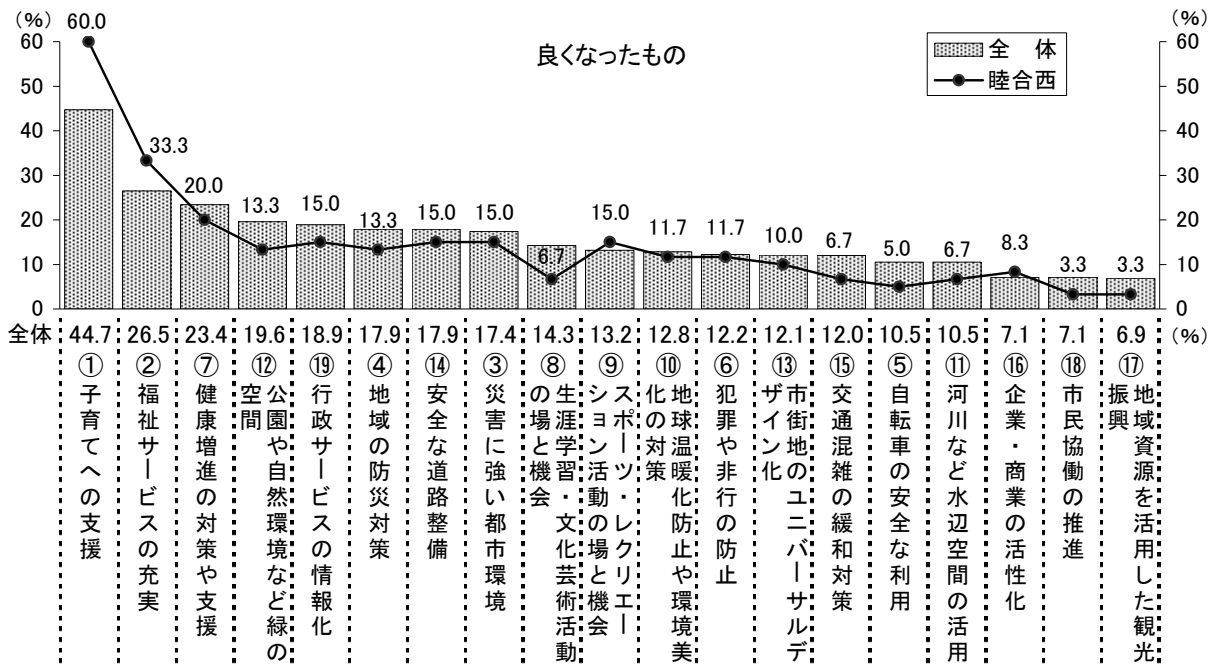


【地区ごとの傾向】〔睦合西地区〕

「良くなったもの」では、「①子育てへの支援」(60.0%)が全体(44.7%)と比べて15.3ポイント、「②福祉サービスの充実」(33.3%)が全体(26.5%)と比べて6.8ポイント高くなっている。一方、「⑧生涯学習・文化芸術活動の場と機会」(6.7%)が全体(14.3%)と比べて7.6ポイント、「⑫公園や自然環境など緑の空間」(13.3%)が全体(19.6%)と比べて6.3ポイント、「⑤自転車の安全な利用」(5.0%)が全体(10.5%)と比べて5.5ポイント、「⑮交通混雑の緩和対策」(6.7%)が全体(12.0%)と比べて5.3ポイント低くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑧生涯学習・文化芸術活動の場と機会」(8.3%)が全体(4.5%)と比べて3.8ポイント高くなっている。

図11-1-27 まちづくり全般の変化―睦合西地区

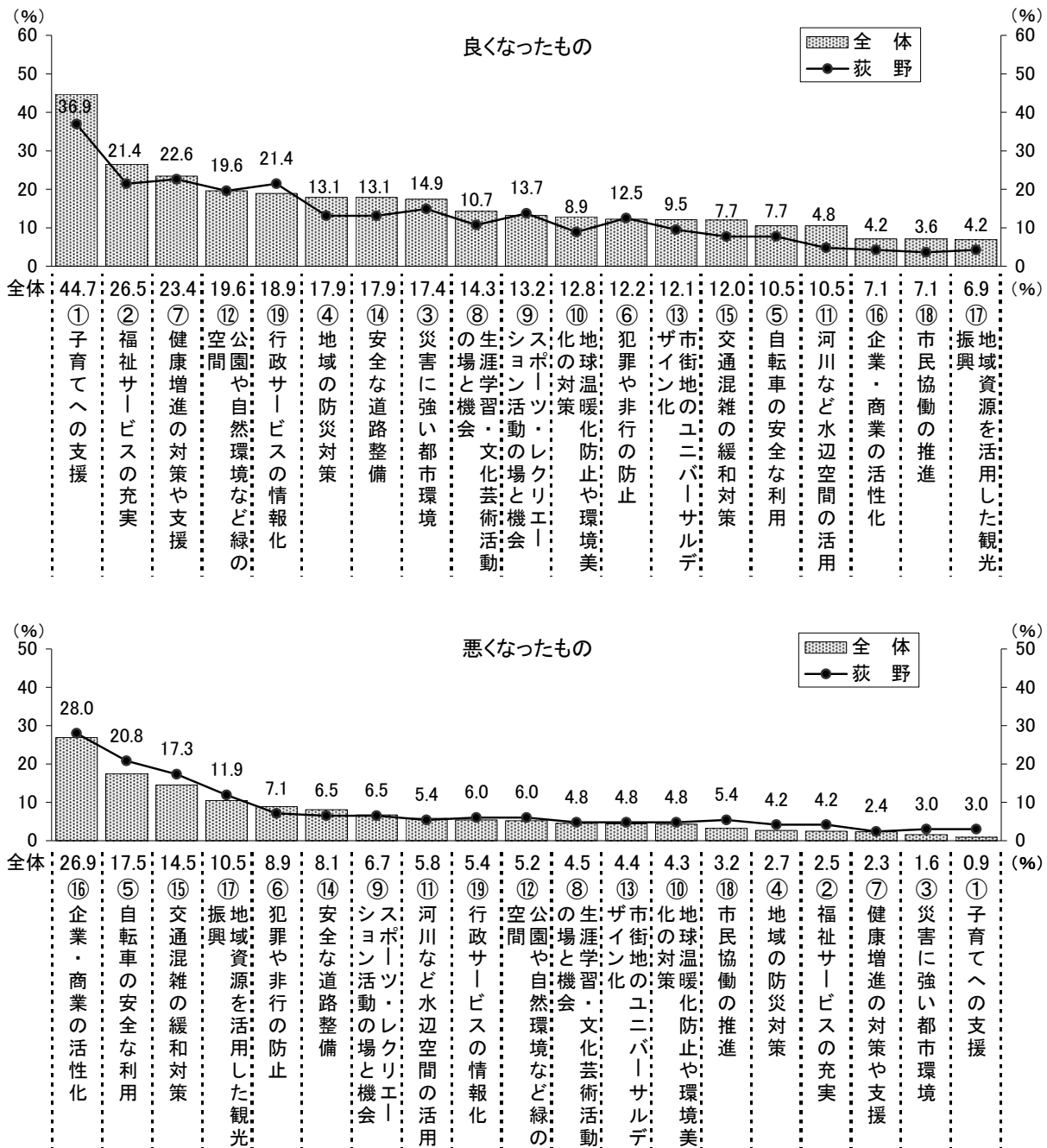


【地区ごとの傾向】〔荻野地区〕

「良くなったもの」では、「①子育てへの支援」(36.9%)が全体(44.7%)と比べて7.8ポイント、「⑪河川など水辺空間の活用」(4.8%)が全体(10.5%)と比べて5.7ポイント、「②福祉サービスの充実」(21.4%)が全体(26.5%)と比べて5.1ポイント低くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑤自転車の安全な利用」(20.8%)が全体(17.5%)と比べて3.3ポイント高くなっている。

図11-1-28 まちづくり全般の変化—荻野地区

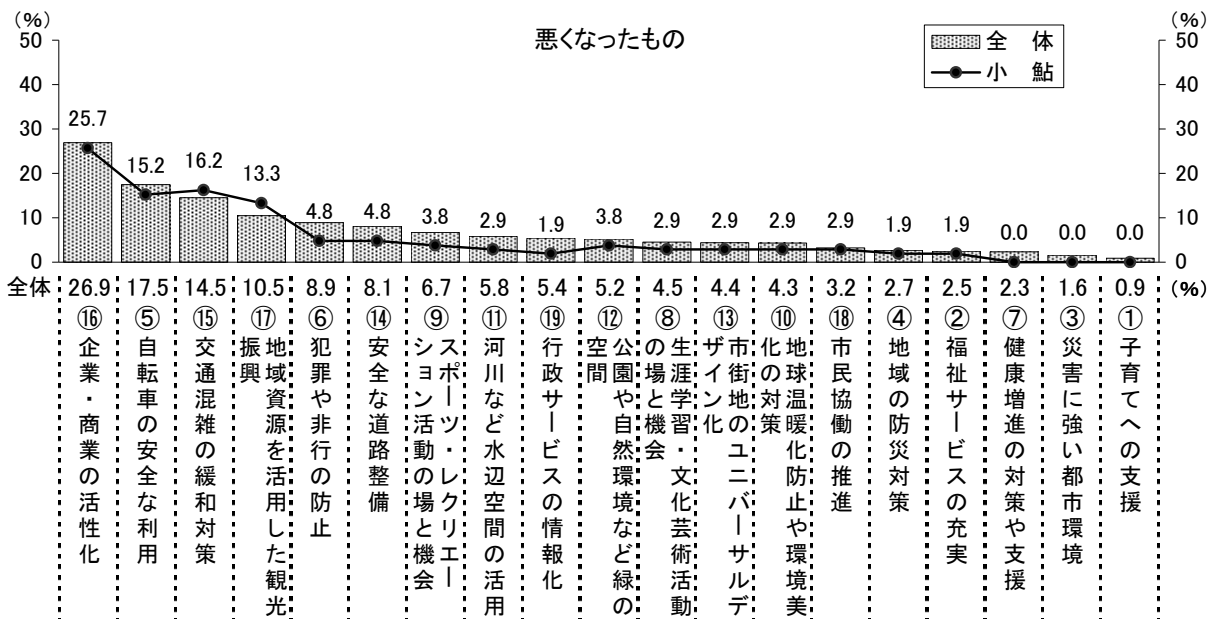
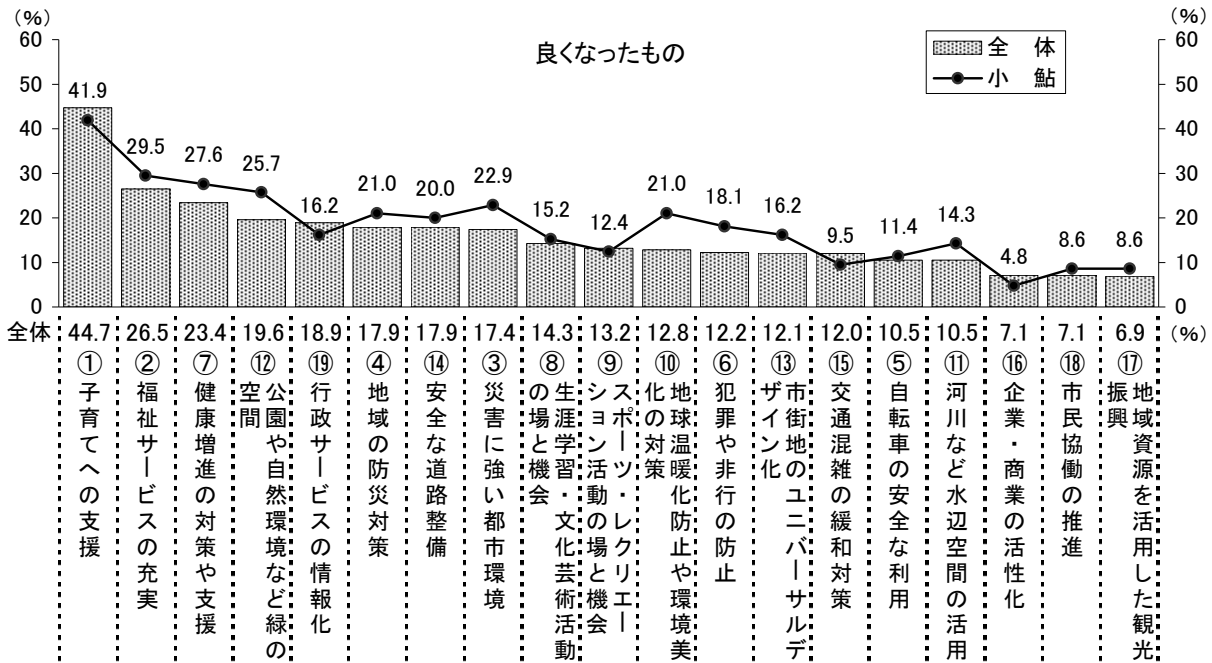


【地区ごとの傾向】〔小鮎地区〕

「良くなったもの」では、「⑩地球温暖化防止や環境美化の対策」(21.0%)が全体(12.8%)と比べて8.2ポイント、「⑫公園や自然環境など緑の空間」(25.7%)が全体(19.6%)と比べて6.1ポイント、「⑥犯罪や非行の防止」(18.1%)が全体(12.2%)と比べて5.9ポイント、「③災害に強い都市環境」(22.9%)が全体(17.4%)と比べて5.5ポイント高くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑥犯罪や非行の防止」(4.8%)が全体(8.9%)と比べて4.1ポイント低くなっている。

図11-1-29 まちづくり全般の変化—小鮎地区

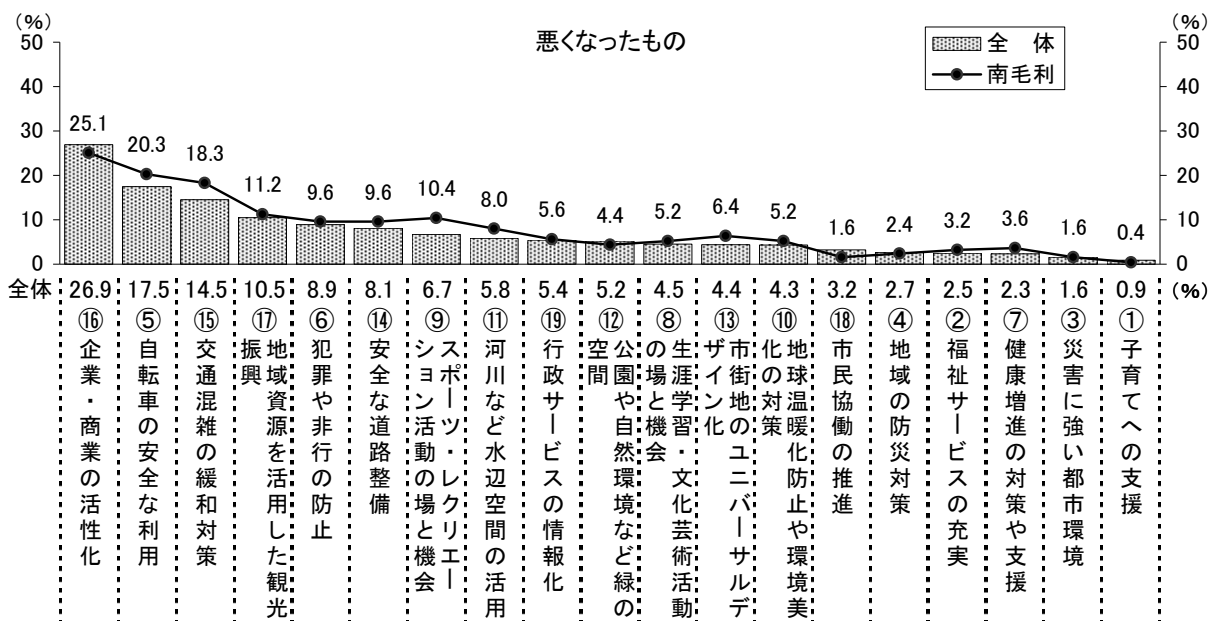
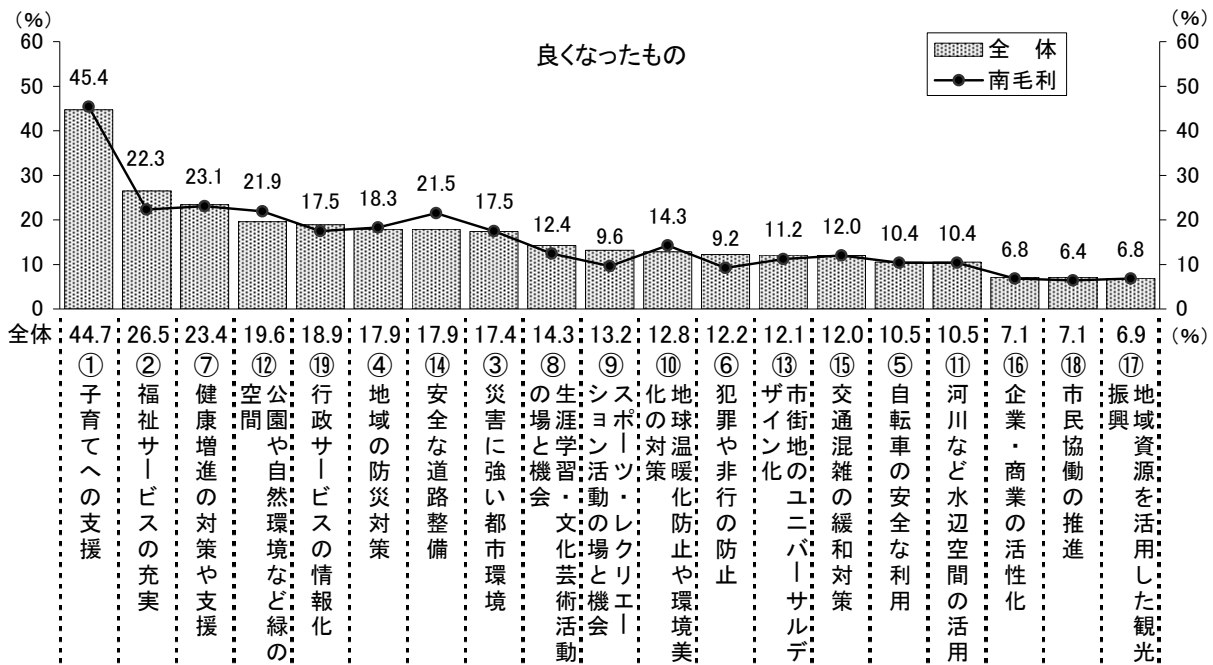


【地区ごとの傾向】〔南毛利地区〕

「良くなったもの」では、「⑭安全な道路整備」(21.5%)が全体(17.9%)と比べて3.6ポイント高くなっている。一方、「②福祉サービスの充実」(22.3%)が全体(26.5%)と比べて4.2ポイント、「⑨スポーツ・レクリエーション活動の場と機会」(9.6%)が全体(13.2%)と比べて3.6ポイント、「⑥犯罪や非行の防止」(9.2%)が全体(12.2%)と比べて3.0ポイント低くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑮交通混雑の緩和対策」(18.3%)が全体(14.5%)と比べて3.8ポイント、「⑨スポーツ・レクリエーション活動の場と機会」(10.4%)が全体(6.7%)と比べて3.7ポイント高くなっている。

図11-1-30 まちづくり全般の変化—南毛利地区

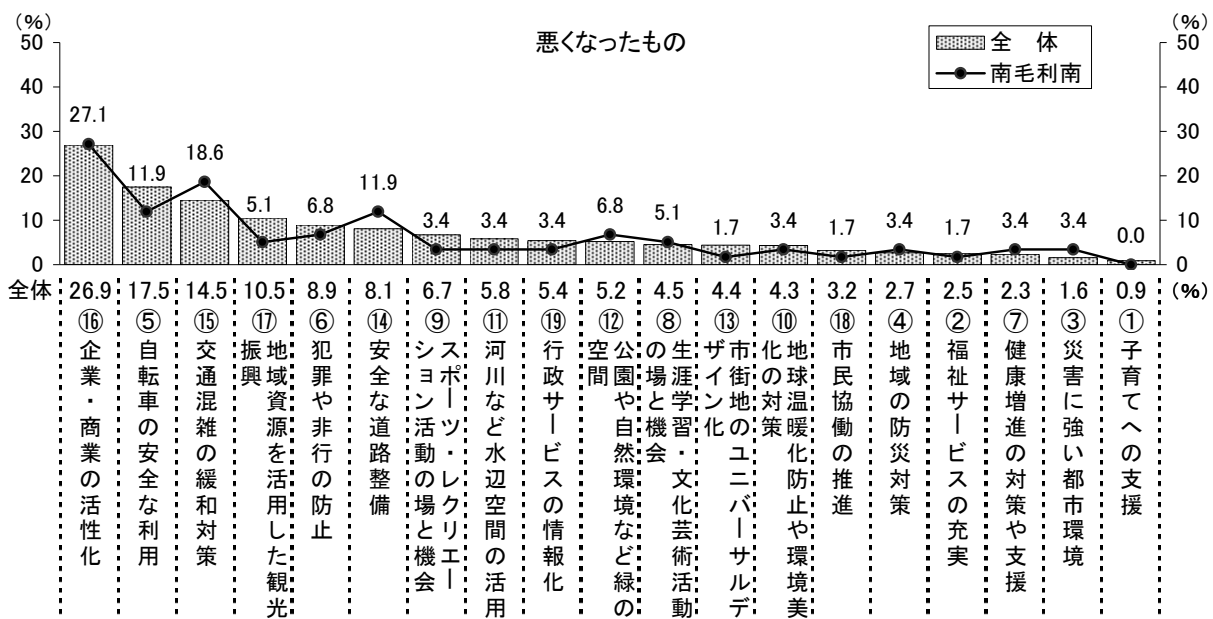
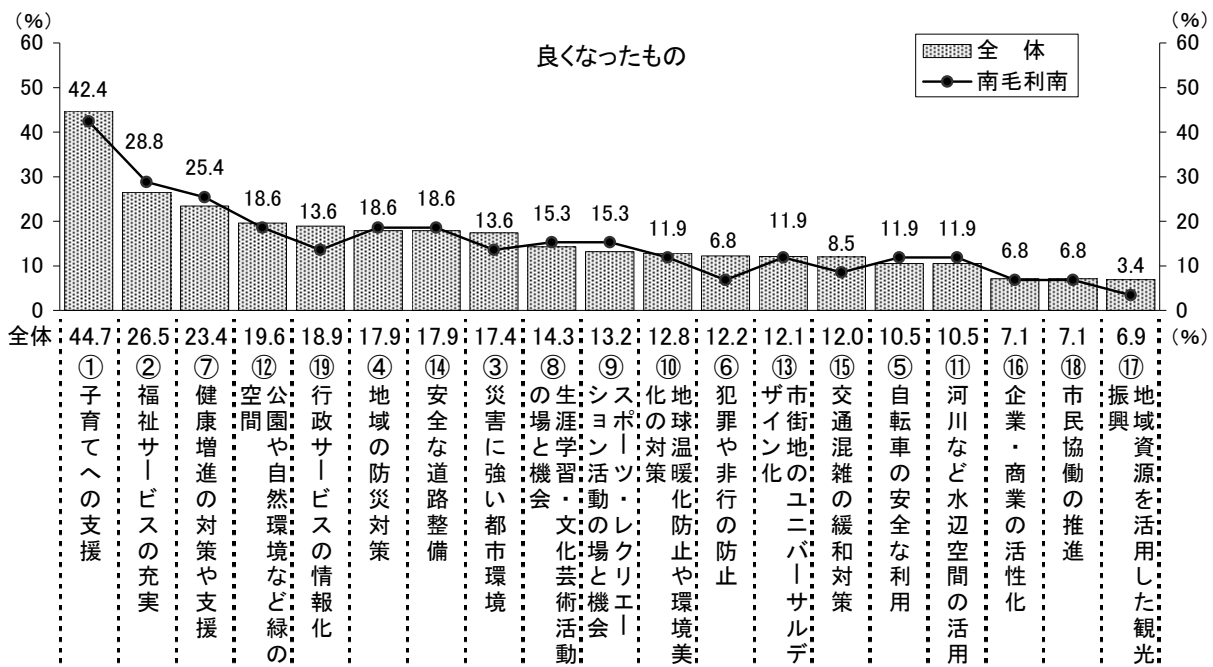


【地区ごとの傾向】〔南毛利南地区〕

「良くなったもの」では、「⑥犯罪や非行の防止」(6.8%)が全体(12.2%)と比べて5.4ポイント、「⑩行政サービスの情報化」(13.6%)が全体(18.9%)と比べて5.3ポイント、「③災害に強い都市環境」(13.6%)が全体(17.4%)と比べて3.8ポイント、「⑮交通混雑の緩和対策」(8.5%)が全体(12.0%)と比べて3.5ポイント、「⑰地域資源を活用した観光振興」(3.4%)が全体(6.9%)と比べて3.5ポイント低くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑮交通混雑の緩和対策」(18.6%)が全体(14.5%)と比べて4.1ポイント、「⑭安全な道路整備」(11.9%)が全体(8.1%)と比べて3.8ポイント高くなっている。

図11-1-31 まちづくり全般の変化—南毛利南地区

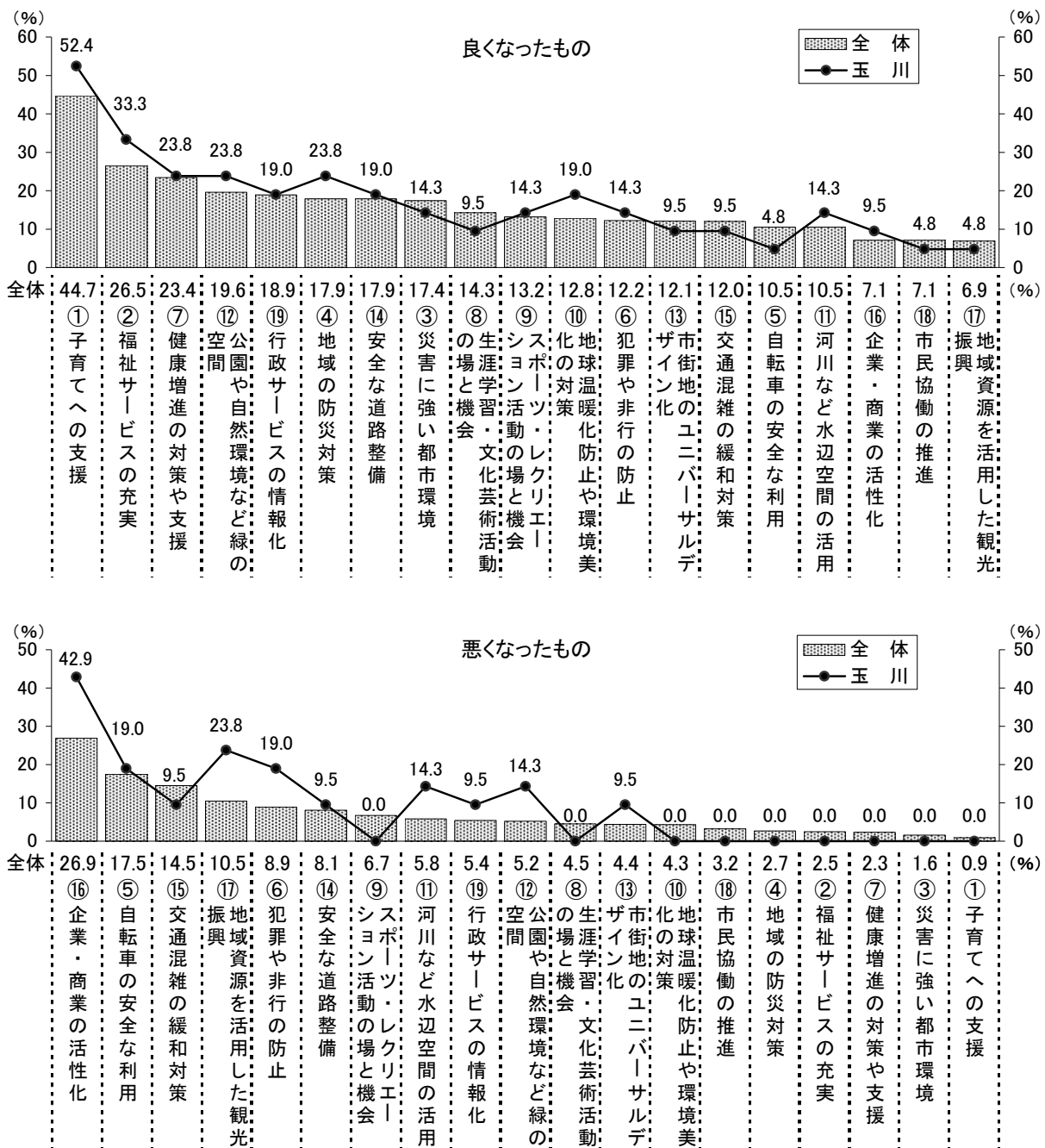


【地区ごとの傾向】〔玉川地区〕

「良くなったもの」では、「①子育てへの支援」(52.4%)が全体(44.7%)と比べて7.7ポイント、「②福祉サービスの充実」(33.3%)が全体(26.5%)と比べて6.8ポイント、「⑩地球温暖化防止や環境美化の対策」(19.0%)が全体(12.8%)と比べて6.2ポイント、「④地域の防災対策」(23.8%)が全体(17.9%)と比べて5.9ポイント高くなっている。一方、「⑤自転車の安全な利用」(4.8%)が全体(10.5%)と比べて5.7ポイント、「⑧生涯学習・文化芸術活動の場と機会」(9.5%)が全体(14.3%)と比べて4.8ポイント低くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑩企業・商業の活性化」(42.9%)が全体(26.9%)と比べて16.0ポイント、「⑩地域資源を活用した観光振興」(23.8%)が全体(10.5%)と比べて13.3ポイント、「⑥犯罪や非行の防止」(19.0%)が全体(8.9%)と比べて10.1ポイント、「⑫公園や自然環境など緑の空間」(14.3%)が全体(5.2%)と比べて9.1ポイント高くなっている。

図11-1-32 まちづくり全般の変化―玉川地区

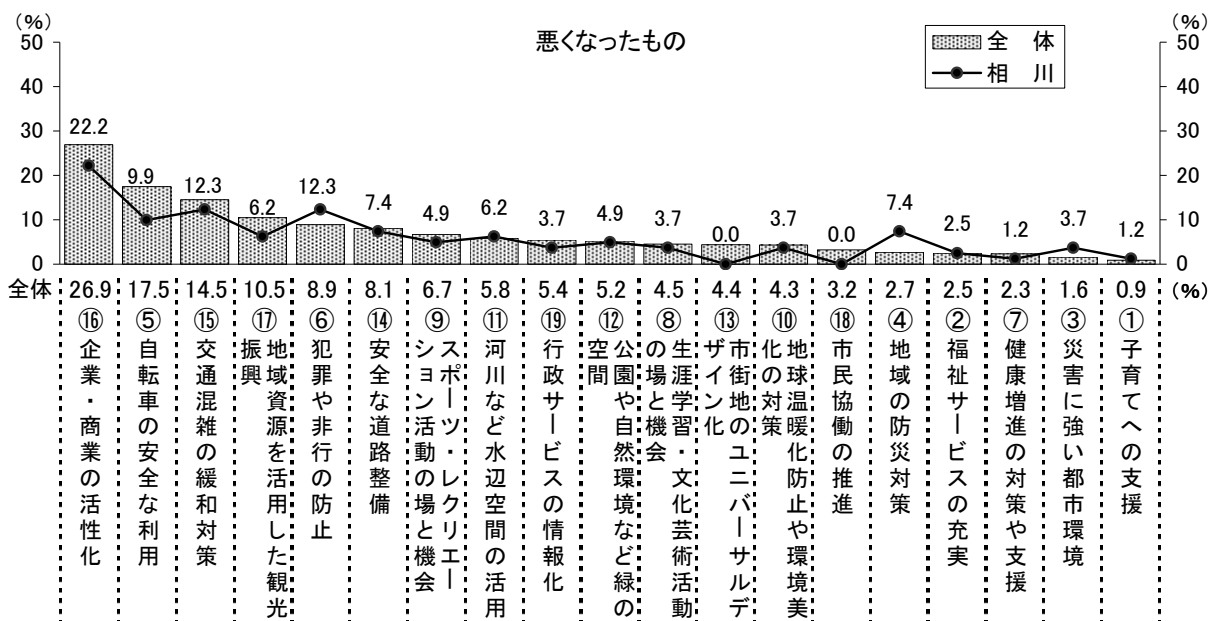
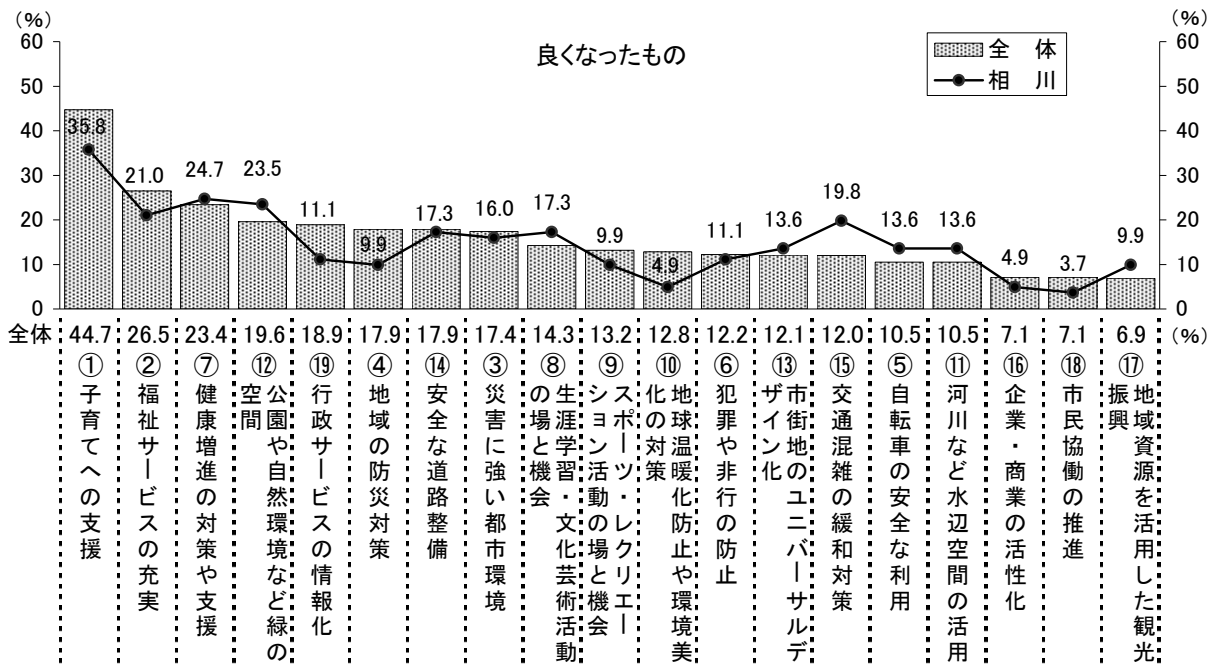


【地区ごとの傾向】〔相川地区〕

「良くなったもの」では、「⑮交通混雑の緩和対策」(19.8%)が全体(12.0%)と比べて7.8ポイント、「⑫公園や自然環境など緑の空間」(23.5%)が全体(19.6%)と比べて3.9ポイント高くなっている。一方、「①子育てへの支援」(35.8%)が全体(44.7%)と比べて8.9ポイント、「④地域の防災対策」(9.9%)が全体(17.9%)と比べて8.0ポイント、「⑩地球温暖化防止や環境美化の対策」(4.9%)が全体(12.8%)と比べて7.9ポイント、「⑱行政サービスの情報化」(11.1%)が全体(18.9%)と比べて7.8ポイント低くなっている。

「悪くなったもの」では、「④地域の防災対策」(7.4%)が全体(2.7%)と比べて4.7ポイント、「⑥犯罪や非行の防止」(12.3%)が全体(8.9%)と比べて3.4ポイント高くなっている。

図11-1-33 まちづくり全般の変化―相川地区

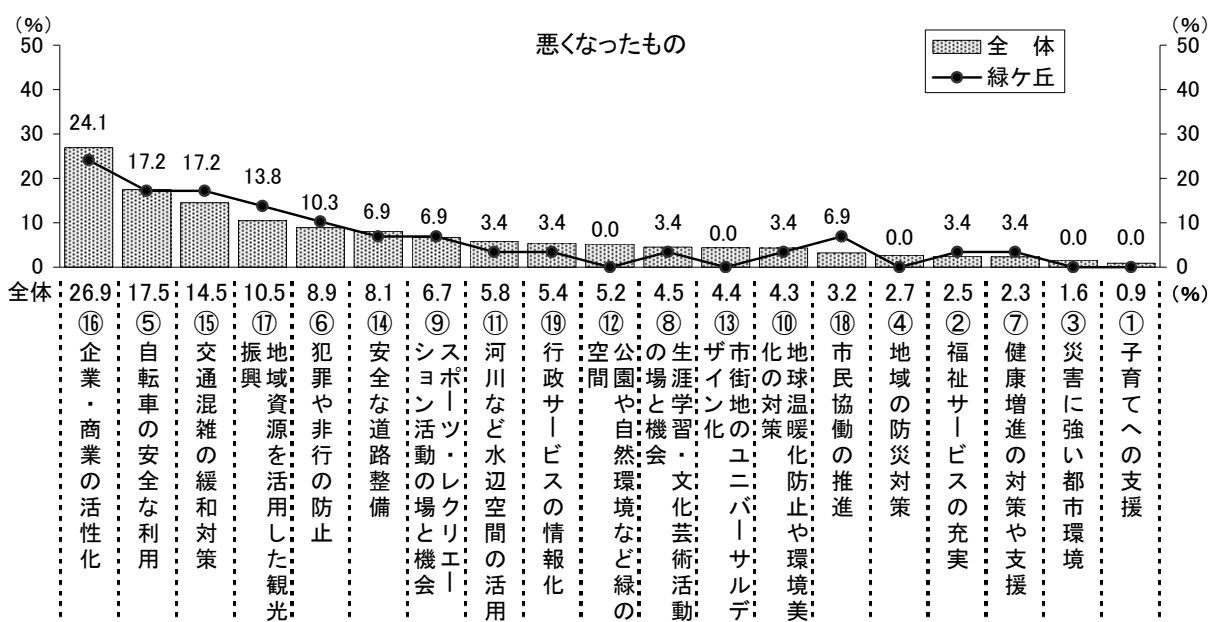
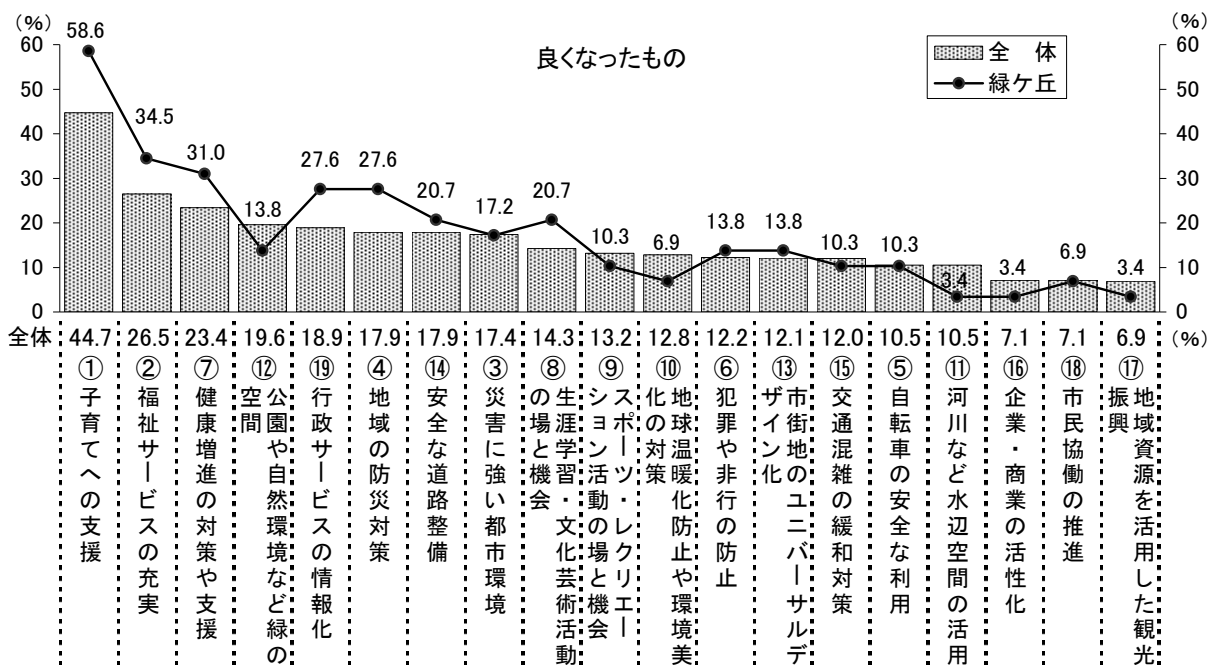


【地区ごとの傾向】〔緑ヶ丘地区〕

「良くなったもの」では、「①子育てへの支援」(58.6%)が全体(44.7%)と比べて13.9ポイント、「④地域の防災対策」(27.6%)が全体(17.9%)と比べて9.7ポイント、「⑯行政サービスの情報化」(27.6%)が全体(18.9%)と比べて8.7ポイント、「②福祉サービスの充実」(34.5%)が全体(26.5%)と比べて8.0ポイント、「⑦健康増進の対策や支援」(31.0%)が全体(23.4%)と比べて7.6ポイント高くなっている。一方、「⑪河川など水辺空間の活用」(3.4%)が全体(10.5%)と比べて7.1ポイント、「⑩地球温暖化防止や環境美化の対策」(6.9%)が全体(12.8%)と比べて5.9ポイント低くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑱市民協働の推進」(6.9%)が全体(3.2%)と比べて3.7ポイント、「⑰地域資源を活用した観光振興」(13.8%)が全体(10.5%)と比べて3.3ポイント高くなっている。

図11-1-34 まちづくり全般の変化―緑ヶ丘地区

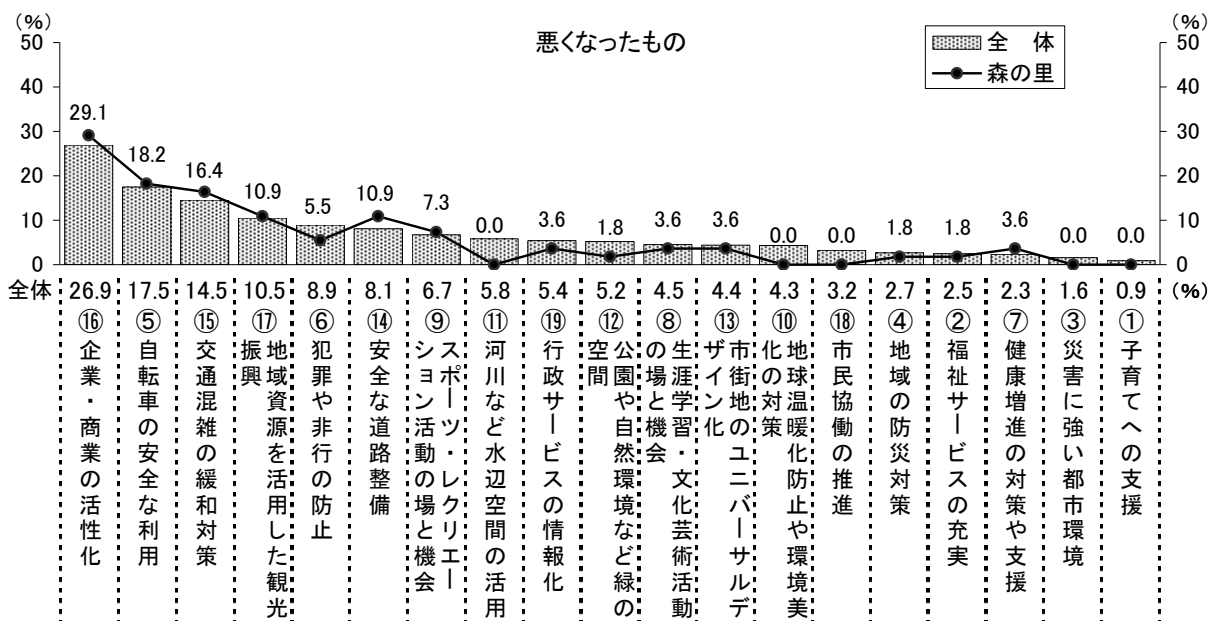
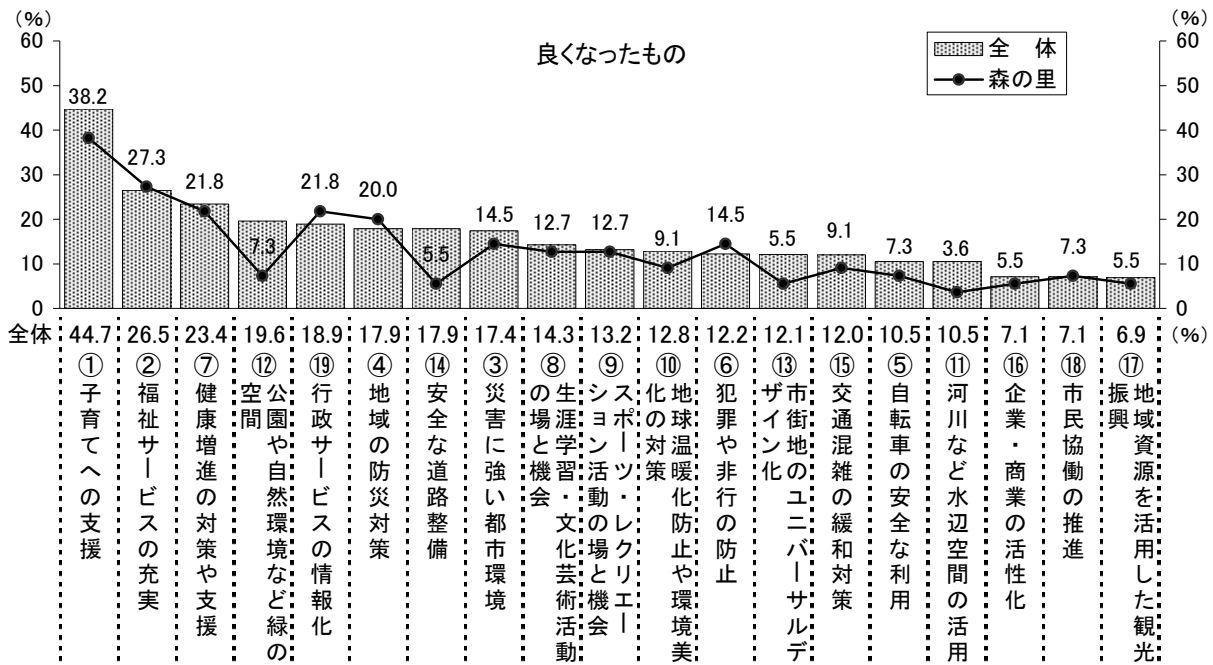


【地区ごとの傾向】〔森の里地区〕

「良くなったもの」では、「⑭安全な道路整備」(5.5%)が全体(17.9%)と比べて12.4ポイント、「⑫公園や自然環境など緑の空間」(7.3%)が全体(19.6%)と比べて12.3ポイント、「⑪河川など水辺空間の活用」(3.6%)が全体(10.5%)と比べて6.9ポイント、「⑬市街地のユニバーサルデザイン化」(5.5%)が全体(12.1%)と比べて6.6ポイント、「①子育てへの支援」(38.2%)が全体(44.7%)と比べて6.5ポイント低くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑪河川など水辺空間の活用」(0.0%)が全体(5.8%)と比べて5.8ポイント、「⑩地球温暖化防止や環境美化の対策」(0.0%)が全体(4.3%)と比べて4.3ポイント低くなっている。

図11-1-35 まちづくり全般の変化―森の里地区

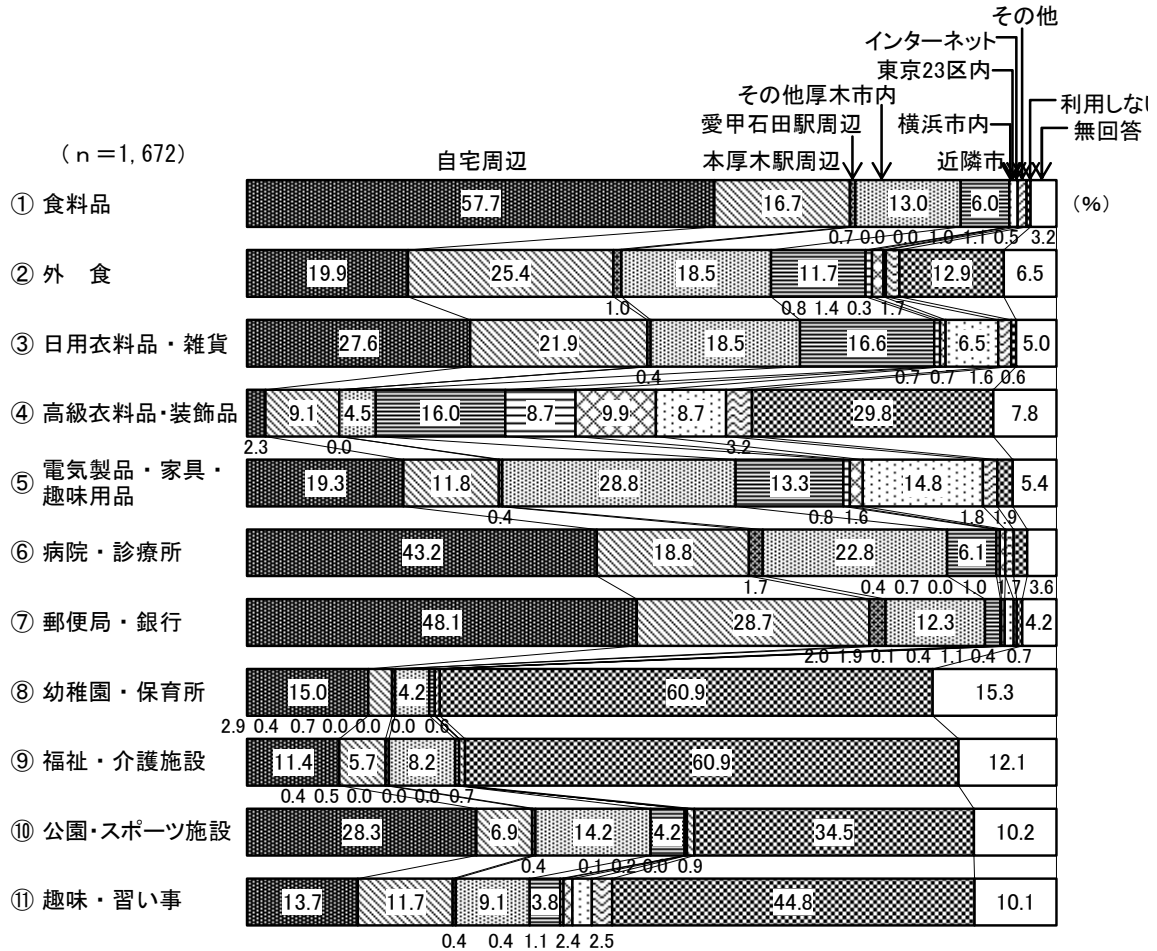


(2) 日常利用する施設の場所 (B: 問16)

問. 日常的に、どこにある店舗・施設を利用していますか。

(①～⑪)について、それぞれ1つだけ選んでください)

図11-2-1 日常利用する施設の場所



【全体】

日常利用する施設の場所について聞いたところ、①食料品では「自宅周辺」(57.7%)が6割近くで最も高く、次いで「本厚木駅周辺」(16.7%)、「その他厚木市内」(13.0%)となっている。

②外食では「本厚木駅周辺」(25.4%)が2割半ばで最も高く、次いで「自宅周辺」(19.9%)、「その他厚木市内」(18.5%)、「近隣市」(11.7%)となっている。

③日用衣料品・雑貨では「自宅周辺」(27.6%)が3割近くで最も高く、次いで「本厚木駅周辺」(21.9%)、「その他厚木市内」(18.5%)、「近隣市」(16.6%)となっている。

④高級衣料品・装飾品では「近隣市」(16.0%)が1割半ばを超えて最も高く、次いで「東京23区内」(9.9%)、「本厚木駅周辺」(9.1%)となっている。

⑤電気製品・家具・趣味用品では「その他厚木市内」(28.8%)が3割近くで最も高く、次いで「自宅周辺」(19.3%)、「インターネット」(14.8%)、「近隣市」(13.3%)、「本厚木駅周辺」(11.8%)となっている。

⑥病院・診療所、⑦郵便局・銀行、⑧幼稚園・保育所、⑨福祉・介護施設、⑩公園・スポーツ施設、⑪趣味・習い事の6項目ではいずれも「自宅周辺」が最も高くなっている。

【経年変化】①食料品、②外食、③日用衣料品・雑貨、④高級衣料品・装飾品

経年による変化を見ると、①食料品では「その他厚木市内」(13.0%)が令和元年度調査(16.3%)より3.3ポイント減少している。

②外食では「その他厚木市内」(18.5%)が令和元年度調査(23.2%)より4.7ポイント減少している。

③日用衣料品・雑貨では「自宅周辺」(27.6%)が令和元年度調査(24.1%)より3.5ポイント増加している。

④高級衣料品・装飾品では「インターネット」(8.7%)が令和元年度調査(5.2%)より3.5ポイント増加している。一方、「東京23区内」(9.9%)が令和元年度調査(14.9%)より5.0ポイント、「近隣市」(16.0%)が令和元年度調査(19.6%)より3.6ポイント減少している。

なお、平成27年度以前の調査は、選択肢が過去と異なっているため、参考記載とする。

表11-2-1 日常利用する施設の場所—経年変化(上位5項目)

(%)

順位	令和3年度 (n=1,672)	令和元年度 (n=1,538)	平成29年度 (n=1,550)	平成27年度 (n=1,417)	平成25年度 (n=1,270)	平成23年度 (n=815)	平成21年度 (n=1,608)
① 食料品	1 自宅周辺	57.7	自宅周辺 55.8	自宅周辺 56.3	その他厚木市内 55.4	その他厚木市内 52.0	その他厚木市内 56.8
	2 本厚木駅周辺	16.7	本厚木駅周辺 16.6	その他厚木市内 16.9	本厚木駅周辺 31.1	本厚木駅周辺 37.2	本厚木駅周辺 30.3
	3 その他厚木市内	13.0	その他厚木市内 16.3	本厚木駅周辺 16.1	愛甲石田駅周辺 4.0	愛甲石田駅周辺 2.6	愛甲石田駅周辺 3.1
	4 近隣市	6.0	近隣市 5.5	近隣市 4.5	伊勢原駅周辺 1.6	海老名駅周辺 1.8	海老名駅周辺 1.0
	5 インターネット	1.0	愛甲石田駅周辺 1.3	愛甲石田駅周辺 1.2	相模原市内 1.3	伊勢原駅周辺 1.4	伊勢原駅周辺 0.7
② 外食	1 本厚木駅周辺	25.4	本厚木駅周辺 28.2	本厚木駅周辺 25.2	その他厚木市内 40.0		
	2 自宅周辺	19.9	その他厚木市内 23.2	その他厚木市内 22.0	本厚木駅周辺 31.2		
	3 その他厚木市内	18.5	自宅周辺 17.4	自宅周辺 19.6	海老名駅周辺 3.9		
	4 近隣市	11.7	近隣市 11.0	近隣市 12.8	東京23区内 2.6		
	5 東京23区内	1.4	東京23区内 3.6	東京23区内 2.5	横浜市内 2.4		
③ 日用衣料品・ 雑貨	1 自宅周辺	27.6	自宅周辺 24.1	自宅周辺 26.9	その他厚木市内 36.6	本厚木駅周辺 38.8	本厚木駅周辺 38.2
	2 本厚木駅周辺	21.9	本厚木駅周辺 22.4	本厚木駅周辺 22.6	本厚木駅周辺 35.1	その他厚木市内 30.0	その他厚木市内 36.4
	3 その他厚木市内	18.5	その他厚木市内 21.2	その他厚木市内 22.1	海老名駅周辺 6.1	海老名駅周辺 8.0	海老名駅周辺 5.2
	4 近隣市	16.6	近隣市 17.4	近隣市 13.5	インターネット 2.4	町田市内 5.0	町田市内 3.3
	5 インターネット	6.5	インターネット 3.6	インターネット 3.2	相模原市内 2.2	インターネット 4.3	インターネット 2.1
④ 高級衣料品・ 装飾品	1 近隣市	16.0	近隣市 19.6	近隣市 19.7	東京23区内 18.1	東京23区内 19.8	本厚木駅周辺 20.0
	2 東京23区内	9.9	東京23区内 14.9	東京23区内 13.3	本厚木駅 周辺 /横浜市内 15.6	横浜市内 18.1	横浜市内 15.5
	3 本厚木駅周辺	9.1	横浜市内 9.6	横浜市内 12.7		本厚木駅周辺 16.1	東京23区内 13.5
	4 横浜市内	8.7	本厚木駅周辺 9.3	本厚木駅周辺 10.2	海老名駅周辺 8.0	町田市内 12.3	町田市内 10.2
	5 インターネット	8.7	インターネット 5.2	その他厚木市内 6.1	その他厚木市内 7.2	海老名駅周辺 7.4	その他厚木市内 8.6

- (注1) 「③日用衣料品・雑貨」は、平成27年度調査以前では「日用衣料品」としていた。
- (注2) 「インターネット」は、平成25年度調査以前では「インターネットショッピング」としていた。
- (注3) 平成29年度調査以降では、「近隣市」の選択肢を追加している。
- (注4) 平成29年度調査以前では、「ふだん、どこにある店舗・施設を利用していますか。」と質問していた。
- (注5) 平成27年度調査以降では、「②外食」の選択肢を追加している。
- (注6) 平成27年度調査以前では、「伊勢原駅周辺」、「海老名駅周辺」、「平塚駅周辺」の選択肢を追加していた。
- (注7) 平成27年度調査では、「相模原市内」の選択肢を追加していた。
- (注8) 平成25年度調査以前では、「町田市内」の選択肢を追加していた。

【経年変化】⑤電気製品・家具・趣味用品、⑥病院・診療所、⑦郵便局・銀行、⑧幼稚園・保育所、
⑨福祉・介護施設、⑩公園・スポーツ施設、⑪趣味・習い事

経年による変化を見ると、⑤電気製品・家具・趣味用品では「自宅周辺」（19.3%）が令和元年度調査（15.1%）より4.2ポイント、「インターネット」（14.8%）が令和元年度調査（10.8%）より4.0ポイント増加している。一方、「その他厚木市内」（28.8%）が令和元年度調査（36.1%）より7.3ポイント減少している。

⑥病院・診療所では「自宅周辺」（43.2%）が令和元年度調査（38.3%）より4.9ポイント増加している。一方、「その他厚木市内」（22.8%）が令和元年度調査（28.3%）より5.5ポイント減少している。

⑦郵便局・銀行では「自宅周辺」（48.1%）が令和元年度調査（42.7%）より5.4ポイント増加している。一方、「その他厚木市内」（12.3%）が令和元年度調査（16.3%）より4.0ポイント減少している。

⑧幼稚園・保育所、⑨福祉・介護施設では令和元年度調査と比べて大きな差異は見られない。

⑩公園・スポーツ施設では「自宅周辺」（28.3%）が令和元年度調査（24.1%）より4.2ポイント増加している。一方、「その他厚木市内」（14.2%）が令和元年度調査（20.1%）より5.9ポイント減少している。

⑪趣味・習い事では「その他厚木市内」（9.1%）が令和元年度調査（13.7%）より4.6ポイント減少している。

表11-2-2 日常利用する施設の場所—経年変化（上位5項目）

(%)

順位	令和3年度 (n=1,672)	令和元年度 (n=1,538)	平成29年度 (n=1,550)	順位	令和3年度 (n=1,672)	令和元年度 (n=1,538)	平成29年度 (n=1,550)
⑤ 家具・ 電気製 品・趣 味用品	1	その他厚木市内 28.8	その他厚木市内 36.1	⑨ 福祉・ 介護施 設	1	自宅周辺 11.4	自宅周辺 12.4
	2	自宅周辺 19.3	自宅周辺 15.1		2	その他厚木市内 8.2	その他厚木市内 9.3
	3	インターネット 14.8	近隣市 12.7		3	本厚木駅周辺 5.7	本厚木駅周辺 6.2
	4	近隣市 13.3	本厚木駅周辺 11.8		4	近隣市 0.5	近隣市 1.1
	5	本厚木駅周辺 11.8	インターネット 10.8		5	愛甲石田駅周辺 0.4	愛甲石田駅周辺 0.3
⑥ 病院・ 診療所	1	自宅周辺 43.2	自宅周辺 38.3	⑩ 公園・ スポーツ 施設	1	自宅周辺 28.3	自宅周辺 24.1
	2	その他厚木市内 22.8	その他厚木市内 28.3		2	その他厚木市内 14.2	その他厚木市内 20.1
	3	本厚木駅周辺 18.8	本厚木駅周辺 17.9		3	本厚木駅周辺 6.9	本厚木駅周辺 8.8
	4	近隣市 6.1	近隣市 6.5		4	近隣市 4.2	近隣市 5.0
	5	愛甲石田駅周辺 1.7	愛甲石田駅周辺 2.1		5	愛甲石田駅周辺 0.4	愛甲石田駅周辺/横浜市 0.4
⑦ 郵便局・ 銀行	1	自宅周辺 48.1	自宅周辺 42.7	⑪ 趣味・ 習い事	1	自宅周辺 13.7	自宅周辺 14.0
	2	本厚木駅周辺 28.7	本厚木駅周辺 29.5		2	本厚木駅周辺 11.7	その他厚木市内 13.7
	3	その他厚木市内 12.3	その他厚木市内 16.3		3	その他厚木市内 9.1	本厚木駅周辺 12.4
	4	愛甲石田駅周辺 2.0	愛甲石田駅周辺 2.7		4	近隣市 3.8	近隣市 6.2
	5	近隣市 1.9	近隣市 1.9		5	インターネット 2.4	東京23区内 2.5
⑧ 幼稚園・ 保育所	1	自宅周辺 15.0	自宅周辺 17.5				
	2	その他厚木市内 4.2	その他厚木市内 5.9				
	3	本厚木駅周辺 2.9	本厚木駅周辺 2.6				
	4	近隣市 0.7	近隣市 0.9				
	5	愛甲石田駅周辺 0.4	愛甲石田駅周辺 0.3				

(注1) 平成29年度調査から、⑤電気製品・家具・趣味用品、⑥病院・診療所、⑦郵便局・銀行、⑧幼稚園・保育所、⑨福祉・介護施設、⑩公園・スポーツ施設、⑪趣味・習い事の項目を追加している。

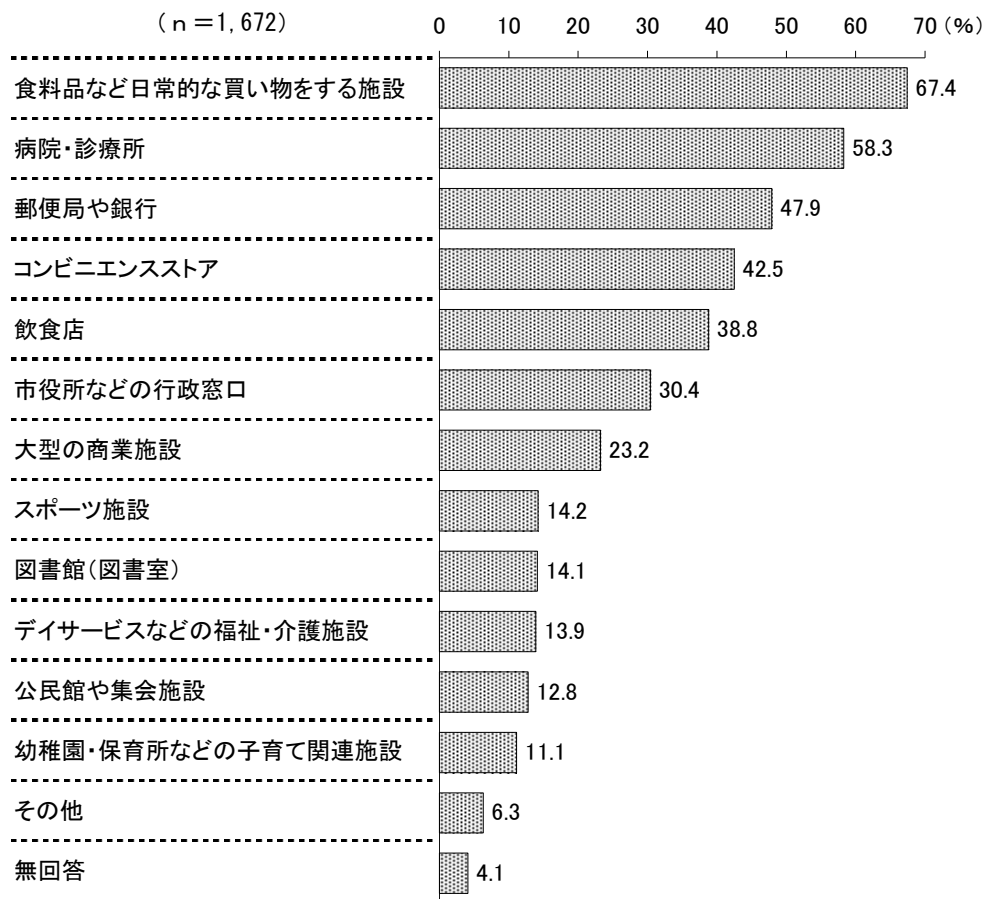
(注2) 今回調査から、⑥病院・診療所、⑦郵便局・銀行、⑧幼稚園・保育所、⑨福祉・介護施設、⑩公園・スポーツ施設の項目にも「インターネット」の選択肢を追加している。

(3) 自宅周辺に必要な施設 (B:問17)

問. 徒歩や自転車で移動できる自宅周辺に、どのような施設が必要であると思いますか。

(5つまで選んでください)

図11-3-1 自宅周辺に必要な施設



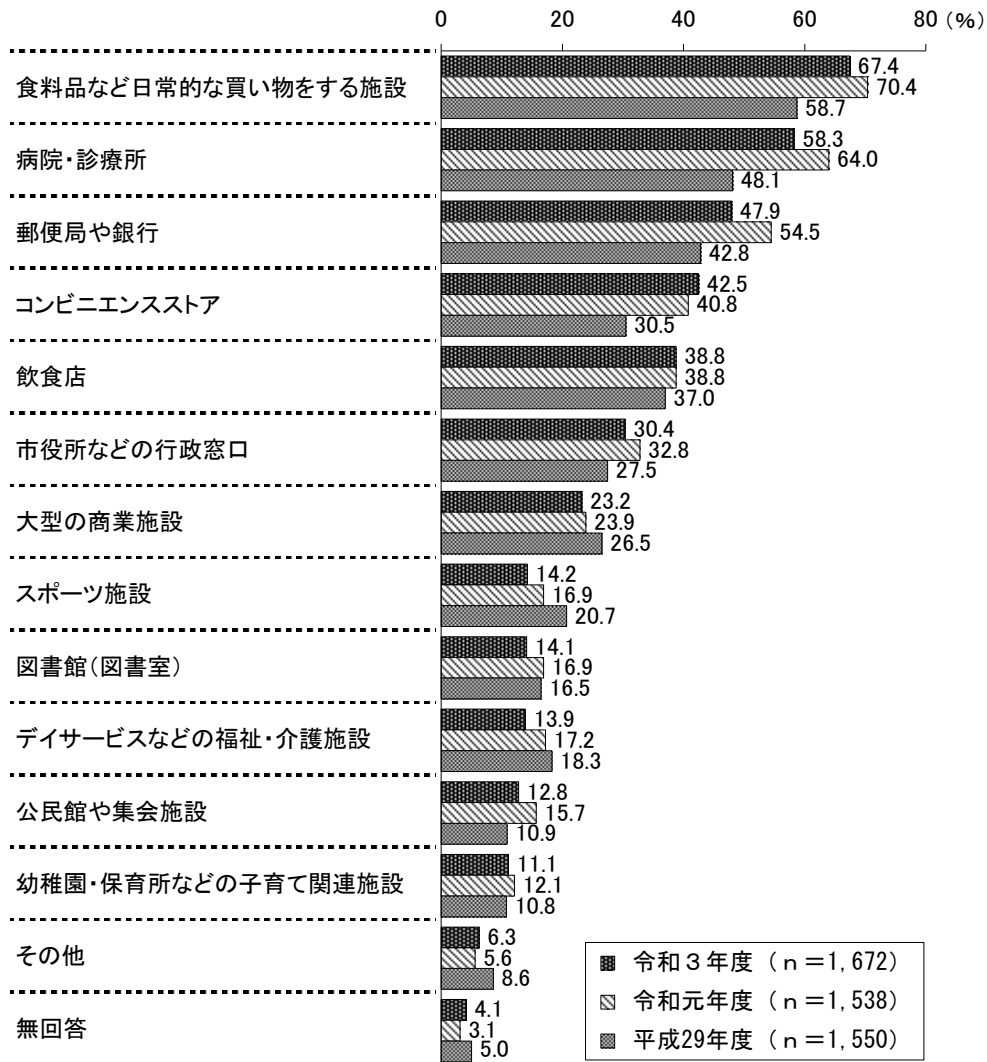
【全体】

自宅周辺に必要な施設について聞いたところ、「食料品など日常的な買い物をする施設」(67.4%)が6割半ばを超えて最も高く、次いで「病院・診療所」(58.3%)、「郵便局や銀行」(47.9%)、「コンビニエンスストア」(42.5%)、「飲食店」(38.8%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「郵便局や銀行」(47.9%)は令和元年度調査(54.5%)より6.6ポイント、「病院・診療所」(58.3%)は令和元年度調査(64.0%)より5.7ポイント、「デイサービスなどの福祉・介護施設」(13.9%)は令和元年度調査(17.2%)より3.3ポイント、「食料品など日常的な買い物をする施設」(67.4%)は令和元年度調査(70.4%)より3.0ポイント減少している。

図11-3-2 自宅周辺に必要な施設—経年変化



【属性別】

性別で見ると、男性では「飲食店」（42.4％）が女性（35.4％）より7.0ポイント、「スポーツ施設」（17.3％）が女性（11.5％）より5.8ポイント高くなっている。一方、女性では「食料品など日常的な買い物をする施設」（72.8％）が男性（61.4％）より11.4ポイント、「郵便局や銀行」（52.5％）が男性（42.3％）より10.2ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「食料品など日常的な買い物をする施設」は40～49歳（76.5％）で7割半ばを超えて高くなっている。「病院・診療所」は40～49歳（65.0％）と80歳以上（65.5％）で6割半ばと高くなっている。「郵便局や銀行」は40～49歳（50.2％）と60～69歳（51.7％）で5割台と高くなっている。「コンビニエンスストア」は20～29歳（51.0％）、30～39歳（51.6％）、40～49歳（50.2％）で5割台と高くなっている。

表11-3-1 自宅周辺に必要な施設—性別、年齢別

			食料品など日常的な買い物をする施設	病院・診療所	郵便局や銀行	コンビニエンスストア	飲食店	市役所などの行政窓口	大型の商業施設	スポーツ施設	図書館（図書室）	護施設	公民館や集会施設	関連施設・保育園・保育所などの子育て	その他	無回答
		n														
全 体		1,672	67.4	58.3	47.9	42.5	38.8	30.4	23.2	14.2	14.1	13.9	12.8	11.1	6.3	4.1
性別	男 性	752	61.4	54.5	42.3	41.5	42.4	26.6	24.2	17.3	14.1	14.1	10.6	10.6	7.3	3.9
	女 性	887	72.8	61.7	52.5	43.6	35.4	34.0	22.4	11.5	13.6	13.8	14.9	11.4	5.3	4.3
年齢別	20歳未満	28	42.9	39.3	32.1	32.1	35.7	17.9	32.1	17.9	35.7	0.0	3.6	3.6	14.3	10.7
	20～29歳	153	71.9	49.7	47.7	51.0	51.0	25.5	27.5	20.9	9.8	2.0	4.6	19.0	3.9	0.7
	30～39歳	192	69.3	56.3	42.2	51.6	43.8	22.4	24.5	18.2	14.1	3.6	6.3	27.6	5.2	0.5
	40～49歳	277	76.5	65.0	50.2	50.2	43.7	31.8	27.1	14.8	17.3	9.7	9.7	8.7	6.5	1.1
	50～59歳	280	67.1	57.5	48.6	46.4	41.1	33.2	25.7	13.9	13.9	11.4	13.2	6.8	9.3	3.2
	60～69歳	267	64.8	56.9	51.7	37.8	37.5	30.7	20.2	11.2	14.6	15.7	15.4	10.1	8.2	4.9
	70～79歳	320	68.1	58.4	48.8	32.8	30.6	32.5	19.7	13.1	13.4	23.8	19.4	7.5	4.1	6.3
	80歳以上	148	53.4	65.5	45.9	33.1	27.7	35.1	16.9	8.1	8.8	29.7	18.2	5.4	3.4	12.2

〔居住地区別の結果〕

表11-3-2 自宅周辺に必要な施設—居住地区別

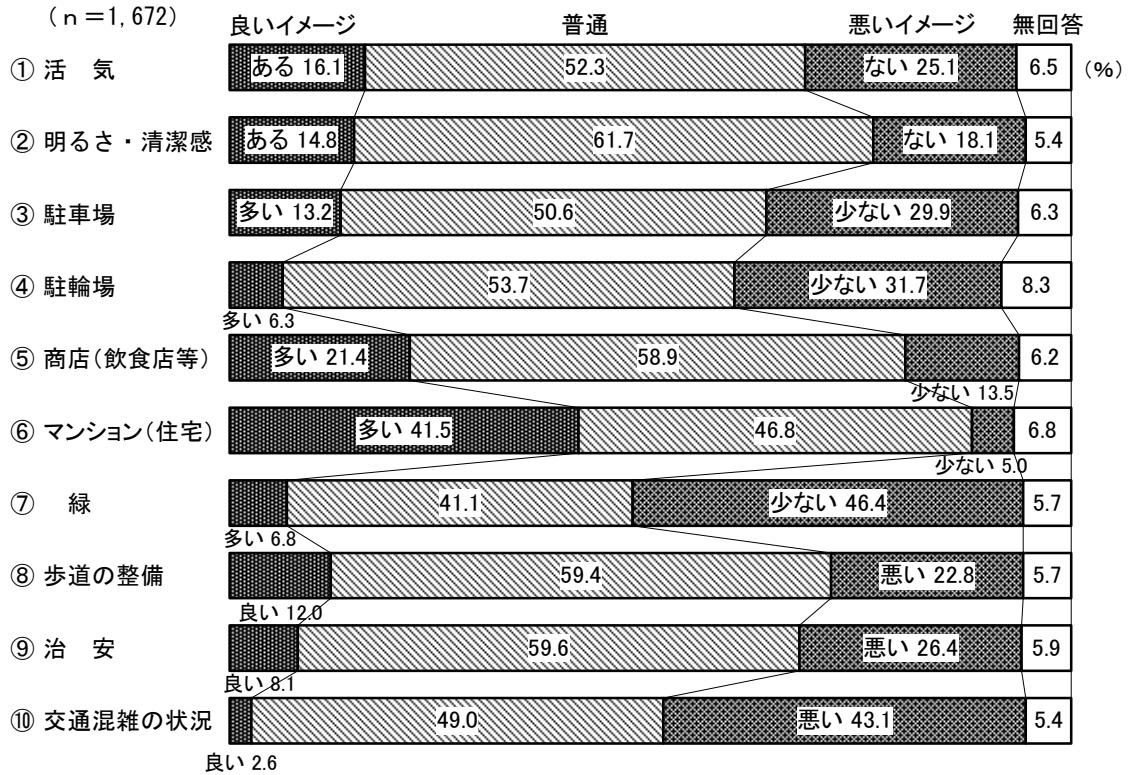
(%)

	n	食料品など日常的な買い物をする施設	病院・診療所	郵便局や銀行	コンビニエンスストア	飲食店	市役所などの行政窓口	大型の商業施設	スポーツ施設	図書館（図書室）	護施設	デイサービスなどの福祉・介護施設	公民館や集会施設	幼稚園・保育所などの子育て関連施設	その他	無回答
全 体	1,672	67.4	58.3	47.9	42.5	38.8	30.4	23.2	14.2	14.1	13.9	12.8	11.1	6.3	4.1	
居 住 地 区 別	厚 木 北	185	74.1	59.5	53.5	40.0	37.3	42.7	25.9	18.4	16.2	10.3	7.0	10.3	5.9	2.7
	厚 木 南	107	62.6	55.1	49.5	36.4	36.4	36.4	24.3	13.1	17.8	10.3	10.3	8.4	5.6	4.7
	依 知 北	135	66.7	55.6	37.8	40.0	42.2	23.0	30.4	11.1	10.4	14.8	12.6	13.3	8.9	2.2
	依 知 南	89	79.8	67.4	57.3	34.8	38.2	22.5	25.8	14.6	13.5	10.1	10.1	11.2	7.9	3.4
	睦 合 北	74	67.6	62.2	52.7	35.1	41.9	21.6	28.4	8.1	17.6	13.5	9.5	9.5	1.4	2.7
	睦 合 南	148	66.2	61.5	45.9	51.4	41.9	31.1	21.6	7.4	9.5	18.2	20.3	13.5	7.4	4.1
	睦 合 西	71	62.0	50.7	46.5	35.2	33.8	32.4	23.9	18.3	16.9	14.1	4.2	9.9	11.3	7.0
	荻 野	178	61.2	55.1	38.2	40.4	38.8	28.7	22.5	16.3	12.9	15.7	10.7	9.0	9.0	6.7
	小 鮎	115	67.8	59.1	46.1	40.0	33.9	24.3	17.4	10.4	5.2	22.6	18.3	10.4	3.5	2.6
	南 毛 利	283	70.3	62.9	49.1	47.7	42.4	33.2	24.0	17.7	17.0	10.2	14.5	12.7	5.7	3.5
	南毛利南	75	70.7	49.3	50.7	40.0	36.0	28.0	25.3	18.7	22.7	12.0	9.3	9.3	4.0	6.7
	玉 川	22	63.6	50.0	36.4	45.5	40.9	18.2	9.1	9.1	4.5	13.6	22.7	22.7	0.0	4.5
	相 川	92	68.5	56.5	51.1	45.7	37.0	32.6	14.1	14.1	16.3	15.2	15.2	13.0	6.5	3.3
	緑ヶ丘	29	75.9	72.4	62.1	44.8	37.9	13.8	20.7	3.4	13.8	13.8	20.7	10.3	6.9	0.0
森 の 里	57	45.6	43.9	52.6	56.1	35.1	31.6	17.5	14.0	10.5	19.3	19.3	7.0	3.5	7.0	

(4) 本厚木駅周辺のイメージ (B:問18)

問. 現在の本厚木駅周辺(中心市街地)のイメージについて、どのように感じますか。
 (①～⑩について、それぞれ1つだけ選んでください)

図11-4-1 本厚木駅周辺のイメージ



【全体】

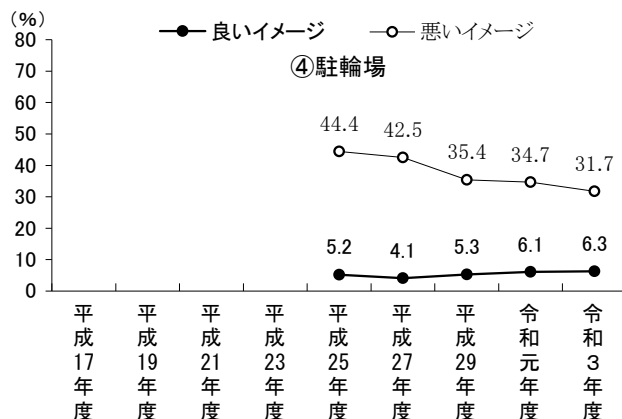
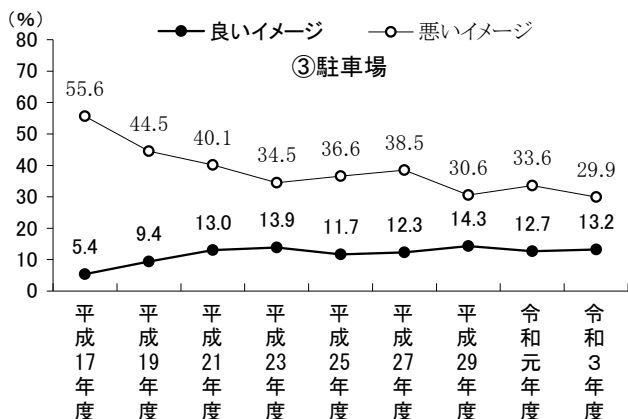
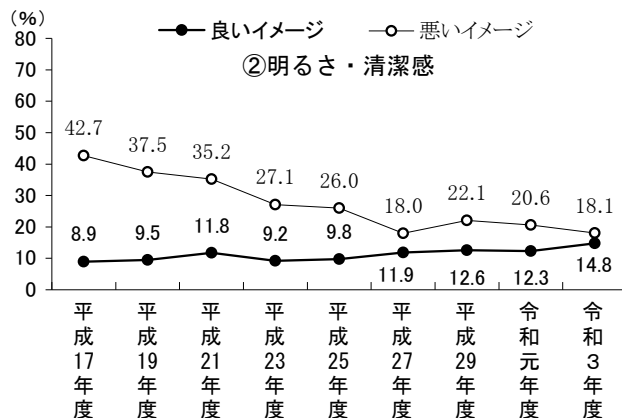
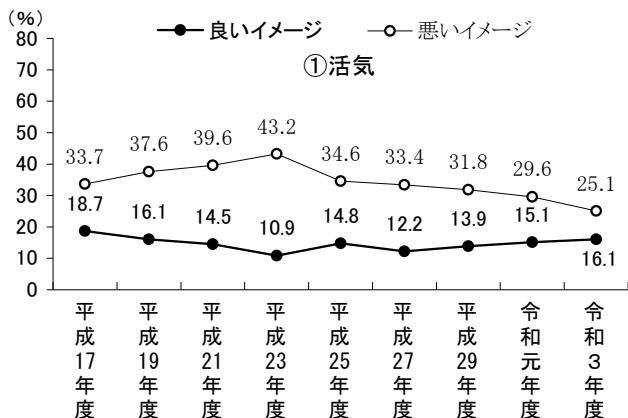
本厚木駅周辺のイメージについて10項目に分けて聞いたところ、良いイメージが最も高いのは「⑥マンション(住宅)」(41.5%)で4割を超えており、次いで「⑤商店(飲食店等)」(21.4%)となっている。一方、悪いイメージが最も高いのは「⑦緑」(46.4%)で4割半ばを超えており、次いで「⑩交通混雑の状況」(43.1%)、「④駐輪場」(31.7%)、「③駐車場」(29.9%)、「⑨治安」(26.4%)、「①活気」(25.1%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、良いイメージは、「⑥マンション（住宅）」（41.5%）が令和元年度調査（36.4%）より5.1ポイント増加している。

悪いイメージは、「①活気」（25.1%）が令和元年度調査（29.6%）より4.5ポイント、「⑤商店（飲食店等）」（13.5%）が令和元年度調査（17.5%）より4.0ポイント減少している。

図11-4-2 本厚木駅周辺のイメージ経年変化

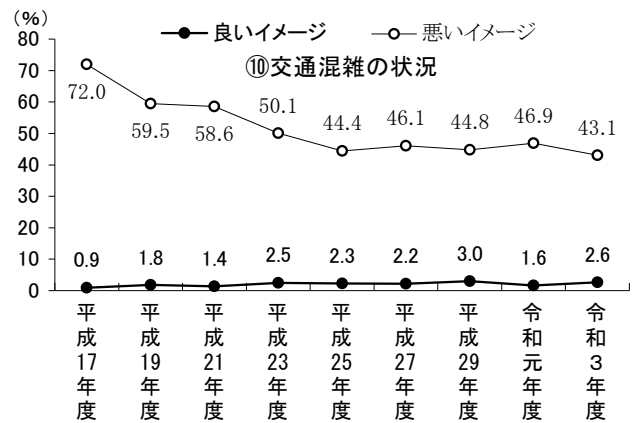
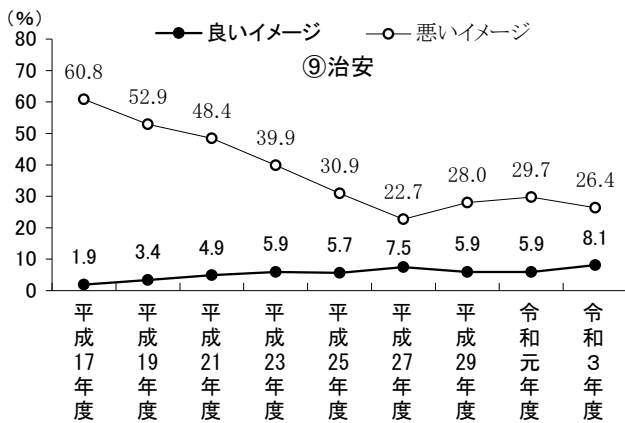
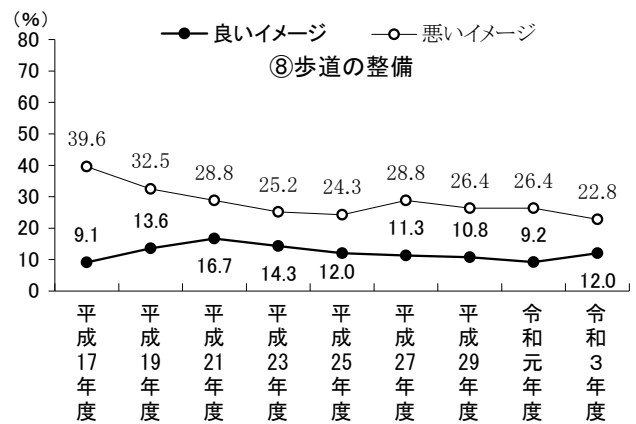
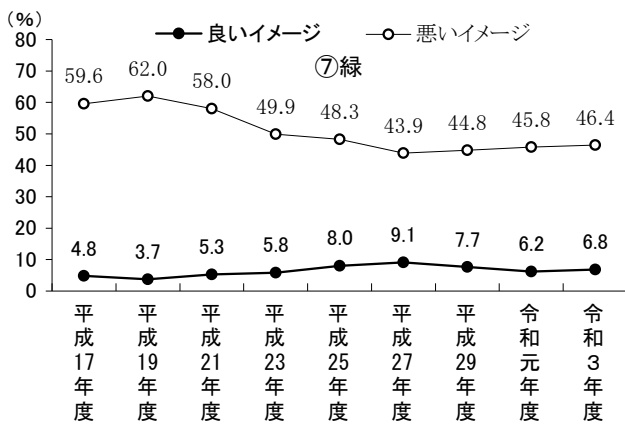
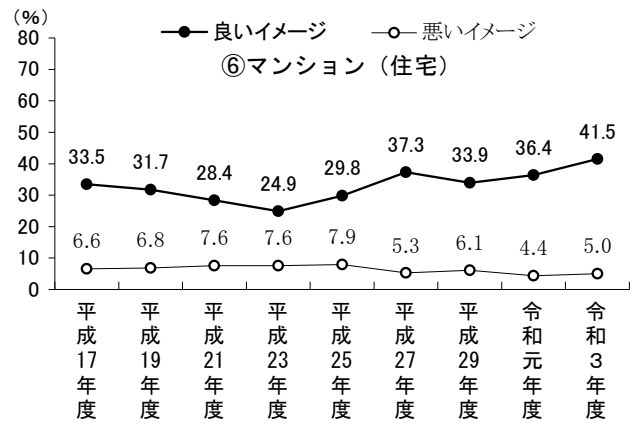
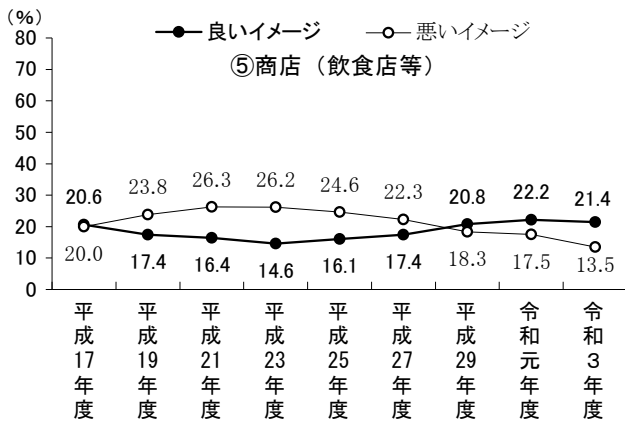


(注1) 平成25年度調査以降では、「④駐輪場」の項目を追加している。

(注2) 「⑩交通混雑の状況」は、令和元年度調査以前は「⑩交通渋滞の状況」としていた。

令和3年度 (n=1,672)
令和元年度 (n=1,538)
平成29年度 (n=1,550)
平成27年度 (n=1,471)
平成25年度 (n=1,270)
平成23年度 (n= 814)
平成21年度 (n=1,610)
平成19年度 (n=1,506)
平成17年度 (n=1,008)

図11-4-2 本厚木駅周辺のイメージ経年変化

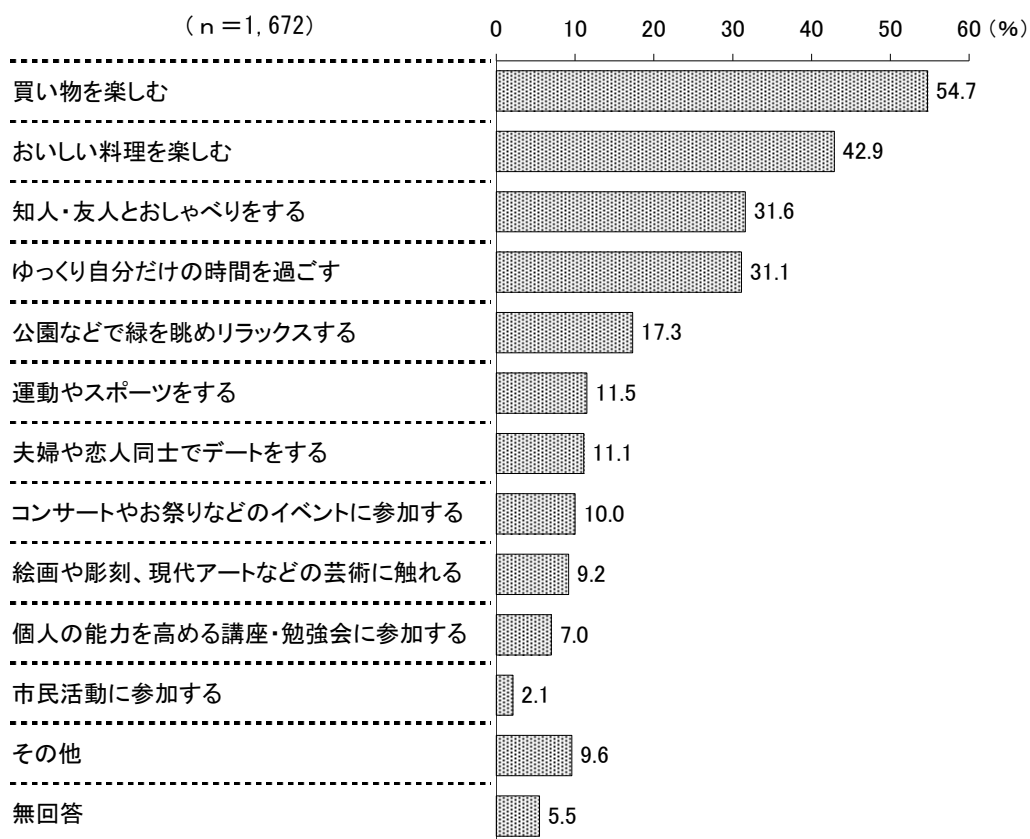


(5) 仕事・学校帰りや休みの日に本厚木駅周辺でしたいこと (B: 問19)

問. 本厚木駅周辺で、仕事・学校帰りや休みの日にどのようなことをしたいですか。

(3つまで選んでください)

図11-5-1 仕事・学校帰りや休みの日に本厚木駅周辺でしたいこと



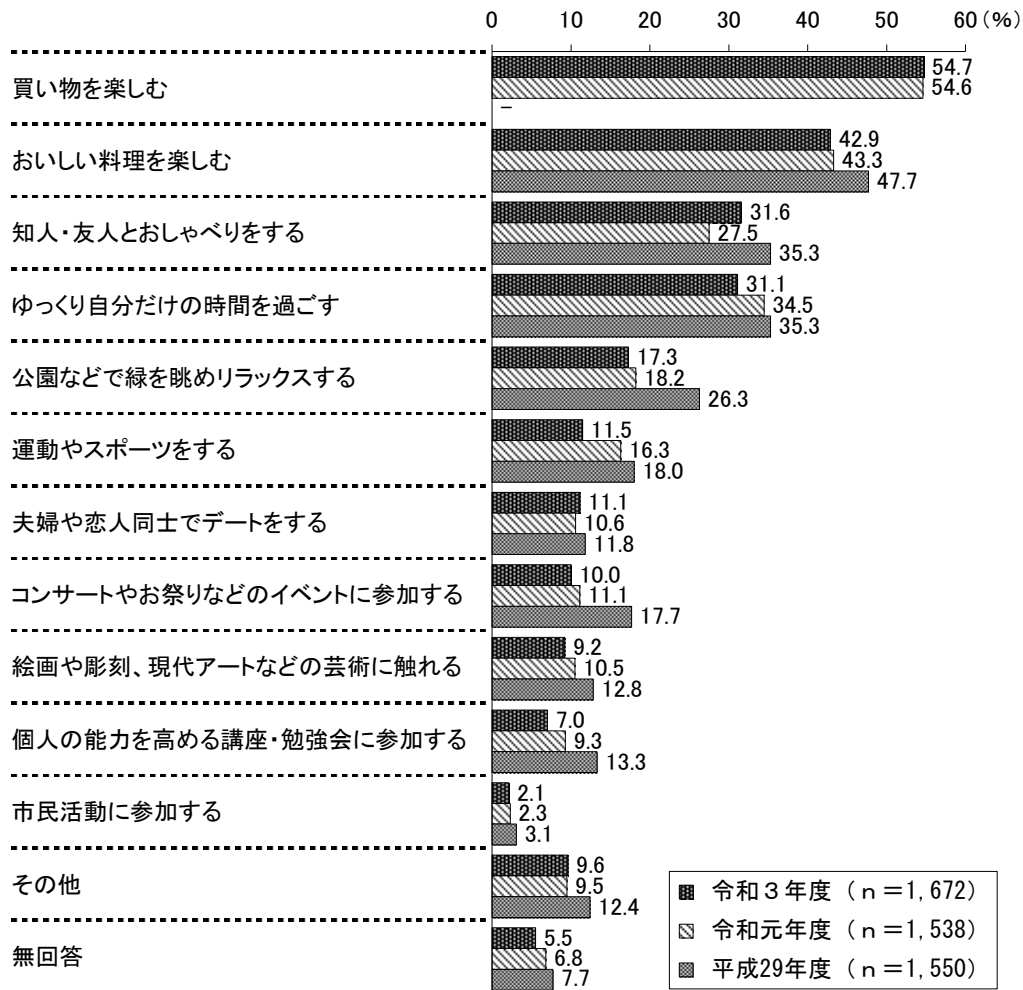
【全体】

仕事・学校帰りや休みの日に本厚木駅周辺でしたいことについて聞いたところ、「買い物を楽しむ」(54.7%)が5割半ばで最も高く、次いで「おいしい料理を楽しむ」(42.9%)、「知人・友人とおしゃべりをする」(31.6%)、「ゆっくり自分だけの時間を過ごす」(31.1%)、「公園などで緑を眺めリラックスする」(17.3%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「知人・友人とおしゃべりをする」(31.6%)は令和元年度調査(27.5%)より4.1ポイント増加している。一方、「運動やスポーツをする」(11.5%)は令和元年度調査(16.3%)より4.8ポイント、「ゆっくり自分だけの時間を過ごす」(31.1%)は令和元年度調査(34.5%)より3.4ポイント減少している。

図11-5-2 仕事・学校帰りや休みの日に本厚木駅周辺でしたいことー経年変化



(注1) 令和元年度調査から「買い物を楽しむ」の選択肢を追加している。

(注2) 「ゆっくり自分だけの時間を過ごす」は、平成29年度調査では「一人でゆっくり自分だけの時間を過ごす」としていた。

(注3) 「市民活動に参加する」は、平成29年度調査では「ボランティア活動をする」としていた。

【属性別】

性別で見ると、女性では「知人・友人とおしゃべりをする」(40.6%)が男性(21.1%)より19.5ポイント、「買い物を楽しむ」(63.5%)が男性(44.8%)より18.7ポイント高くなっている。一方、男性では「運動やスポーツをする」(15.4%)が女性(8.1%)より7.3ポイント、「ゆっくり自分だけの時間を過ごす」(34.3%)が女性(28.4%)より5.9ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「買い物を楽しむ」は20歳未満(64.3%)と40～49歳(65.3%)で6割半ばと高くなっている。「おいしい料理を楽しむ」は30～39歳(53.1%)と40～49歳(53.8%)で5割半ば近くと高くなっている。「知人・友人とおしゃべりをする」は20歳未満(71.4%)で7割を超えて高くなっている。「ゆっくり自分だけの時間を過ごす」は20～29歳(37.3%)と30～39歳(36.5%)で3割半ばを超えて高くなっている。

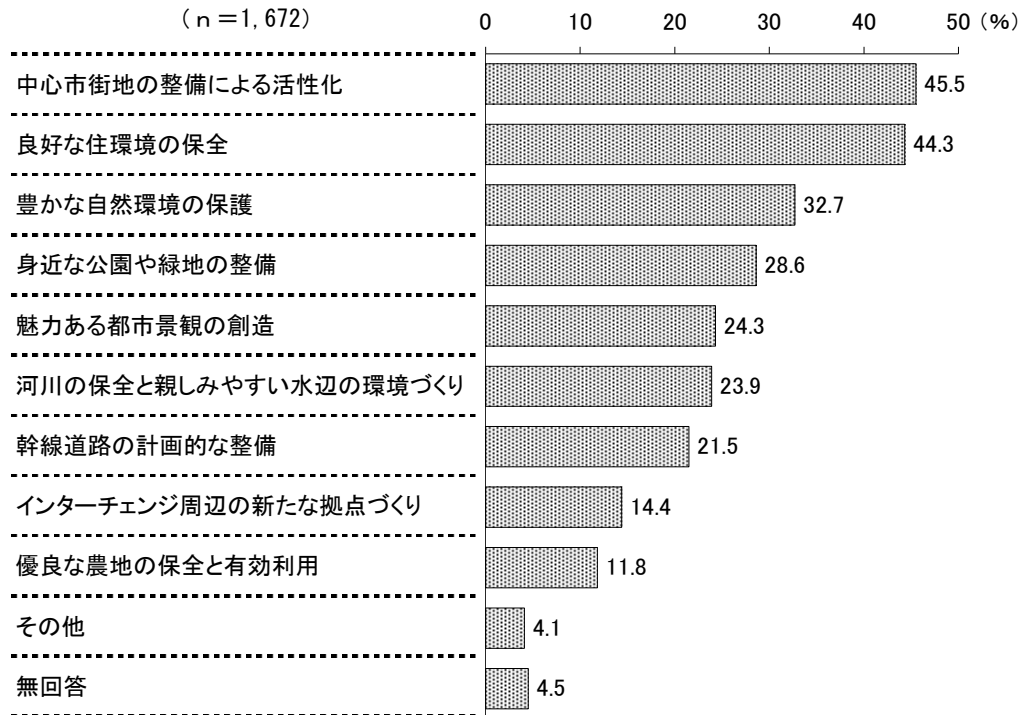
表11-5-1 仕事・学校帰りや休みの日に本厚木駅周辺でしたいこと一性別、年齢別

		(%)													
		n	買い物を楽しむ	おいしい料理を楽しむ	知人・友人とおしゃべりをする	ゆっくり自分だけの時間を過ごす	公園などで緑を眺めリラックスする	運動やスポーツをする	夫婦や恋人同士でデートをする	コンサートやお祭りなどのイベントに参加する	絵画や彫刻、現代アートなどの芸術に触れる	個人の能力を高める講座・勉強会に参加する	市民活動に参加する	その他	無回答
全 体		1,672	54.7	42.9	31.6	31.1	17.3	11.5	11.1	10.0	9.2	7.0	2.1	9.6	5.5
性別	男 性	752	44.8	41.9	21.1	34.3	19.1	15.4	12.6	10.0	7.7	5.6	2.7	13.3	5.9
	女 性	887	63.5	44.2	40.6	28.4	15.9	8.1	9.6	10.1	10.1	8.1	1.7	6.4	5.1
年齢別	20歳未満	28	64.3	14.3	71.4	35.7	10.7	3.6	25.0	10.7	0.0	0.0	3.6	14.3	0.0
	20～29歳	153	55.6	37.9	43.1	37.3	11.8	14.4	20.3	12.4	4.6	2.6	1.3	3.3	1.3
	30～39歳	192	55.7	53.1	25.5	36.5	15.1	12.0	22.9	9.4	5.2	5.2	0.0	7.3	2.1
	40～49歳	277	65.3	53.8	32.1	33.6	13.7	11.9	14.1	10.1	7.9	5.1	2.5	7.2	1.4
	50～59歳	280	60.0	49.3	30.0	31.4	16.4	13.6	13.2	10.7	7.9	6.1	2.1	10.0	1.8
	60～69歳	267	56.9	39.7	33.3	28.1	17.2	10.5	4.9	7.5	13.1	10.5	1.9	12.4	4.9
	70～79歳	320	47.8	34.4	27.8	28.4	23.4	12.2	3.4	10.6	13.4	10.6	2.8	10.9	9.7
	80歳以上	148	33.1	33.1	26.4	23.0	23.0	4.7	2.0	10.1	9.5	6.8	3.4	14.2	20.9

(6) 将来的なまちづくりで優先的に必要な取組 (B: 問20)

問. 厚木市の将来的なまちづくりについて、優先的にどのような取組が必要であると思いますか。(3つまで選んでください)

図11-6-1 将来的なまちづくりで優先的に必要な取組



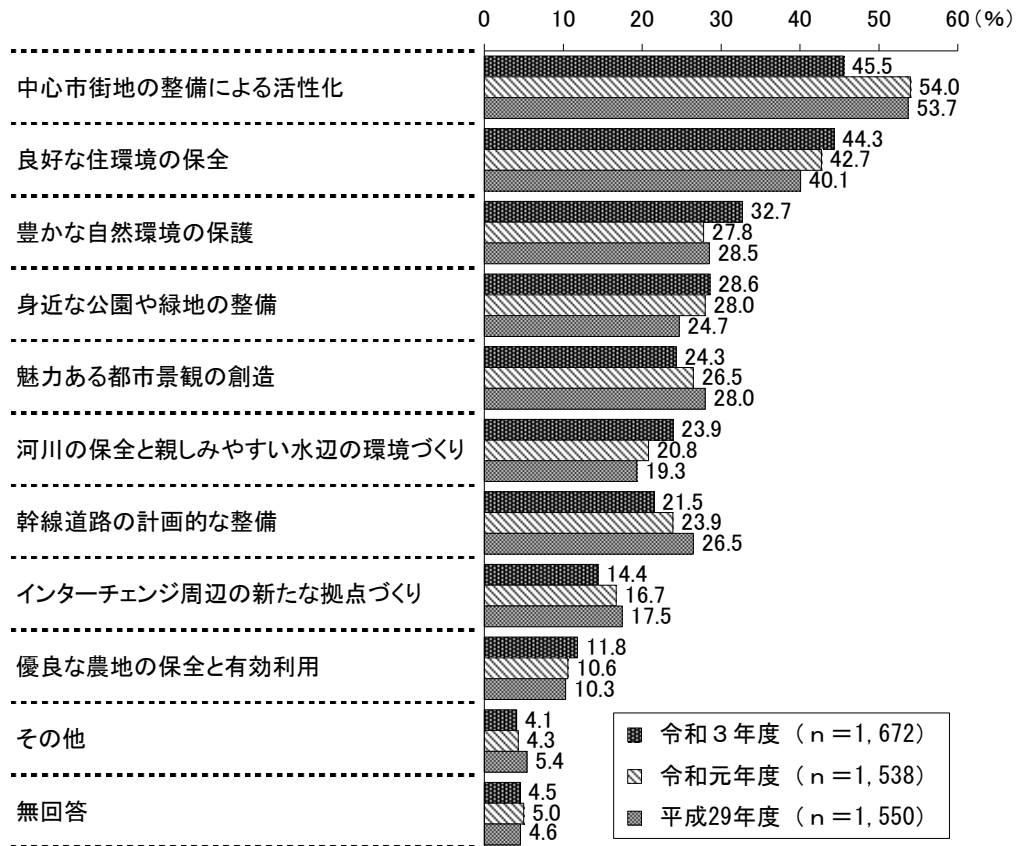
【全体】

将来的なまちづくりで優先的に必要な取組について聞いたところ、「中心市街地の整備による活性化」(45.5%)と「良好な住環境の保全」(44.3%)がともに4割半ばで高く、次いで「豊かな自然環境の保護」(32.7%)、「身近な公園や緑地の整備」(28.6%)、「魅力ある都市景観の創造」(24.3%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「豊かな自然環境の保護」(32.7%)は令和元年度調査(27.8%)より4.9ポイント、「河川の保全と親しみやすい水辺の環境づくり」(23.9%)は令和元年度調査(20.8%)より3.1ポイント増加している。一方、「中心市街地の整備による活性化」(45.5%)は令和元年度調査(54.0%)より8.5ポイント減少している。

図11-6-2 将来的なまちづくりで優先的に必要な取組—経年変化



【属性別】

性別で見ると、男性では「幹線道路の計画的な整備」(26.3%)が女性(17.5%)より8.8ポイント、「河川の保全と親しみやすい水辺の環境づくり」(27.9%)が女性(20.4%)より7.5ポイント高くなっている。一方、女性では「良好な住環境の保全」(47.5%)が男性(40.6%)より6.9ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「中心市街地の整備による活性化」は50～59歳(51.4%)で5割を超えて高くなっている。「良好な住環境の保全」は30～39歳(51.0%)で5割を超えて高くなっている。「身近な公園や緑地の整備」は20歳未満(39.3%)で約4割と高くなっている。「魅力ある都市景観の創造」は20歳未満(53.6%)で5割半ば近くと高くなっている。

表11-6-1 将来的なまちづくりで優先的に必要な取組一性別、年齢別

		(%)											
		n	中心市街地の整備による活性化	良好な住環境の保全	豊かな自然環境の保護	身近な公園や緑地の整備	魅力ある都市景観の創造	河川の保全と親しみやすい水辺の環境づくり	幹線道路の計画的な整備	拠点づくり インターチェンジ周辺の新たな	優良な農地の保全と有効利用	その他	無回答
全 体		1,672	45.5	44.3	32.7	28.6	24.3	23.9	21.5	14.4	11.8	4.1	4.5
性別	男 性	752	46.5	40.6	32.4	28.6	22.5	27.9	26.3	16.6	10.8	4.1	4.0
	女 性	887	45.1	47.5	32.8	28.9	25.9	20.4	17.5	12.7	12.5	3.7	4.7
年 齢 別	20歳未満	28	32.1	32.1	32.1	39.3	53.6	14.3	10.7	14.3	7.1	10.7	0.0
	20～29歳	153	47.1	45.8	26.8	28.8	31.4	17.0	17.6	10.5	11.8	4.6	1.3
	30～39歳	192	43.8	51.0	24.5	30.7	24.0	20.3	26.0	24.0	6.3	5.7	1.6
	40～49歳	277	48.7	45.8	32.9	23.5	23.5	22.7	23.8	19.5	11.6	3.6	1.4
	50～59歳	280	51.4	43.2	34.6	26.1	20.4	24.3	25.7	20.4	12.5	4.6	3.2
	60～69歳	267	45.7	40.8	34.5	26.6	24.7	30.0	22.8	11.6	15.4	3.0	3.4
	70～79歳	320	45.3	45.6	38.1	31.9	23.4	25.0	16.9	7.2	13.1	2.5	7.8
	80歳以上	148	31.1	38.5	30.4	35.1	21.6	26.4	16.9	6.1	9.5	4.7	14.9

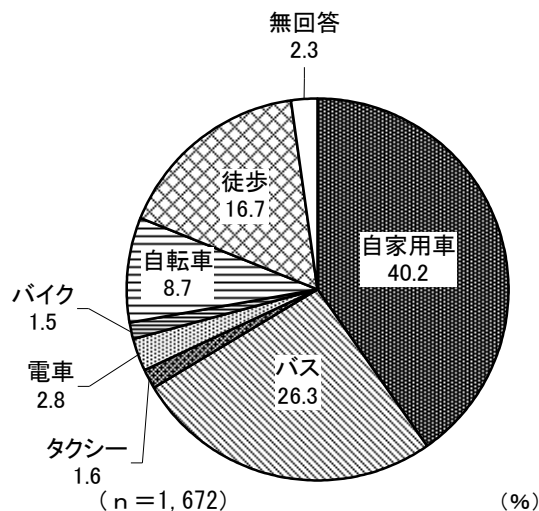
12 交通・道路

(1) 本厚木駅周辺を訪れるときの交通手段（B：問21）

問. 本厚木駅周辺を訪れるとき、自宅からはどのような交通手段を利用されますか。

（1つだけ選んでください）

図12-1-1 本厚木駅周辺を訪れるときの交通手段



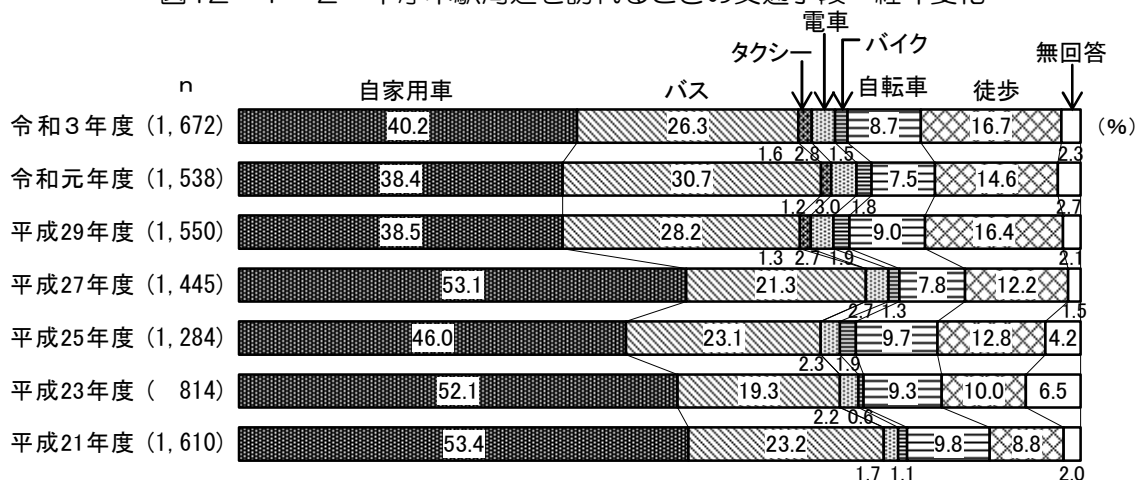
【全体】

本厚木駅周辺を訪れるときの交通手段について聞いたところ、「自家用車」(40.2%)が約4割で最も高く、次いで「バス」(26.3%)、「徒歩」(16.7%)、「自転車」(8.7%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「バス」(26.3%)は令和元年度調査(30.7%)より4.4ポイント減少している。

図12-1-2 本厚木駅周辺を訪れるときの交通手段—経年変化



(注1) 平成29年度調査以降では、「タクシー」の選択肢を追加している。

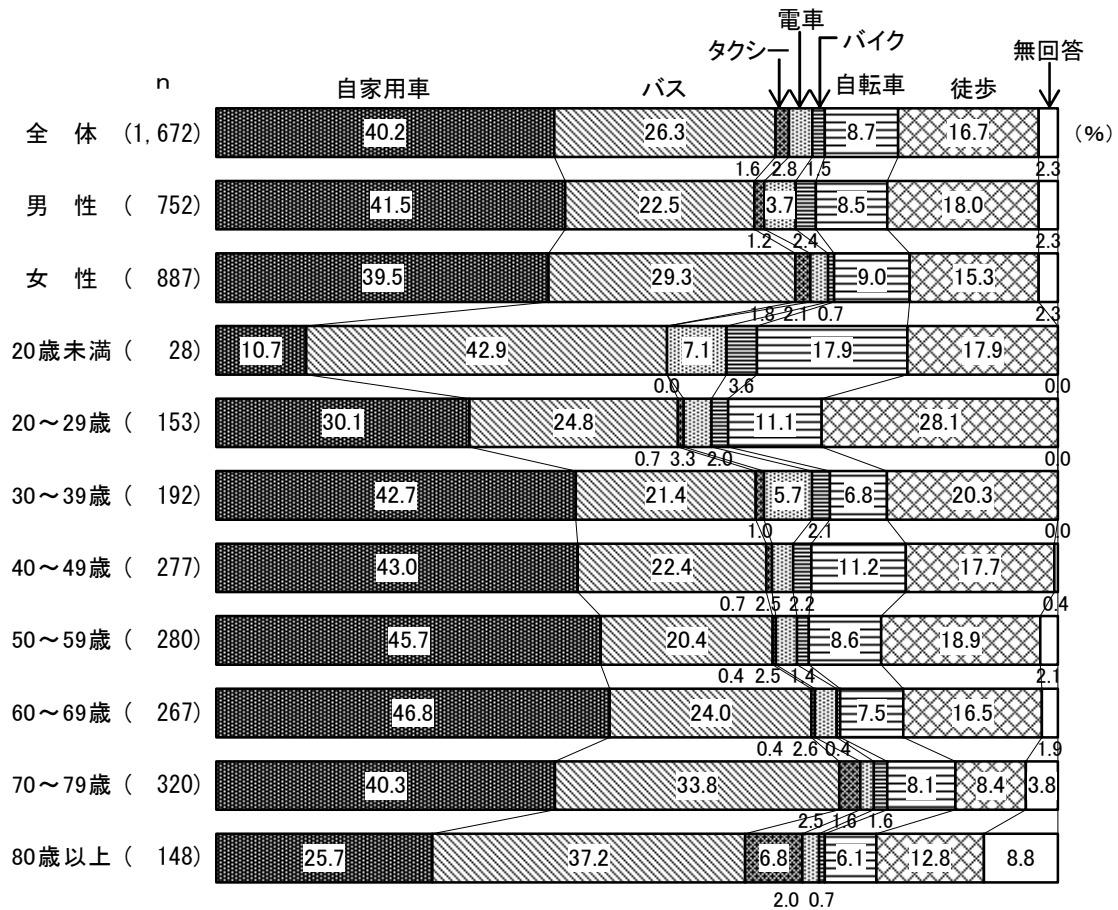
(注2) 平成27年度調査以前では、「本厚木周辺で買物をするとき、自宅からの主な交通手段は何ですか。」(1つだけ選んでください)と質問していた。

【属性別】

性別で見ると、女性では「バス」(29.3%)が男性(22.5%)より6.8ポイント高くなっている。

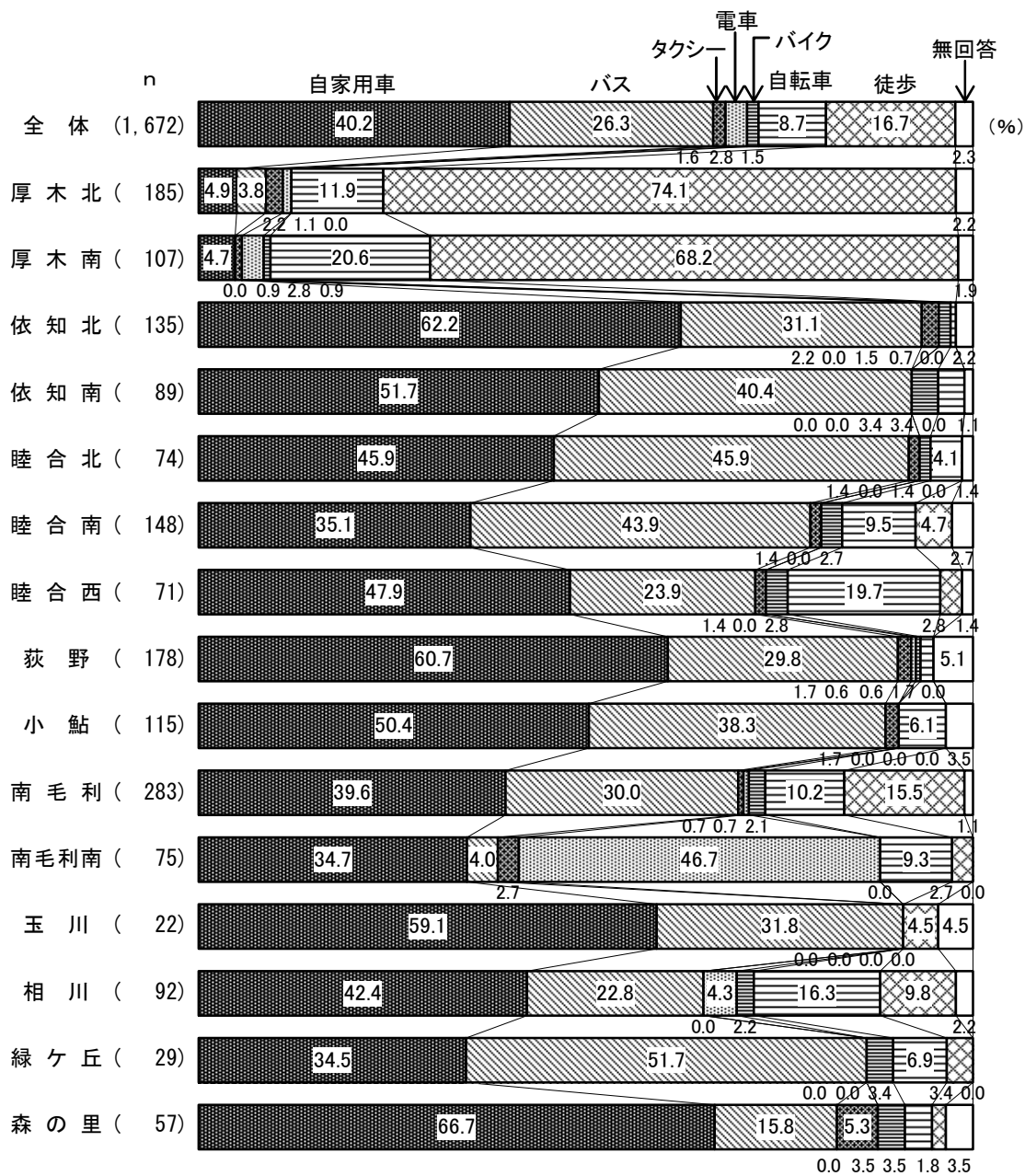
年齢別で見ると、「自家用車」は60～69歳(46.8%)で4割半ばを超えて高くなっている。「バス」は20歳未満(42.9%)で4割半ば近くと高くなっている。「徒歩」は20～29歳(28.1%)で3割近くと高くなっている。

図12-1-3 本厚木駅周辺を訪れるときの交通手段—性別、年齢別



〔居住地区別の結果〕

図12-1-4 本厚木駅周辺を訪れるときの交通手段—居住地区別

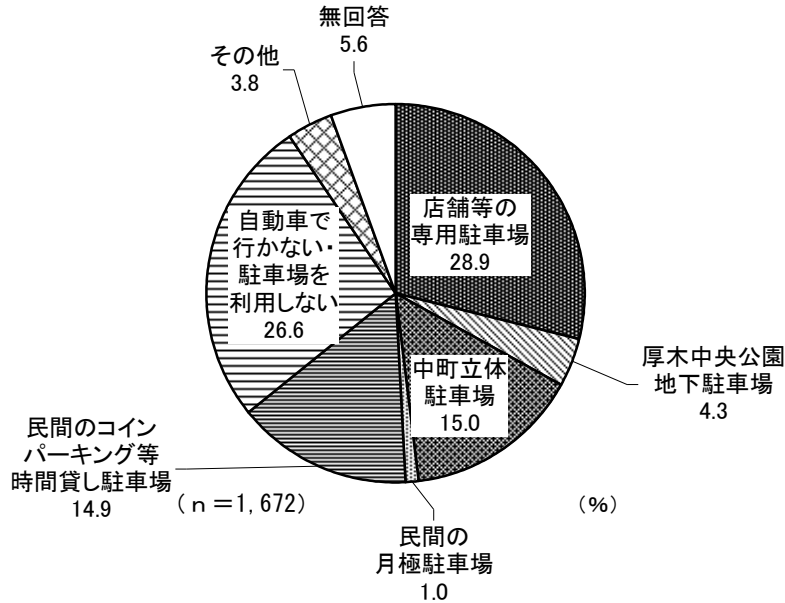


(2) 本厚木駅周辺で主に利用する駐車場 (B:問22)

問. 本厚木駅周辺を訪れるとき、主にどちらの駐車場を利用されますか。

(1つだけ選んでください)

図12-2-1 本厚木駅周辺で主に利用する駐車場



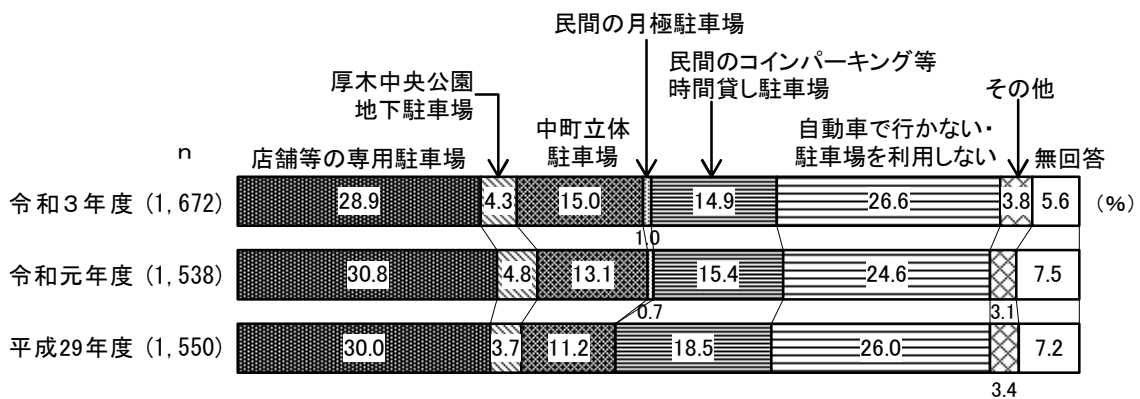
【全体】

本厚木駅周辺で主に利用する駐車場について聞いたところ、「店舗等の専用駐車場」(28.9%)が3割近くで最も高く、次いで「中町立体駐車場」(15.0%)、「民間のコインパーキング等時間貸し駐車場」(14.9%)、「厚木中央公園地下駐車場」(4.3%)となっている。また、「自動車で行かない・駐車場を利用しない」(26.6%)は2割半ばを超えている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、令和元年度調査と比べて大きな差異は見られない。

図12-2-2 本厚木駅周辺で主に利用する駐車場—経年変化



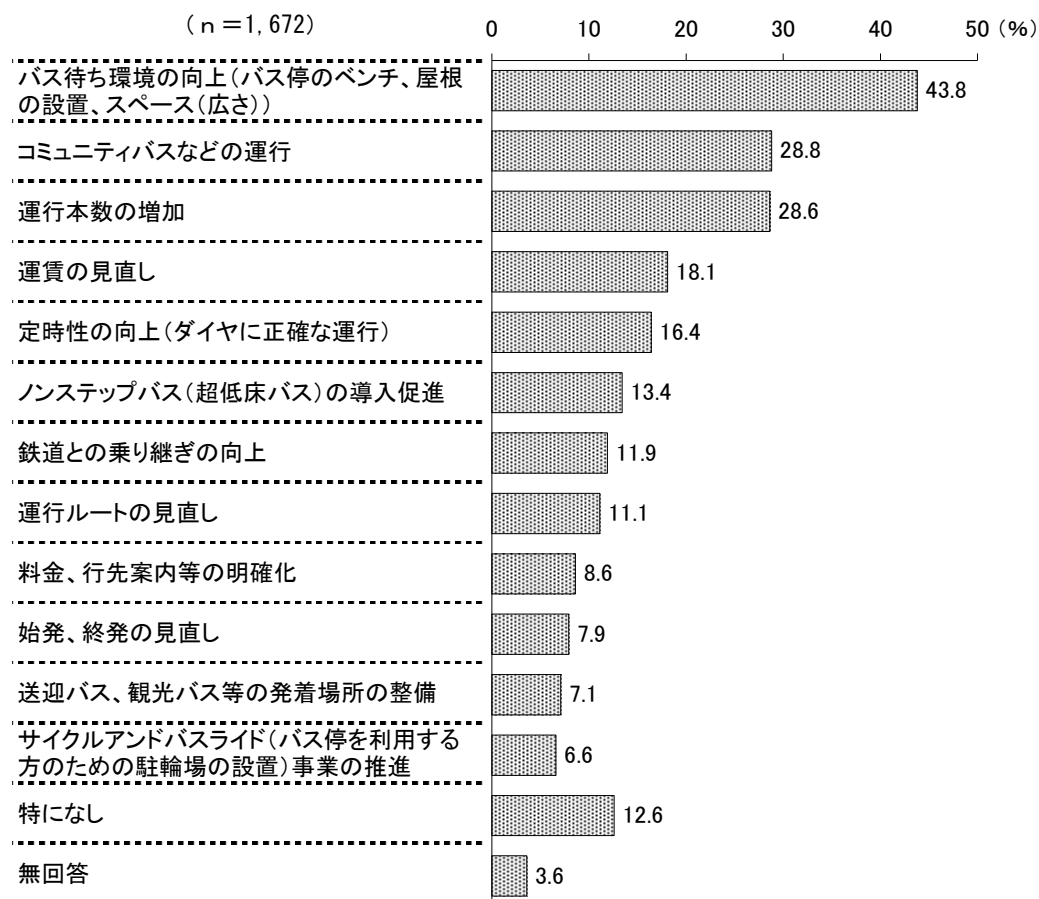
(注) 「民間の月極駐車場」と「民間のコインパーキング等時間貸し駐車場」の2つの選択肢は、平成29年度調査では1つの選択肢「本厚木駅周辺の民間駐車場」としていた。

(3) 市内のバス交通への取組 (B:問23)

問. 厚木市内のバス交通について、どのような取組が必要であると思いますか。

(3つまで選んでください)

図12-3-1 市内のバス交通への取組



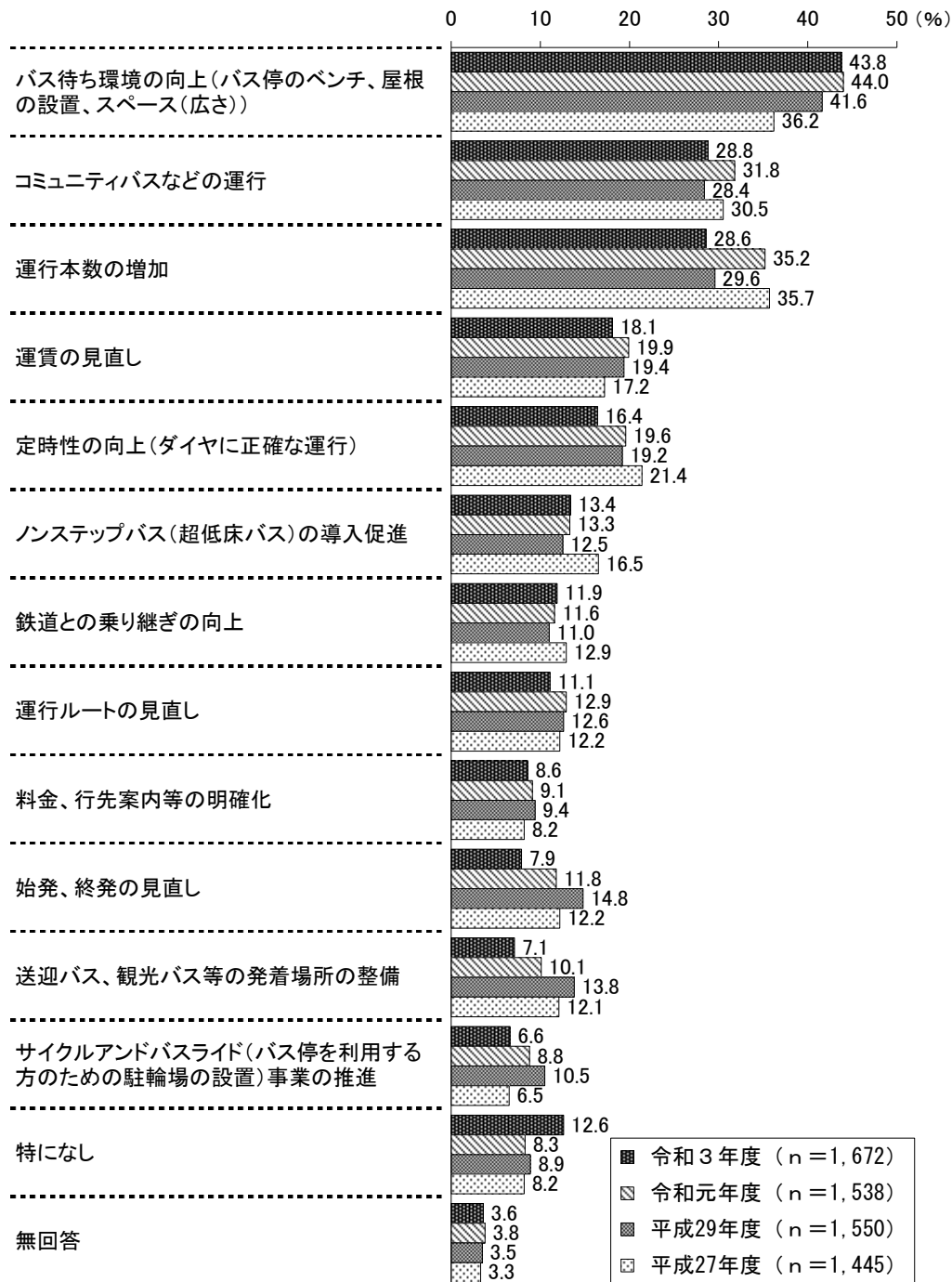
【全体】

市内のバス交通への取組について聞いたところ、「バス待ち環境の向上(バス停のベンチ、屋根の設置、スペース(広さ))」(43.8%)が4割半ば近くで最も高く、次いで「コミュニティバスなどの運行」(28.8%)、「運行本数の増加」(28.6%)、「運賃の見直し」(18.1%)、「定時性の向上(ダイヤに正確な運行)」(16.4%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「運行本数の増加」(28.6%)は令和元年度調査(35.2%)より6.6ポイント、「始発、終発の見直し」(7.9%)は令和元年度調査(11.8%)より3.9ポイント減少している。

図12-3-2 市内のバス交通への取組—経年変化



(注)「バス待ち環境の向上(バス停のベンチ、屋根の設置、スペース(広さ))」の選択肢は、平成29年度調査では「バス待ち環境の向上(バス停のベンチ、屋根の設置)」としていた。

【属性別】

性別で見ると、女性では「ノンステップバス(超低床バス)の導入促進」(16.0%)が男性(10.4%)より5.6ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「バス待ち環境の向上(バス停のベンチ、屋根の設置、スペース(広さ))」は30～39歳(49.0%)で約5割と高くなっている。「コミュニティバスなどの運行」は60～69歳(36.0%)と70～79歳(37.2%)で3割半ばを超えて高くなっている。「運行本数の増加」は20歳未満(39.3%)で約4割と高くなっている。「定時性の向上(ダイヤに正確な運行)」は20歳未満(28.6%)で3割近くと高くなっている。

表12-3-1 市内のバス交通への取組—性別、年齢別

		n	バス待ち環境の向上(バス停のベンチ、屋根の設置、スペース(広さ))	コミュニティバスなどの運行	運行本数の増加	運賃の見直し	定時性の向上(ダイヤに正確な運行)	ノンステップバス(超低床バス)の導入促進	鉄道との乗り継ぎの向上	運行ルートの見直し	料金、行先案内等の明確化	始発、終発の見直し	備送迎バス、観光バス等の発着場所の整備	サイクルアンドバスライド(バス停を利用する方のための駐輪場の設置)事業の推進	特になし	無回答
全体		1,672	43.8	28.8	28.6	18.1	16.4	13.4	11.9	11.1	8.6	7.9	7.1	6.6	12.6	3.6
性別	男性	752	43.1	27.7	26.9	17.3	17.6	10.4	11.4	11.8	8.9	9.2	8.2	6.5	15.0	3.1
	女性	887	44.3	29.8	29.8	18.5	15.3	16.0	12.2	10.5	8.5	6.9	6.1	6.4	10.6	4.2
年齢別	20歳未満	28	21.4	3.6	39.3	10.7	28.6	7.1	0.0	14.3	3.6	0.0	3.6	7.1	28.6	0.0
	20～29歳	153	39.9	11.8	38.6	20.9	20.9	7.8	19.6	5.2	11.8	9.8	4.6	5.9	13.7	1.3
	30～39歳	192	49.0	18.2	31.8	16.7	16.7	9.4	13.5	11.5	15.1	9.9	5.7	5.2	14.6	0.0
	40～49歳	277	46.2	26.7	37.5	20.6	18.1	5.8	15.2	11.9	14.4	11.2	4.0	9.7	9.4	1.1
	50～59歳	280	41.4	32.1	23.2	21.1	18.2	8.2	11.4	13.9	7.9	11.8	6.4	7.1	12.9	2.9
	60～69歳	267	44.2	36.0	19.5	16.9	12.4	15.0	12.7	12.0	5.6	5.6	9.7	8.6	12.0	3.7
	70～79歳	320	43.4	37.2	28.4	18.4	14.1	23.4	7.5	10.3	4.4	3.4	9.7	4.4	13.4	5.6
	80歳以上	148	45.3	32.4	23.6	10.1	14.9	25.0	6.1	9.5	2.0	4.7	8.1	3.4	10.1	12.8

〔居住地区別の結果〕

表12-3-2 市内のバス交通への取組—居住地区別

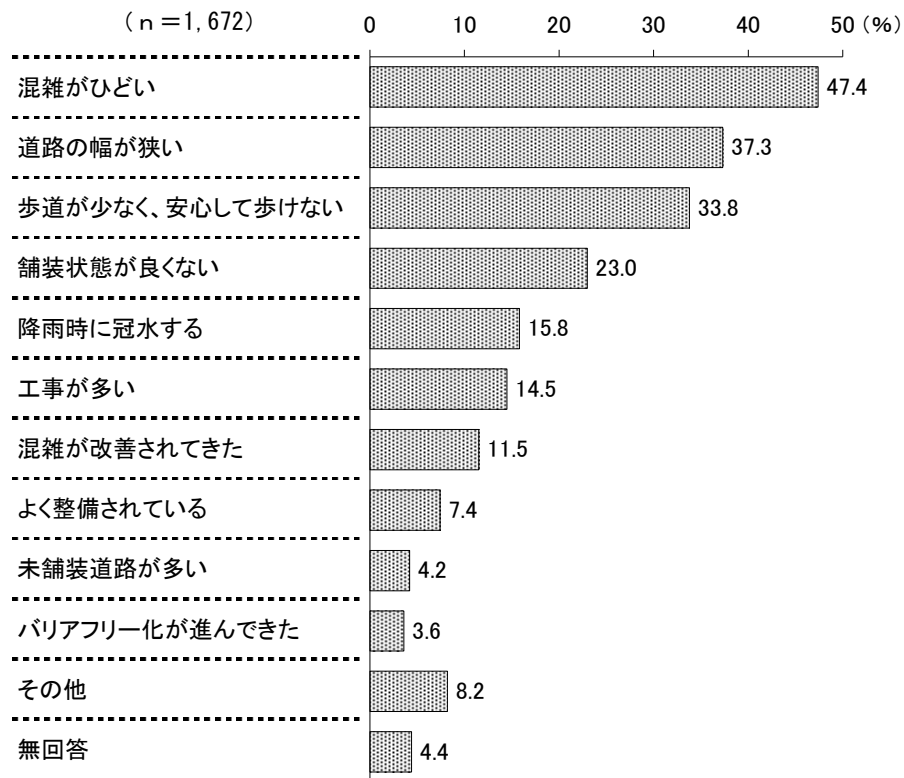
(%)

	n	バス待ち環境の向上（バス停のベンチ、屋根の設置、スペース（広さ））	コミュニティバスなどの運行	運行本数の増加	運賃の見直し	定時性の向上（ダイヤに正確な運行）	ノンステップバス（超低床バス）の導入促進	鉄道との乗り継ぎの向上	運行ルートの見直し	料金、行先案内等の明確化	始発、終発の見直し	備送迎バス、観光バス等の発着場所の整備	業の推進	利用する方のための駐輪場の設置）事	サイクルアンドバスライド（バス停を	特になし	無回答
全 体	1,672	43.8	28.8	28.6	18.1	16.4	13.4	11.9	11.1	8.6	7.9	7.1	6.6	12.6	3.6		
居 住 地 区 別	厚 木 北	185	38.9	26.5	13.5	8.1	12.4	9.7	9.2	9.7	11.9	7.6	4.3	5.9	22.7	5.4	
	厚 木 南	107	35.5	31.8	21.5	10.3	14.0	13.1	15.0	8.4	13.1	0.9	10.3	4.7	20.6	4.7	
	依 知 北	135	43.0	33.3	37.0	22.2	13.3	8.9	7.4	17.0	5.2	11.1	3.7	5.2	9.6	2.2	
	依 知 南	89	53.9	38.2	21.3	23.6	19.1	13.5	14.6	14.6	11.2	6.7	6.7	5.6	5.6	2.2	
	睦 合 北	74	56.8	37.8	35.1	20.3	13.5	12.2	8.1	9.5	6.8	6.8	8.1	9.5	6.8	2.7	
	睦 合 南	148	55.4	29.1	15.5	18.2	19.6	18.9	8.1	7.4	10.8	6.8	8.1	9.5	12.8	1.4	
	睦 合 西	71	43.7	19.7	29.6	25.4	25.4	5.6	15.5	12.7	12.7	11.3	4.2	5.6	12.7	1.4	
	荻 野	178	39.3	15.7	36.0	34.8	18.5	15.7	11.8	12.9	6.7	9.0	7.9	9.6	7.3	6.7	
	小 鮎	115	42.6	30.4	36.5	18.3	8.7	15.7	8.7	12.2	4.3	11.3	8.7	4.3	11.3	4.3	
	南 毛 利	283	45.9	31.4	31.8	13.4	19.8	13.1	14.8	11.0	8.5	7.8	6.4	7.1	10.2	1.8	
	南毛利南	75	38.7	24.0	28.0	12.0	6.7	9.3	16.0	13.3	8.0	2.7	10.7	9.3	25.3	2.7	
	玉 川	22	54.5	13.6	45.5	4.5	13.6	22.7	13.6	9.1	4.5	9.1	9.1	4.5	9.1	9.1	
	相 川	92	45.7	30.4	35.9	16.3	25.0	14.1	10.9	10.9	5.4	5.4	7.6	4.3	10.9	3.3	
	緑ヶ丘	29	55.2	31.0	27.6	10.3	34.5	31.0	3.4	3.4	10.3	6.9	10.3	6.9	10.3	3.4	
	森の里	57	17.5	40.4	42.1	26.3	7.0	15.8	24.6	7.0	3.5	17.5	7.0	1.8	7.0	3.5	

(4) 市内の道路の現状 (B: 問24)

問. 厚木市の道路の現状について、どのように感じますか。(いくつでも選んでください)

図12-4-1 市内の道路の現状



【全体】

市内の道路の現状について聞いたところ、「混雑がひどい」(47.4%)が4割半ばを超えて最も高く、次いで「道路の幅が狭い」(37.3%)、「歩道が少なく、安心して歩けない」(33.8%)、「舗装状態が良くない」(23.0%)、「降雨時に冠水する」(15.8%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「歩道が少なく、安心して歩けない」（33.8％）は令和元年度調査（40.8％）より7.0ポイント、「工事が多い」（14.5％）は令和元年度調査（18.9％）より4.4ポイント減少している。

表12-4-1 市内の道路の現状—経年変化

調査年	n	(%)											
		混雑がひどい	道路の幅が狭い	歩道が少なく、安心して歩けない	舗装状態が良くない	降雨時に冠水する	工事が多い	混雑が改善されてきた	よく整備されている	未舗装道路が多い	バリアフリー化が進んできた	その他	無回答
令和3年度	1,672	47.4	37.3	33.8	23.0	15.8	14.5	11.5	7.4	4.2	3.6	8.2	4.4
令和元年度	1,538	48.4	40.8	40.8	26.9	17.2	18.9	12.2	6.5	4.4	5.3	6.4	4.2
平成29年度	1,550	45.2	41.0	40.8	26.4	18.3	18.0	14.4	5.9	5.0	5.1	6.1	3.9
平成27年度	1,445	45.1	35.7	39.3	21.6	17.0	19.4	12.9	4.8	2.8	6.7	7.2	4.4
平成25年度	1,284	43.0	33.2	31.6	17.5	14.5	19.9	17.6	6.5	3.7	10.0	6.5	6.9
平成23年度	814	44.7	32.9	32.6	17.8	16.2	28.5	18.6	4.9	2.6	16.2	6.0	5.3
平成21年度	1,610	51.1	31.3	35.2	18.6	18.4	29.0	14.7	5.3	3.7	15.9	5.0	5.3
平成19年度	1,506	52.7	33.9	31.5	17.9	19.7	32.0	12.9	4.3	3.7	17.3	4.4	5.8

(注1)「道路の幅が狭い」は、平成27年度調査以前では「道路幅員が狭い」としていた。

(注2)「降雨時に冠水する」は、平成25年度調査以前では「側溝が整備されていないため、降雨時に冠水する」としていた。

(注3)「混雑がひどい」は、令和元年度調査以前では「渋滞がひどい」としていた。

(注4)「混雑が改善されてきた」は、令和元年度調査以前では「渋滞が改善されてきた」としていた。

【属性別】

性別で見ると、男性では「混雑がひどい」(49.6%)が女性(45.1%)より4.5ポイント、「混雑が改善されてきた」(14.0%)が女性(9.7%)より4.3ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「混雑がひどい」は30～39歳(63.5%)で6割半ば近くと高くなっている。「歩道が少なく、安心して歩けない」は40～49歳(37.5%)、50～59歳(38.9%)、80歳以上(38.5%)で4割近くと高くなっている。「工事が多い」は20歳未満(28.6%)で3割近くと高くなっている。

表12-4-2 市内の道路の現状－性別、年齢別

		n	混雑がひどい	道路の幅が狭い	歩道が少なく、安心して歩けない	舗装状態が良くない	降雨時に冠水する	工事が多い	混雑が改善されてきた	よく整備されている	未舗装道路が多い	バリアフリー化が進んできた	その他	無回答
全 体		1,672	47.4	37.3	33.8	23.0	15.8	14.5	11.5	7.4	4.2	3.6	8.2	4.4
性別	男 性	752	49.6	37.9	32.0	23.4	14.2	14.1	14.0	8.8	2.8	3.1	7.8	4.0
	女 性	887	45.1	36.5	34.5	22.5	16.8	14.9	9.7	6.4	5.3	4.2	8.3	4.8
年齢別	20歳未満	28	39.3	14.3	17.9	21.4	10.7	28.6	14.3	14.3	0.0	3.6	10.7	0.0
	20～29歳	153	52.3	30.7	28.1	14.4	9.2	15.0	5.9	11.1	5.9	2.0	7.8	0.0
	30～39歳	192	63.5	35.4	26.6	21.4	11.5	16.1	4.2	9.9	2.1	1.6	9.9	0.5
	40～49歳	277	48.0	39.4	37.5	26.4	19.9	10.8	11.9	7.6	6.1	3.2	5.8	1.1
	50～59歳	280	55.7	35.0	38.9	26.8	23.2	12.5	10.0	4.3	4.6	2.9	9.6	3.2
	60～69歳	267	43.4	39.3	34.8	25.1	13.1	18.7	12.7	5.2	4.9	3.4	10.1	5.6
	70～79歳	320	38.8	40.9	31.3	23.8	15.3	14.4	18.1	8.8	2.5	6.3	7.2	8.1
	80歳以上	148	31.1	40.5	38.5	16.2	13.5	12.8	12.2	6.1	4.1	5.4	6.1	12.8

〔居住地区別の結果〕

表12-4-3 市内の道路の現状－居住地区別

(%)

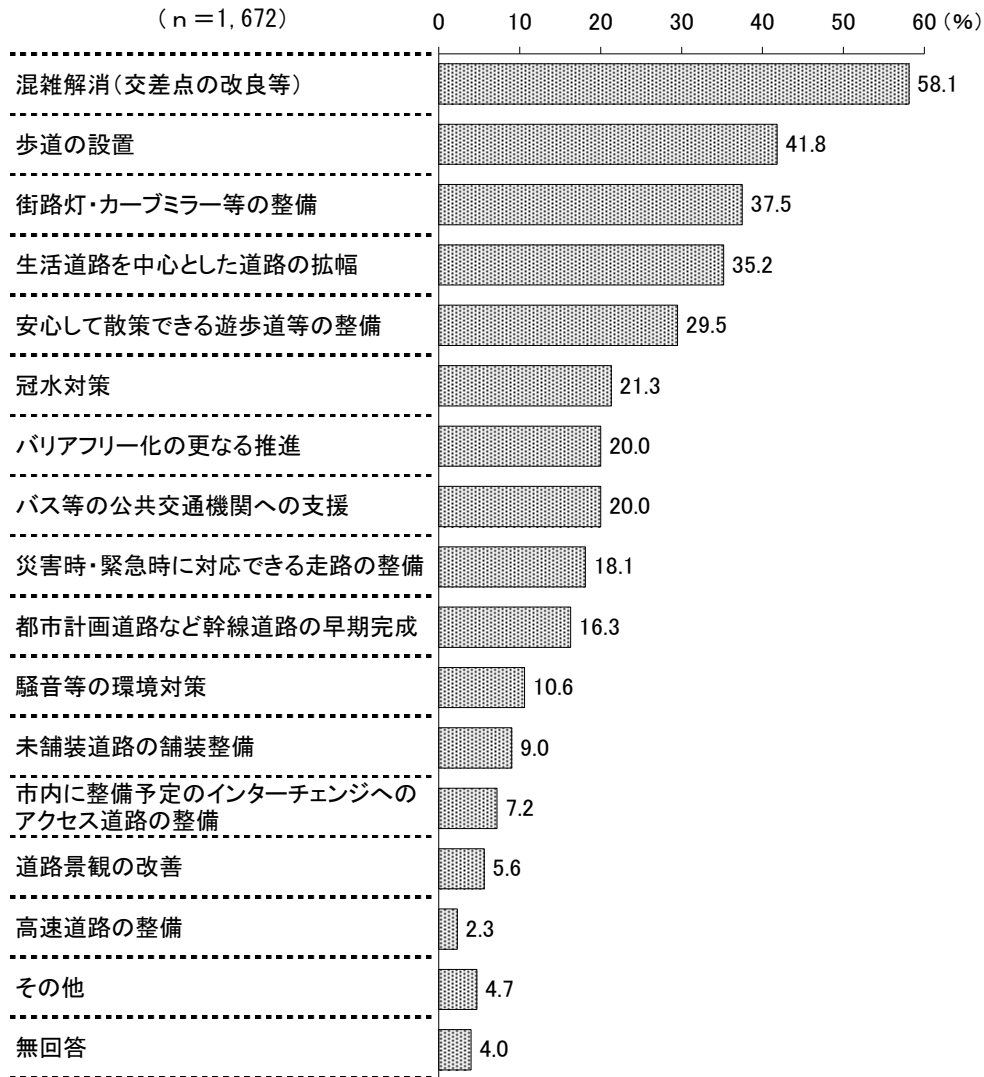
	n	混雑がひどい	道路の幅が狭い	歩道が少なく、安心して歩けない	舗装状態が良くない	降雨時に冠水する	工事が多い	混雑が改善されてきた	よく整備されている	未舗装道路が多い	バリアフリー化が進んできた	その他	無回答	
全 体	1,672	47.4	37.3	33.8	23.0	15.8	14.5	11.5	7.4	4.2	3.6	8.2	4.4	
居 住 地 区 別	厚 木 北	185	42.7	30.8	25.4	18.9	15.1	12.4	11.4	14.6	4.3	4.9	9.2	2.7
	厚 木 南	107	36.4	31.8	27.1	22.4	18.7	7.5	6.5	11.2	4.7	7.5	15.0	2.8
	依 知 北	135	35.6	40.7	34.1	23.7	14.8	5.2	19.3	8.9	3.7	1.5	7.4	7.4
	依 知 南	89	50.6	42.7	37.1	27.0	18.0	11.2	18.0	7.9	7.9	1.1	12.4	5.6
	睦 合 北	74	39.2	40.5	48.6	24.3	14.9	18.9	14.9	6.8	6.8	1.4	8.1	4.1
	睦 合 南	148	43.9	41.2	38.5	22.3	16.9	21.6	11.5	4.7	2.0	3.4	6.1	6.1
	睦 合 西	71	43.7	39.4	42.3	25.4	16.9	22.5	4.2	2.8	2.8	5.6	9.9	1.4
	荻 野	178	47.8	38.8	34.3	24.7	9.6	19.1	11.2	3.9	3.4	3.4	7.3	6.2
	小 鮎	115	53.0	39.1	28.7	26.1	19.1	14.8	10.4	6.1	4.3	6.1	7.0	5.2
	南 毛 利	283	60.8	32.9	36.0	21.6	14.8	14.5	10.6	9.2	4.6	1.8	5.7	2.8
	南毛利南	75	50.7	50.7	33.3	25.3	20.0	10.7	8.0	1.3	2.7	2.7	12.0	0.0
	玉 川	22	50.0	40.9	40.9	27.3	27.3	18.2	9.1	13.6	0.0	4.5	4.5	9.1
	相 川	92	43.5	39.1	39.1	21.7	18.5	15.2	10.9	2.2	4.3	4.3	9.8	3.3
	緑ヶ丘	29	55.2	44.8	27.6	20.7	17.2	24.1	10.3	6.9	6.9	6.9	0.0	10.3
森の里	57	50.9	29.8	15.8	24.6	10.5	10.5	14.0	5.3	3.5	7.0	8.8	3.5	

(5) 道路整備への取組 (B:問25)

問. 厚木市の道路整備について、どのような取組が必要であると思いますか。

(いくつでも選んでください)

図12-5-1 道路整備への取組



【全体】

道路整備への取組について聞いたところ、「混雑解消(交差点の改良等)」(58.1%)が6割近くで最も高く、次いで「歩道の設置」(41.8%)、「街路灯・カーブミラー等の整備」(37.5%)、「生活道路を中心とした道路の拡幅」(35.2%)、「安心して散策できる遊歩道等の整備」(29.5%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「街路灯・カーブミラー等の整備」(37.5%)は令和元年度調査(44.0%)より6.5ポイント減少している。

表12-5-1 道路整備への取組一経年変化(上位8項目)

(%)

順位	令和3年度 (n=1,672)	令和元年度 (n=1,538)	平成29年度 (n=1,550)	平成27年度 (n=1,445)	平成25年度 (n=1,284)	平成23年度 (n=814)	平成21年度 (n=1,610)	平成19年度 (n=1,506)
1	混雑解消 (交差点の 改良等) 58.1	渋滞解消 (交差点の 改良等) 60.3	渋滞解消 (交差点の 改良等) 58.1	渋滞解消 (交差点の 改良等) 55.4	渋滞解消 (交差点の 改良等) 55.9	渋滞解消 (交差点の 改良等) 54.9	渋滞解消 (交差点の 改良等) 59.3	渋滞解消 (交差点の 改良等) 56.6
2	歩道の設置 41.8	街路灯・カーブ ミラー等の 整備 /歩道の設置	歩道の設置 43.9	歩道の設置 45.0	歩道の設置 39.3	街路灯・カーブ ミラー等 整備 36.7	街路灯・カーブ ミラー等 整備 39.6	街路灯・カーブ ミラー等 整備 39.4
3	街路灯・カーブ ミラー等の 整備 37.5		街路灯・カーブ ミラー等の 整備 40.1	街路灯・カーブ ミラー等 整備 33.2	街路灯・カーブ ミラー等 整備 35.0	歩道の設置 34.3	歩道の設置 35.7	安心して散策 できる遊歩道 等の整備 37.6
4	生活道路を中 心とした道路 の拡幅 35.2	生活道路を中 心とした道路 の拡幅 35.7	生活道路を中 心とした道路 の拡幅 35.4	安心して散策 できる遊歩道 等の整備 33.1	生活道路を中 心とした道路 拡幅 31.5	災害時・緊急 時に対応でき る道路整備 32.6	安心して散策 できる遊歩道 等の整備 34.4	バス等の公共 交通機関への 支援 35.0
5	安心して散策 できる遊歩道 等の整備 29.5	安心して散策 できる遊歩道 等の整備 31.7	安心して散策 できる遊歩道 等の整備 30.5	生活道路を中 心とした道路 拡幅 32.5	安心して散策 できる遊歩道 等の整備 31.4	安心して散策 できる遊歩道 等の整備 32.3	バス等の公共 交通機関への 支援 30.7	歩道の設置 31.1
6	冠水対策 21.3	バス等の公共 交通機関への 支援 28.2	バス等の公共 交通機関への 支援 24.5	バス等の公共 交通機関への 支援 22.2	災害時・緊急 時に対応でき る道路整備 29.7	バス等の公共 交通機関への 支援 28.4	バリアフリー化 の更なる推進 27.9	災害時・緊急 時に対応でき る道路整備 29.4
7	バリアフリー化 の更なる推進 /バス等の公 共交通機関へ の支援	バリアフリー化 の更なる推進 22.5	バリアフリー化 の更なる推進 23.5	バリアフリー化 の更なる推進 21.9	バス等の公共 交通機関への 支援 25.9	生活道路を中 心とした道路 拡幅 26.9	生活道路を中 心とした道路 拡幅 27.5	生活道路を中 心とした道路 拡幅 27.4
8	20.0	災害時・緊急 時に対応でき る走路の整備 22.2	災害時・緊急 時に対応でき る走路の整備 21.4	災害時・緊急 時に対応でき る道路整備 21.1	バリアフリー化 の更なる推進 22.0	バリアフリー化 の更なる推進 25.4	災害時・緊急 時に対応でき る道路整備 26.6	バリアフリー化 の更なる推進 26.3

(注1)「冠水対策」は、平成27年度調査では「道路冠水対策」としていた。また、平成25年度調査以前では選択肢に加えていない。

(注2)「混雑解消(交差点の改良等)」は、令和元年度調査以前では「渋滞解消(交差点の改良等)」としていた。

【属性別】

性別で見ると、男性では「都市計画道路など幹線道路の早期完成」(22.7%)が女性(10.7%)より12.0ポイント、「生活道路を中心とした道路の拡幅」(37.9%)が女性(32.9%)より5.0ポイント高くなっている。一方、女性では「バリアフリー化の更なる推進」(24.8%)が男性(13.6%)より11.2ポイント、「歩道の設置」(44.2%)が男性(38.3%)より5.9ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「混雑解消(交差点の改良等)」は30～39歳(72.4%)で7割を超えて高くなっている。「歩道の設置」は40～49歳(48.4%)で5割近くと高くなっている。「街路灯・カーブミラー等の整備」は40～49歳(44.4%)で4割半ばと高くなっている。「生活道路を中心とした道路の拡幅」は70～79歳(41.3%)で4割を超えて高くなっている。

表12-5-2 道路整備への取組一性別、年齢別

		n	混雑解消(交差点の改良等)	歩道の設置	街路灯・カーブミラー等の整備	生活道路を中心とした道路の拡幅	安心して散策できる遊歩道等の整備	冠水対策	バリアフリー化の更なる推進	バス等の公共交通機関への支援	災害時・緊急時に対応できる走路の整備	都市計画道路など幹線道路の早期完成	騒音等の環境対策	未舗装道路の舗装整備	市内に整備予定のインターチェンジへのアクセス道路の整備	道路景観の改善	高速道路の整備	その他	無回答
全 体		1,672	58.1	41.8	37.5	35.2	29.5	21.3	20.0	20.0	18.1	16.3	10.6	9.0	7.2	5.6	2.3	4.7	4.0
性別	男 性	752	59.6	38.3	34.6	37.9	27.1	20.3	13.6	19.4	15.2	22.7	10.2	7.0	9.4	5.7	3.7	4.3	3.5
	女 性	887	56.9	44.2	39.6	32.9	31.5	22.3	24.8	20.3	20.3	10.7	10.6	10.7	5.2	5.5	1.0	5.3	4.5
年 齢 別	20歳未満	28	50.0	21.4	35.7	10.7	14.3	17.9	17.9	21.4	17.9	3.6	28.6	7.1	0.0	0.0	3.6	7.1	0.0
	20～29歳	153	60.1	35.3	30.7	23.5	24.8	20.3	11.1	12.4	16.3	11.1	11.1	13.1	3.9	3.9	3.9	5.2	1.3
	30～39歳	192	72.4	44.3	39.6	32.8	28.1	20.8	15.1	13.0	16.7	17.2	16.1	9.9	9.9	4.2	4.7	5.7	1.6
	40～49歳	277	63.5	48.4	44.4	35.7	31.4	26.4	17.7	23.8	20.2	14.4	13.7	13.0	10.8	7.6	4.0	5.1	0.7
	50～59歳	280	64.6	45.0	40.0	37.1	23.2	26.8	21.8	20.4	18.6	20.4	9.6	8.6	10.0	5.4	2.9	5.7	3.2
	60～69歳	267	58.1	40.8	40.1	37.1	30.3	19.1	24.3	18.7	22.1	19.5	7.9	6.7	7.1	5.6	0.4	4.5	5.6
	70～79歳	320	49.4	38.8	32.8	41.3	36.9	15.9	22.8	23.4	17.5	17.8	7.5	5.9	4.4	5.3	0.6	3.1	4.4
	80歳以上	148	35.1	39.9	30.4	35.1	29.7	19.6	23.6	23.6	11.5	9.5	8.1	8.1	2.7	7.4	0.0	4.1	14.2

〔居住地区別の結果〕

表12-5-3 道路整備への取組—居住地区別

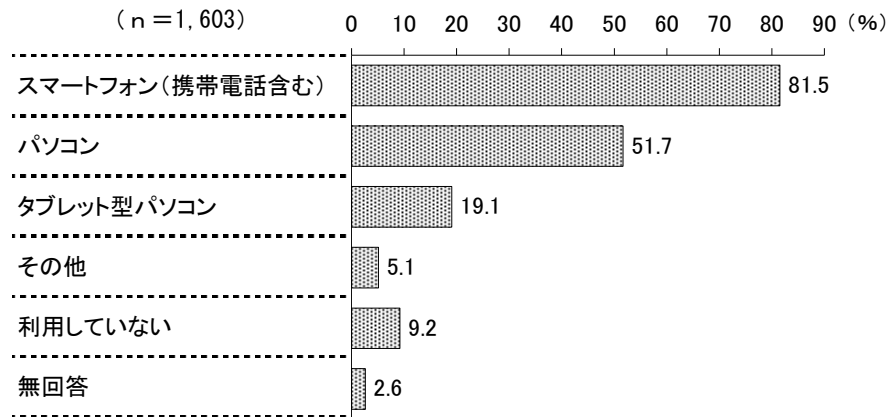
		(%)																	
		n	混雑解消（交差点の改良等）	歩道の設置	街路灯・カーブミラー等の整備	生活道路を中心とした道路の拡幅	安心して散策できる遊歩道等の整備	冠水対策	バリアフリー化の更なる推進	バス等の公共交通機関への支援	災害時・緊急時に対応できる走路の整備	都市計画道路など幹線道路の早期完成	騒音等の環境対策	未舗装道路の舗装整備	市内に整備予定のインターチェンジへのアクセス道路の整備	道路景観の改善	高速道路の整備	その他	無回答
全 体		1,672	58.1	41.8	37.5	35.2	29.5	21.3	20.0	20.0	18.1	16.3	10.6	9.0	7.2	5.6	2.3	4.7	4.0
居 住 地 区 別	厚 木 北	185	50.8	37.3	28.6	27.6	36.8	24.9	21.6	13.5	14.1	11.4	17.3	9.2	6.5	8.1	1.6	4.9	3.8
	厚 木 南	107	49.5	37.4	28.0	27.1	25.2	30.8	22.4	12.1	21.5	11.2	11.2	11.2	5.6	5.6	4.7	6.5	4.7
	依 知 北	135	49.6	44.4	42.2	34.8	28.1	25.9	15.6	20.7	20.0	16.3	11.1	5.9	6.7	3.7	1.5	2.2	4.4
	依 知 南	89	65.2	39.3	43.8	31.5	32.6	24.7	22.5	31.5	18.0	15.7	14.6	16.9	6.7	3.4	3.4	4.5	2.2
	睦 合 北	74	52.7	43.2	41.9	50.0	29.7	13.5	17.6	20.3	16.2	13.5	13.5	12.2	6.8	5.4	5.4	2.7	2.7
	睦 合 南	148	54.1	46.6	45.3	41.9	39.2	25.0	23.0	20.3	22.3	16.9	6.8	5.4	6.8	2.0	0.7	6.8	2.7
	睦 合 西	71	57.7	52.1	53.5	38.0	35.2	25.4	21.1	16.9	23.9	12.7	11.3	9.9	5.6	12.7	2.8	2.8	2.8
	荻 野	178	57.3	39.9	27.5	35.4	21.3	11.8	19.7	16.9	12.4	15.7	6.7	5.6	7.3	3.4	3.4	7.9	5.6
	小 鮎	115	59.1	35.7	40.0	34.8	25.2	21.7	17.4	22.6	20.0	26.1	5.2	7.0	10.4	5.2	2.6	4.3	6.1
	南 毛 利	283	73.9	45.6	40.3	34.6	30.0	18.7	19.4	22.6	18.4	17.7	9.2	10.6	5.7	6.4	1.4	2.8	2.1
	南毛利南	75	64.0	41.3	37.3	42.7	30.7	17.3	16.0	8.0	16.0	22.7	13.3	9.3	9.3	5.3	1.3	10.7	1.3
	玉 川	22	63.6	40.9	50.0	27.3	18.2	22.7	9.1	31.8	27.3	22.7	9.1	4.5	4.5	4.5	0.0	0.0	9.1
	相 川	92	48.9	50.0	29.3	38.0	23.9	28.3	23.9	26.1	21.7	14.1	14.1	13.0	9.8	7.6	2.2	4.3	5.4
	緑ヶ丘	29	62.1	34.5	34.5	44.8	37.9	24.1	24.1	24.1	10.3	10.3	24.1	3.4	0.0	3.4	0.0	0.0	6.9
森の里	57	56.1	31.6	40.4	33.3	15.8	5.3	24.6	31.6	17.5	21.1	3.5	8.8	17.5	8.8	3.5	3.5	5.3	

13 広報

(1) 家庭で利用する情報機器 (A: 問20)

問. 家庭では、どのような情報機器を利用していますか。(いくつでも選んでください)

図13-1-1 家庭で利用する情報機器



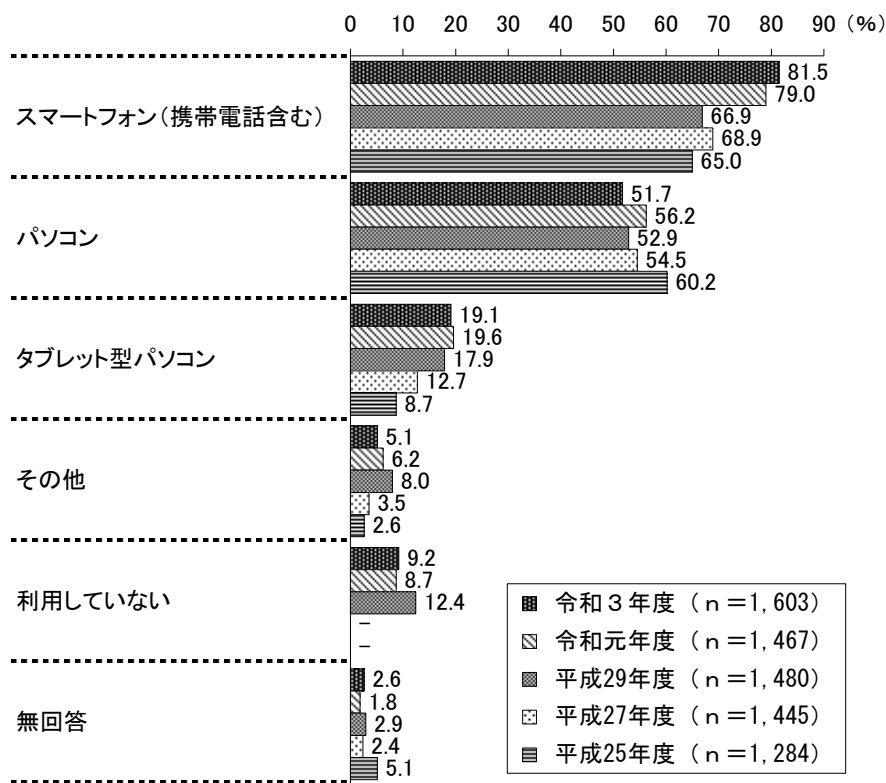
【全体】

家庭で利用する情報機器について聞いたところ、「スマートフォン(携帯電話含む)」(81.5%)が8割を超えて最も高く、次いで「パソコン」(51.7%)、「タブレット型パソコン」(19.1%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「パソコン」(51.7%)は令和元年度調査(56.2%)より4.5ポイント減少している。

図13-1-2 家庭で利用する情報機器—経年変化



(注1)「タブレット型パソコン」は、平成29年度調査では「タブレット」としていた。

(注2)平成29年度調査以降では、「利用していない」の選択肢を追加している。

(注3)平成27年度調査以前では、「テレビ」、「インターネット」、「ラジオ」、「電子メール」、「ゲーム機」の選択肢を追加していた。

【属性別】

性別で見ると、男性では「パソコン」(59.7%)が女性(44.6%)より15.1ポイント、「タブレット型パソコン」(20.8%)が女性(17.6%)より3.2ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「スマートフォン(携帯電話含む)」は50～59歳以下の年代で9割台と高くなっている。「パソコン」は20歳未満(79.3%)で約8割と高くなっている。「タブレット型パソコン」は20～29歳(27.9%)で3割近くと高くなっている。

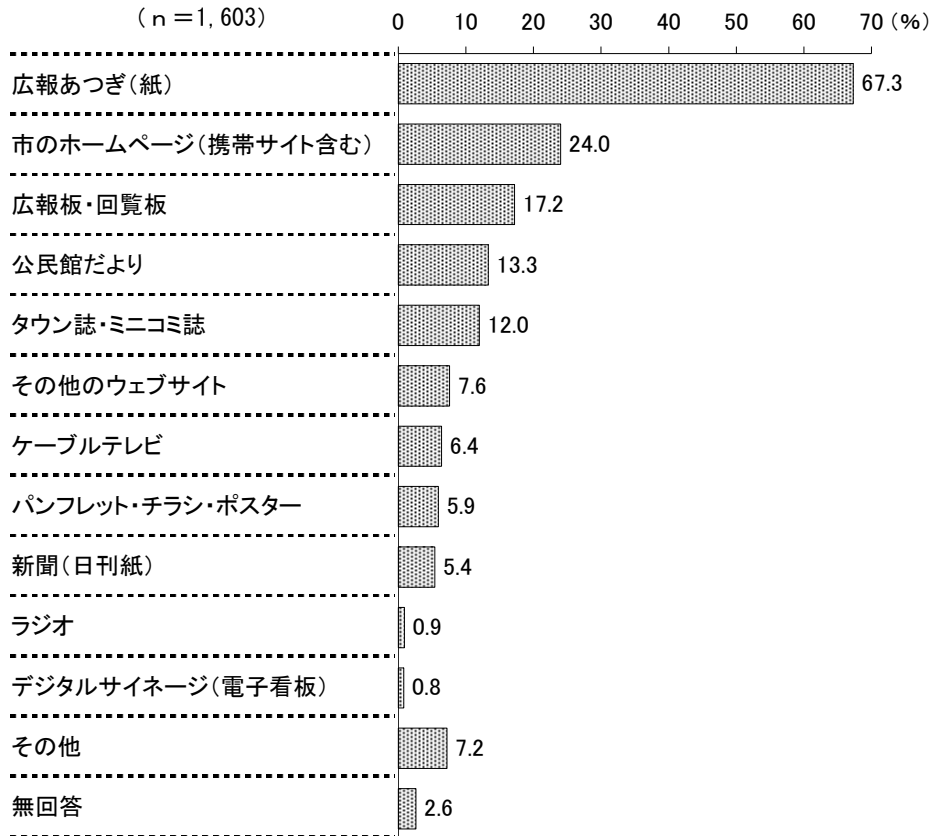
表13-1-1 家庭で利用する情報機器—性別、年齢別

		(%)						
		n	スマートフォン (携帯電話含む)	パソコン	タブレット型パソコン	その他	利用していない	無回答
全 体		1,603	81.5	51.7	19.1	5.1	9.2	2.6
性別	男 性	727	81.0	59.7	20.8	4.7	8.8	1.7
	女 性	858	82.1	44.6	17.6	5.4	9.7	3.1
年齢別	20歳未満	29	96.6	79.3	17.2	3.4	0.0	0.0
	20～29歳	129	96.1	65.1	27.9	2.3	0.0	0.8
	30～39歳	166	97.0	64.5	27.1	2.4	0.6	0.0
	40～49歳	236	96.2	61.0	26.3	1.7	0.4	0.4
	50～59歳	273	90.5	65.2	26.0	4.4	3.3	0.4
	60～69歳	275	84.7	54.5	18.5	5.5	6.5	1.5
	70～79歳	333	65.8	35.4	9.3	6.9	17.7	4.5
	80歳以上	158	41.8	15.2	3.2	12.7	36.7	11.4

(2) 市の情報の入手方法 (A: 問21)

問. 厚木市の情報を主に何から入手していますか。(2つまで選んでください)

図13-2-1 市の情報の入手方法



【全体】

市の情報の入手方法について聞いたところ、「広報あつぎ(紙)」(67.3%)が6割半ばを超えて最も高く、次いで「市のホームページ(携帯サイト含む)」(24.0%)、「広報板・回覧板」(17.2%)、「公民館だより」(13.3%)、「タウン誌・ミニコミ誌」(12.0%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「市のホームページ（携帯サイト含む）」（24.0％）が令和元年度調査（16.7％）より7.3ポイント増加している。一方、「パンフレット・チラシ・ポスター」（5.9％）は令和元年度調査（10.2％）より4.3ポイント、「広報板・回覧板」（17.2％）は令和元年度調査（20.7％）より3.5ポイント、「公民館だより」（13.3％）は令和元年度調査（16.4％）より3.1ポイント減少している。

表13-2-1 市の情報の入手方法—経年変化

調査年	n	(%)														
		広報あつぎ（紙）	市のホームページ（携帯サイト含む）	広報板・回覧板	公民館だより	タウン誌・ミニコミ誌	その他のウェブサイト	ケーブルテレビ	パンフレット・チラシ・ポスター	新聞（日刊紙）	ラジオ	デジタルサイネージ（電子看板）	その他	無回答	本厚木駅前大型映像装置（あつぎビジョン）	市の携帯版ウェブサイト
令和3年度	1,603	67.3	24.0	17.2	13.3	12.0	7.6	6.4	5.9	5.4	0.9	0.8	7.2	2.6	-	-
令和元年度	1,467	70.1	16.7	20.7	16.4	14.0	5.5	5.5	10.2	4.0	1.4	1.9	5.1	3.6	-	-
平成29年度	1,480	75.4	13.0	19.6	19.7	16.0	2.2	4.8	7.0	5.8	1.3	-	5.5	2.7	4.3	-
平成27年度	1,471	85.9	20.9	10.0	38.4	22.6	-	6.9	15.5	8.8	0.5	-	5.7	1.3	9.6	2.2
平成25年度	1,270	82.0	22.8	10.8	33.1	21.7	-	8.7	6.6	11.6	0.7	-	5.6	3.3	7.8	2.4
平成23年度	814	77.8	22.5	4.5	21.6	12.0	-	3.8	2.5	8.2	0.1	-	3.6	4.1	4.7	1.6
平成21年度	1,610	83.7	13.1	4.0	27.1	15.8	-	6.0	2.4	8.6	0.6	-	1.5	1.7	-	1.0
平成19年度	1,506	83.2	11.0	3.1	25.6	13.1	-	8.6	2.3	11.5	0.4	-	7.0	2.1	-	0.7
平成17年度	1,008	84.9	12.3	9.6	28.8	8.3	-	2.2	0.2	2.6	5.8	-	0.7	15.3	-	0.7

（注1）「デジタルサイネージ（電子看板）」は、令和元年度調査では「駅前電子看板（デジタルサイネージ）」としており、令和元年度調査から選択肢を追加している。

（注2）平成29年度調査以降では、「その他のウェブサイト」の選択肢を追加している。

（注3）平成29年度調査～平成23年度調査では、「本厚木駅前大型映像装置（あつぎビジョン）」の選択肢を追加していた。

（注4）平成27年度調査～平成23年度調査では、選択可能数を3つまでとしていた。

（注5）「広報あつぎ（紙）」は、平成27年度調査以前では「広報あつぎ」としていた。

（注6）「市のホームページ（携帯サイト含む）」は、平成27年度調査以前では2つの選択肢「市のホームページ」、「市の携帯版ウェブサイト」としていた。

（注7）「パンフレット・チラシ・ポスター」は、平成27年度調査以前では「パンフレット・チラシ」としていた。

（注8）「広報板・回覧板」は、平成27年度調査以前では「掲示板やポスター」としていた。

【属性別】

性別で見ると、女性では「広報あつぎ（紙）」（71.0%）が男性（62.9%）より8.1ポイント、「公民館だより」（15.5%）が男性（11.1%）より4.4ポイント高くなっている。一方、男性では「市のホームページ（携帯サイト含む）」（25.6%）が女性（22.5%）より3.1ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「広報あつぎ（紙）」は60～69歳（80.0%）と70～79歳（83.8%）で8割台と高くなっている。「市のホームページ（携帯サイト含む）」は40～49歳（37.7%）で4割近くと高くなっている。「公民館だより」は80歳以上（28.5%）で3割近くと高くなっている。

表13-2-2 市の情報の入手方法—性別、年齢別

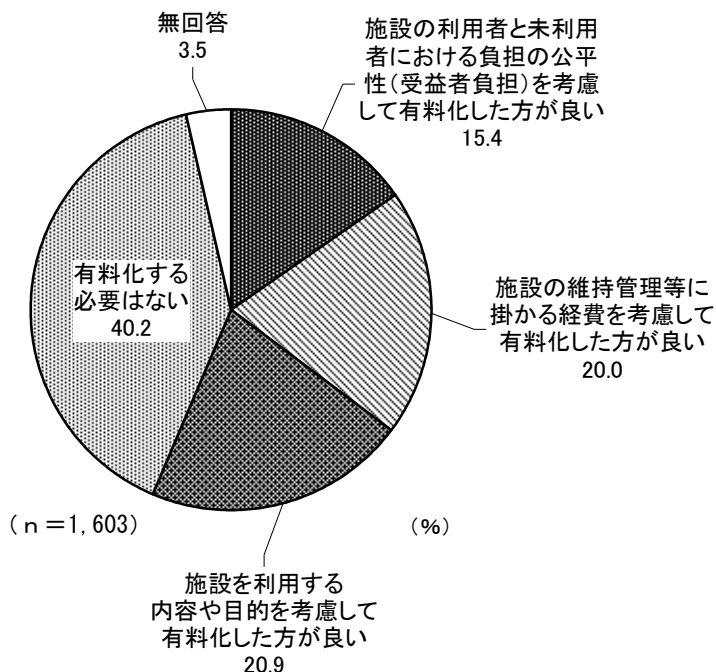
		(%)														
		n	広報あつぎ（紙）	市のホームページ（携帯サイト含む）	広報板・回覧板	公民館だより	タウン誌・ミニコミ誌	その他のウェブサイト	ケーブルテレビ	ポスター	パンフレット・チラシ・	新聞（日刊紙）	ラジオ	デジタルサイネージ（電子看板）	その他	無回答
全 体		1,603	67.3	24.0	17.2	13.3	12.0	7.6	6.4	5.9	5.4	0.9	0.8	7.2	2.6	
性別	男 性	727	62.9	25.6	18.7	11.1	11.7	9.1	7.2	5.8	6.1	1.0	1.4	7.3	2.8	
	女 性	858	71.0	22.5	16.2	15.5	12.1	6.4	5.6	5.8	4.9	0.9	0.3	7.0	2.3	
年 齢 別	20歳未満	29	41.4	20.7	13.8	6.9	10.3	6.9	6.9	10.3	3.4	0.0	3.4	20.7	0.0	
	20～29歳	129	37.2	31.0	12.4	5.4	2.3	17.8	3.1	9.3	0.0	0.8	3.1	18.6	3.1	
	30～39歳	166	43.4	30.1	11.4	3.0	7.8	18.1	4.8	8.4	1.2	1.2	1.8	16.9	1.2	
	40～49歳	236	58.9	37.7	13.1	8.5	9.7	10.6	4.7	5.5	0.8	2.1	1.3	9.7	0.8	
	50～59歳	273	68.5	32.6	14.3	8.1	14.3	9.5	8.8	6.6	4.0	0.4	0.4	5.1	0.4	
	60～69歳	275	80.0	25.1	20.0	15.6	14.5	4.0	8.0	4.7	5.5	0.4	0.0	2.9	2.2	
	70～79歳	333	83.8	10.5	23.7	21.0	15.0	1.5	5.4	3.9	9.9	1.2	0.3	2.1	4.2	
	80歳以上	158	75.3	4.4	20.9	28.5	13.3	0.0	7.0	5.1	13.9	0.6	0.0	3.2	7.0	

14 行政

(1) 市の施設の利用料 (A:問22)

問. 現在、厚木市には使用料が有料の施設と無料の施設（公民館など）がありますが、無料の施設の有料化についてどのように思いますか。（1つだけ選んでください）

図14-1-1 市の施設の利用料



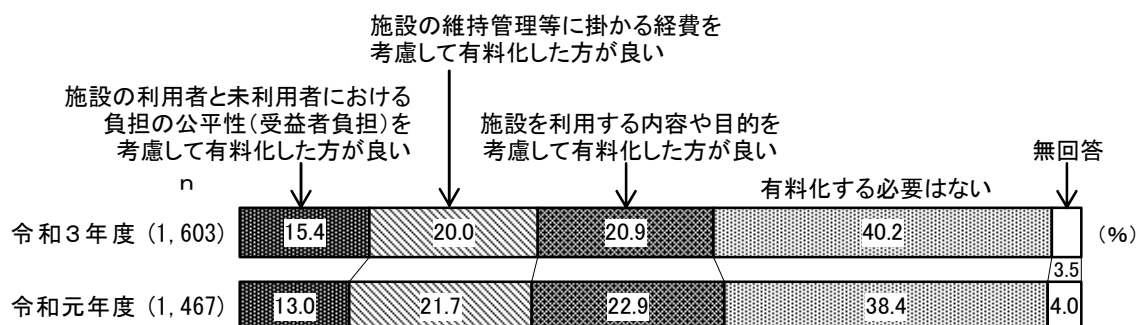
【全体】

使用料が無料の市の施設の利用料について聞いたところ、「施設の利用者と未利用者における負担の公平性（受益者負担）」（15.4%）、「施設の維持管理等に掛かる経費」（20.0%）、「施設を利用する内容や目的」（20.9%）を考慮して『有料化した方が良い』（56.3%）が合わせて5割半ばを超えており、「有料化する必要はない」（40.2%）は約4割となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、令和元年度調査と比べて大きな差異は見られない。

図14-1-2 市の施設の利用料—経年変化

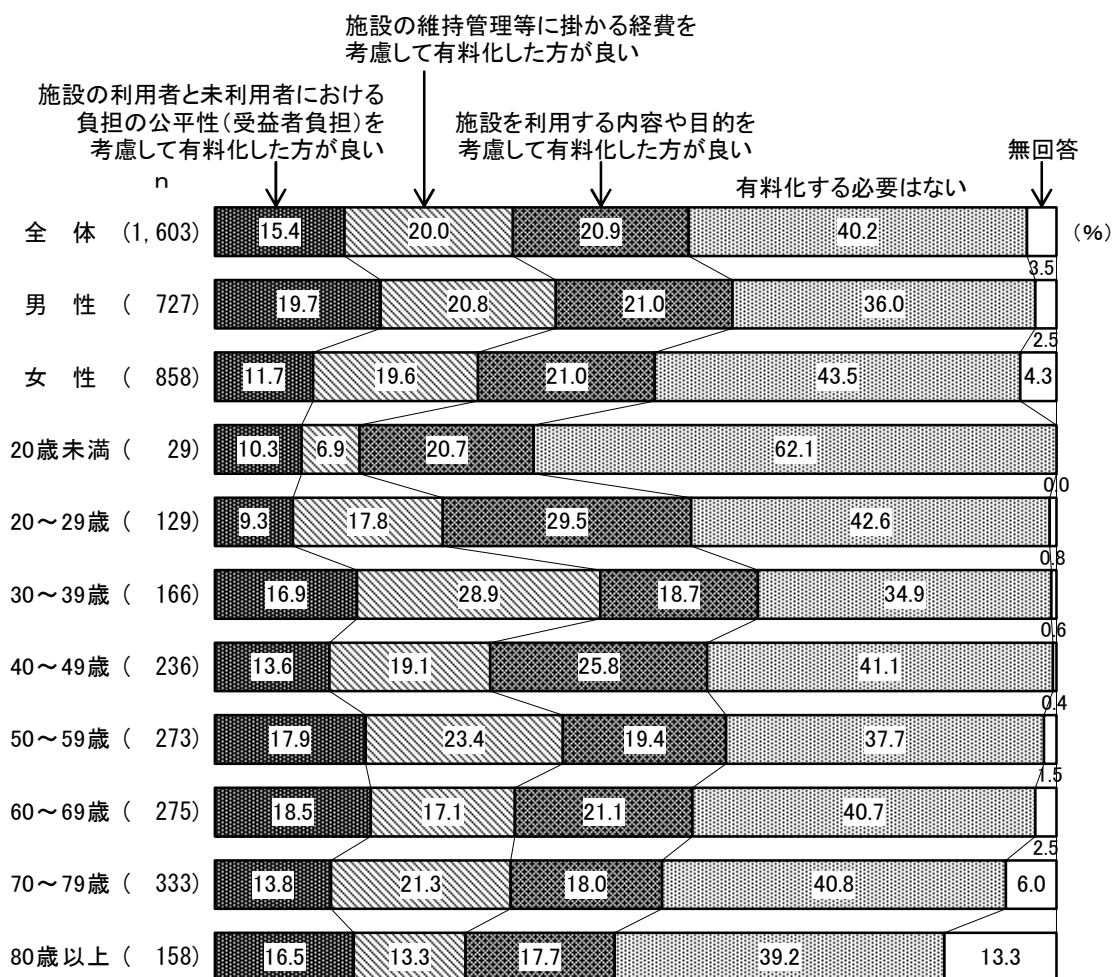


【属性別】

性別で見ると、男性では「施設の利用者と未利用者における負担の公平性（受益者負担）を考慮して有料化した方が良い」（19.7%）が女性（11.7%）より8.0ポイント高くなっている。一方、女性では「有料化する必要はない」（43.5%）が男性（36.0%）より7.5ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「施設の維持管理等に掛かる経費を考慮して有料化した方が良い」は30～39歳（28.9%）で3割近くと高くなっている。「施設を利用する内容や目的を考慮して有料化した方が良い」は20～29歳（29.5%）で約3割と高くなっている。「有料化する必要はない」は20歳未満（62.1%）で6割を超えて高くなっている。

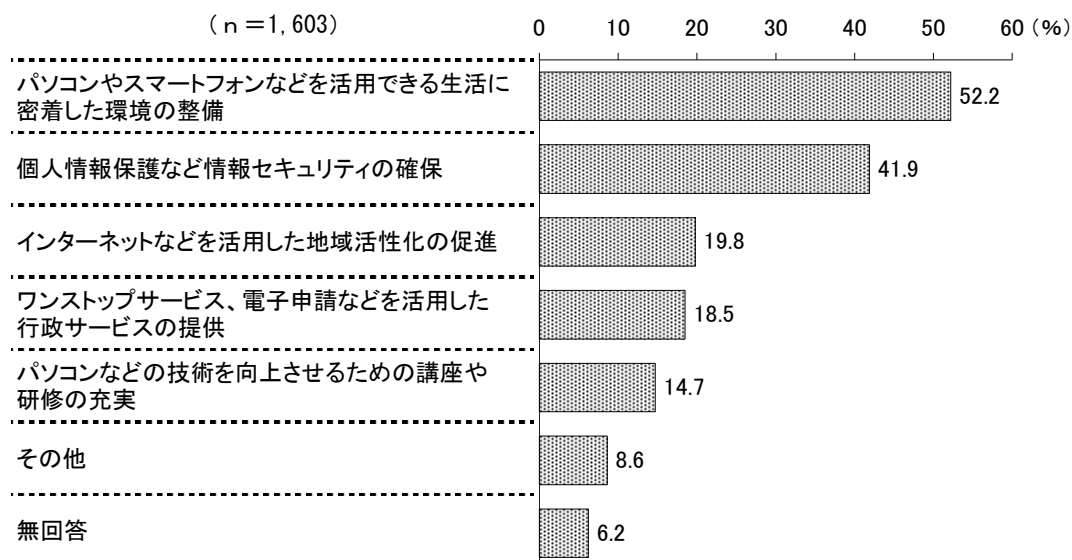
図14-1-3 市の施設の利用料—性別、年齢別



(2) 行政サービスの情報化推進への取組 (A:問23)

問. 様々な行政サービスの情報化を推進するためには、どのような取組が必要であると思いますか。(2つまで選んでください)

図14-2-1 行政サービスの情報化推進への取組



【全体】

行政サービスの情報化推進への取組について聞いたところ、「パソコンやスマートフォンなどを活用できる生活に密着した環境の整備」(52.2%)が5割を超えて最も高く、次いで「個人情報保護など情報セキュリティの確保」(41.9%)、「インターネットなどを活用した地域活性化の促進」(19.8%)、「ワンストップサービス、電子申請などを活用した行政サービスの提供」(18.5%)、「パソコンなどの技術を向上させるための講座や研修の充実」(14.7%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「ワンストップサービス、電子申請などを活用した行政サービスの提供」(18.5%)は令和元年度調査(15.5%)より3.0ポイント増加している。一方、「インターネットなどを活用した地域活性化の促進」(19.8%)は令和元年度調査(25.4%)より5.6ポイント減少している。

表14-2-1 行政サービスの情報化推進への取組—経年変化

調査年	n	(%)						
		パソコンやスマートフォンに密着した環境の整備	個人情報保護など情報セキュリティの確保	インターネットなどを活用した地域活性化の促進	ワンストップサービス、電子申請などを活用した行政サービスの提供	パソコンなどの講座や研修の向上させるための講義や研修の充実	その他	無回答
令和3年度	1,603	52.2	41.9	19.8	18.5	14.7	8.6	6.2
令和元年度	1,467	49.4	43.0	25.4	15.5	14.5	10.1	6.7
平成29年度	1,480	50.6	42.9	12.6	13.9	17.1	10.1	11.2
平成27年度	1,445	42.8	41.6	10.7	9.8	12.0	7.7	8.4
平成25年度	1,284	36.8	35.9	11.0	12.7	14.9	7.6	11.4
平成23年度	814	22.0	34.0	9.1	17.0	17.7	9.5	13.3
平成21年度	1,610	8.0	29.4	-	23.1	13.4	3.2	15.7
平成19年度	1,506	7.1	26.6	-	16.4	14.3	2.7	18.6

(注1)「インターネットなどを活用した地域活性化の促進」は、平成29年度調査～平成23年度調査では「ポータルサイト、地域SNSなどを活用した地域活性化の促進」としていた。また、平成21年度調査以前では選択肢に加えていない。

(注2)「パソコンなどの技術を向上させるための講座や研修の充実」は、平成27年度調査以前では「パソコン等に習熟するための講座や研修の充実」としていた。

【属性別】

性別で見ると、男性では「ワンストップサービス、電子申請などを活用した行政サービスの提供」（23.4%）が女性（14.2%）より9.2ポイント、「パソコンやスマートフォンなどを活用できる生活に密着した環境の整備」（57.4%）が女性（48.3%）より9.1ポイント高くなっている。一方、女性では「個人情報保護など情報セキュリティの確保」（45.0%）が男性（38.2%）より6.8ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「パソコンやスマートフォンなどを活用できる生活に密着した環境の整備」は20歳未満（65.5%）で6割半ばと高くなっている。「個人情報保護など情報セキュリティの確保」は30～39歳（51.2%）で5割を超えて高くなっている。「ワンストップサービス、電子申請などを活用した行政サービスの提供」は30～39歳（28.9%）と40～49歳（27.5%）で3割近くと高くなっている。

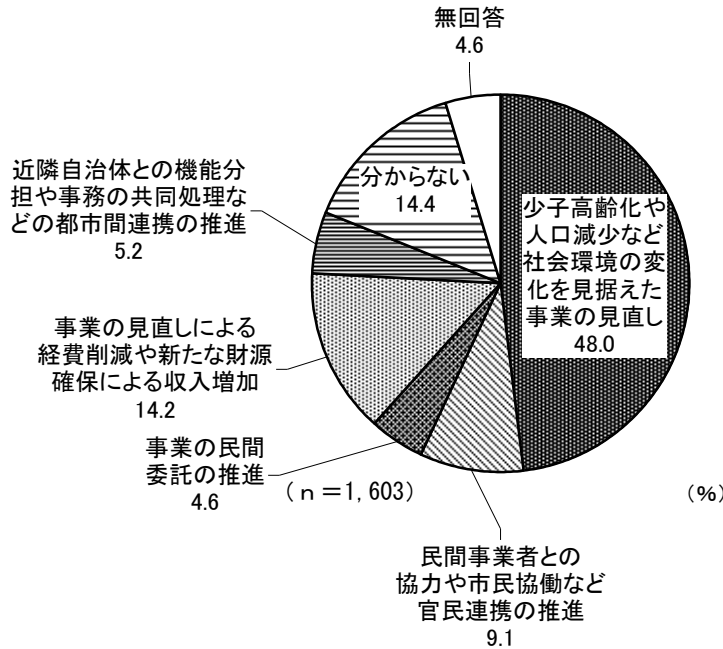
表14-2-2 行政サービスの情報化推進への取組—性別、年齢別

		(%)									
		n	た ど 環 境 の 整 備	パ ソ コ ン や ス マ ー ト フ ォ ン な ど を 活 用 で き る 生 活 に 密 着 し な	リ 個 人 情 報 の 確 保 な ど 情 報 セ キ ュ	た イ 地 域 活 性 化 の 促 進	イン タ ー ネ ッ ト な ど を 活 用 し	ビ 申 ワ ン ス ト ッ プ サ ー ビ ス の 提 供	せ パ ソ コ ン の な ど の 講 座 や 技 術 を 向 上 さ	そ の 他	無 回 答
全 体		1,603	52.2	41.9	19.8	18.5	14.7	8.6	6.2		
性 別	男 性	727	57.4	38.2	20.8	23.4	14.3	8.5	3.6		
	女 性	858	48.3	45.0	19.1	14.2	15.0	8.5	8.4		
年 齢 別	20歳未満	29	65.5	37.9	24.1	6.9	13.8	20.7	0.0		
	20～29歳	129	58.9	38.0	27.1	26.4	12.4	3.1	0.8		
	30～39歳	166	60.2	51.2	20.5	28.9	12.0	6.0	1.2		
	40～49歳	236	58.9	39.8	25.4	27.5	8.9	4.7	1.7		
	50～59歳	273	56.4	45.8	22.0	20.1	11.4	7.3	1.1		
	60～69歳	275	56.7	46.5	14.2	17.1	16.4	8.4	3.6		
	70～79歳	333	42.3	35.7	18.0	10.2	21.6	12.0	12.6		
80歳以上	158	32.3	37.3	14.6	7.0	16.5	14.6	22.8			

(3) より良い市民サービスを維持していく取組 (A: 問24)

問. 今後もより良い市民サービスを維持していくため、どのような取組が必要であると思いますか。(1つだけ選んでください)

図14-3-1 より良い市民サービスを維持していく取組



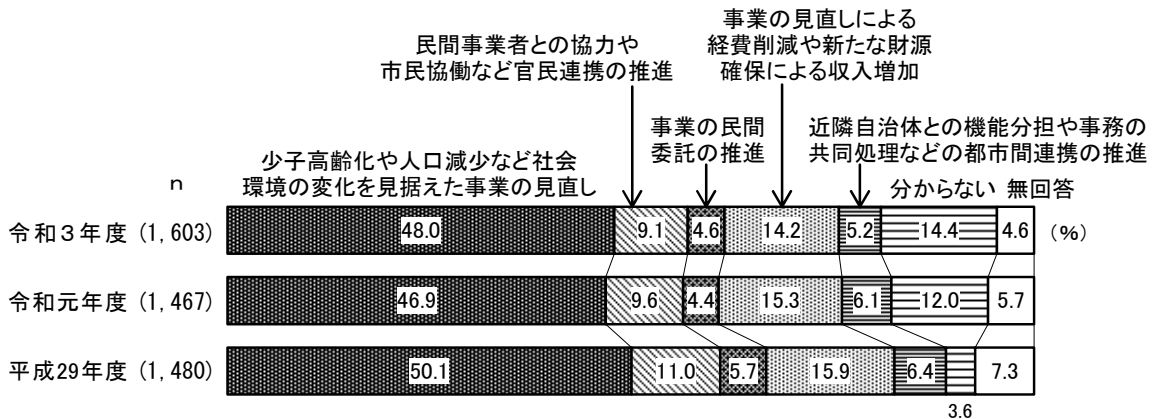
【全体】

より良い市民サービスを維持していく取組について聞いたところ、「少子高齢化や人口減少など社会環境の変化を見据えた事業の見直し」(48.0%)が5割近くで最も高く、次いで「事業の見直しによる経費削減や新たな財源確保による収入増加」(14.2%)、「民間事業者との協力や市民協働など官民連携の推進」(9.1%)、「近隣自治体との機能分担や事務の共同処理などの都市間連携の推進」(5.2%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、令和元年度調査と比べて大きな差異は見られない。

図14-3-2 より良い市民サービスを維持していく取組—経年変化



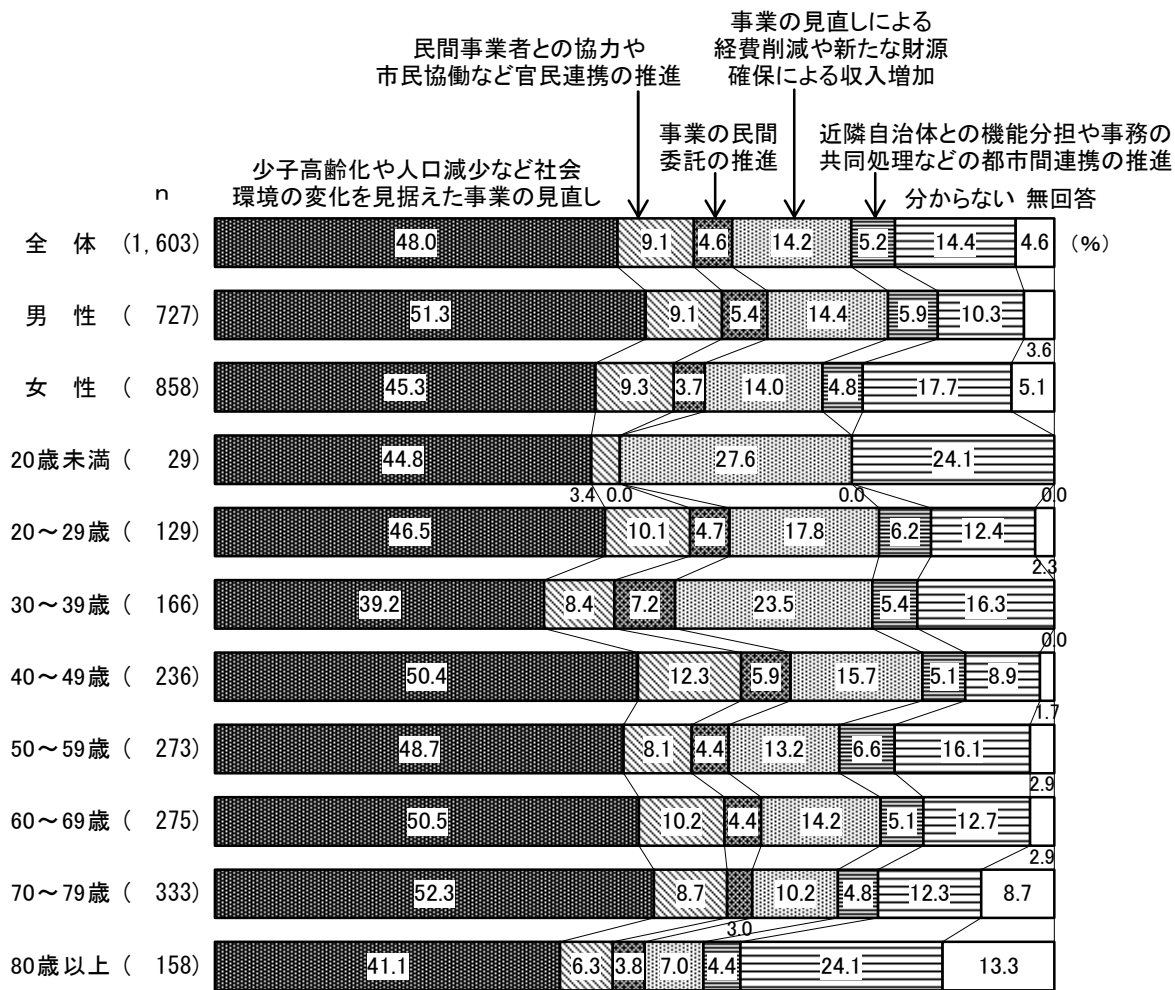
(注)「分からない」は、平成29年度調査では「その他」の選択肢であった。

【属性別】

性別で見ると、男性では「少子高齢化や人口減少など社会環境の変化を見据えた事業の見直し」(51.3%)が女性(45.3%)より6.0ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「少子高齢化や人口減少など社会環境の変化を見据えた事業の見直し」は70～79歳(52.3%)で5割を超えて高くなっている。「事業の見直しによる経費削減や新たな財源確保による収入増加」は20歳未満(27.6%)で3割近くと高くなっている。

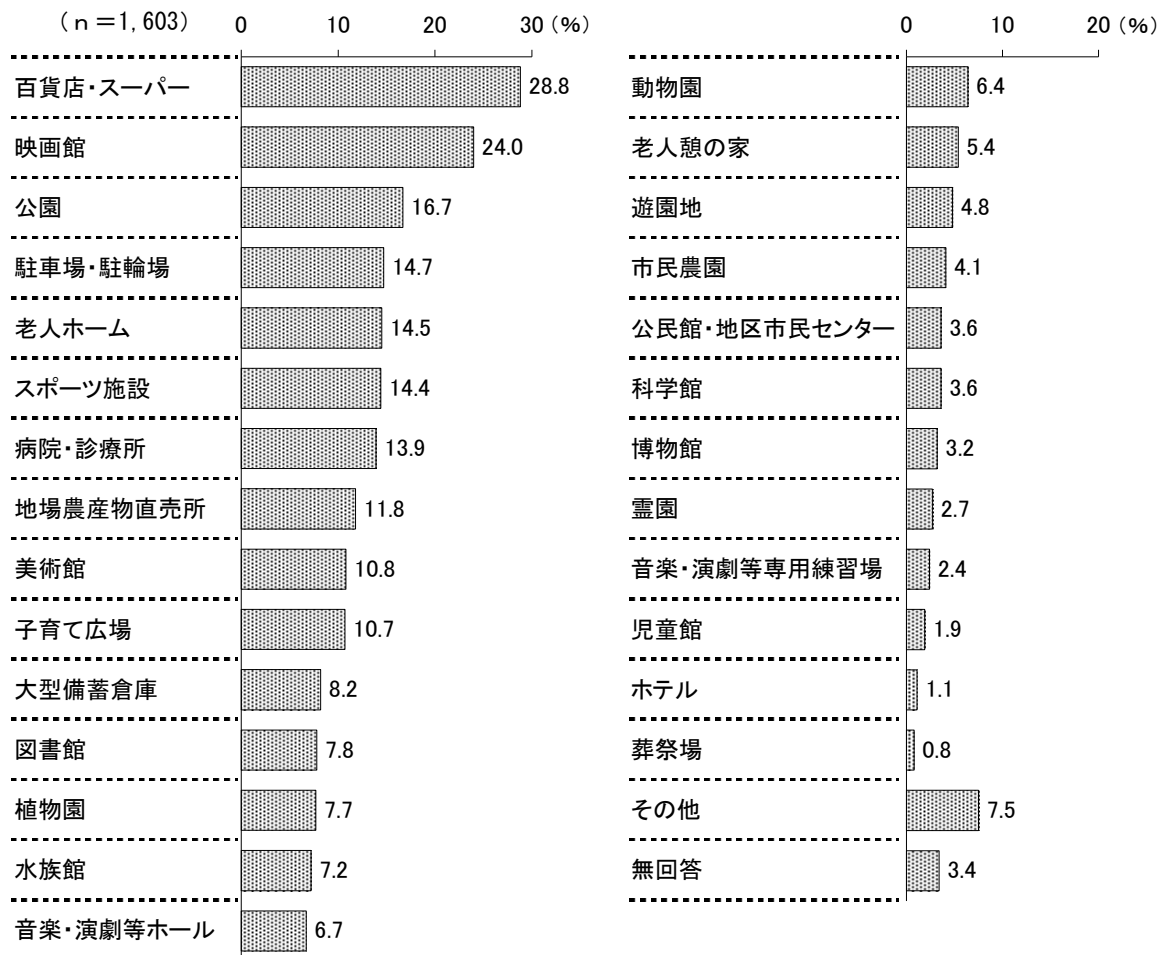
図14-3-3 より良い市民サービスを維持していく取組一性別、年齢別



(4) 市に必要な施設 (A: 問25)

問. 今後厚木市には、どのような施設が必要であると思いますか。(3つまで選んでください)

図14-4-1 市に必要な施設



【全体】

市に必要な施設について聞いたところ、「百貨店・スーパー」(28.8%)が3割近くで最も高く、次いで「映画館」(24.0%)、「公園」(16.7%)、「駐車場・駐輪場」(14.7%)、「老人ホーム」(14.5%)、「スポーツ施設」(14.4%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、上位2項目は令和元年度調査と同じ順位になっている。

なお、平成27年度以前の調査は、「生活をする上で、特に必要な施設」について聴いていたため、参考記載とする。

表14-4-1 市に必要な施設—経年変化（上位5項目）

(%)

順位	令和3年度 (n=1,603)	令和元年度 (n=1,467)	平成29年度 (n=1,480)	平成27年度 (n=1,471)	平成25年度 (n=1,270)	平成23年度 (n=814)	平成21年度 (n=1,610)	平成19年度 (n=1,506)	平成17年度 (n=1,008)
1	百貨店・スーパー 28.8	百貨店・スーパー 30.4	百貨店・スーパー 32.8	病院・診療所 64.9	病院・診療所 60.7	病院・診療所 66.6	病院・診療所 54.7	病院・診療所 50.9	病院・診療所 43.2
2	映画館 24.0	映画館 22.6	映画館 24.3	百貨店・スーパー 58.7	百貨店・スーパー 54.8	百貨店・スーパー 57.7	百貨店・スーパー 35.7	百貨店・スーパー 37.5	百貨店・スーパー 36.8
3	公園 16.7	老人ホーム 18.0	老人ホーム 16.1	公園 20.9	公園 22.8	公園 25.1	公園 30.4	公園 32.3	公園 33.5
4	駐車場・駐輪場 14.7	駐車場・駐輪場 16.8	スポーツ施設 15.7	駐車場・駐輪場 19.1	駐車場・駐輪場 19.1	駐車場・駐輪場 21.9	駐車場・駐輪場 17.5	駐車場・駐輪場 17.3	駐車場・駐輪場 20.6
5	老人ホーム 14.5	スポーツ施設 14.7	駐車場・駐輪場 15.6	公民館・地区市民センター 16.4	公民館・地区市民センター 13.7	公民館・地区市民センター 15.5	公民館・地区市民センター 17.1	公民館・地区市民センター 15.7	公民館・地区市民センター 17.8

(注) 平成27年度調査以前では、「生活をする上で、特に必要な施設は何だと思えますか。(3つまで選んでください)」と質問していた。

【属性別】

性別で見ると、男女ともに「百貨店・スーパー」が第1位、「映画館」が第2位となっている。

年齢別で見ると、「百貨店・スーパー」は40～49歳から70～79歳の年代で第1位、20歳未満から30～39歳の年代と80歳以上で同率を含め第2位となっている。「映画館」は20歳未満から30～39歳の年代で第1位、40～49歳から60～69歳の年代で第2位、70～79歳で第3位となっている。「老人ホーム」は80歳以上で第1位、70～79歳で第2位、50～59歳で第3位となっている。

表14-4-2 市に必要な施設—性別、年齢別（上位3項目）

(%)

順位	男 性 (n=727)		女 性 (n=858)	
1	百貨店・スーパー	24.5	百貨店・スーパー	32.8
2	映画館	21.7	映画館	26.1
3	スポーツ施設	19.7	公園	15.4

(%)

順位	20歳未満 (n=29)		20～29歳 (n=129)		30～39歳 (n=166)		40～49歳 (n=236)	
1	映画館	44.8	映画館	34.1	映画館	28.3	百貨店・スーパー	35.6
2	公園 /百貨店・スーパー	24.1	百貨店・スーパー	26.4	百貨店・スーパー	26.5	映画館	30.9
3			スポーツ施設	20.9	子育て広場	24.7	公園	17.4

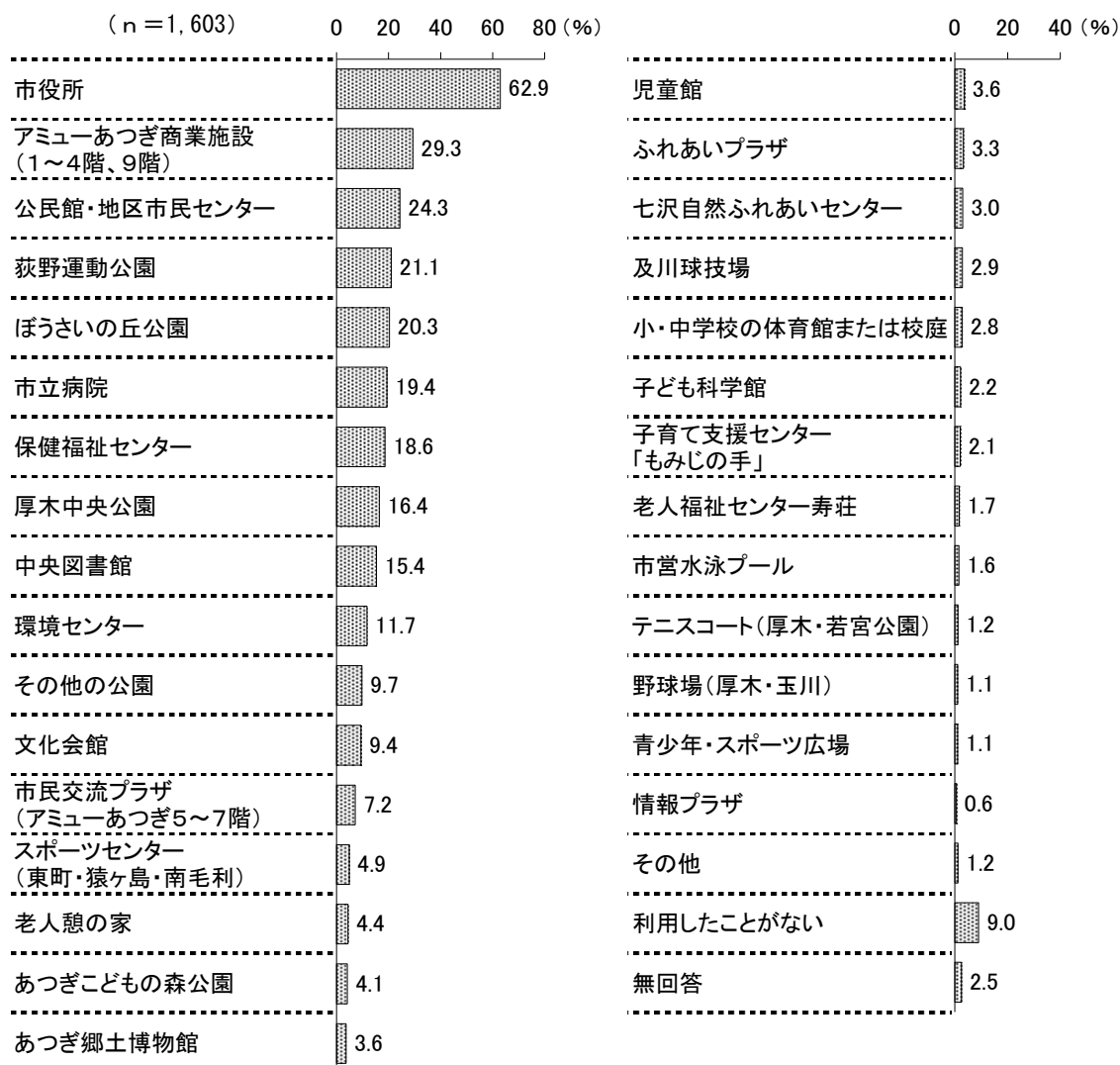
(%)

順位	50～59歳 (n=273)		60～69歳 (n=275)		70～79歳 (n=333)		80歳以上 (n=158)	
1	百貨店・スーパー	30.0	百貨店・スーパー	32.4	百貨店・スーパー	27.3	老人ホーム	20.3
2	映画館	21.6	映画館	23.3	老人ホーム	21.6	百貨店・スーパー	19.6
3	老人ホーム	16.8	公園	17.1	映画館	18.6	公園	14.6

(5) 市の施設の利用状況 (A:問26)

問. この1年間に、利用された「市の施設」を教えてください。(いくつでも選んでください)

図14-5-1 市の施設の利用状況



【全体】

市の施設の利用状況について聞いたところ、「市役所」(62.9%)が6割半ば近くで最も高く、次いで「アミューあつぎ商業施設(1~4階、9階)」(29.3%)、「公民館・地区市民センター」(24.3%)、「荻野運動公園」(21.1%)、「ぼうさいの丘公園」(20.3%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、上位3項目は令和元年度調査と同じ順位となっている。「アミューあつぎ商業施設（1～4階、9階）」（29.3%）は令和元年度調査（41.1%）より11.8ポイント、「公民館・地区市民センター」（24.3%）は令和元年度調査（31.0%）より6.7ポイント減少している。

表14-5-1 市の施設の利用状況—経年変化（上位5項目と「利用したことがない」）

(%)

順位	令和3年度 (n=1,603)	令和元年度 (n=1,467)	平成29年度 (n=1,480)	平成27年度 (n=1,471)	平成25年度 (n=1,270)	平成23年度 (n=814)	平成21年度 (n=1,610)	平成19年度 (n=1,500)	平成17年度 (n=1,008)
1	市役所 62.9	市役所 63.0	市役所 62.7	市役所 67.5	市役所 62.8	ぼうさいの丘公園 33.5	中央図書館 31.4	荻野運動公園 36.9	中央図書館 28.4
2	アミューあつぎ商業施設(1～4階、9階) 29.3	アミューあつぎ商業施設(1～4階、9階) 41.1	アミューあつぎ商業施設(1～4階、9階) 42.9	アミューあつぎ 市民交流プラザ 37.7	中央図書館 29.1	中央図書館 29.2	文化会館 31.1	中央図書館 34.2	荻野運動公園 28.1
3	公民館・地区市民センター 24.3	公民館・地区市民センター 31.0	荻野運動公園 30.1	公民館・地区市民センター 34.4	ぼうさいの丘公園 26.8	文化会館 26.8	ぼうさいの丘公園 30.7	文化会館 33.3	文化会館 27.8
4	荻野運動公園 21.1	文化会館 26.0	文化会館 27.2	ぼうさいの丘公園 29.2	荻野運動公園 25.7	荻野運動公園 26.3	荻野運動公園 25.7	ぼうさいの丘公園 28.1	総合福祉センター 17.1
5	ぼうさいの丘公園 20.3	荻野運動公園 24.9	厚木中央公園 26.4	文化会館 28.2	文化会館 25.6	厚木中央公園 24.0	市立公民館・地区市民センター 22.4	厚木中央公園 24.1	市立公民館・地区市民センター 17.0
	利用したことがない 9.0	利用したことがない 5.7	利用したことがない 5.9	利用したことがない 6.3	利用したことがない 7.6	利用したことがない 15.6	利用したことがない 16.6	利用したことがない 12.7	利用したことがない 21.3

(注1)「保健福祉センター」は、平成29年度調査では「保健福祉センター（旧総合福祉センター・保健センター）」としていた。また、平成27年度調査以前では2つの選択肢「総合福祉センター」と「保健センター」としていた。

(注2)「スポーツセンター（東町・猿ヶ島・南毛利）」は、平成29年度調査以前では3つの選択肢「東町スポーツセンター」、「猿ヶ島スポーツセンター」、「南毛利スポーツセンター」としていた。

(注3)「野球場（厚木・玉川）」は、平成29年度調査以前では2つの選択肢「厚木野球場」と「玉川野球場」としていた。

(注4)「青少年・スポーツ広場」は、平成29年度調査以前では2つの選択肢「青少年広場」と「スポーツ広場」としていた。

(注5)「小・中学校の体育館または校庭」は、平成29年度調査以前では2つの選択肢「小・中学校の体育館」と「小・中学校の校庭」としていた。

(注6)「テニスコート（厚木・若宮公園）」は、平成29年度調査以前は2つの選択肢「厚木テニスコート」と「若宮公園テニスコート」としていた。

(注7)「市民交流プラザ（アミューあつぎ5～7階）」は、平成27年度調査では「アミューあつぎ 市民交流プラザ」としていた。また、平成25年度調査以前では選択肢に加えていない。

(注8)平成29年調査では「ちびっこ広場」の選択肢を追加していた。

(注9)平成29年度調査以降では「アミューあつぎ商業施設（1～4階、9階）」、「市立病院」、「環境センター」、「あつぎこどもの森公園」、「その他の公園」の選択肢を追加している。

(注10)平成25年度調査以降では「市役所」の選択肢を追加している。

IV. 調査票と集計結果

厚木市民意識調査 調査票（A）

■最初に、あなたご自身のことについてお伺いします。
該当する数字を○印で囲んでください。

① 性別を教えてください。（n=1,603）

1 男性	45.4	2 女性	53.5	3 答えたくない	0.7
				無回答	0.4

② 年齢を教えてください。（n=1,603）

1 20歳未満	1.8	4 40～49歳	14.7	7 70～79歳	20.8
2 20～29歳	8.0	5 50～59歳	17.0	8 80歳以上	9.9
3 30～39歳	10.4	6 60～69歳	17.2	無回答	0.2

③ 家族構成を教えてください。（n=1,603）

1 夫婦	28.6	4 親子孫（三世代）	5.2		
2 親子（親との二世代）	12.5	5 単身	24.2		
3 親子（子との二世代）	23.8	6 その他	4.4	無回答	1.2

④ お住まいの地区はどちらですか。（n=1,603）

1 厚木北（松枝、元町、東町、厚木町、寿町、吾妻町、水引、栄町、中町、田村町）	11.9
2 厚木南（幸町、泉町、旭町、南町、温水68～105番地、船子607～734番地、岡田1丁目8番）	5.9
3 依知北（上依知、猿ヶ島、山際、関口808～829番地、下川入）	7.9
4 依知南（関口、中依知、下依知、金田）	4.9
5 睦合北（三田、三田南、棚沢）	4.2
6 睦合南（妻田東、妻田西、妻田南、妻田北）	8.2
7 睦合西（林、及川、王子1丁目）	4.2
8 荻野（上荻野、まつかげ台、みはる野、中荻野、下荻野、鳶尾）	11.1
9 小鮎（飯山、上古沢、下古沢、宮の里）	6.9
10 南毛利（戸室、恩名、温水、温水西、愛名、長谷、毛利台）	16.3
11 南毛利南（船子、愛甲、愛甲東、愛甲西）	5.6
12 玉川（小野、七沢、岡津古久）	1.6
13 相川（岡田、酒井、戸田、下津古久、上落合、長沼）	5.0
14 緑ヶ丘（緑ヶ丘、王子2丁目、王子3丁目）	2.1
15 森の里	3.7
	無回答
	0.5

⑤ お住まいの形態を教えてください。(n=1,603)

1 持ち家(分譲マンション含む)	72.1	5 社宅・寮・官舎	2.4
2 民営借家	3.0	6 間借り	0.6
3 民営アパート(賃貸マンション含む)	18.0	7 その他	1.2
4 公営住宅	2.4	無回答	0.4

⑥ 厚木市にどのくらいお住まいですか。(n=1,603)

1 20年以上(生まれてからずっと)	23.1	5 5~9年	8.6
2 20年以上(移り住んで以来)	43.4	6 3~4年	4.6
3 10~19年(生まれてからずっと)	1.8	7 2年以下	5.3
4 10~19年(移り住んで以来)	12.8	無回答	0.3

⑦ 職業を教えてください。(n=1,603)

1 会社員・公務員	33.5	4 パート・アルバイトなど	15.0	7 無職	24.3
2 自営業	5.2	5 学生	3.1	8 その他	3.2
3 農林業	0.7	6 専業主婦(主夫)	14.4	無回答	0.4

▶⑧ ⑦で1~5とお答えの方にお聴きします。通勤(通学)先はどこですか。(n=923)

1 厚木市内	52.5	4 東京23区内	7.3	7 その他	6.0
2 横浜・川崎市内	5.3	5 その他の都内	2.0	無回答	1.8
3 その他の県内	22.3	6 自宅	2.8		

⑨ 日頃、鉄道を利用する際の最寄駅はどちらですか。

(1つだけ選んでください)(n=1,603)

1 本厚木駅	77.7	3 海老名駅	5.6	5 その他	2.5
2 愛甲石田駅	10.7	4 厚木駅	0.7	無回答	2.7

■ここからは、あなたご自身のお考えについて、お伺いします。
該当する数字を○印で囲んでください。

問1 厚木市に住み続けたいですか。

(1つだけ選んでください) (n=1,603)

1	住み続けたい	47.8		
2	できれば住み続けたい	26.9		
3	できれば市外に移りたい	6.2		
4	市外に移りたい	2.5		
5	どちらともいえない ⇒ 問4へ	14.1	無回答	2.6

問2 問1で「住み続けたい」または「できれば住み続けたい」とお答えの方は、どのような理由ですか。

(2つまで選んでください) (n=1,197)

1	自然環境が良い	32.9	8	交通の便が良い	15.3
2	教育環境が良い	1.3	9	人間関係が良い	4.2
3	子育て環境が充実している	6.7	10	生まれ育ったところである	11.4
4	保健福祉施策が充実している	3.5	11	住み慣れて愛着がある	33.2
5	自分の家や土地がある	43.9	12	通勤・通学に便利である	4.5
6	仕事や学校の関係がある	8.1	13	その他	3.7
7	買物が便利である	11.2		無回答	0.4

問3 問1で「できれば市外に移りたい」または「市外に移りたい」とお答えの方は、どのような理由ですか。

(2つまで選んでください) (n=139)

1	自然環境が良くない	6.5	7	買物が不便	32.4
2	教育環境が不十分	2.2	8	交通の便が悪い	42.4
3	子育て環境が不十分	2.2	9	人間関係が希薄である	7.2
4	保健福祉施策が不十分	7.9	10	通勤・通学に不便である	15.1
5	自分の家や土地でない	12.9	11	その他	29.5
6	仕事や学校の関係がない	6.5		無回答	1.4

問4 厚木市のまちとして現在のイメージはどれですか。また、将来どのようなまちになってほしいと思いますか。

(①～⑩について、それぞれ該当するものを3つまで選んでください) (n=1,603)

	自然環境の豊かなまち	都市と自然が共存しているまち	交通の利便性が高いまち	花火大会や温泉のある商業・観光のまち	防犯・防災対策が充実したまち	保健福祉・子育て環境が充実したまち	研究所・大学等のある研究学園都市	若者が多い活気のあるまち	居住環境・生活環境の整備されたまち	市民の自発的なまちづくりが活発なふれあいのまち	インターネットエンジをいかした流通機能の高いまち	無回答
(記入例)	1	2	3	④	5	⑥	7	8	9	⑩	11	
①現在の厚木市のイメージ	43.2	33.5	28.4	30.6	4.9	28.7	7.1	2.7	13.8	3.4	26.6	6.2
②あなたが望む将来の厚木市	19.8	30.8	33.8	9.0	33.7	30.6	4.9	16.3	44.2	8.9	8.5	8.7

問5 新たな感染症の影響下において、心配・不安に思うことはありますか。また、新たに取り組んだことはありますか。(それぞれ3つまで選んでください) (n=1,603)

① 心配・不安に思うこと		② 新たに取り組んだこと	
1	買い物や会食による感染リスク 54.9	1	本格的な趣味(芸術・料理等) 14.2
2	電車やバスの混雑による感染リスク 51.7	2	オンラインでの情報発信や交流 12.5
3	変わらない働き方による感染リスク 17.3	3	資格取得やスキルアップの勉強 6.5
4	スポーツやイベントへの参加による感染リスク 17.3	4	日常生活に関わること(家の修繕等) 22.6
5	雇用や経済的なこと 34.1	5	キャッシュレス決済やネットショッピング 28.9
6	人との関わりが少なくなること 43.8	6	自宅でのエクササイズやジョギングなど 22.6
7	その他 4.3	7	その他 11.1
8	特になし 6.9	8	特になし 32.4
	無回答 2.3		無回答 3.7

問6 安心して子どもを産み育てられる環境を整える施策について、どのような取組が必要であると思いますか。

(5つまで選んでください) (n=1,603)

1	産前産後の育児や家事などの支援の充実	44.7
2	親のリフレッシュの場や機会の提供	26.4
3	サロン(児童館等における子育て支援活動)の充実	15.0
4	子育て支援センター「もみじの手」の充実	14.3
5	子育て相談体制の充実	30.2
6	延長保育、休日保育など保育サービスの充実	40.3
7	新たな認可保育所の整備	20.1
8	幼稚園の預かり保育(教育時間外・長期休業保育)の充実	31.8
9	特別支援教育・保育の充実	16.0
10	事業主などへの仕事と育児の両立支援に関する意識啓発	29.0
11	放課後児童クラブ(学童保育)の充実	27.3
12	子どもの貧困対策の充実	35.7
13	その他	7.6
	無回答	9.7

問7 誰もが住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができる社会(地域包括ケア社会)の実現について、どのような取組が必要であると思いますか。

(5つまで選んでください) (n=1,603)

1	住民の理解を促進するための学習機会・広報・普及啓発の充実	8.5
2	住民がお互いに助け合える地域社会づくり	36.2
3	住民が気軽に集える居場所づくり	21.6
4	住民が地域で活躍できる機会・場所の充実	10.5
5	一人暮らし、高齢者、障がい者、ひとり親などの世帯を見守る体制の充実	64.7
6	医療や介護が必要になっても、住み慣れた自宅で生活できる周辺環境の整備	48.0
7	介護や福祉の公的サービスの充実	46.4
8	買物やごみ出しなどの生活支援サービスの充実	23.2
9	医療や介護の専門職同士の連携強化	9.8
10	医療や介護の専門職の人材の確保及び育成	20.6
11	医療や介護などに関して気軽に相談できる窓口の充実	30.7
12	病院や介護施設などの充実	38.0
13	生活習慣病予防や介護予防・認知症予防の取組の充実	14.5
14	医療・介護・介護予防などに充当するための財源確保	32.8
15	その他	2.6
	無回答	2.2

問 8 がん検診を受診していますか。

(1つだけ選んでください) (n=1,603)

1 厚木市のがん検診を受診している	27.3
2 人間ドックを受診している	9.4
3 職場や学校の健康診査を受診している	21.8
4 受診していない	39.2
無回答	2.4

問 9 自殺を予防するために、どのような対策が必要であると思いますか。

(1つだけ選んでください) (n=1,603)

1 積極的な相談事業の展開	32.9
2 啓発事業の推進 (広報・キャンペーン)	6.1
3 自殺のサインに気付く役割を担う人材 (ゲートキーパー) の育成	26.7
4 関係機関等との連携の強化	12.4
5 特に有効な対策はない	17.5
無回答	4.4

問 10 風邪などにかかったとき、通院する医療機関は決まっていますか。

(1つだけ選んでください) (n=1,603)

1 かかりつけの医院や診療所	64.8	3 特に決まっていない	25.6
2 総合病院などの大きな病院	8.2	4 その他	0.7
		無回答	0.8

問 11 自分の人権が侵害されたと感じたことはありますか。

(1つだけ選んでください) (n=1,603)

1 ある	20.6	2 ない	77.3	無回答	2.1
------	------	------	------	-----	-----

問 12 どのような人権問題や差別に対して、関心がありますか。

(いくつでも選んでください) (n = 1,603)

1	女性	28.1
2	子ども	20.8
3	高齢者	26.1
4	障がいのある人	46.5
5	同和問題(部落差別)	9.7
6	アイヌの人々	6.3
7	外国人	17.9
8	HIV感染者・ハンセン病患者等	9.2
9	刑を終えて出所した人	11.7
10	犯罪被害者等	14.2
11	インターネットによる人権侵害	41.8
12	北朝鮮当局によって拉致された被害者等	16.4
13	ホームレス	14.7
14	性的少数者(恋愛・性愛の対象や自身の性認識等)	14.3
15	人身取引	9.4
16	東日本大震災に起因する人権問題	12.3
17	関心が無い	7.9
	無回答	4.9

問 13 多文化への理解を深め、国際化に対応するためには、どのような取組が必要であると思いますか。

(2つまで選んでください) (n = 1,603)

1	文化・スポーツ等の交流の推進	31.6	7	国際友好都市との交流	12.5
2	外国籍市民との交流促進	19.7	8	外国の大学・企業等の誘致	6.4
3	青少年海外研修の推進	10.3	9	多文化理解を推進する講座等の開催	9.2
4	学校・社会教育での意識の醸成	36.9	10	市内企業の国際活動の支援	6.3
5	多言語による行政情報等の提供	12.3	11	新たな海外友好都市の締結	3.4
6	外国籍市民との活動場所の提供	11.7	12	その他	5.8
				無回答	5.4

問 14 現在の教育において、どのような取組が重要であると思いますか。

(1つだけ選んでください) (n=1,603)

1	家庭・学校・地域との連携に向けた取組	19.8	6	教員の指導力向上に向けた取組	15.6
2	家庭での教育力の向上に向けた取組	4.7	7	いじめ、暴力行為などの対応	27.8
3	学力の向上に向けた取組	4.9	8	不登校などの対応	4.1
4	体力の向上に向けた取組	4.6	9	その他	3.4
5	子どもの規範意識の醸成に向けた取組	11.4		無回答	3.8

問 15 文化芸術活動をより充実させるために、どのような取組が必要であると思いますか。

(2つまで選んでください) (n=1,603)

1	文化会館での鑑賞機会の充実	23.7
2	活動発表の機会の充実	18.4
3	活動を担う人・支える人の発掘及び支援	31.1
4	施設の整備	21.2
5	活動への参加や鑑賞に関する情報提供	27.2
6	文化芸術を通じた国際交流や地域間交流	13.2
7	地域の風土や郷土文化に配慮した都市景観の創造	15.2
8	その他	5.9
	無回答	5.8

問 16 講座・教育などの学習活動へ参加を検討する場合、どのような理由が妨げとなりますか。

(1つだけ選んでください) (n=1,603)

1	参加する時間がない	27.1	5	参加したい講座等がない	16.5
2	学習機会に関する情報がない	15.9	6	特に支障はない	15.5
3	学習しても成果をいかす場がない	5.5	7	その他	7.2
4	一緒に学ぶ仲間がいない	6.4		無回答	5.9

問 17 運動（スポーツ）をどのような目的で、また、どのくらいの頻度で行っていますか。

(①～⑤について、それぞれ1つだけ選んでください) (n=1,603)

	ほぼ毎日	週 3～4回	週 1～2回	月 1～3回	して いない	その他	無回答
(記入例) ① 健康管理	1	2	③	4	5	6	
① 健康管理	14.2	11.3	17.1	11.8	34.6	2.1	9.0
② 趣味	5.0	4.8	14.3	13.2	45.4	2.1	15.1
③ 競技	1.1	1.1	2.8	2.3	74.2	1.2	17.3
④ 習い事	0.8	1.1	3.6	2.9	73.7	1.2	16.7
⑤ ①～④以外の目的	2.1	1.7	2.8	2.7	56.0	5.1	29.6

問 18 今後、どのようなスポーツイベントを開催してほしいですか。

(いくつでも選んでください) (n = 1, 603)

1	個人のレベル（初級・中級・上級）に合わせた教室	32.3
2	有名選手の講演会	15.9
3	スポーツ観戦	33.9
4	参加・体験型	31.9
5	競技型	3.7
6	パラスポーツ（障がい者スポーツ）の体験	7.2
7	その他	12.3
	無回答	8.7

問 19 厚木市の観光の活性化には、どのような取組が重要であると思いますか。

(2つまで選んでください) (n = 1, 603)

1	駐車場の整備などの交通利便性の向上	36.0
2	高齢者や障がい者などが利用しやすい観光地づくり	22.0
3	食（グルメ）、特産品など地域性のある観光資源の育成	26.6
4	テレビ・インターネットを利用した観光地の紹介	15.5
5	四季折々のイベントの開催	16.7
6	温泉地（飯山温泉郷、東丹沢七沢温泉郷）の整備	17.2
7	ハイキングコースや公園などの自然をいかした観光資源の整備	23.0
8	他市と連携した広域的な観光ルートの創出	5.6
9	スポーツイベント等をいかした新たな観光分野の開拓	4.7
10	外国人旅行客向け観光プランの充実	3.3
11	観光ガイドなどの人材の育成	2.8
12	その他	3.7
	無回答	3.1

問 20 家庭では、どのような情報機器を利用していますか。

(いくつでも選んでください) (n = 1, 603)

1	パソコン	51.7	4	その他	5.1
2	スマートフォン（携帯電話含む）	81.5	5	利用していない	9.2
3	タブレット型パソコン	19.1		無回答	2.6

問 21 厚木市の情報を主に何から入手していますか。

(2つまで選んでください) (n=1,603)

1	広報あつぎ(紙)	67.3	7	広報板・回覧板	17.2
2	市のホームページ(携帯サイト含む)	24.0	8	ラジオ	0.9
3	その他のウェブサイト	7.6	9	ケーブルテレビ	6.4
4	デジタルサイネージ(電子看板)	0.8	10	新聞(日刊紙)	5.4
5	公民館だより	13.3	11	タウン誌・ミニコミ誌	12.0
6	パンフレット・チラシ・ポスター	5.9	12	その他	7.2
				無回答	2.6

問 22 現在、厚木市には使用料が有料の施設と無料の施設(公民館など)がありますが、無料の施設の有料化についてどのように思いますか。

(1つだけ選んでください) (n=1,603)

1	施設の利用者と未利用者における負担の公平性(受益者負担)を考慮して有料化した方が良い	15.4
2	施設の維持管理等に掛かる経費を考慮して有料化した方が良い	20.0
3	施設を利用する内容や目的を考慮して有料化した方が良い	20.9
4	有料化する必要はない	40.2
	無回答	3.5

問 23 様々な行政サービスの情報化を推進するためには、どのような取組が必要であると思いますか。

(2つまで選んでください) (n=1,603)

1	パソコンやスマートフォンなどを活用できる生活に密着した環境の整備	52.2
2	個人情報保護など情報セキュリティの確保	41.9
3	パソコンなどの技術を向上させるための講座や研修の充実	14.7
4	インターネットなどを活用した地域活性化の促進	19.8
5	ワンストップサービス、電子申請などを活用した行政サービスの提供	18.5
6	その他	8.6
	無回答	6.2

問 24 今後もより良い市民サービスを維持していくため、どのような取組が必要であると思いますか。

(1つだけ選んでください) (n=1,603)

1	少子高齢化や人口減少など社会環境の変化を見据えた事業の見直し	48.0
2	民間事業者との協力や市民協働など官民連携の推進	9.1
3	事業の民間委託の推進	4.6
4	事業の見直しによる経費削減や新たな財源確保による収入増加	14.2
5	近隣自治体との機能分担や事務の共同処理などの都市間連携の推進	5.2
6	分からない	14.4
	無回答	4.6

問 25 今後厚木市には、どのような施設が必要であると思いますか。

(3つまで選んでください) (n=1,603)

1	公園	16.7	15	美術館	10.8
2	子育て広場	10.7	16	博物館	3.2
3	スポーツ施設	14.4	17	科学館	3.6
4	公民館・地区市民センター	3.6	18	植物園	7.7
5	児童館	1.9	19	動物園	6.4
6	図書館	7.8	20	水族館	7.2
7	老人憩の家	5.4	21	遊園地	4.8
8	老人ホーム	14.5	22	市民農園	4.1
9	病院・診療所	13.9	23	地場農産物直売所	11.8
10	霊園	2.7	24	百貨店・スーパー	28.8
11	葬祭場	0.8	25	ホテル	1.1
12	音楽・演劇等ホール	6.7	26	駐車場・駐輪場	14.7
13	音楽・演劇等専用練習場	2.4	27	大型備蓄倉庫	8.2
14	映画館	24.0	28	その他	7.5
				無回答	3.4

問 26 この1年間に、利用された「市の施設」を教えてください。

(いくつでも選んでください) (n = 1,603)

1	市役所	62.9	17	ぼうさいの丘公園	20.3
2	文化会館	9.4	18	厚木中央公園	16.4
3	アミューあつぎ商業施設(1~4階、9階)	29.3	19	荻野運動公園	21.1
4	市民交流プラザ(アミューあつぎ5~7階)	7.2	20	あつぎこどもの森公園	4.1
5	子育て支援センター「もみじの手」	2.1	21	その他の公園	9.7
6	市立病院	19.4	22	スポーツセンター(東町・猿ヶ島・南毛利)	4.9
7	保健福祉センター	18.6	23	野球場(厚木・玉川)	1.1
8	子ども科学館	2.2	24	及川球技場	2.9
9	中央図書館	15.4	25	青少年・スポーツ広場	1.1
10	老人福祉センター寿荘	1.7	26	小・中学校の体育館または校庭	2.8
11	あつぎ郷土博物館	3.6	27	市営水泳プール	1.6
12	公民館・地区市民センター	24.3	28	テニスコート(厚木・若宮公園)	
13	老人憩の家	4.4	29	環境センター	11.7
14	児童館	3.6	30	ふれあいプラザ	3.3
15	七沢自然ふれあいセンター	3.0	31	その他	1.2
16	情報プラザ	0.6	32	利用したことがない	9.0
				無回答	2.5

ご協力ありがとうございました。

最後に、本調査に関するご意見等がありましたら、お書きください。

厚木市民意識調査 調査票（B）

■最初に、あなたご自身のことについてお伺いします。
該当する数字を○印で囲んでください。

① 性別を教えてください。（n=1,672）

1 男性	45.0	2 女性	53.1	3 答えたくない	1.4
				無回答	0.6

② 年齢を教えてください。（n=1,672）

1 20歳未満	1.7	4 40～49歳	16.6	7 70～79歳	19.1
2 20～29歳	9.2	5 50～59歳	16.7	8 80歳以上	8.9
3 30～39歳	11.5	6 60～69歳	16.0	無回答	0.4

③ 家族構成を教えてください。（n=1,672）

1 夫婦	28.1	4 親子孫（三世代）	5.6		
2 親子（親との二世代）	13.8	5 単身	23.7		
3 親子（子との二世代）	24.6	6 その他	3.3	無回答	1.0

④ お住まいの地区はどちらですか。（n=1,672）

1 厚木北（松枝、元町、東町、厚木町、寿町、吾妻町、水引、栄町、中町、田村町）	11.1
2 厚木南（幸町、泉町、旭町、南町、温水68～105番地、船子607～734番地、岡田1丁目8番）	6.4
3 依知北（上依知、猿ヶ島、山際、関口808～829番地、下川入）	8.1
4 依知南（関口、中依知、下依知、金田）	5.3
5 睦合北（三田、三田南、棚沢）	4.4
6 睦合南（妻田東、妻田西、妻田南、妻田北）	8.9
7 睦合西（林、及川、王子1丁目）	4.2
8 荻野（上荻野、まつかげ台、みはる野、中荻野、下荻野、鳶尾）	10.6
9 小鮎（飯山、上古沢、下古沢、宮の里）	6.9
10 南毛利（戸室、恩名、温水、温水西、愛名、長谷、毛利台）	16.9
11 南毛利南（船子、愛甲、愛甲東、愛甲西）	4.5
12 玉川（小野、七沢、岡津古久）	1.3
13 相川（岡田、酒井、戸田、下津古久、上落合、長沼）	5.5
14 緑ヶ丘（緑ヶ丘、王子2丁目、王子3丁目）	1.7
15 森の里	3.4
	無回答
	0.7

⑤ お住まいの形態を教えてください。(n=1,672)

1 持ち家(分譲マンション含む)	70.2	5 社宅・寮・官舎	2.1
2 民営借家	1.6	6 間借り	0.4
3 民営アパート(賃貸マンション含む)	21.1	7 その他	1.4
4 公営住宅	2.6	無回答	0.6

⑥ 厚木市にどのくらいお住まいですか。(n=1,672)

1 20年以上(生まれてからずっと)	25.1	5 5~9年	6.8
2 20年以上(移り住んで以来)	40.7	6 3~4年	5.4
3 10~19年(生まれてからずっと)	2.0	7 2年以下	6.0
4 10~19年(移り住んで以来)	13.5	無回答	0.5

⑦ 職業を教えてください。(n=1,672)

1 会社員・公務員	35.9	4 パート・アルバイトなど	14.7	7 無職	22.7
2 自営業	4.4	5 学生	2.9	8 その他	3.2
3 農林業	0.8	6 専業主婦(主夫)	14.7	無回答	0.8

▶⑧ ⑦で1~5とお答えの方にお聴きします。通勤(通学)先はどこですか。(n=981)

1 厚木市内	53.7	4 東京23区内	8.4	7 その他	5.1
2 横浜・川崎市内	6.1	5 その他の都内	2.5	無回答	1.9
3 その他の県内	19.5	6 自宅	2.8		

⑨ 日頃、鉄道を利用する際の最寄駅はどちらですか。

(1つだけ選んでください)(n=1,672)

1 本厚木駅	77.7	3 海老名駅	6.2	5 その他	2.5
2 愛甲石田駅	9.6	4 厚木駅	0.7	無回答	3.3

■ここからは、あなたご自身のお考えについて、お伺いします。
該当する数字を○印で囲んでください。

問1 厚木市に住み続けたいですか。

(1つだけ選んでください) (n=1,672)

1	住み続けたい	48.7		
2	できれば住み続けたい	28.8		
3	できれば市外に移りたい	5.4		
4	市外に移りたい	2.0		
5	どちらともいえない ⇒ 問4へ	13.7	無回答	1.4

問2 問1で「住み続けたい」または「できれば住み続けたい」とお答えの方は、どのような理由ですか。

(2つまで選んでください) (n=1,295)

1	自然環境が良い	32.4	8	交通の便が良い	17.0
2	教育環境が良い	1.1	9	人間関係が良い	5.0
3	子育て環境が充実している	7.1	10	生まれ育ったところである	11.7
4	保健福祉施策が充実している	4.4	11	住み慣れて愛着がある	33.2
5	自分の家や土地がある	42.9	12	通勤・通学に便利である	3.6
6	仕事や学校の関係がある	9.8	13	その他	2.9
7	買物が便利である	10.6		無回答	0.2

問3 問1で「できれば市外に移りたい」または「市外に移りたい」とお答えの方は、どのような理由ですか。

(2つまで選んでください) (n=125)

1	自然環境が良くない	2.4	7	買物が不便	29.6
2	教育環境が不十分	1.6	8	交通の便が悪い	38.4
3	子育て環境が不十分	0.0	9	人間関係が希薄である	6.4
4	保健福祉施策が不十分	4.0	10	通勤・通学に不便である	21.6
5	自分の家や土地でない	12.0	11	その他	24.8
6	仕事や学校の関係がない	7.2		無回答	0.0

問4 厚木市のまちとして現在のイメージはどれですか。また、将来どのようなまちになってほしいと思いますか。

(①～⑩について、それぞれ該当するものを3つまで選んでください) (n=1,672)

	自然環境の豊かなまち	都市と自然が共存しているまち	交通の利便性が高いまち	花火大会や温泉のある商業・観光のまち	防犯・防災対策が充実したまち	保健福祉・子育て環境が充実したまち	研究所・大学等のある研究学園都市	若者が多い活気のあるまち	居住環境・生活環境の整備されたまち	市民の自発的なまちづくりが活発なふれあいのまち	インターネットエンジをいかした流通機能の高いまち	無回答
(記入例)	1	2	3	④	5	⑥	7	8	9	⑩	11	
①現在の厚木市のイメージ	44.8	34.6	29.0	31.0	5.4	28.4	5.9	2.9	13.5	4.2	23.9	6.1
②あなたが望む将来の厚木市	20.2	31.9	35.3	10.5	34.7	31.2	4.4	16.5	45.3	11.2	6.7	6.7

問5 新たな感染症の影響下において、心配・不安に思うことはありますか。また、新たに取り組んだことはありますか。(それぞれ3つまで選んでください) (n=1,672)

③ 心配・不安に思うこと		④ 新たに取り組んだこと	
1	買い物や会食による感染リスク	54.2	
2	電車やバスの混雑による感染リスク	51.4	
3	変わらない働き方による感染リスク	17.3	
4	スポーツやイベントへの参加による感染リスク	16.6	
5	雇用や経済的なこと	34.9	
6	人との関わりが少なくなること	46.1	
7	その他	3.5	
8	特になし	6.3	
	無回答	1.9	
1	本格的な趣味(芸術・料理等)	13.6	
2	オンラインでの情報発信や交流	12.9	
3	資格取得やスキルアップの勉強	9.4	
4	日常生活に関わること(家の修繕等)	22.9	
5	キャッシュレス決済やネットショッピング	28.7	
6	自宅でのエクササイズやジョギングなど	25.3	
7	その他	10.8	
8	特になし	32.7	
	無回答	3.3	

問6 本厚木駅周辺の治安について、過去と比べてどのように感じますか。

(1つだけ選んでください) (n=1,672)

1 大変良くなった	4.2	4 悪くなった	9.7
2 良くなった	22.8	5 大変悪くなった	2.2
3 変わらない	27.5	6 分からない	31.8
		無回答	1.6

問7 防犯対策について、どのような取組が効果的だと思いますか。

(1つだけ選んでください) (n=1,672)

1 夜道を明るくする防犯灯の設置及び既存防犯灯の照度アップ	29.1
2 防犯カメラの設置	38.7
3 道路・公園・駐車場などで、犯罪の発生しやすい死角をなくす	21.1
4 地域住民等によるパトロール	5.8
5 広報等により市民に防犯を呼びかける	1.1
6 その他	2.5
	無回答 1.7

問8 市民協働による交通安全や防犯、けがの予防など、セーフコミュニティの手法を用いて安心・安全なまちづくりを推進するという考え方に、関心がありますか。

(1つだけ選んでください) (n=1,672)

1 とても関心がある	19.7	4 関心がない	4.3
2 少し関心がある	42.7	5 どちらともいえない	16.5
3 あまり関心がない	15.2	無回答	1.6

問9 安心・安全なまちづくりの一環として、地域で実施している「防犯パトロール」や「児童・生徒の登下校時の見守り活動(愛の目運動)」などの活動に参加したいと思いませんか。

(1つだけ選んでください) (n=1,672)

1 すでに参加している	6.4	3 将来的には参加したい	19.6
2 機会があれば参加したい	21.1	4 参加は考えていない	51.0
		無回答	1.9

問 10 いざという時のために、どのような応急手当を身に付ける必要があると思いますか。

また、どのような応急手当ができますか。

(①～②について、いくつでも選んでください) (n=1,672)

	止血	食べ物などがのどに詰まった場合の対処	心臓マッサージ(胸骨圧迫)	AED(自動体外式除細動器)の使用	人工呼吸	その他	何もできない	無回答
(記入例) ① 身に付ける必要がある応急手当	①	2	③	4	⑤	6	<input checked="" type="checkbox"/>	
① 身に付ける必要がある応急手当	53.8	53.9	52.3	60.2	31.8	4.7	<input checked="" type="checkbox"/>	8.9
② 実行できる応急手当	34.2	15.6	25.7	28.9	17.6	3.9	34.9	8.3

問 11 地球温暖化防止には、どのような取組が必要であると思いますか。

(2つまで選んでください) (n=1,672)

1 再生可能エネルギーの普及拡大	55.6	5 森林等の保全・創出	41.1
2 省エネルギーの推進	31.4	6 情報提供と環境教育の充実	13.3
3 自動車の利用抑制	10.3	7 その他	3.3
4 循環型社会の構築	19.9	無回答	2.5

問 12 資源とごみの分別を意識していますか。

(1つだけ選んでください) (n=1,672)

1 意識している	69.4	3 あまり意識していない	2.5
2 おおむね意識している	26.2	4 意識していない	0.8
		無回答	1.1

問 13 ごみの減量化・資源化を推進する上で、どのような取組が重要であると思いますか。
 (2つまで選んでください) (n = 1,672)

1	家庭での資源とごみの分別の徹底	58.7
2	資源とごみの分別方法に関する情報提供の充実	24.3
3	販売店の過剰包装の削減	28.9
4	ごみ減量・資源化に関する情報提供の充実	15.7
5	買い物袋の持参	20.6
6	小・中学校における環境学習の充実	9.6
7	環境問題(ごみ減量化・資源化)を学習できる場の提供や施設見学会の実施	8.3
8	生ごみ処理機等の購入	8.1
9	行政による住民説明会の開催	2.2
10	その他	4.6
	無回答	2.5

問 14 厚木市内の河川整備について、どのような取組が必要であると思いますか。
 (1つだけ選んでください) (n = 1,672)

1	自然環境に配慮した河川整備	41.3
2	水辺の自然を楽しめる親水施設の整備	15.4
3	河川敷の植栽や清掃など河川愛護の取組	19.2
4	河川堤防を活用した遊歩道の整備	17.9
5	その他	3.1
	無回答	3.0

問 15 まちづくり全般の変化について、おおむね5年前と比べてどう感じますか。

(①～⑱について、それぞれ1つだけ選んでください。)

転入されて5年未満の方は、次の設問へお進みください。(n=1,473)

	5年前と比べ			
	良くなった	変わらない	悪くなった	無回答
(記入例) ① 子育てへの支援	①	2	3	
① 子育てへの支援	44.7	37.9	0.9	16.5
② 福祉サービスの充実	26.5	56.9	2.5	14.1
③ 災害に強い都市環境	17.4	66.9	1.6	14.2
④ 地域の防災対策	17.9	65.5	2.7	13.9
⑤ 自転車の安全な利用	10.5	58.7	17.5	13.4
⑥ 犯罪や非行の防止	12.2	64.3	8.9	14.6
⑦ 健康増進の対策や支援	23.4	60.4	2.3	13.8
⑧ 生涯学習・文化芸術活動の場と機会	14.3	65.8	4.5	15.4
⑨ スポーツ・レクリエーション活動の場と機会	13.2	65.1	6.7	15.0
⑩ 地球温暖化防止や環境美化の対策	12.8	68.3	4.3	14.7
⑪ 河川など水辺空間の活用	10.5	69.2	5.8	14.5
⑫ 公園や自然環境など緑の空間	19.6	60.9	5.2	14.3
⑬ 市街地のユニバーサルデザイン(※)化 (※)誰もが使いやすい機能や空間にすること	12.1	67.7	4.4	15.8
⑭ 安全な道路整備	17.9	60.3	8.1	13.8
⑮ 交通混雑の緩和対策	12.0	60.2	14.5	13.3
⑯ 企業・商業の活性化	7.1	51.7	26.9	14.3
⑰ 地域資源を活用した観光振興	6.9	67.2	10.5	15.4
⑱ 市民協働の推進	7.1	74.2	3.2	15.5
⑲ 行政サービスの情報化	18.9	61.2	5.4	14.5

問 16 日常的に、どこにある店舗・施設を利用していますか。

(①～⑪について、それぞれ1つだけ選んでください) (n = 1, 672)

		自宅周辺	本厚木駅周辺	愛甲石田駅周辺	その他厚木市内	近隣市	横浜市内	東京23区内	インターネット	その他	利用しない	無回答
(記入例) ① 食料品		1	2	3	④	5	6	7	8	9	10	
店舗	① 食料品	57.7	16.7	0.7	13.0	6.0	0.0	0.0	1.0	1.1	0.5	3.2
	② 外食	19.9	25.4	1.0	18.5	11.7	0.8	1.4	0.3	1.7	12.9	6.5
	③ 日用衣料品・雑貨	27.6	21.9	0.4	18.5	16.6	0.7	0.7	6.5	1.6	0.6	5.0
	④ 高級衣料品・装飾品	2.3	9.1	0.0	4.5	16.0	8.7	9.9	8.7	3.2	29.8	7.8
	⑤ 電気製品・家具・趣味用品	19.3	11.8	0.4	28.8	13.3	0.8	1.6	14.8	1.8	1.9	5.4
施設	⑥ 病院・診療所	43.2	18.8	1.7	22.8	6.1	0.4	0.7	0.0	1.0	1.7	3.6
	⑦ 郵便局・銀行	48.1	28.7	2.0	12.3	1.9	0.1	0.4	1.1	0.4	0.7	4.2
	⑧ 幼稚園・保育所	15.0	2.9	0.4	4.2	0.7	0.0	0.0	0.0	0.6	60.9	15.3
	⑨ 福祉・介護施設	11.4	5.7	0.4	8.2	0.5	0.0	0.0	0.0	0.7	60.9	12.1
	⑩ 公園・スポーツ施設	28.3	6.9	0.4	14.2	4.2	0.1	0.2	0.0	0.9	34.5	10.2
	⑪ 趣味・習い事	13.7	11.7	0.4	9.1	3.8	0.4	1.1	2.4	2.5	44.8	10.1

問 17 徒歩や自転車で移動できる自宅周辺に、どのような施設が必要であると思いますか。

(5つまで選んでください) (n = 1, 672)

1	飲食店	38.8	8	市役所などの行政窓口	30.4
2	食料品など日常的な買い物をする施設	67.4	9	郵便局や銀行	47.9
3	コンビニエンスストア	42.5	10	図書館(図書室)	14.1
4	大型の商業施設	23.2	11	スポーツ施設	14.2
5	病院・診療所	58.3	12	公民館や集会施設	12.8
6	デイサービスなどの福祉・介護施設	13.9	13	その他	6.3
7	幼稚園・保育所などの子育て関連施設	11.1		無回答	4.1

問 18 現在の本厚木駅周辺（中心市街地）のイメージについて、どのように感じますか。

（①～⑩について、それぞれ1つだけ選んでください）（n = 1, 672）

（記入例）① 活気	ある	普通	ない	無回答
① 活気	ある 16.1	普通 52.3	ない 25.1	6.5
② 明るさ・清潔感	ある 14.8	普通 61.7	ない 18.1	5.4
③ 駐車場	多い 13.2	普通 50.6	少ない 29.9	6.3
④ 駐輪場	多い 6.3	普通 53.7	少ない 31.7	8.3
⑤ 商店（飲食店等）	多い 21.4	普通 58.9	少ない 13.5	6.2
⑥ マンション（住宅）	多い 41.5	普通 46.8	少ない 5.0	6.8
⑦ 緑	多い 6.8	普通 41.1	少ない 46.4	5.7
⑧ 歩道の整備	良い 12.0	普通 59.4	悪い 22.8	5.7
⑨ 治安	良い 8.1	普通 59.6	悪い 26.4	5.9
⑩ 交通混雑の状況	良い 2.6	普通 49.0	悪い 43.1	5.4

問 19 本厚木駅周辺で、仕事・学校帰りや休みの日にどのようなことをしたいですか。

（3つまで選んでください）（n = 1, 672）

1 知人・友人とおしゃべりをする	31.6
2 夫婦や恋人同士でデートをする	11.1
3 ゆっくり自分だけの時間を過ごす	31.1
4 おいしい料理を楽しむ	42.9
5 買い物を楽しむ	54.7
6 コンサートやお祭りなどのイベントに参加する	10.0
7 個人の能力を高める講座・勉強会に参加する	7.0
8 市民活動に参加する	2.1
9 公園などで緑を眺めリラックスする	17.3
10 運動やスポーツをする	11.5
11 絵画や彫刻、現代アートなどの芸術に触れる	9.2
12 その他	9.6
	無回答 5.5

問 20 厚木市の将来的なまちづくりについて、優先的にどのような取組が必要であると思いますか。

(3つまで選んでください) (n=1,672)

1	中心市街地の整備による活性化	45.5	6	身近な公園や緑地の整備	28.6
2	魅力ある都市景観の創造	24.3	7	河川の保全と親しみやすい水辺の環境づくり	23.9
3	インターチェンジ周辺の新たな拠点づくり	14.4	8	優良な農地の保全と有効利用	11.8
4	良好な住環境の保全	44.3	9	幹線道路の計画的な整備	21.5
5	豊かな自然環境の保護	32.7	10	その他	4.1
				無回答	4.5

問 21 本厚木駅周辺を訪れるとき、自宅からはどのような交通手段を利用されますか。

(1つだけ選んでください) (n=1,672)

1	自家用車	40.2	3	タクシー	1.6	5	バイク	1.5	7	徒歩	16.7
2	バス	26.3	4	電車	2.8	6	自転車	8.7		無回答	2.3

問 22 本厚木駅周辺を訪れるとき、主にどちらの駐車場を利用されますか。

(1つだけ選んでください) (n=1,672)

1	店舗等の専用駐車場	28.9	5	民間のコインパーキング等時間貸し駐車場	14.9
2	厚木中央公園地下駐車場	4.3	6	自動車で行かない・駐車場を利用しない	26.6
3	中町立体駐車場	15.0	7	その他	3.8
4	民間の月極駐車場	1.0		無回答	5.6

問 23 厚木市内のバス交通について、どのような取組が必要であると思いますか。

(3つまで選んでください) (n=1,672)

1	バス待ち環境の向上 (バス停のベンチ、屋根の設置、スペース (広さ))	43.8
2	運行本数の増加	28.6
3	コミュニティバスなどの運行	28.8
4	定時性の向上 (ダイヤに正確な運行)	16.4
5	運賃の見直し	18.1
6	ノンステップバス (超低床バス) の導入促進	13.4
7	鉄道との乗り継ぎの向上	11.9
8	始発、終発の見直し	7.9
9	運行ルートの見直し	11.1
10	送迎バス、観光バス等の発着場所の整備	7.1
11	料金、行先案内等の明確化	8.6
12	サイクルアンドバスライド (バス停を利用する方のための駐輪場の設置) 事業の推進	6.6
13	特になし	12.6
		無回答 3.6

問 24 厚木市の道路の現状について、どのように感じますか。

(いくつでも選んでください) (n = 1,672)

1	混雑がひどい	47.4	7	歩道が少なく、安心して歩けない	33.8
2	混雑が改善されてきた	11.5	8	未舗装道路が多い	4.2
3	バリアフリー化が進んできた	3.6	9	舗装状態が良くない	23.0
4	よく整備されている	7.4	10	降雨時に冠水する	15.8
5	道路の幅が狭い	37.3	11	その他	8.2
6	工事が多い	14.5		無回答	4.4

問 25 厚木市の道路整備について、どのような取組が必要であると思いますか。

(いくつでも選んでください) (n = 1,672)

1	混雑解消（交差点の改良等）	58.1
2	バリアフリー化の更なる推進	20.0
3	都市計画道路など幹線道路の早期完成	16.3
4	生活道路を中心とした道路の拡幅	35.2
5	歩道の設置	41.8
6	未舗装道路の舗装整備	9.0
7	安心して散策できる遊歩道等の整備	29.5
8	災害時・緊急時に対応できる走路の整備	18.1
9	街路灯・カーブミラー等の整備	37.5
10	騒音等の環境対策	10.6
11	高速道路の整備	2.3
12	バス等の公共交通機関への支援	20.0
13	道路景観の改善	5.6
14	市内に整備予定のインターチェンジへのアクセス道路の整備	7.2
15	冠水対策	21.3
16	その他	4.7
	無回答	4.0

ご協力ありがとうございました。

最後に、本調査に関するご意見等がありましたら、お書きください。

厚木市民意識調査報告書

令和4年1月

発行 厚木市

企画・編集 厚木市広報課

〒243-8511 厚木市中町三丁目17番17号

電話 046(225)2043

調査協力 株式会社エスピー研